◆ 創作ノート①(明治40年～大正5年)

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
夕鴿(ゆふばと)	野をまよひ、八千草に一もとは 秋幸(さち)を、/露にさく 白菊の蕊(しべ)にしむ	1		
歓楽	胸の海に、/潮さみはどよみ	2		
亡友	草に早き、白露は、/風に散りて、暮れにけり。文(ふみ)の窓。	4		
ゆふべ	暮るゝ早き山の寺、/鐘は誰かひくう撞(つ)く、	5		
秋の蝶	あゝ、あゝ、/翅(つばさ)のかぎり に、何処(いづこ)をやどりとは、	6		
金鈴銀鈴	黄金白銀(こがねしろがね)、鈴(すず)はよき鈴。/あ、きくは何処(いづこ)。	7		
山の湖	森を七重八重(なゝへやへ)、垣と、/めぐらし、たゝへし水面に、	8		
セント セシリヤ	散る散る、ヒラヒラヒラと、/花ぞ散り来。	10		
残雪	雪ぞ真白に、輝くばかり、/冬の大野を飾りし	12		
鬼ごっこ	こはや一鬼は、名もこはや。/にげよ一鬼の、目をにげよ。	14		
かへれ[友][母]	雁(かり)わたりて、秋草(あきぐさ)に落しける/涙かや。	15	目次の標題は「かへれ母 演奏会 かへれ友」	
栄ゆく国	窮りなしや 御国の御栄、/天地ともに栄(さか)ゆく神国(かみぐに)	16		
ながれ	海へ、海へ、只一すぢに、注(そゝ)ぐかな。流れ。/うまず、たえず一すぢに、一すぢに 昼も海へ夜も海へ注ぐ。	17		
ころころ小球	奇しき球よ。ころころころころころころ/奇しき球よ。ころ、ころ、ころ、ころ、ころ、ころ、	18		
流れぬ流	時の流れ、いとも早し。/隙(ひま)ゆく駒、とびゆく征矢(そや)、	19		
故郷の鐘の音	今こそ、故郷は響くか、鐘の音。/わが家の窓すぎて、響くか、鐘の音	20	目次の標題は「故郷の鐘」	
花	盛りの花の枝に、朝風わたれば、千羽の胡蝶ぞ/とびまがふ。ヒラヒラ、舞ふよ、万羽の胡蝶	21		
雲雀	堇花さく野中の春は、/おつる雲雀よ、あがる雲雀。	22		
少女のなげき	運動会に、ころび、まけたる上に、/袴を破り、かなしき小石。	23		
神楽	笛や太鼓に、ラララ、ラララ、/宮は賑はし、ラララ、ラララ、	24		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
春野の一路	彩霞たなびく空に 天馳鳥うたひ／花 みな薫る野原に 千羽の胡蝶舞ひた つ。	25		
陽炎	天の園生の露ぞ、花の露ぞ降りきて、 ／夜の間に咲き揃ひぬ、夜の間に葎さ きぬ。	27		
ちんちろりん	ちんちろ、ちんちろりん ちんちろち んちろりん。／垣根に路辺に、夜もす がら、	29		
花のなげき	都は彩の錦織りて朝夕彩の霞かゝる。 ／都は彩の雲こそたなびけ、	30		
花見	山辺に堤に、桜は盛りぞ、／雨さへ風 さへ、今日しも知られじ、	31		
卒業	桂(かつら)／峯の桂(かつら)、しづに かをるなり。	32		
夕の楽	五百重の浪、黄金の鱗と染め残し つゝ、／日は入らんとす、	34		
磯の春	春の海、潮さして、しほさるのどよ み。／波がしら、白き花—白き花と見 せて。	36		
楽友	学びの友どち、／友どち集へば	40	「(学生聯合音楽会の 歌として。)」と注記	
水辺の柳	流れに垂るゝ糸柳は、／雨ふる朝、珠 をぞ貫く。	43		ポケットト唱歌集
父母の家	夏を避けて人は往く。／夏を避けて遠 く往く。	44		ポケットト唱歌集
花と楽(友垣)	園の花の紅—一人こそは愛でめや。／ 天の楽の高鳴—一人こそは聞かめや。	46	目次の標題は「花と 楽」	ポケットト唱歌集
暮影(ゆふかげ)	しづかに流るゝ風の音／桐の葉おのゝ き日ぞ暮るゝ	47		ポケットト唱歌集
夏はゆく	海山こえて おごそかに／日にのみ立 ちし 雲の峯	48		ポケットト唱歌集
雲	軽くやすく行く雲にのらばや／海に山 によき雲にのらばや	49		ポケットト唱歌集
古戦場の秋	ゆふづゝ一つ空にかゝる／戦場(いくさ ば)のあとに風ぞさわぐ、	50		月刊楽譜(二ノ九) 大正二年九月号
冬の讃美	あゝ、あゝ、あゝ、あゝ。／天の苑に かをる花、	51		
帰郷	幾とせぶりなる わが故郷／幾とせ見 ざりし 丘よ川よ、	53		『音楽界』明治四十 四年九月号
東京／本所 茅場小学 校々歌	茅ぞ茂りし武蔵大野に／国の都のひら けにぎはふ	54	目次の標題は「茅場小 学校々歌」	
福山中学校々歌	熊峯千古の雪ふらず／葦川、水は深か らず	55	目次には標題の記載は ない。	
誠之舎々歌	天にひゞくは何の楽／地にひらくは何 の華	56		福山学生会雑誌 三十 四号 明治四十三年 五月五日発行
[題未詳]	母はいふけふは早やねよ父はいふいつ そのことに／夕刊を売れ、	58	目次の標題は「和歌 大正二年天長節の日の 歌会」。短歌8首	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
渚にて	波打越えて、ゆくは、船か人か。／されど艦のこゑと唄声と、	58		
この日のわかれ	学びの業なりし此の日。／(このよろこびに、何の涙、	59		
野の曙	高らかにこそ、鐘はひびき、／曙つぐる。	60		
東京本所 江東小学校 改築 / 改名 記念式の歌	栄行く御代のしるしとて / 栄誉あるわれらの学び舎は	62	目次の標題は「江東小学校記念式々歌」	幼年世界大正三年十二月号 記事
青島陥落祝歌	万歳!! 万歳、万歳!! / 陸路(くがち)より攻め、海より寄せ、	63	目次の標題は「青島占領祝捷歌」	
日本国民の歌(その一)	はなやかに、桜咲く国。 / 敷島の大和の国は、	64	全体を×で消してある。目次には標題の記載はない	
日本国民の歌(その二)	燦として、爛として、 / 不朽不滅の大日輪が	65		
新年の歌	きのふの山、 / きのふの川。	66		少年世界 大正四年一月号 婦人画報 大正十年正月号
日本国民の歌(その三)	高く、清く、美しき富士は神山、国の宝。 / 時と処にけじめなく、	68		
日本国民の歌	ひんがしに美(うま)し国あり大八洲 / 神がしるしめす 三千年	69		中学世界 大正五年一月号
二月の歌(雪)(南天と紅梅)	ゆふべの嵐、夜の間にをさまり / しづけきしづけき朝は、あけにけり。	70	目次の標題は「二月の歌」	少年世界 大正四年二月号
春の歌	氷と雪とに、とざられたる野山に、 / けふこそ、	72		
春の雨(コドモ唄)	春の雨が降る。ちらほら / 咲いた 南の小枝の桜の花	72	目次には標題の記載はない	
三月の歌(柳と桜)	そよ、そよ、そよーら、その風の / 流れて入りて、街中吹けば	74	目次の標題は「三月の歌」	少年世界 大正四年三月号
青葉の一葉	風は流れるサラサラと、 / 青葉は揺れる、ユラユラと、	76		
春、「不知火」に寄する歌	萌ゆる、萌ゆる、若草萌ゆる。 / 野山に春の若草萌ゆる。	78	目次の標題は「不知火」へ	九州の雑誌「不知火」より求めらるゝ、再三にして。
岡山ことばの歌	一、讃岐へゆく船 / 岡山言葉はなつかしや。 / お見んさい、御ろんざい。おえん[ぞ][が]な。	80	目次の標題は「岡山ことばのうた 一、二」	
風は吹く吹く(花びらと蝶)	風は吹く、吹く、花に吹く。 / 花の梢にサラサラと。	84	目次の標題は「風は吹く吹く」	少年世界 四月号
鯉王、日高亀市翁頌徳銅像除幕式々歌	海をめぐらす日の本の / おの子の亀鑑、世のかゞみ、	86	目次の標題は「日高翁除幕式」	
少女の願	響くは島の歌、 / かゝるは花の雲。	88		
田圃の蒲公英	ポツ、ポツ、たんぼぼ、たんぼの中 / の小径に咲けば、	90		少年世界 五月号
風のうた	風は何処から吹いて来る、 / そして何処まで吹いて行く。	92		少年世界 七月号

作品名	うたい出し（冒頭）	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
砂の砲台	美しい白い浜辺の砂を盛上げて／皆で築いたこの砲台は、砂の砲台。	94		少年世界 大正四年八月号
夕立晴	キラキラ、キラリ、ポチヨンとおちた。／夕日に光つて、軒からおちた。	96		
遠かみなり	三日も降れば、くさくさすると／雨をば呪ふ人間は、	97		淑女画報 大正四年八月号
沙浜に生きてゐる波	舟も浮ばず風さへ吹かぬ海を懐ける沙／浜には、	99	目次の標題は「沙浜に生きてる波」	中学世界 大正四年八月号
森の歌磯の歌	涼しき風こそ森には吹け。／涼しき森には泉ぞ湧く。	104		カード楽譜 八月号
新作 毬うた	とんとん手毬はあぢきなや、／わりなや、せつなや、やるせなや、	105	目次の標題は「毬うた」	「家庭と玩具」第一号
雪	降る、降る、雪が、花の様。／降るのは花ぞよ、雪ぢやない。	106		「家庭と玩具」
海遊び	午下り、風やみて、潮今ぞ満ち来(く)る、／薄雲は、はれゆきて、波今ぞ、寄せ来る。	107		
隣の唱歌	あれ面白や、二階の唱歌、／あの歌声と節も善し。	108		
君が門	君が門、柳緑に桜は白し、／おぼろ月夜の静けさよ。	109	目次の標題は「君か門」	
かまきり	「そのむかし／龍車に向ひしわれなるを、	110		少年世界 十月号
鎌倉郡 川口小学校々歌	流れてやまぬ片瀬川／満干たがへぬ汐時や、	111	目次の標題は「川口小学校々歌」	
林檎	林檎はきれい、赤くてきれい。／林檎は円い、まるまるこえて。	112		大正少年唱歌第三集
運動会の朝	今日はうれしい運動会よ、／旗取、駈っこ、バスケットボール、	113		大正少年唱歌第三集
木舟泥舟	鬼の船は木の船で／前へ前へと勇んで進む。	114		大正少年唱歌第三集
お月様	お月様、お月様、／何うして今夜は、そのやうに	115		大正少年唱歌第三集
天長節	今日は目出度い天長節よ／どうしてお祝ひ致しませうか。	116		大正少年唱歌第三集
飛行船	唸りを立てゝ青空に、／浮んですゝむよ、飛行船。	117		大正少年唱歌第三集
蓄音機	箱の中から声が出る、／ラツパの奥から声が出る、	118	目次の標題は「蓄音器」	大正少年唱歌第三集
落葉	木の葉が落ちた、／すゞしい影をしてみてくれた、	119		大正少年唱歌第三集
腰かけ	遊戯や唱歌で疲れたら、／いつでも、此方へ腰かけて、	120		大正少年唱歌第三集
虫のこゑ	リン、リン、チリリン、虫がなく。／リン、リン、チリリン、虫がなく。	121		大正少年唱歌第三集
一月一日	今日は今年の一番はじめ、／一月一日うれしいな、	122		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
鸚鵡	鸚鵡は鳥でも口を利く、／人の真似して口を利く、	123	目次の標題は「あうむ」	
犬と猫	私はお家の犬ですよ。／私がゐないとわるものが、お家へ入つてまゐります。	124		
梅に鶯	梅の木の枝に／梅の花咲いた。	125		
紀元節	昔、神武天皇が、／悪ものどもを平らげて、	126		
雪	白い白い真白い、／雪が降る降る白雪が、	127		
ストウブ	廊下は寒い風が吹く。／お庭は雪が降つてます。	128	目次の標題は「ストウブ」	大正幼年唱歌第四集
活動写真	出て来る、出て来る、いろんな人が、／あれ、あれ、小さな犬まで来るよ。	129		大正幼年唱歌第四集
積木	皆さん、之から積木をしませう。／積木でお家を建てませう。	130		大正幼年唱歌第四集
すごろく	すご六遊びはをかしいな／どんどんとんで、もう直きに	131	目次の標題は「すご六」	大正幼年唱歌第四集
重きつとめ	西月冷たき丘の上／斥候に出た小太郎は	132	「(中澤偉吉氏筆の扉面に合せて)」と注記	少年世界 十二月号
ちんちろろ(鈴のうた)	ちんちろろ、ちんちろろ、ちろちろ、ちろろ、ちんちろろ、／あかいおべゞを母様が、おぬひになる時、	133	目次の標題は「ちんちろろ」	家庭と玩具 大正四年十二月号
まり歌(再出)	とんとん手毬は、あぢきなや／わりなや	134	全体を×で消してある。目次には標題の記載はない	
大日本少年団々歌	東西古今例しなき／わが皇室の尊とさよ、	136		
帝国少年の歌	かゞよかに昇る日の国。／日の本の大和島根は仇雲の	139	「(雑誌「帝国少年」創刊を祝すべく、たのまれて、)」と注記	帝国少年第一巻第一号
新年の歌	けふは新年おめでたう。／門松立て、国旗を立て、	140		家庭と玩具 第三号 新年号
雪	降る、降る、降る。どんどん降る。／野山に降る、庭にも降る。	141		
日の国—海の国 (寄国祝)	きらきら昇る太陽は、／のぼる直ちに日本を	142	目次の標題は「日の国、海の国」	大正五年正月号 少年世界 ローマ字
野遊び	ヒラ、ヒラ。ヒラ、ヒラ。蝶々が舞うて、／チビ、チビ。チビ、チビ、小鳥が啼けば	144		大正幼年唱歌第五集
親亀子亀	親子の亀がお池から、／のそりのそりと匍ひ出して	145		少年世界 大正五年第一号
トトテン節	春が来たぞよ、上野の山に、霞の奥に花が咲く、／私は(わたしや)かうしてをられない。	148		
井戸のひとり	井戸のほとりの無花木の木に、／小鳥が三羽、来てとまつたが、(そーれから)	149		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
梅か鶯かー(どちらが早い)	どちらが本当か、私は知らぬ。／太郎のいふのを、きいて見ればー	150	目次の標題は「梅か鶯か」	少年世界 大正五年二月号(ローマ字)
友のまとみ	山辺に歌へる小鳥の群。／集へば嬉しや、われらが友。	152		カード楽譜 第十三号
あうむ	鸚鵡が機嫌の善い時は、／人の真似して口を利く、	153		
お山	お山に登つて驚いた、／元気を出して登つても、	154		
おべんとう	お腹が、ずみ分、すきました。／丁度、おひるになりました。	155	目次の標題は「おべんとう」	
堇たんぽぽ	堇は、紫、たんぽぽ、黄色、／どちらも奇麗に野にさきました。	156		
燕	電信線に三四羽の、／燕がとまつて、チビチビチビ。	157		
ひよ子	ひよ子、ひよ子、ピヨピヨ鳴いて、／おやのまわりでよるこびながら、	158		
かたつむり	お庭の隅のかたつむり、／ねむつてみるかと思つたら、	159		
お玉ぢやくし	お玉ぢやくしが、大きくなつて／短い脚がだんだん生えた。	160	目次の標題は「お玉しやくし」	
御門	急いで来れば、見えた、見えた。／御門が見えた。	161		
春近し	春は来る一丘を越えて来る、／遠野の丘を越えて、どよもし来る、	162		
春の戯れ	花が散るのか、ヒラヒーラ、／蝶が舞ふのか、ヒラヒーラ。	164		
鬼が島	昔々、大昔、／鬼が島をば征伐に、	166	目次の標題は「鬼ヶ島」	
夕立	ピカピカ、光る電、／ゴロゴロなり出す雷に、	168		
東京市／京橋区 明石小学校々歌	都の東(ひんがし)隅田のほとり／旭の光のまづさすところ	169	目次の標題は「明石小学校々歌」	
尾道商業学校々歌	玉の光りの明らけく／海を照せし玉の浦。	170		
高崎高等女学校々歌	朝夕窓に仰ぎ見る／榛名の山の高きかな	172	目次の標題は「高崎高女校歌」	
きらめきうたふ星	深山の寺の鐘の音の／末の一つが野末に消ゆれば	174		
わが歌ふ歌に	さおどるよ、心。歌を歌へば、／波立つよ、心。歌を歌へば、	176		カード楽譜第二十三号

◆ 創作ノート②(大正5年～9年)

沙の底の温み(散文詩)	1	標題のみ記載。目次の標題は「沙の温み」	『第一義』二月号
夜なき鳥(短詩)	2	標題のみ記載	「SNAKE」第二月号

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
第七の絃	十三の絃みな弾くに第七の絃のみぞ鳴 ／る一すぢに鳴る	3	目次の標題は「第七の 絃(和歌)」。短歌48首	
晴天雨天	お日が出てゆく朝早く／何処へ出てゆ く、元気よく、	16		「小学園」
夜(よる)の間(ま)の溝 (みぞ)	かゝること何すればとてあやまりしな どゝ／思うて君のかなしき	17	目次の標題は「夜の間の 溝(和歌)」。短歌63 首	
白鳥船(散文詩)		34	標題のみ記載	「SNAKE」四月号
[赤き襟]	赤き襟に赤き唇して色白のやゝおてん ばに／なりききし子の	35	標題の記載はない。目 次の標題は「赤き襟 (和歌)」。短歌53首	
竹馬の脚	『竹馬なんて、をかしいな、／馬なら 脚が、前後、	48		少年世界 大正五年 十一月号
卒業式のうた(卒業生 用)	野山に花さき、春来る、春ぞ来る。／ 学びの庭にも、かぐはしき花咲き	50	目次の標題は「卒業式 のうた」	
池の氷	キヨロン、キヨン、キヨン、キヨキ ヨ、キヨロン、キヨン。／氷が鳴るの か、小石が鳴るか。	52	掲載紙誌の切抜貼付	
櫻子へ	ふと、病むてゐずやと思ひ見しこと が、まざまざ／当り君病みてあり	53	目次の標題は「櫻子へ (和歌)」。短歌26首	
森に入りて	森は楽し、おもしろの鳥の歌の／満ち てあり。	60		カード楽譜
文ちゃんの[お ちゝ][初旅]		62	標題のみ記載。目次の 標題は「文ちゃんのお ちゝ」	「児童」
おどけ詩／もの語り 鼠 の決死隊	猫は鼠が大好で／鼠は猫が大嫌ひ、	63		幼年世界 大正六年 十一月号
文進堂エール	見よや、色濃き紫の／旗を朝日にひる がへし、	67		
上下の白	米搗き麦搗き搗臼が／いくつもならん で搗いてゐる。	68		少年世界
おろかな蛙 (が歩い て。)	おろかなカエルが考へた。／おれには 手もある足もある、	70	目次の標題は「おろか な蛙」	
ポプラといてふ	秋になつたらポプラが散る、散る、／ 黄いろ□□、ヒラヒラヒラヒラ	72	全体を×で消してあ る。目次には標題の記 載はない	淑女画報 十月号
山の木野の木	木の葉が散るよ 山の木 野の木／ 木、木の葉が皆、ひらひら散るよ。	74		写真少年 一ノ一 「新選楽譜」(大正十 年)
前の電車と後の電車	電車の後から電車が走る／前の電車が ゴーゴー走れば	76		幼年世界 六年十月 号 (子猫の鈴)
針と糸	針はグングン縫つて行く／糸はスルス ル続いて行く	78		淑女画報 七年十月 号 家庭雑誌 十年 六月号
秋田県／男鹿郡 鹿山小 学校々歌	朝夕仰ぐ鹿山の／姿も清く美しく	80	目次の標題は「鹿山小 学校歌」	
東京市／浅草区 柳北小 学校創立記念式々歌	黄菊 白菊 香も高く／咲きて祝ふ か、この庭に。	82	目次の標題は「柳北小 学校記念式歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
翠溪追悼会のうた	前を行き、ころがるように前をゆき、 何か知らぬ物／われをみちびく	84	目次の標題は「翠溪追悼(和歌)」。「(大正四年頃)」と注記。短歌12首	
フロック姿	雨が降るのに、傘をもさゝず／紳士が 一人、街路(まち)を行く。	87		
新潟県中條町青年会々歌	熊野の森の朝ぼらけ／ほがらに鳥のこ ゑすれば	88	目次の標題は「新潟県中条青年歌」	
だるまさん	真赤な着物にくるまつて、／ちつとも 歩かぬだるまさん	90		淑女画報 七年九月
秋の心	そよぐ風のいとも静、／いつとは知ら ず胸に吹けば	92		淑女画報 七年十一月号
軍歌 許斐少佐		93	標題のみ記載。目次の標題は「許斐少佐(軍歌)」	写真少年 大正七年十一月号
比翼の鳥	灯、いとも花やかに／鶴、豊に舞ふ蓬 菜の	94	目次の標題は「比翼の鳥(吉田晴風結婚祝歌)」	
少年通訳(西尾光次君)	大和島根に生れたる／我も男ぞ、少年 ぞ。	96	目次の標題は「少年通訳」	「写真少年」 十二月号
新年	アレ、鶏が、コケコツコー、／大きな 声で、コケコツコー、	101		
月に浮れて	向ふのお山で、ポンポコボン、／鼓の 好きな狸さんが、月に浮れてポンポコ ボン、	102	「兎と狸」を改題	お伽の日本
ひよこ	ひよこが、ピヨピヨないてゐる／親の まはりで、三羽四羽	103		婦人画報 大正十年五月号 オハナシ
駱駝	どんないたづらしたのか駱駝／どこか で、うんと、たゝかれて	104		「白鳩」(お伽の日本)
小さな鯉	小さな鯉に麩をやると、／大きな鯉が 浮いて来て、	105		オハナシ
風と七面鳥	怒った、怒った、七面鳥、／あかい顔 して、キヨロ、ク、ク	106		白鳩
小猫の鈴	子ねこが、一人で、縁側で／頸輪の鈴 をちろちろと鳴して、ぢやれてゐる中 に、	107	「(著書の巻頭に)」と注記	
ぼちとたま	意地悪子供が、吠えられた、／お家の ぼちに泣かされた。	108		特撰 新唱歌 (第六編)
鸚鵡	「鸚鵡、御早よう」、「お早う、鸚 鵡」／何べん、よんでも、返事もせず に、	109	目次の標題は「あうむ」	女学世界 大正九年九月号
蝸牛	蝸牛、蝸牛／眠つてゐるのか、寝てる のか。	110		
親猿子猿	おさる、おさる／追つかけて遊ぶ、	111		大正九年一月、女学世界へ
家鴨	あひるが、ならんで、お池に浮んで／ 列を造つて、一しよに、進む。	112	目次の標題は「あひる」	女学世界 大正九年八月号
金魚	きれいな ガラスの金魚鉢／きれいな つめたい水一ばい	113		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
白熊	動物園の白熊が、／両手をついて首を振る	114		オハナシ 第二号 お伽の日本
木馬	木馬 急げよ、はいしい、はいしい、／戦が、はじまる、急げよ、急げ。	115		小学少年 十年十二月号 お伽の日本
独楽	こまが、くる、くる。／くる、くる、まはる。	116	目次の標題は「こま」	新特撰楽譜 第四十四編
竹馬にのる歌	左の足も、長い脚／右の足も、長い脚	117	目次の標題は「竹馬」	
球つき遊び	緑の野原を、隅から隅へ／赤球二つ	118	目次の標題は「球つき」	
にこにこ人形	人形、人形、お人形、／わたしの人形、お人形、	119		
サンタクロース	サンタクロースのお爺さん、／今年も、きつと、お家へお出で。	120		「白鳩」十年十二月号
大相撲	東も横綱、西も横綱／大きな体、力も強い、	121	目次の標題は「すもう」	
紙風船	紙風船をポーンポン、／上手につきませう、高く、高く。	122		「我子の教育」
積木	積木、積木、／よく気をつけて、	123		
人形の病気	私の人形、どうしたんでせう、／顔も、足も、手も冷たくて	124		
お砂場	銀砂ざらざら盛り上げて、／お山が出来た、高い高い。	125	目次の標題は「お砂場遊び」	
蓄音機	ぐるぐる、ぐる、ぐる、ねちをかけ／はなせばくるくる、れこおとが	126	目次の標題は「ちくおんき」	「我子の教育」
しやぼん球	ふうふう吹けば、ふくらんで／きらきら光る、しやぼん球	127	目次の標題は「しやぼん玉」	「我子の教育」
犬と猫	私は、わんぱく大きらひ、／ワンワンワンワン、わんぱくの	128		(小学少年)
雀のおしやべり	垣根で三羽の子雀が、／並んで何かはなしてる。	129		
あくがれ	故もなきに胸のさわぐよ。／胸の海に潮の寄するか、	130		
高野山浄菩提院なる小夜子へ	浄菩提高野の山の山霧に法の燈の／くらき夜のあらむ	131	目次の標題は「小夜子へ(和歌)」。短歌18首	
日本製麻会社工場歌	都の東北赤羽町の／赤き煉瓦の大工場は、	134	目次の標題は「日本製麻KK工場歌」	
正直爺さん	裏の畠の榎の木の下を／掘れば掘るほどピカピカピカピカ	136		宝玉楽譜 第二編
ニコニコピンピンの歌	お日が照る照る、町に照る、／野に照る、海に、山に照る、	138		大正九年六月上旬「宝玉楽譜」第一集として上方屋平和堂岩瀬書店より発行
処女会／のうた 野の幸	霞にほゝゑむ岡辺の桜／陽炎もえたつ広野の菫、	140	目次の標題は「野の幸」	大正九年五月 アルス書房より発行
春の風	知らぬ間に柳[に][の]芽が出てをりました。／何時の間に、吹いてあたのか、春の風。	143	掲載紙誌の切抜貼付	女学世界 大正九年四月号 新作箏曲

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
野の小川	岸のたんぽぽ、菫の花の、影を宿して、／霞む野末へ、ゆるく流れて、日を暮らす、	144		
五月のうた	もう夜が明けた うれしいな／雀もとつくに おきてゐる	145		小学少年 五月号 新特選楽譜
春野の花の集ひてうた ふうた	(菫) 雪消の野路に、咲き出し菫、／ゆかりの色の、ゆかしき菫	146	目次の標題は「春野の花の唄」	(菫) (蒲公英) (桜草) (勿忘草) (菜の花) (蓮華草) (ばら)
なすのよー	ゆらりゆらりと波間の船の／棹の先なる扇の的よ、	148	目次の標題は「なすの与一」	
をんどりめんどり	私の育てた をんどりが、／体も太り背ものびて、	150		
操山にて	風そよげば、梢に声あり、／「操山の松の緑のかはらぬ契」	151		
お角力	カツチカツチと柏子木たゞき／名を呼び上げた評判々々、	152		特選楽譜(大正十年版)
ジャンケンポン	ジャンケンポンヨウ、アイコデセウ、／あらあらだめよ、もう一度、	154		特選楽譜
箏曲 燕と少女	甲、 燕、燕、何してゐるの、／電信線に並んでとまり	155		少女画報 大正十年三月号
一つ星	あはれ夜更けのヴェランダに／一人仰げば何知らず	158		
鐘楼守	山の御寺の鐘楼守／病みしや今日も暮れたるに	159		
秋のお庭	チロ、チロ。チロ、チロ。チロ、チロ。／小さな声で、よい声で、	160		女学世界 大正九年十二月号
たのしいお家／お出迎	早くお家へ帰りませう／お家の御門で母さまが	161		
お出迎	はやく、お家へ帰りませう、／お家へ帰ると、母さまが、	161	「たのしいお家／お出迎」が書かれたページの欄外(上段)に記載	
僕は陸軍大将	僕は陸軍大将よ／いつもお馬でハイドウドウ	162		婦人画報 大正十年二月号
志きりに散る花	風は吹くとも見えぬ夕、／花ぞ、しきりに、ちるよ、ちるよ、	163	目次の標題は「しきりに散る花」	
子守歌	静かに眠れよ、手足をのばして／楽しき夢路を辿れよ、	164		
別るゝ日	別れて行けど心ぞ残る、／この日の別れ、忘らるべしや。	164		
めん鶏をん鶏	私の育てた をん鶏が、／体も太り背ものびて、	165	全体を×で消してある。目次には標題の記載はない	
森のもれ日	森に響くは、／鳥の声か、風の戦ぎか、水の音か。	166		
カーネーション	かなしや カーネーション／色ぞあせゆく、	167		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
◆ 創作ノート③(大正10年～11年)				
タンク	ゴト、ゴト、ゴト、ゴト、動き出す、 ／ゴト、ゴト、ゴト、ゴト、廻り出 す、	1		
蝙蝠	鳥かともれば 変な羽根／嘴がなく、 耳がある	2		
天の岩屋	天も地も真の闇、ものすごき闇／只光 る 岩のかげ、天の岩戸。	3		
遠足の歌	天気も今日は日本晴／指折り数へて待 ちわびし	4		
花盛り	開いた開いた、野山のお花が開いた、 ／一面にきれいに開いた。	6	目次の標題は「花ざか り」	
古机	三十年も昔から／この教場にすゑられ て、多くの元気な子供らの	7		(第六集)
鹿の水かゞみ	山の奥から、水飲みに、／鹿が谷へと 出て来たが	8	目次の標題は「鹿の水 鏡」	
水の旅	空からおちては木の葉の上へと／ポ ト、ポト、ポト、ポト、	10		
ワシントン	小さな手斧を片手に下げて／庭に出て 来た一人の子供	12		
てふてふ	長閑な春が広野に来れば／よろこび舞 ふよ、広野の蝶々が、	14		
白鳥	波も立たぬ池の面、／深い水、青いい ろ、	15		
マラソン	後から後から、多勢来るよ、／勇し、 勇し、マラソン競走、	16		(第六集)
つばめ	風をきつて、とんで来る勇しの燕、／ つぶての如く、矢よりも早く、	18		(第六集)
港	港の中の賑はしき／林とならぶ帆ばし らを	20	全体を×で消してあ る。目次には標題の記 載はない	
金鵝勲章	お弓にとまった一羽の鵝(とび)が／す るどく光り、悪者共の	21		
ポスト	町の曲り角の真赤なポスト、／風に吹 かれ	22		大正少年六
川中島	勝気な大将謙信は、／味方の軍の真先 に	24		大正少年六
収穫	野には稲の豊けきみのり、／黄金の波 ぞ、かゞやきわたる。	26		
養老	老はしつれど、何よりも／酒を好める 父のあり。	30		
野菊	田んぼの中の細みちの、／ほとりに咲 いた一本の	32		大正少六
塙保己一	目は見えざれど書物をば／人によませ て一心に	34		大正少七
港	港の中の賑はしき、／林とならぶ帆ば しらを、	36		大正少六

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
蓮華草	野を紅にそめなして／山のつゝちと色 きそひ	38		大正少七
落葉のはなし声	同(おんな)じ枝の葉が二つ／風もない のに落ちたとき、	42		
羽子つきの歌	カツチン、カツチン、カツチン、カツ チン、／高く、高く、勢、強く。	43	目次の標題は「羽子つ き」	「幼児の研究」 十 二年正月号
羽子つき遊び	カツチン、カツチン、カツチン、カツ チン、／高く、高く、力を、こめて、	45	全体を斜線で消してあ る。「裏面に改作」と 注記。目次には標題の 記載はない	(幼児の教育)十二年 正月号
私の本箱	並んだよ、並んだよ、御本が並んだよ ／二冊、三冊、七冊、十冊、	46		(蟻の塔)十一年十二 月十日号
雪の塊	同じ枝にのこつてた／昨日の雪の塊が	47	目次の標題は「雪のか たまり」	少女クラブ(十二年二 月号)
正月を待つ歌	うれしいな、うれしいな／もうぢき正 月、お正月	48	目次の標題は「正月を まつ歌」	「幼児之研究」十一 年十二月号
青森市長島小学校々歌	いはれも尊とき学び舎の／名も長島の 末永く	49	目次の標題は「青森、 長島小学校々歌」	
二つの葉	同(おんな)じ枝の葉が二つ /風も吹 かぬに落つこちた	50	全体を×で消してあ る。標題の下に「「雪 の塊」と改作 11.11.24」と注記。目 次には標題の記載はな い	
煙の踊	煙が踊る、とんさらり、／煙突の口 で、とんさらり、	51		談話会
大風小風	大風大鬼力持、／手足をひろげて、大 声で	52		「白鳩」十二月号
足が歩く	足が歩く、足が歩く／皆の足がテクテ ク歩く	53		「少女」十二月号
地面	地面は背中が重からう、／御門も御家 も乗つてゐる	54		「白鳩」十一月
もみぢ	赤い、赤い、もみぢが赤い／もみぢ の、葉つばが、真赤に赤い	55	目次の標題は「もみ ぢ」	「幼児之研究」十月 号
運動会	今日はうれしい運動会／日本晴の運動 会	56		「幼児の研究」十一 月号
節約宣伝歌	飲むな飲ますな飲まさるな／口にはう まき酒煙草、	57	「(東京商業会議所の 依頼によりて)」と注 記	
となりの犬	今度となりへこして来た／軍人さんの 犬は尻尾なし	59		
[ほたるこい]	蛍来い、飛んで来い、／こんなに明る い昼、出て来い	60	標題の記載はない。目 次の標題は「ほたるこ い」	
生徒思ひ	行くなど、よくよく 止められたるに ／川の深みに 溺るる生徒	61	目次の標題は「生徒思 ひ」	
電燈来	来たぞ来たぞ、／明るい電気が、	63		
[題未詳]	赤い赤い、モミヂが赤い／もみぢの葉 つばが、真赤にあかい	64	標題の記載はない。全 体を×で消してある。 目次には標題の記載は ない	「幼児の教育」十月 号

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
夜の時計	夜の夜中に目がさめて、／大きな音でチクタク、	65		
牛淵雑詠	真夏の日真向に照れば輝きて／勇ましと見よ真白半ヅボン	66	掲載紙誌の切抜貼付。短歌9首	
四角の歌	お部屋も四角 机も四角／机のわきの火鉢も四角。	67	目次の標題は「四角のうた」	「白鳩」十二年二月号
流れ星	夜の御空の原つばに／星の子供が出揃つて	68		「少女」十月号
一つ柿	五作畑(ばたけ)の柿の木の、天辺に／一つ残つて、大柿が、熟れてゐる	69		少年(十二月号)
海の夕日	お日様海におち込んで／海が真赤に染まつてる	70		「母の友」十月号
窓の雀	雀がさつきから窓に来て／あんなに本気で啼いてゐる	71		「白鳩」十月号
鬼瓦	酒屋の倉の大屋根の／黒い大きな鬼瓦	72		「少女」九月号
大羽根小羽根	ヒーラリや ヒーラリや／ヒラヒラ、ヒンラリ、ヒンラリや	73		童謡エハガキ「花と蝶」
野の春	蜂の楽隊 ブンブクブン／ブーン、ブーン、ブンブクブン、	74		童謡エハガキ「花と蝶」
何花野花	兎君、ピヨン、ピヨン、／散歩にピヨン、ピヨン、	75		童謡エハガキ「花と蝶」
蝶を待つ花	咲きました、咲きました／お花は残らず咲きました、	76		童謡エハガキ「花と蝶」
うさ一	お兎も、兎子も、兎一も／みんな善い子よ、おとなしい。	77		童謡エハガキ「花と蝶」
蝶子夫人	ハイカラ蛙のダンスのけいこ／ヅボンも上衣(コート)もカラーも借り物	78		童謡エハガキ「花と蝶」
だんだら模様	野の御馳走のいろいろを／お皿に盛つて待つてるに	79		童謡エハガキ「花と蝶」
円い椅子	気まぐれ きのが 野に生えた／野のまん中に によきによきと、	80		童謡エハガキ「花と蝶」
蛙の子	池のほとりの木の枝に／小鳥チクチク、チイチクチ	81		児童新聞 十二年六月末号
蟻の船頭	風もないのに、落ちて来て／お庭に溜まつた水の上に	83		「白鳩」八月号
お父様のひるね	お父様ねんね／眼鏡をかけて	85		少女 八月
真黒鳥	だまつて田圃を歩いてる／真黒鳥、大	87		(白鳩)十一年七月号
大鳥	大きな鳥がヒヨツコヒヨコ／田圃の中を真直に	88		(樅の実 十月号)
汽車開通	あれ、／汽車が通る、汽車が通る。	89		(コドモノクニへ)
物の音	夜中の／戸の外に、	90		
東洋紡績、王子工場のうた	飛鳥の山の花吹雪、われらが紡ぐ糸の上に、／かゝるか風もかぐはしき、春は楽しき明暮の	91		
山丸製糸場 工女のうた (その一)	煮釜、とり釜、とり湯の中で／繭はにえ候、おどり候。	93	目次の標題は「山丸、工女のうた」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
山丸製糸の工女のうた (その二)	春はおもしろ、氷川の花見、お宮の御 手洗水／花が散る、ヤレ、花が散る	95		
梟の夢商売の歌	ホーホー、売れて候／ねの字の夢が売 れて候、	97	「久留島氏作童話「梟 の夢商売」の中に入 る。」と注記。目次の 標題は「梟の夢商売」	
ふくろう	うつら、うつらの目がさめて、ホー ホー、／お山の奥の大木の、ホーホー	99	目次には標題の記載は ない	(談話界 七月号)
物さし	物尺の目もりの黒筋は／観兵式の兵隊が	100		令女界 七月号
五本指	私のお手々の五本指／いつでも五本の 一家内	101		「白鳩」六月号
大飛球	憂飛ばされた大飛球、／中堅越の本塁 打	102		野球少年
窓	私が窓に のぞいたら、／右左から大 屋根が	103		小学少年
おひるすぎ	雀と雀と話してる／おなじ屋根の西 東	104		野球少年(七月号)
天井裏のをどり	天井板でトラツ、ラ、ラ、ラ、ラ／お 手をつないでトラツ、ラ、ラ、ラ、	105	目次の標題は「天井う らの踊」	小学園
指の手品師	旭があたる 戸にあたる／戸の節孔を つきぬけて	106		「少女」大正十一年 五月号
花の筆入	一番上の姉様の／東京土産のお筆入	108		少女「七月号」
夢の金の杖	夢の王子がお帰りに／お忘れなされた 金の杖	109		(白鳩 五月号)
雪兎	円いお盆の雪兎、／つめたからうよ、 寒かると	110		「少女」十二年二月 号
電信柱大男	電信柱、大男、／うーん、うーんと唸 つてる。	111	全体を×で消してあ る。目次には標題の記 載はない	
[題未詳]	ポツポツポツと雨がふる。／真冬の屋 根に、雨がふる。	112	全体を×で消してあ る。目次には標題の記 載はない	
電気燈	夜の夜中の行列は／長い廊下の電気燈	113	全体を×で消してあ る。目次には標題の記 載はない	
夜の行列	夜の夜中の行列は／長い廊下の電気 燈。	113	「電気燈」の改作。同 じ頁の欄外(上段)に記 載	「白鳩」四月号
ゑ	鉛筆でかいて／ゴムケシでけして	114		
野の電信柱	電信柱 大男／風に吹かれて唸つてる	115		(少女 四月号)
ポツポツ冬の雨	ポツポツポツ、雨がふる、 パラパラ パラパラ、花が散る／真冬の冷たい 瓦屋根。	116		
ゴムケシと鉛筆	赤いきれいな筆入に／一緒に住んでる 敵と敵、	117	目次の標題は「ゴムけ しと鉛筆」	
土の下の土	何か夜の間に出て来ては／お庭の隅を ほつて行く	119		「白鳩」十一年二月 号

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
むぐらの子	冷たい風も吹いて来ず／雨さへ雪さへ 降らぬ国	120		「白鳩」十一年三月号
西洋人形—むねり人形	私の人形は新らしい／西洋人形、大人 形、	121	「ねむり人形」の誤記。目次の標題は「西洋人形」	コドモノクニ
白兔	白兔、白兔、／あなたのお家はぬく さうね	123		
咳の子	コホン、コホン。コホン、コホン、コ ホン。／円い顔した咳の子が	124	全体を斜線で消してある。目次には標題の記載はない	
縄の電車	地面にするする白墨で／かいた二本の 電車路	125		「小学少年」十一年二月号
土を掘れ	庭をほれ、ほれ、土をほれ、／ほつて も、ほつても、土が出る	126	全体を×で消してある。目次には標題の記載はない	
[題未詳]	今朝も雀がないてゐる、／毎朝窓に 来てはなく、	127	全体を打ち消し線で消してある。目次には標題の記載はない	
下駄	カラコンカラコン、カラコンカラ コン、／今日から新(さら)の下駄は いて、	128	目次の標題は「カラコン」	(少女 十一年二月号)
大雪	降つてる降つてる、積つてる。／雪が 降つてる、積つてる。	129		「音楽」
門松	千本万本 檜の穂を／ギラギラ お日 に光らせて	130		婦人界 大正十一年新年号
日の出	あれ今お日の出／立派な日の出	131		「少女」 大正十一年新年号
雪の富士山	出て見よ／出て見よ	132		少女 一月号
お正月さん	来ました、来ました、お正月さんが、 お土産に、／凧もつて、独楽もつて、	133		(白鳩)十二年正月号
旗日	立派な立派な今日の町／右に左に軒な みの	134		(白鳩)十一年新年号
白マント	うれしや、私の大すきな／富士山、今 日から、白シャツが	135		「コドモノの国」十一年二月号
をかしや富士山	をかしや富士山、／だんだん涼しくな つて来て、	136	全体を×で消してある。目次には標題の記載はない	
蟻のボート	ボートの形の 小さなお菓子が／お庭 に一つ、落ちてゐる	138		
生糸業、創始五十年の 賀の歌	昇る朝日の勢みせて／栄え栄ゆるわが 日の本の	139	目次の標題は「生糸創業五十年」	
富岡製糸場工女の歌	くるり、くるくるたゆまずめぐる／わ が糸車、元車、	141	目次の標題は「富岡製糸場」	
大鳥	田圃をだまつてとんでゐる／何うし て、そんなに真黒い。	143	全体を×で消してある。目次には標題の記載はない	
コスモスボート	垣根の外まで、すらすら伸び出て、／ 真上を向いて、一輪咲いてるコスモス に、	144		『白鳩』九月号

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
黎明(あけぼの)	うすら明りの 東の空に、／人の子われ等の耳には聞えぬ	145		
市立／小石川 柳町小学校々歌	我等が かしらに 戴くは／大和心の桜の花よ。	147	目次の標題は「柳町小学校々歌」	
運命 (花)	同じ野路に、同じ春を／咲き出し花の何すれば、	150		
少女か	触れなば散らん花とは知れど、／ほかにはとるべき花なきに似て、	151	「苦しみ」を改題	婦人画報 大正十年六月号
山かげ日かげ	あまりにひくきわが運命／われから知りて、しみじみと、	152		「白鳩」第一卷第三号(大正十年六月号)
希望	星一つかゞやけり、／希望の星の、かゞやけり。	153		
喜	御空に歌ぞ響く、／天の扉もれては、響き来、	154		
龍宮踊	やんあれ やんあれ、／手拍子そろへて、足拍子そろへて、	155		
鈴蘭	深山の奥の谷かげに／小さく咲き出し鈴蘭の	157		婦人画報 大正十年三月号
鳩のうた	ほろ、ほろ、ほろと、やさしいこゑで／鳩が体を、すりよせながら、	159		「白鳩」第一卷第一号 大正十年四月号
梅と鶯	(少女) お庭の梅が満開で／あゝ、いゝ匂、いゝ匂	161		
子守うた	ねんねん、ねんねん、ねんねしな、／いゝ子よいゝ子よ、ねんねしな、	163		「独法師」第一号
近衛騎兵	皆、大きな馬にのり、／お馬車の後前護衛する	165		「白鳩」第一卷第二号
雨	雨が降る、降る。静かに、静かに、／音もきこえず 降る降る降るよ	166		
那須の与一	ゆらりゆらりと波間の船の／棹の先なる扇的よ、	167	目次の標題は「那須与一」	新特選楽譜(十一年八月号)第六十五編
小鳥をにがす歌	親にはぐれて 日暮の庭に／声をも立てずに、ふるへてゐた小鳥、	169	目次の標題は「小鳥をにがす」	「白鳩」大正十年八月号
立山登山歌(富山市弟妹倶楽部立山登山隊のために)	登れよ、山へ、登ろよ、山へ、／山は立山。越中一の、	171	目次の標題は「立山登山歌」	
月見草 - 赤星に -	ほのかに星の またゝけば／われひとりなる 砂浜に	173	目次の標題は「月見草」	「白鳩」十一月号
姫百合小百合	やさしゆかしの花よ、花よ、／谷間に、野末に、隠れてありとも、	174	「(少女によせて、「少女画報」に答へて。)」と注記	
煙突の煙	煙突、煙突。高いな高いな、／黒煙、黒煙。ムクムク、モクモク。	175		「白鳩」十年九月号
夕日	ぎん ぎん、ぎら、ぎら、夕日が沈む／ぎん、ぎん、ぎら、ぎら、日が沈む。	176		「白鳩」十年十月号
夜明の富士山	あれ、富士山も夜があけて、／目がさめかけて、まだ睡むい。	177		「宝の玉」

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
◆ 創作ノート④(大正11年～13年)				
こんころ踊	こんころ踊がはじまつた／こんこん、 ころころ、こんころこん	2		
氷雨	鳩や雀は何処へ往(い)た／小犬(こいぬ) もいつか逃げてつた	4		少年(十二年二月号)
霜銀柱	ギラギラ、ギンギラ、銀柱／千本柱、 万柱	5	目次の標題は「霜柱」	
レールが走る	レールが走る／レールが走る	6		
咳の子	コホン、コホン、コホン、コホン、 コホン、／のどの奥から咳の子供が	8		「三越カレンダー」
霜柱を踏む歌	踏めよ、踏めよ、左、右、／土をかぶ つた霜柱	9		「郷土」
柳の芽	雪が消えたか、消えないか／春は来た のか、来ないのか	10		「少女」十二月三月号
藪	風の吹く日の竹藪は／皆そろつて手を あげて	11	目次の標題は「藪の笑声」	
日向ぼっこ	南二階の縁側の／紅モスリンのおふと んに	12	全体を×で消してある。目次には標題の記載はない	
日向ぼっこ	南二階の縁側の／紅モスリンのお布団 に	13		「白鳩」十二年三月号
蛙の国	地面の底の蛙の国で／蛙仲間のひそひ そ話	14	目次の標題は「春は来たよ」	「小学少年」十二年三月号 新特撰楽譜 [No.102]
山の芽野の芽	野には草の芽／山には木の芽	16		少年クラブ(十一年三月号)
春支度	ひばり／ひばり	18		少女クラブ(十二年四月号)
鳥の子	河原に下りた子鳥が／のぞいて見て みる水たまり	20		少年(十二年四月号)
水が急ぐ	水が急ぐ、川を急ぐ、／谷から出て 来て、ながれてながれて	21		「復習と受験」十二年四月号
絵	絵を画かう、絵を画かう、／白い画用 紙野原が広い	22	目次の標題は「絵をかかう」	コドモノクニ
山の水車	山の水車は／夜の夜中も	23		コドモノクニ
寝る時起きる時	私は時計の字が読めぬ／夜は何時に 寝ませうか	24		「幼児之研究」(十二年二月号)
淡雪	淡雪、牡丹雪／真白牡丹の花片か、	25	目次の標題は「牡丹雪盲目雪」	少女物語 十三年二月号
雪の心	大枝小枝、淋しかろ／花も、葉も なく、淋しかろ	26		
時計の子供	チツク、タツク、チツクタツク、／隣 の部屋の時計の子供	28		「少年」四月号
氷滑り	スー、スー、スー、／氷滑り、氷滑 り、	30		(南満鉄小学唱歌)
町並木	柳の並木／ポプラの並木	32		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
雨だれ太鼓	トンタンタン、トンタンタン／雨だれ太鼓が、トンタンタン	34		「幼児之研究」十二年三月
浮れ鼠	雨の降る日のお午すぎ／裏のお倉のお二階で	35		「少女」五月号
雨だれと雛子	雨は止んでも まだ落ちる／屋根からおちる ポチヨン、ポチヨン	36		「少女クラブ」五月
靴店雑誌店	靴屋にお靴がならんでる／子供のお靴もならんでる	37		日東タイムス
お伽まつり	花が、お花が、お伽の花が／見えぬ野山の果の果まで	38	中央お伽倶楽部会歌。掲載紙誌の切抜貼付	
牡丹の芽	牡丹の芽／小さな芽	40		少年クラブ 五月号
達磨店の地震	地震だ 地震だ／達磨店の地震だ	42		日東タイムズ
茨城県多賀郡日立村／日立第四尋常高等小学校々歌	茜さす国 常陸の国の／日立第四の我が学び舎に	44	目次の標題は「日立校々歌」	
大日本少年団々歌	花は薫るよ、花の香に／日は輝くよ、日の光り	46	目次の標題は「少年団々歌」。掲載紙誌の切抜貼付	日東レコード吹込
たんぼぼ	たんぼぼ たんぼぼ／たんぼの たんぼぼ	48		「幼児之研究」十二年五月号
花の市	今日はたんぼの花の市／赤い花屋は蓮華店	49		(音楽グラフ創刊号) 社会教育 十三年五月号
梅雨	お日様／御病気 今日 如何。	50		社会教育 十三年六月号
裏山の水車	温泉町の裏山で／夜が明けるまで笛を吹く	51		
(雨と)松葉針	お庭の松の松葉針／一の枝、二の枝、三の枝	52	目次の標題は「松葉針」	令女界 七月号
針店の客	里の松の木の針店の／針買ふお客は雀ツ子	53		「少女」六月号
ハーモニカ・ホテル	ハーモニカ、ハーモニカ／ハーモニカ、ホテル、	54		「少年」六月号
雨だれ真珠	ピカリ、ピカリ、真珠球／ピカリ、ピカリ、ダイヤモンド	56		「幼児之研究」六月号
蓮華と菫	(蓮) 菫さん、菫さん、／今日も朝から温かで	57		音楽グラフ 二号
琴	琴をひきましょ／コロリン シヤン	60		
汽車が登る	汽車が登る、／汽車が登る、山を見ながら、	61		新聞同盟
椅子のお客様ごっこ	お客様 おかへり／玄関に 見送り	62		「幼児之研究」七月号
谷の運動会	運動会、運動会／谷の桜の花片の運動会、運動会	63		新聞同盟
電線の雨しづく(雨の提灯行列)	五本 十本 電線が／ならんだならんだ何十本	64	目次の標題は「電線の雨しづく」	コドモノクニ

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
小曲 夕の来れば	夕の来れば／星のまたゝく	65		
魔法つかひの雨	雨が降る 雨が降る／魔法つかひの雨が降る	66		
猫の髭(きつてみるやい)	髭をきらう、髭をきらう、／お日様眩しい縁側で	67	目次の標題は「猫の髭」	課外学習(四年)十二年十二月号 「三州婦人」
電気が来ない	「電気が来ない、電気が来ない／何のお部屋にも、電気が来ない	68		童話研究(二巻五号)(十二年五月号)
虹の橋	虹の橋 わたれ／七色錦、虹の橋わたれ	70		学習三年 十二年第三号
両手を合せた石の地蔵	野路 二つに分れるところ、／石の地蔵が両手を合せ	71		芸術教育 八月号
蛍の行方	町へ来て、見た 蛍の行方／里の田圃の真闇暗も	72		「三州婦人」十四年七月号
丘の上	今日も／遠くの遠くの方で	74		少年クラブ 八月号
ことさらに	ことさらに／暗夜の空の底[遠][深]く	75		日東タイムス
一本土筆	つんつん、つうくし、つくしん坊、／たんぽに一本、立ちん坊、	76	目次の標題は「土筆」	少年 十三年五月一日号
波のあかんぼ	海のお部屋の灯をけして、／親波子波皆寝てる	77	目次の標題は「波の赤ん坊」	学習 八月号 (三州婦人)
初雪	涼しくなった／山々さむい。	78		少女(十三年九月号)
日暮	村の境の／酒屋の屋根で、	79		幼児之研究 十三年一月号
笑ってる子供(鏡の中の子供)	鏡の中で／笑ってる子供	80	目次の標題は「笑ってる子供」	少女 十二年十二月二十日号
金の芽銀の芽	金の芽が光る、／銀の芽が光る	81		少女 十二年十一月五日号 三州婦人 十四年三月号
春の行方	ひら、ひら、野山の花散る。／風さへそよがぬ夕を、	82	掲載紙誌の切抜貼付	新響楽譜
千万とんぼ赤とんぼ	とんぼ、とんぼ、／千匹とんぼ	83		「子供の友」(十二年十一月号)
帰りゆく燕	どこまで帰って行ったらう／矢よりも早いつばくらめ	84		「子供の友」
闇夜	外は闇夜だ 真暗だ／黒い 真黒い 闇夜だよ	85		少年 十三年一月 三州婦人 十四年二月号
風のお手手	風のお手手は 大きなお手手、／あまり大きくて 見えないお手手	86		少年 十二年十一月二十日号
雨の釣糸	するする するする／千すぢ	87		
夜中の鏡	夜中の鏡／井戸の底の鏡	88		少女 十三年一月
傘舞台	傘 番傘 蛇の目傘／花をゑがいた絵傘	89		少女 十二年十二月五日号
風の矢	風の吹く日の／矢を見たか	90		少年
ラツパ	太い赤紐／まきつけて	91		「お月さま」

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
大震災後／少年団主催 野外小国民学校の歌	手足に みなぎる血汐のうなり／心の海にあふるゝ力	92	目次の標題は「少国民野外学校の歌」	
菌の迷ひ子	よくも続いた雨上り、／ぬれたお庭はさびしいな	94	目次の標題は「迷ひ子の菌」	(金の船 十三年六月号)
大時計小時計	お居間の時計は大時計／柱時計の、かけ時計	95		(課外学習)二年 十三年一月号
木の葉船	やれ漕げ／それ漕げ	96		
[ドア]	外では あられが パラパラパラリ／内では ストーヴ トロトロロリ	97	作品名の「ドア」を打消し線で消してある	(課外学習 一年)十三年一月号
燕の電信	つばくらめ、つばくらめ、／電信線のつばくらめ、	98		小学少女 十三年五月号
のろのろ電車	ぎんぎら光るレール路／土塀の屋根の銀レール	99	目次の標題は「なめくじ電車」	小学少年 十三年五月号
我等が眠る夜さへも	我等が眠る夜さへも／海へ海へと、たへ間なく	100	「震災後の復興歌として、教育音楽会よりの依囑二首の中」と注記	
海の初日	海の初日が 今のぼる／海に ぎらぎら 今のぼる	102		[社会教育]創刊号(十三年一月)
七軒村の電気	遠い山道 まよはず来たよ／お山の上の 七軒村の。	103		少年クラブ 十三年三月号 大特撰楽譜第百三十三篇(十四年九月発行)
つくしん坊	土筆が頭を 持ち上げて／土の中からのぞいてる	104		課外学習 新特撰楽譜No.99
雨の糸	銀の細糸 ガラス糸／光つてきれいな雨の糸	105		課外学習 四年(十三年四月号)
雪の日本	日本国中 大雪よ／果から果まで 大雪よ	106		「社会教育」十三年二月
大池小池	大きいお池は 雪が好き／降つても降つても 皆たべる	107		[幼児之研究](二月号)
空の電燈	夜だけ見える 空の町／町一杯の 電氣燈	108		「芸術教育」三月号
小さな芽	静かに、しとしと降つてゐた／雨は夜の間に止んでゐて、	109		少年クラブ 十三年
自転車の車輪	自転車一台／二つの車輪	110		少年 十三年六月号
だいたい大将	お座敷の床の上／三宝に飾られて	112	(ローマ字)	コドモ新聞 十三年新年号
四ひきのお馬	お馬が通る／白馬黒馬	113		(幼児の研究)三月
ケーブルカー	雨の降る日のケーブルカー／電線づたひのケーブルカー	114		コドモノクニ 十三年五月号
猫柳	小使部屋の裏畑の／小さな畑の猫柳	115		少年クラブ 十三年
酒屋の坊はん	酒屋の坊はん／出て お見んさい	116	(岡山言葉にて)	「揺籃」
御空の[振子][時計]	今日も朝から かつちん こつちん／追羽根おもしろ かつちん こつちん	118	目次の標題は「御空の振子」。(ローマ字)	東京日々新聞 十三年一月初刷
岩と波	きのふも波が攻めてゐた／今日もあんなに攻めて来る	119		少年 十三年三月五日号

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
和楽の光	野山をどよもす歓呼の響／御空ぞかゞよふ 和楽の光	120	「文部省の嘱托により、十二年十二月二十四日夜 試作の第一案」と注記。目次の標題は「和楽の光(奉祝歌)」	
奉祝歌	日出づる御国の日嗣の宮の／此の日の御典を寿ぐ声は	122	「12. 12. 25夜、第二案」と注記。目次には標題の記載はない	
奉祝歌	今日しも挙げます、かしこき御典／よろこびことほぐ我等の声は	123	「文部省図書局、武笠青木両氏と 会議にて。12. 12. 26」と注記。目次には標題の記載はない	
眼開きて遥かに見ずや	眼開きて遥かに見ずや／野路の尽きぬと見えしはしばし	124	「震災後復興歌 二首の中」と注記。目次の標題は「眼開きて」	
ひよこの卵	ひよこは小さいね 可愛いね／ひよこの目ん目は 小さいね	125		少女 十三年二月五日号
琴柱(十三小人)	琴の小川の 瀬はいくつ／瀬を渡りゆく はすかひの	126	目次の標題は「琴柱のうた」	少女 十三年二月二十日
大きい時計と小さい時計	大きい時計も 時間をきざむ／小さい時計も 時間をきざむ	127	目次の標題は「大きい時計と小さな時計」	少年 十三年二月五日号
竹田の[長土手][川堤]	竹田の川堤 一里土手／上下竹田をつきぬけて	128	目次の標題は「竹田の川堤」	「郷土」
むぐらもち	冷たい風も吹いて来ず／雨雪降らぬよい国の	130		大少七
汐干狩	汐は遠くへのこらずひいて／干潟、ひろびろきれいな砂地	131		大少七
馬	馬は大した元気もの／生れた日からすぐ歩く	132		
初夏の風	歌ふは小鳥か声清く／匂ふは小百合か香も高し	133		
マリーの／きてん かなつんぼ	敵に追はれた自国の兵士／かくしてやるにも戸棚がなくて	134	目次の標題は「かなつんぼ」	第七集
堇	紫色こく咲き出し花よ／広野の春日に微笑み匂ふ	135		第七集
航海	港は遥かに松原もみえず／マストに唸りて風の音つよし	136		第七集
雨だれ	軒をおつる雨だれ／楽しき歌声	137		第七集
スケイティング	風を切つて、矢の如、／滑り行く速さや、	138	目次の標題は「スケイティング」	第八集
蓮華草	野を紅に染めなして／色をきそへる蓮華草	139		第七集
遠乗	トラララ、トラララ、トラ、ラララ、／鬣靡かせ 我が駒の	140		第七集
鷲(わし)	怒れる肩のその力／おちつき払ひし眼の光	142		大、少、八
ダリヤ	大輪に、大輪に、／ダリヤぞダリヤぞ	143		大、少、八

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
忠君/愛国/唱歌 東宮殿下	地震に砕かれ 火に攻められて／荒野となりたる都のあとに	144	「12. 12. 31暁一時局に概して、四首」と注記。目次の標題は「東宮殿下」	
忠君/愛国/唱歌 皇后陛下	地震に御殿は壊れたれど／家をもやかれし民をおもひ	146	「(同)」と注記。144頁の「四首」の二番目。目次の標題は「皇后陛下」	
忠君/愛国/唱歌 二重橋	二つ並んだ立派な橋と／昔のまんまの大きな御門	147	「(同)」と注記。144頁の「四首」の三番目。目次の標題は「二重橋」	
明治神宮	松の緑の風清けれど／山の高さに[おはすにあらす][まつれるならず]	148	「(同)」と注記。144頁の「四首」の四番目	大正少年唱歌第十集
月夜	清き空に、かゝりて／月は夜を守るか	149		大正少、八
ざくろ	ざくろ、ざくろ、／枝も重げの大ざくろ。	150	目次の標題は「ざくろ」	第八集
百舌鳥	暮れ行く里の丘の上／一もと高きは何の木ぞ、	151		第八集
春の牧場	温かき日かげさして / 若草の萌えそるへば	152		第七集
競馬	蹄の先には／火花を 散らして、	154		大正少年第八集
田植唄	揃うた、揃うたよ、ほら、植手が揃うたよ。／稲の出穂より、ほら、尚、よく揃うたよ。	155		大正少年唱歌第九集
ナイアガラ	懸崖 十五丈／一時に落つる	156		第九集
山の秋	空清く、気はすみて／秋は、今、最中なり。	157		大正少年第八集
たそかれの曲	夕陽静かに 西に沈み／夕餉支度の煙なびく。	158		大正少年第八集
白孔雀	高きとまり木に／動かざる白孔雀よ、	159		大正少年第八集
田植	水をたゝへたる田の面を／燕かすめとびかひ	160	「(前に別歌に改む)」と注記、全体を斜線で消してある。目次には標題の記載はない	第九集
麦打	日和つゞき、麦はうれて／夕日 入れども 忙(せわ)しき村よ	160	目次の標題は「麦打うた」	第九集
海の朝	翅白き鳥ぞ一羽／波に近く 何処(いづこ)行くか。	162		大正少年九
緑の天地	夏のすでに来ねれば／天地は、濃緑、	165		大正少年第九集
若葉の頃	御空にみつる雲雀／のうたごゑ	165		

◆ 創作ノート⑤(大正13年)

広島県福山師範学校々歌	雲井に高き熊ヶ峯／登れば目路のいや遠く	2	目次の標題は「福山師範校歌」	
-------------	---------------------	---	----------------	--

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
曲り角のポスト	雨の日にはぬれ坊主／曲り角のぬれ坊主	4		(幼児研究) 四月号
窓かけの手品	雨のふる日の[窓かけ][カーテン]が／ つまらないから ふざけてる	5		「金の船」十三年五月
蟻の遠足	今日は朝から暑くもなくて／そよ風そよそよ遠足日和	6		少女 十三年四月五日号
モートル	すかたん とん とん、モートル とんとん／米屋ではたらく モートル男	7		「金の星」十三年四月
[題未詳]	お月さま、まるいよ／円顔 笑顔	8	目次には標題の記載はない。未完成の作品か	
高下駄(あしだ)と障子	つぎはぎだらけの古障子／それでも、 やつぱり障子は障子	9		少女 十三年十一月号
縁側町の列車	関のレールは二すぢ三すぢ／縁側町を 真一文字	10		芸術教育 十三年十月号
雨上り	かんかんかんかん鐘が鳴る／学校じま ひの鐘が鳴る	11		少女 十三年十月号
親松子松	起きたい起きたい男松／大きい親松 仆れ松	12		少年 十三年十一月号
あの子も寝てる	あの子も寝てる／この子も寝てる	13		日本一 十四年四月号
竹の垣	風の日／植木屋が直してた	14		少女倶楽部 (十三年六月)
雨の玉	玉、玉、／金の玉	16		少女 十三年
お月さんとあそぼ	お月さんとあそぼ／かくれんぼして あそぼ	18		「幼児之研究」五月号
星が流れて	星が流れて消える時／森のふくろが ポーと啼く。	19		芸術教育 十三年六月号
路中の小石	路にころころ ころんでる小石、蹶つ とばされて 踏んづけられて	20		復習と受験 十三年九月号
風のあし	見たか、風の足 足のうら／風の足の うら	21	目次の標題は「風のあしあと」	婦女界 十四年十一月号
日が永くなつて	日が永くなつて／裏のはなれの縁側で	22	目次の標題は「日が永くなつた」。掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年四月二十五日
落の葉太鼓	井戸のほとりで ポツタンポツタン／ 大きくひろげた落の葉太鼓	23		金の船 十三年七月号
森の服屋	森の服屋は／小鳥がお客	24	目次の標題は「森の服や」	国民新聞
波の子	舟漕いで遊べ／漁士の子供	25		音楽グラフ 十三年六月号
やせたお月様	待つても待つても、月の出がおそい／ 毎晩、はよから、出てゐた月が	26		小学少女
柳のブランコ	一の枝、二の枝、三の枝、／柳の枝の ブランコ、	27		幼児之研究 十三年六月号
やみ夜のお使	流れ星、流れ星、／闇夜のお使、流れ 星	28	目次の標題は「暗夜のおつかひ」	国民新聞

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
たんたら太鼓	とたんの屋根から、ポテポテおちては ／太鼓を叩くよ、雨だれ雨だれ	29		「小学少女」 国民新聞
天狗松(クキーンまつ)	鎮守のお山の天辺(てつぺん)で／御幣 の形に大枝張つて	30		小学少年
八百やのお店	八百屋のお店で 外見てる／林檎の子 供が、外見てる	31		子供の友 十四年六 月号
東京府下／中野町 桃園 小学校々歌	朝日もはやき武蔵大野／野中に栄ゆる 中野の町は	32	目次の標題は「桃園小 学校々歌」	
森の歌	森に響く声よ／森の声よ。	34	目次の標題は「森のう た」	
岡山師範、創立五十年 記念式の歌	操の山の小松も／松の緑をいやまして	36	目次の標題は「岡山師 範、記念歌」	
水車	水車は めぐる 雨ふる日も／たゆま ず めぐる 風の日も	38		(新響楽譜)
おはやう	東のお山に、／お日様上つて	40		幼児之研究 十三年 七月号
涼しい晩	涼しい晩だ、皆で涼まう、／橋(はし) の下(しも)から、	41		金の船 十三年八月 号
赤い裁縫箱	赤い裁縫箱、ちりめんの小箱／中にや 何々何の糸。白糸	42	掲載紙誌の切抜貼付	国民新聞 十三年八 月二十一日
お日様と鳩(こだから 幼稚園々歌として)	ホロロン、ホロリや、ホンホロリン、 ホンホロリン／やさしい声して鳩がな く	44	目次の標題は「お日様 と鳩(こだから幼稚園 の歌)」	
とうがらしとんぼ	とんぼ、とんぼ、／まつかな、とんぼ	45		少年
むかで百足	むかで百足 下駄はかず。／スリツパ もはかず 鞆はかず。	46	目次の標題は「むかで の百足」	金の船 九月号
虹(八尋言葉にて)	ねえやん／あゝやん	47	目次の標題は「八尋の 虹」	「郷土」 十三年八 月号
踊のうた／誰そや来て 胸の扉たゝく	誰そや 来てたたく／誰そや 我が胸 の扉たゝく、たゝく。	48	目次の標題は「踊のう た」。印刷物の切抜貼 付	
窓にきく声	うすくもりして、／空もひくゝ、	50	前頁に印刷物の切抜貼 付	
物干竿	大人か、子供か、物干竿は、／親子の とんぼの思案顔	53		「金の船」 十三年 十一月
歌時計	時計の振子の囃子につれて／親針子針 は舞の役	54		社会教育
夜明の白ダリア	夜明のお庭の歌の声／何ときれいな歌 の声	55		「金の船」 十三年 十月
畠の小松	畠の中の一つ松／一の枝右へ伸ばして る	56		金の船 十三年十二 月号
テニスボールの眼	テニスのボールに／目があるか	58		幼児之研究(九月号) 十三年
怒つてるテニスボール	テニスのボールが／怒つてる。	59		社会教育
空の輝き	空に妙なる歌声は／天の御苑の童女等 が	60	「(女子運動奨励歌)」 と注記	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
聖なる乙女	蒼く澄みたる大空の／高きにつつ白雲の	62		
波がしら	海ひろびろと風が吹く／風に吹かれた波がしら。	64		三州婦人 十三年十一月号
月の星ヶ浦	月の夜更の星ヶ浦／秋はまだ来に 虫のなく	66		
空の飴屋	飴は売れるか 売れないか／空の飴屋の笛上手	67		国民新聞
ポプラといてふ	秋が来たとして ポプラが散る散る／黄いろい蝶々の まねしてヒラヒラ、	68		
キューピーさん	キューピーさん、／キューピーさん	70		国民へ 幼年童謡第一集
鳥と柿	それ来た鳥／どこかで かアかア、	71	掲載紙誌の切抜貼付	国民へ
ダリア	ダリア、ダリア／ましろうダリア	72		幼年童謡第一集
円い明るいお月さま	まんまるまるいお月様／あかるいあかるいお月様	74	目次の標題は「お月さま」	伴奏付 幼年童謡第一集
ブラブラのうた	ブーラ、ブーラ、ブラブラブーラ、／時計の振りか ブラブラブーラ	75		幼年童謡第二集
大麦小麦	出たよ一寸／伸びたよ二寸	76		「日本一」 十四年二月号
[題未詳] (番外)	水の子供の水の玉／はね上り好きの水の玉	77	目次には標題の記載はない	
百合	白い百合おしやれ／おしろひつけた	78		
麻布区三河台小学校々歌	朝日朝風きよら[かに][けき]／わが麻布なる三河台	79	目次の標題は「三河台小学校々歌」	
逃げない小蠅と寝てる坊や	小蠅がとまる／にげてはとまる	80	目次の標題は「逃げない小蠅(と寝てる坊や)」	国民
耳なし兎	月の夜更の小山のかげを／ゆきつ戻りつ耳無し兎	82		子供の友 十四年九月号
東京市外／大久保町 戸山小学校々歌	戸山ヶ原の朝風に／わが手 わが足 勇み立ち	84	目次の標題は「戸山小学校々歌」	
コスモス	コスモス コスモス／うす桃色のも	86		幼年童謡第四集
朝のうた	朝日が お庭に、さしてゐる／小鳥も歌を はじめてる	87		幼年童謡第二集
誕生日	今日は・・・さんの誕生日／今日で、・・・さん、	88		幼年童謡第二集
僕のうた	僕は大そう丈夫です／よく寝ておきて	89		幼年童謡第二集
緑小学校々歌	岸の小草も栄えゆく／隅田の春よ 緑、緑、	90		
風の親子供	親の大風こゑ上げて／お庭の大松ゆすぶつた。	91	目次の標題は「風のうた」	金の船 十四年
日があたる	日があたる 日があたる／上の窓あけると 上の方にあたる	92		日本一 十四年三月号
北風	どどどん、どどどん、／戸を叩く、叩く。	93		「国民」

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
子蜘蛛のお家	裏の土蔵の床下へ／たつた一つの風穴は	94	掲載紙誌の切抜貼付	「国民」 十四年七月十四日
母様手縫の洋服	「母様行つてまいります」／御門を出るのは出たけれど	95		
試験場で	試験場で／どうしたはずみか 思ひ出し	96		少女 十四年三月号
牛の正月	牛よ お家の黒牛よ／ことしは、ほんとお目出度う	98		国民新聞
お天気	お天気だ、お日和だ。／鳩が寺から下りてみる	99	目次の標題は「「お天気お日和」	小学少年 十四年五月号
雨の日の小鳩	クツ クツ 小鳩／雨降る朝の	100	目次の標題は「お寺の小鳩」。掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年七月十九日
水車小屋	カッターリツコ、ジャンブリコ／カッターリツコ、ジャンブリコ	101		少女クラブ 十四年四月号
柿のすずなり	西片町は／学者町	102	(西片町童謡ノ一)	福山学生会誌
太かい椎の木	阿部様の／御門の前の広つ場の	103	(西片町童謡ノ二)	福山学生会誌
夜中の羽根つき	夜中の客間で／かつちん こつちん	104		国民新聞 十四年一
咳と嚏(くしやみ)	あれ、誰だらう 誰だらう、／粉雪ちらちら	106	目次の標題は「咳とくしやみ」	
おめでたうの歌	あつちでも、こつちでも／子供が羽根つく、	108		東京日々新聞 十四年一月九日
大風絵扇	広つ場の、／ほとりの店の	110		日々新聞 十四年一月
日本晴(尋常二三年)	上つてる 上つてる、／凧がどつさり上つてる	112		芸術教育 (十四年二月号)
成城中学校々歌	日かげ あまねき水野ヶ原／三光星なる校章(しるし)ぞはゆる	114	標題の上部に(中止)とある。目次には標題の記載はない	

◆ 創作ノート⑥(大正14年)

湯ヶ原の夜まはり番	湯ヶ原の／温泉町でも	1	目次の標題は「湯河原の夜まはり番」	国民新聞 十四年一月八日「小学生新聞」
急げよでで虫	急げよ でで虫／日が暮れる	2		日本一 十四年五月号
山と雲	山が／雲まで	4		国民新聞 大正十四年一月十二日 芸術教育(四月号)
池の風	風が何か／ささやくと	5	掲載紙誌の切抜貼付	国民 五月
戸口	雨は降つても／寒くても	6		金の船 十四年三月号
冷たいあんよ	まだ日のさゝぬ／屋根の霜 白い	7	目次の標題は「冷たい足」	国民 十四年一月十九日
切符きり	ちやつちやつき、ちやさちやき、／切符を切ります、	8	掲載紙誌の切抜貼付	国民

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
小曲 蠟燭と	身をほろぼして / 生命をすてて	10		
赤い目んめ	兎のめんめは赤めんめ / 赤いめんめでうれしかる	11	目次の標題は「赤い目ん目」	「子供の科学」十四年十月号
私の柳	私がかゝた柳の木 / 高く伸びて枝も出て	12		
雨の一本杉	今日は朝から雨降りだ / お宮の森にも降つてゐる	13	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年三月三十日
雪の子	雪の子供も風の子か / 風の吹く日はよろこんで	14		音楽グラフ
にらみつこ	馬は頭を下げてゐる / 鶏は頭を上げてゐる	15		音楽グラフ (十四年三月号)
雪どけ	ぼつたり ぼつたり / 雪どけだ 雫だ ぼつたり	16		家庭 コドモ新聞 二月
町の飴売 / (日ぐれの村)	日暮れの村を笛吹いて / 町の飴売が町へと帰る	18	目次の標題は「町の飴売」。掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年十月三十日
橋のたもとの柳の木	いくつもならんで垂れてゐる 柳の枝のブルーランコ	19	目次の標題は「橋の袂の柳の木」	子供の友 十四年七月号
早起き	お日様、山に顔出した / 私は窓に、顔出した	20	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年六月十八日
夜ふけの月見草	誰も通らぬ川土手に / 夜露が下りて、	21	目次の標題は「月見草」	国民
大漁船	エンヤラ、エツサ、 / 日が登る	22	目次の標題は「鯉船」	大正少年唱歌第九集
二歳駒	弟の如く慈しみ / 心をこめて育てたる	24		大正少年唱歌第十集
村の道ぶしん	溝をさらへ / 草を刈りて	26		大正少年唱歌第十集
燕の巣ごしらへ	燕の巣ごしらへ、 / 土運び、	28	目次の標題は「燕の巣造り」	幼年園 十七年五月号
稲穂	里の藪から / 土手の藪から	29	目次の標題は「稲穂の雀」	婦女界 十二月号
鶏の声	御空の星の / またたき繁く	30		大正少年唱歌第九集
(椿の) 苗千本	赤い椿に雨がふる / 白い椿に雨がふる	32	目次の標題は「椿の苗」	(小説と講話 十四年三月五日号)
村の日の出	隣の村の / 山からのぞいて旭日があたる。	33		国民 十四年二月十七日
大豆のさやが (春の野)	大豆のさやがふくらんで / 麦の穂波のうねる時	34	目次の標題は「大豆のさやが」	金の船 十五年九月号
川の泡	海はまだ遠い / 日はまだ高い	35		日本一 十四年六月号
一本葦	学校の裏の / はたけの土手の	36		日日
あわてたゴム風船	持ちかへる間に手をぬけて / 頭ふりふり逃げて行く	37	目次の標題は「ゴム風船」。全体を×で消してある	婦女界 十四年七月号
つづり方	今日はきれいな字がかける / 明るい部屋での綴り方	38		国民

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
弟と二人のお留守居番	弟と二人のお留守居番／雨戸は早くしめました	39	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年二月十四日
お宮山	村の鎮守のお宮山／姫松小松のまん中に	40	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年九月二十四日
つばきの小鳥	丘の椿の葉が光る／雨ですつかり洗った葉	41	目次の標題は「椿の小鳥」	
今日吹く風	今日吹く風は 春の風／山吹き野を吹き 子供咲き	42		国民 十四年三月三日
朝顔の花のかず	朝顔は、／何りん咲いたろ、ひらいたろ、	43		幼年園 十四年七月
燕のお家	スーイと上手に／御門をこえて	44	目次の標題は「つばめのお家」。掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年五月二十四日
橋の船	橋の上で／流れる水を	45		
蛙のあそび	蛙は、いつでも／うれしかろ、	46		金の船 五月号 音楽講義 十四年九月号唱歌
雪の手足	雪の手足の白いこと／あんまり長い旅をして	48		国民 十四年二月十日
兎の耳	兎の耳は／なぜなぜ長い、なぜなぜ長い。	50		婦女界 十四年九月号
お寺から下りて	山のお寺の鶏が、／遊びに下りて日が暮れて	51		芸術教育(十四年三月号) 吉田先生の師範学校教科書
つくしんぼ	草の根つこよ／すこし退(ど)け	52		国民 四月
留守居のお餅	お餅は二つ、やきました。／やいて一つづつ、たべました。	53	目次の標題は「留守居の餅やき」	国民 三月
お雛まつり	赤いもうせん 緋もうせん／赤い段々 緋段々	54		
親子のあひる	氷がやつととけかけて、／池に入つた親あひる	56		国民 三月 可愛い芸術
松の鱗	鳥居の前の大松の／皮のうろこをはぎませう	57		「日本一」十四年七月号
お月様におんぶ／蛙の子ども	蛙の子供、／お月さんにをんぶ	58	目次の標題は「蛙の子供」	ニツポン一 八月号
蛙の子	ポツカリ、お池に浮んでる／まんまん 円いお月様に	59		金の船 昭和二年七月号
土筆と山羊	牧場つゞきの川土手に／つんつんつん 出た土筆の穂	60		少女世界 十五年四月
お池の鏡	お池の鏡にうつるのは／紫長い藤の花	61	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年五月十四日
不思議	来てごらん来てごらん 早く早くきてごらん／めんにはとりは	62		国民 昭和二年六月十三日
正月二月三月	正月に／暗ければ	63		
村の早起(日の出時)	村の鎮守は松山に／こんもり繁つた杉の森	64	目次の標題は「村の早起」	国民 十四年九月二十日 国民附録

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
跡見女学校創立五十年 記念会式祝歌	都大路に 常春の／跡見の園の教へ草	66	目次の標題は「跡見創 立、記念祝歌」	
気持のよい雨	雨が降る、降る／静かに、静かに	68		婦女界 十四年六月 号
千住青年団々歌	花や漂よふ川の面／風は薫るか欄干に	70		
神村小学校々歌	伊勢宮山に弥しげる／松と栄をきそひ つゝ	72		
ひよこびよびよ	雛子、ピヨピヨ、／雨が降る	74	目次の標題は「雛子び よびよ」	コドモ新聞 十四年 五月十五日号
鼠と雷	鼠は、雷の親戚で／鼠の親戚、雷で、	75		
学校の雀	雀、お早う。／今朝も学校の門の扉の	76		
親波子波	親の大波、／子供の小波、	77		小学少女 昭和二年 七月号
大とび小とび	雀、子雀、親雀／学校の軒で	78		朝日新聞「家庭朝 日」十四年七月五日 号
草山のわらび	お日様に／ポカポカと	80	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年五月二 日
電信線	強いね、きついね、／電信線	82	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年九月一 日
夜の大工さん	夜の大工さん／何たてる	84		国民 六月
筆の穂・朝顔	きれいな筆の穂、朝顔の蕾／朝はよ、 露で、	86		国民 二年七月十日
朝顔ラジオ	小人の世界のラジオ店／店は裏庭、竹 の垣	87	目次の標題は「朝顔」	(子供の科学) 九月 号
朝の朝顔、晩の朝顔	朝は、／ニツコリ	88		小学少女 十四年七 月
星よ出よ出よ	星よ出よ出よ／きら、きら、きら	89		婦女界 八月
炎天	夏の休みの運動場、／朝から	90		国民
こんな坂	小さなトンネル／大きなトンネル	91	目次の標題は「こんな 坂」	幼年園 十四年八月 号 初等教育 唱歌 研究会楽譜 昭和三 年三月号
大雪溪	谷を埋めて積りし雪は／真夏もとけぬ 氷の阪と	92		大正少年唱歌第九集
電車のマラソン	東の車庫から チンチンゴーゴー／西 の車庫からチンチンゴーゴー	93		朝日新聞
朝霧	朝霧こめた街道の角を曲つて出て来た ものは／青物積んだ大八車、	94	目次の標題は「朝ぎ り」	「我が家」七月号
鬼の物尺	鬼の物尺／火の見の梯子	95	掲載紙誌の切抜貼付	中外商業 昭和二年 三月七日
脚をひろげた王子様／ 蜘蛛の王子様	朝日がさして、きらきら／五色の糸の ハンモック	96	目次の標題は「脚をひ ろけた王子様」	国民 十四年九月三 日
雀が、雀が	雀が 雀が 泣いてゐる／孵したばかり の子雀を	97		「童謡」 十四年八 月 可愛い芸術 第 四輯 昭和二年五月

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
広告塔の電気燈	ぱつとつては、すつと消え／すつと消えては、ぱつとつく	98	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年九月八日
里芋の葉つば	早く目ざめた里芋の葉つば／葉のまん中を凹まして	100	目次の標題は「里芋の葉」	少年クラブ 十四年十月号
開墾	大岩かつちん ほり出して／小岩もかつちん、ほり出して	101		大正少年唱歌第十集
秋晴	浮びてし／白雲一つ	102		大正少年唱歌第十集
鈴蘭	桃桜散るはをしまずやがて我が鈴蘭の花／咲くとしおもへば	104	目次の標題は「鈴蘭十五首」。短歌15首。掲載紙誌の切抜貼付	
村の橋	いつか、どこかで見た様な／橋のたもとの石地藏	107		子供の友 十四年十月号
長岡高等工業学校々歌	休むひまなく遙けき旅を／永劫につゞくる信濃の川の	108	目次の標題は「長岡高工、校歌」	
緑の天地	夏のすでに来ぬれば／天地は、濃みどり。	110		大正少年唱歌第九集
福山市東 尋常/高等 小学校々歌	海の東に輝やきて、／旭、蔵王の峯に映え	112	目次の標題は「福山東小学校々歌」	
静岡高等学校運動部、応援団々歌	東西南北に連る群山を／遙かに見下して	114	目次の標題は「静岡高校、声援歌」	
やんちや日まはり	暑い日ざかり日まはりが／あれ 首をふる 首をふる	116	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年九月十五日 子供
日でり	田圃の夜ふけのひそひそ咄／日照り二十日の八月末の	117		国民 十五年八月九日
小狸小兎	こんこん小山の小狸は／お腹鼓も打たないで	118	掲載紙誌の切抜貼付	幼年クラブ 十五年三月号
犬に何やろ	犬に何やろ 何をやろ／あれあれ尾をふる 首をふる	119		婦人クラブ 十五年五月号
大蟻小蟻	大蟻二ひき 何さがす／うろたへ気味に右ひだり	120	掲載紙誌の切抜貼付	国民新聞 十五年八月二十二日
夕立の後	大夕立は 今やんだ／やんだばかりの庭先で	121	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四、九、五
蟻の親／子蟻の迷子	小犬も子猫も にはとりも／あわてて、もどつた 夕立が	122	目次の標題は「小蟻の迷子」	「可愛い芸術」
山の上	誰もきかない山の上／朝はやくから啼いてゐる	123	目次の標題は「山の小鳥と名なし草花(山の上)」	「金の船」 三年八月号
伸びろ竹の子	伸びろ竹の子／昼間も伸びろ	124		コドモノクニ 十五年六月号
出目金魚	夜の間に死んだ出目金魚／こわや その眼は何にらむ	125		国民新聞 十五年七月
夢見花／夏の四つ花	赤い花 怒り花／赤いカンナが	126		童話 十五年四月号
泣いたゆめ／春のゆめ	はねまわりすぎ／とびすぎて	128	目次の標題は「泣いたゆめ」	四年生 十五年五月号
ちくおんき	今日は朝から雨ふりで／皆いやだろ箱の中	129		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
一枚板橋	一枚板橋シーナシナ／誰かゞ渡れば シーナシナ	130		(三年生 十一月)
野ひばり	パイチクパイチク雲雀が昇る／遊びに お出でと、お日様に	131		子供の友 十五年四月号
寺の日暮	山のお寺の鐘撞き男／早く日暮の鐘撞 かないか	132	目次の標題は「寺の日 ぐれ」	母子草 十四年十月号
大きなかくれんぼ	お日様と／お月様と	133	目次の標題は「かくれ んぼ」	「三年の優等生」昭和二年二月号(創刊号)
雨の日／クレヨン画	一ひら 二ひら／ちりかけた	134	目次の標題は「雨の 日」	金の船 昭和二年四月号
ゲゲゲのグググ(蛙の土産)	蛙ヒヨコヒヨコ 二ヒヨコ 三ヒヨコ ／四ヒヨコ 五ヒヨコ 六七ヒヨコ	135	目次の標題は「ゲゲゲ のグググ」	少女世界
ゐなりさま	大きい鳥居／小さい鳥居	136	目次の標題は「いなりの 狐」	国民
雪の里	遠い山々 坊主山／真白坊主の雪の 山、	137		子供日キ 十五年
梅の木三本	一等大きい梅の木の／梅の花、	138	目次の標題は「梅三 本」	愛の友 十五年一月号
汽船の小鳥	瀬戸内海の 大きな港 小さな港／次 から次へと廻つて行くよ	139	掲載紙誌の切抜貼付	県人会誌へ 国民 昭和二年五月二十三日
くらげ	ふわり ふわり、／くらげよ、くら げ。	140		少女世界 十五年四月
青い旗赤い旗	何の旗 お好き／青い旗 おすき	141		小学少年 十四年十二月
がらあき電車	夜更に走る／がらあき電車	142		少女世界 昭和二年二月号
かけつくら	風と葉ぱと[が][の]／かけつくら	143		愛の友 十一月
はだかの雛子	はだかのひよこ／パイヨ ピヨ	144		子供の友 十五年五月号
ケンケン子雉	ケンケン子雉／山雉	145		日の丸 十二月
蛙のボート	人まね こまね／蛙の子供	146		(子供の友) 十五年八月号
簾の枇杷	一つ大きい簾の枇杷／竹の垣根の曲り 角	147		国民 十五年八月二十二日
星の親子	星の子供もうれしさう／皆早やく出て 大空で	148		子供の友 十五年十二月号
桃太郎 大猿雉子	ワンワンワン、／日本一の桃太郎さん のお伴の中で	149	目次には標題の記載は ない	
舌切雀のおぢいさん	雀よ、子雀、可愛い雀／なぜ のりな めた なぜなめた	150	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十五年十二月十九日
日暮時	日暮時 日暮時／どこの家でも 日暮 時	151	目次の標題は「日が暮 れる」	婦人クラブ 十五年十月号
お山の細みち	お山のお山の細みちは／誰々(だれだ れ)通る、誰(だれ)通る	152		(三年生 十二月)

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
毛糸の肩巾	誰かつくつた 毛糸の肩かけ／あたゝかさうにふくらんで	153	目次の標題は「毛糸の肩かけ」	子供の友 十五年二月
犬のひきこし	隣の引越／がつたんこ	154	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年十月四日
亀と鯉	亀はお耳が聞えます／私が、お手手をパチパチと	155	目次の標題は「亀と鯉とのお耳」。掲載紙誌の切抜貼付、標題は「亀の耳・鯉の耳」	中外商業 十五年二月二十二日
夢	夢が、／ほんとであればよい	156		国民 昭和二年六月二十一日
ありがたう	途中で雨にあつた時／私の知らないをばさまに	157	掲載紙誌の切抜貼付、標題は「どうもありがたう」	こども日々 十五年一月二十三日
狸の土舟	兎と狸と ぎつちらこ／舟の漕ぎつこぎつちらこ	158	掲載紙誌の切抜貼付、標題は「木舟泥舟」	国民 十四年十二月六日
花咲ぢいさま	咲かそ 咲かそ／お花を咲かそ、枯木に	159		
一寸法師	ひろいひろい大きな海を／おそれもしないで一寸法師	160	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十五年二月四日
文福茶がま	茶釜に 二ヨキ二ヨキ手が生えて／足まで生えて 驚いた	161	目次の標題は「茶釜」。掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年十一月二十七日
軽いつづら	軽くても、／つづらは軽くて小さくても	162		「児童文学の研究」十四年十一月号
舌切雀のかへるうた	私が糊をなめました／おるすにだまつてなめました	163	目次の標題は「かへる雀」	中外商業 十五年一月

◆ 創作ノート⑦(大正14年～昭和元年)

みなかの町へ	行つてまゐります／お母様	2		コドモノクニ 十五年二月号
アンデルセン／五十年祭 お伽ペジエントの合 唱歌「おとぎの大王 様」	国は小さなデンマルク／さびしい町のオデンセに	4	目次の標題は「おとぎの大王様」	
お父さまの歌留多とり	「父さま、歌留多を取りませう」／父さまおはこは「三笠の月」	6	目次の標題は「お父様のかるたとり」	
父さまの羽根つき	父さま お上手／羽子つき お上手	7	目次の標題は「お父様の羽つき」	少女世界 十五年一月 芸備の友
福山市／地吹町 私立門 田高女校歌	芦田の川の川床に／つもる真砂も瀬に 渚に	8	目次の標題は「門田高女校歌」	
どうもほんとに、あり がたう	受けとりそこねて ながしたボール／ 立つて見てあた どころかの子供が	10	目次の標題は「どうもほんとに、有難う」	子供の友 十五年一月号
きれいなお正月	山に並んで生えてゐた／姫松小松町に 出て	12		東京日々新聞 金の船 十六年一月
お正月さん	お正月さん 元日さん／今日はほんと に嬉しかる	13		遊戯と唱歌 昭和六年一月号
どこまで来てゐるお正月	学校は休みにになりました／どこまで来 てゐるお正月	14	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年十二月二十七日

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
野川の真昼	きれいな水の 深みの底で／野川の真昼 ちよろちよろ跳る	15	掲載紙誌の切抜貼付	中外商業 十五年一月
広告燈／青文字赤文じ	やれとべ それとべ 滑るな、落ちるな／ビヨイ、ビヨイ ビヨイ、ビヨイ	16	目次の標題は「青文字赤文字」	国民
雪とキューピー	夜の間に雪がつみました／お庭に忘れたキューピーに	17	掲載紙誌の切抜貼付	中外 十五年二月
雪どけ	ピツチヨン、ピツチヨン／ポーポー ポーポー	18		可愛い芸術
粉ひきや	ジヤブリ、ジヤブリ、ジヤブリコ ／水車 くるくる ジヤブリコ	19		愛児の友 十五年四月
すまふとり花	里の野川の砂土手の／砂は銀砂 金の砂	20		良友 十五年五月号
春来い春来い	春来い 春来い 山に來い／山で木が待つ 鳥が待つ	21	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十五年二月二十八日 明日の教育 三年二月
S坂	くるくる大きくS字に登る／西片町の新坂の	22		
大阪放送局の歌	大大阪を真中にして／いらかの上に、森のかけに	24		
愛国婦人会／隣保館内 江東コドモクラブの歌	陽ぞ輝やける日の本の／都の名どころ水清き	26	目次の標題は「江東コドモクラブの歌」。印刷物を貼付	
全上 托児所の歌／[小鳥]	小さなあんよで 枝から枝へ／小さなはねで 大空高く	27	目次の標題は「江東托児所の歌(小鳥)」	「桐の花」
お月さんとかけっこ	お月さんと駈っこ、一、二、三、／私は田圃の畔のみち	28		コドモノクニ
兄さん来たナ	兄さん来たナ、来てゐるナ、／あそのステツキ	29		コドモノクニ 十六年一月号
招き竹	青竹 若竹 背長竹／風に吹かれて招き竹	30	掲載紙誌の切抜貼付	中外商業 十五年八月八日
伸びたよ若草	伸びたよ若草一寸二寸／風は、そよそよ春風だ	31	目次の標題は「伸びるよ若竹」	写真通信 三月
此の露は／露の涙	ゆふべも／空は はれてゐた	32		国民 十五年六月二十三日
どぜうの丸のみ	あひるのえさは／川どぜう	33	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十五年八月二十二日
チュンチュン雀よ／雪どけ	チュンチュン雀よ うれしいね／雪がとけたね 屋根の雪	34	目次の標題は「チュンチュン雀よ」	金の船 十六年三月
何がそんなにホーホケキヨ	ホーホー、ホケキヨ、ホーホケキヨ／ケキヨケキヨ、ホケキヨ、ホーホケキヨ、	35		国民
まつびるま	鳥がどこかで チツピイピツ／風はふいてる そよ、そよ、そよ	36	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十五年七月七日
日向の本よみ	日向の本読、まぶしいね／御本が光る絵が光る	37		国民 十五年七月十二日
隣りのお爺さん	そーれ、となりのおぢいさん／垣根の外で今日もまた	38	目次の標題は「隣のおぢいさん」。掲載紙誌の切抜貼付	国民 十五年十二月六日

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
一軒家	今日も煙がたつてゐる／森のほとりの一軒や	39	目次の標題は「一軒屋」	コードモノクニ 十五年十二月
長岡高工校歌(改作)	洋々として旅をゆく／信濃の川の水清し	40		
ひよろひよろポプラ	ひよろひよろポプラ、ひよろポプラ／この頃すゐぶん背が伸びて	42		教育週報 十五年七月四日
石ころばたけ	石ころばたけ 一くわ／かちり	43		教育週報 十五年
雪(ゆき)ん中の雀	雀、雪(ゆき)ん中、風の中／今日も朝から 餌拾ひ	44		子供の友 十六年一月
村の夕ぐれ	山へ帰るか たんぼの鳥／野中の地蔵の一本杉に	45		桐の花 十六年三月号 誠之
風呂やの鏡	風呂屋の鏡／大きな鏡	46		誠之 桐の花 十五年十二月 女性新聞 十六年一月
山の池の椿	椿がおちた、一輪おちた／山の、しづかなお池におちた	47	目次の標題は「お山の椿」	明日の教育 十六年二月
月の世界の女の子	月の世界にゐるでせう／女の子がゐるでせう	48	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十五年十二月二十四日
石曳	うんさうんさ石引だ／お宮のしめ石柱石	49	目次の標題は「石引」	コードモアサヒ 十五年十月号
温室	ガラスの屋根に、ガラスの壁に／明るき家の温かきかな。	50		大正少年唱歌第十集
かんすの火事	竈のかんす／シヤンシヤンたぎる	51		教育 十五年十二月
海の入日	大魚 小魚 それにげろ／海に落ちるぞ お日様が	52		中外商業 十五年七月十一日
木の葉ちるちる	木の葉散る散る 夜も散る／夜はお星様 散る葉を見てる	53		
山のとつぺんの一本杉	山の、お山の とつぺんの／一本杉はひとりもの	54		コードモアサヒ (三年一月号)
グレース・ダアリング	波ぞ唸る 風ぞ荒るゝ／嵐にまじる夜深の声は	55	目次の標題は「グレースダアリング」	
伝書鳩	円く小さき珠に似て／目のやさしさよ可愛さよ。	56		大正少年唱歌第十集
新那須即興	霧だ 大した山霧だ／お部屋の中までスースーと、	58	目次の標題は「新那須[即興][の夏]」	国民
雀の巣立ち	子雀、巣を出て／お庭に下りて	59	目次の標題は「雀の巣立ち」	写真通信 三年六月
葉つばのダンス	赤い葉つば／黄ろい葉つば	60		(写真通信) 十一月
屋根棟のペンペン草	母家のわら屋根 棟瓦／瓦のすきまにのび出した	61		国民 十五年十一月十三日 可愛い芸術 女子師範読本
うろこ雲	西は夕やけ 日ぐれどき／東の空にたなびいて	62		国民
とんかちこ	一本一本 とんかちこ／口から出しては とんかちこ	63		「明日の教育」昭和二年四月号

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
青い虫(新那須、山樂所見)	真昼 明るい ゑん側の／しきみを右 往き 左往き	64	目次の標題は「青い虫」。掲載紙誌の切抜貼付	国民 十五年九月二十七日
親雀	雀が 雀が ないてゐる。／かへしたばかりの子雀を	65	目次の標題は「親すずめ」	中外商業 二年五月九日 可愛い芸術 第三輯
ころげたこけた	ころげた こけた／だあれが、こけた	66		コドモアサヒ 昭和二年二月号
もう夜があけた／ほこりのうた	もう夜があけた／雨戸のすきから 旭がさせば	67	目次の標題は「もう夜があけた」	女性新聞 大塚講話会 十五年十月二十日
芒と春の風	朝も さわさわ／昼も さわさわ	68		明日の教育 十六年三月
金姫銀姫	きんきら、きらら、金の星／ぎんぎら、ぎらら、銀の星	69		小学少女 十五年十一月
星をとりたや	毎晩はやく／出て来ては	70		
気まぐれ竹の子	藪の垣根の地の底を／くゞつて、	71		子供の友 二年五月号
銀に降る雨	雨が降る降る 銀の糸／糸は千すぢ万のすぢ	72		
春日まわり	赤い燈籠 木の燈籠／小さい大きいいろいろの	73	目次の標題は「春日詣り」	愛児の友 金の船 二年五月号
風と雨と堇	堤のかげの朝の風／小川のふちの晩の風、	74		小学少女 二年四月
外れた羽子	円いお尻を かつちんこ／黒いお尻を かつちんこ	75		
お月様のお家	夜だけ／御出のお月さま	76		愛の友 十五年十一月 曲一「金の船」 十二月号
屋根の雀よ／富士の雪帽子	屋根の雀よ 見えるのか／今日は よい晴 日本晴	77	目次の標題は「屋根の雀よ」	愛の友 十五年十二月
ほら穴あんぐりさん	岩穴 洞穴 あばかさん／お口あんぐり あんぐりさん	78		幼年クラブ 十五年三月
銀の貝	どこで この貝 拾ったでせう／貝の内側 ときいろで	79		金の船 二年十月号
新芽のせのび	お山のほとり／田ん圃の小みち	80	目次の標題は「新芽の背伸」	少年クラブ 「亡羊」昭和二年六月
お年玉の御本	りつばな御本 よい御本／りつばな表紙 よい表紙	81	目次の標題は「お年玉の本」	金の船 十六年二月号
もぐらと小犬	地面の下をもぐもぐと／もぐりもぐつて庭の隅	82		
たんぼのおみやげ	おそくそだつた雀の子／遠出は もすこし出来ませぬ	83	目次の標題は「たんぼのお土産」	「教育」 十五年十月号
梅の早咲	となりのさくらもぐつすりこ／向の桃もぐつすりこ	84		金の船 十六年二月
二つ目玉	二つ目玉をガラガラさせて／まつくらやみの峠をこえて	85	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十五年十二月二十七日

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
長耳さん	もしもし兎(うさ)さん長耳さん／ほん とに長耳いゝことね	86		婦人の友社 子供日 記(十六年用)
兎ラジオ	兎よ 長耳 ビンと立て／なぜアンテ ナを 張らないの	87		小学四年 十六年一 月号
雲雀が上る	雲雀が上る うたごゑ高く／あんなに 早く 親鳥のぼる	88		子供日記 十六年
トロツコ	ガツタンコツコ、トロツコだ／そらき た速いぞ	89		幼年クラブ 昭和二 年三月号
親針子針	親針子針 旅ゆく親子／あるきつゞけ て	90		
児童図書館	皆が ちつと本見てる／皆が 好きな 本見てる	91		小学四年 二年三月 号
雨の軽業	あんな軽業 出来ないネ／ポツンと落 ちては 砂の中	92		教育 昭和二年二月 号
公園のブランコ	公園のブランコ／大きなブランコ	93		(写真通信) 三年五月
幸福の国	幸福の国は、どこかいな どこかいな ／人のこゑではないこゑが、ないこゑ が	94		亡羊
吹雪の日	飛んでゆく、かけてゆく、こなの雪／ 風と一緒に渦まいて一、	95		童謡 写真通信 十 二月
新那須小唄	頭禿げても那須大山は、お江戸／こひ しとこがれてる	96		
立木の煙／トンネル出 口の白煙	煙よ、／立木にからまりついて、	98	目次の標題は「立木の 煙(トンネル出口の白 煙)」	金の船
あうむのお家	丸かご 小かご／赤青きれい	99		「明日の教育」 十六 年一月号
一人のるすゐ	今日は、僕ひとり、たゞ一人、／だま つてひとりでおるすゐ番	100	目次の標題は「ひとり のるすゐ」	せうがく一年 三年 九月号
朝の雪、昼の雪、夜の 雪	朝ふる雪は サーラサラ／木の葉、木 の葉にサーラサラ	101	目次の標題は「朝雪、 昼の雪、夜の雪」	金の船 十五年十二 月号
冬の風	今日また来てるもう来てる／日は暮れ てまだすぐだのに	102	目次の標題は「気早な 夜風」	「一年の友」 十六年 二月号
峠みち	留守居がいやで ついて来た／町の帰 りの峠みち	103	掲載紙誌の切抜貼付	中外商業 十五年十 月十一日 郷土 「新定女子国語読 本」巻一
但馬所見／はまべの汽 車みち	海だ 浜辺だ 漁士村／村は そろひ の瓦屋根	104		「桐の花」 三月号
はまべの子	汽車をみて かけて出て／手を上げた	105		桐の花 十五年十一 月号 明日の教育 二年五月
ひよろ松	ひよろひよろひよろ松／せいたかのつ ぼ	106		金の船 昭和二年三 月号
十五夜は	十五夜は をへました／おだんごも たべました	107		
お掃除当番	お掃除当番 すましてもどる／峠の上 から 見かへれば	108		芸術教育 郷土

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
不出来なお舟／さゝ舟	さゝ舟小舟／流にういて	109	目次の標題は「不出来なお舟」	中外商業 十五年十一月十日
早起時計	父様の時計は／一番鶏よ	110		金の船 十五年十二月号
松江小唄	松江大はし夜中に戻りや／星が流れて灯もうつる	112		
いーやいや	そーれ いやいや、／いーや いや	114		子供の友 二年六月
黄いろいカナリヤ	黄ろい栗が大好きで／黄色い羽根した	115	目次の標題は「黄ろいカナリヤ」	二年生の友 (四月号 昭和二年)
ころがり坊	達磨ころころ ころがり坊／左へころころ ころがり坊	116		コドモアサヒ
兎の親子	雪の夜深の山奥の／岩窟の家に灯をつけて	117		小学 可愛い芸術 二年
温泉町から	母さま電車で チンゴゴ／父さまお馬で、ハイドードー	118		「可愛い芸術」 第一号
春の夜の風	うすべにのうすべにの／花びらを花びらを	119		「金の船」 十六年四月
ギツチヨンチヨン	毎あさはよから、ギツチヨンチヨン／風もない日の真昼間	120	目次の標題は「ぎつちよんちよん」	「金の船」 二年七月号
卒業の晴着	二月は寒い 風寒い／夜風もこほる 山の家	121		金の船 十六年二月
子猿の酒買	使だ 使だ えつさつさ／急ぎの使だ えつさつさ	122		金の船 十六年一月号
霜	日毎に冬の近づきて／身もひきしまる心地する	123	目次の標題は「霜(その一)」	少年唱歌第十集
冬景色／冬の山家	鎮守の森に 一本高き／古き銀杏は一葉もあらず	124	目次の標題は「冬景色」	金の船 十五年十二月号 小学読本 巻十
ころころころばせ雪達磨	ころころころばせ雪達磨／お手手の先がうづいても	126	目次の標題は「ころころころばせころばせ雪だるま」	子供の友 昭和二年二月号
平和なる村	春は花咲く丘のみち／秋はみのりのあぜのみち	127		大正少年唱歌第十集
リンカーン	父の建てたる掘立小屋は／戸なし、窓なし、床もなし、	128		大正少年唱歌第十一集
冬田の案山子	稲刈った後の／冬田の案山子	130		金の船 十五年十二月
霜	軒端にみならぶ鳩幾羽／羽根すりよせて声低く	131	目次の標題は「霜(その二)」。掲載紙誌の切抜貼付	国民 昭和二年一月十九日
燕帰り来る	燕来(きた)る、燕来る 燕来るよ、／南の国より波路をこえて	132	目次の標題は「燕来る」	大正少年第十一集
春の月	菫野花野春野の末に／月はのぼりてみたりけり	133		国民 大正少年唱歌第十一集
瀬戸内海	春は島々 霞に眠り／夏は海山 みな緑	134		大正少年唱歌第十一集
金の船	朝日きらきら きんきらら／波もきらきら きんきらら	136		金の船 十五年十二月号

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
青山師範校歌	楽しきは青山、濃くも映ゆる緑。／木 かげには、	137		
鹿の親子／松の木の着 物	竹の着物を着せられた／鹿のお家の松 の木に	138	目次の標題は「鹿の親 子と松の木の着物」	国民
親鹿子鹿	鹿だよ 角だよ／二本だよ	139		金の船 十六年二月
村の子のうた	朝な夕なよくきゝなれし福山の紡績の ／汽笛なつかしき汽笛	141	目次の標題は「村の子 のうた(和歌)」 短歌 7首	福山学生会誌 十五 年末の六十三号
鼠がとれた	鼠がとれた 来てごらん／大きな鼠だ いゝ気味だ	142		コドモノクニ
土筆の学校	つুকし、／つくしんぼ	144		コドモアサヒ(三年四 月)
月夜の案山子	田圃の案山子 昼間の案山子／日が暮 れかけると 人かと見えて	145		国民
大雪達磨	白い、真白い 大きなお顔／ががつ 頭の 凸凹頭	146		国民 二年一月九日
兎です	兎です、兎です、／因幡の兎の孫の子 の	148	掲載紙誌の切抜貼付	国民 昭和二年一月 六日
チョコレートトイズ、 ライオン	チョコレート トイズ／チョコレート トイズ	150	目次の標題は「チョコ レイト、トイズ」	スウキート

◆ 創作ノート⑧(昭和2年)

長崎市立高等女学校々 歌	桜吹く国 日出づる御国／開け栄ゆる 源泉(みなもと)なして	1	目次の標題は「長崎市 立高女、校歌」	
東京府／中野町 桃園第 二小学校々歌	心も広き武蔵野に／旭まづさすよろこ びの	2	目次の標題は「桃園第 二小学校々歌」	
理科少年団々歌	流れ巡りて川はゆく／吹きてそよぎて 風はゆく	4	目次の標題は「理化少 年団々歌」	
雀のどろぼう	雀の持ち逃げ 藁泥棒／大事な藁では ないけれど	6		「金の船」 二年五 月号
昼間の探照燈	二階の窓の日あたりで／鏡をてらして 遊んだら	8	目次の標題は「昼間の 探海燈」	国民 二年五月十六 日
田圃の道路	田圃の道路は傷だらけ／曲るところに 曲り傷	10		
犬のお鼻	犬のお鼻に さわつて見たか／犬のお 鼻を よく見たか	11		一年の友
チョコレート	ぎんぎらぎんの銀紙を／そ一つとあけ ると出て来るは	12		スウキート
市村小学校々歌	朝日夕日に笑むに似て／容姿雄々しき 蔵王山、	13		
巢立ちの日	空はあをあを日本晴／軒の雀のお家 では	14		二年の友 二年八月 号
島の船	沖から来る風、何の風／沖から来る風 島の風	16		金の船 二年六月

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
金魚のしやぼん玉	金魚のしやぼん玉／ぶつく ぶつく ぶつく ぶつく	17		「金の船」 二年六月
からかさ車	雨は やんでる／白雲 とんでる	18		
賤ヶ嶽	山の口 (崖カ?) 路狭けれど／片鎌槍 を打ちしごき	20		大正少年唱歌第十一集
軍艦三笠	大海戦の度毎に／我が艦隊の先登で	22		
下谷／根岸 愛隣幼稚園々歌	可愛い二葉 小さい葉／のちには 大きい大きい木	24	目次の標題は「愛隣幼稚園々歌(二葉のうた)」	「桐の花」十一月
海の風山の風(その一)	海から吹きます 海の風／あさ風ひる 風よるの風	25		スウキート 「金の船」八月号
夏です／海の風山の風(その二)	夏です 海です 広いです／朝でも 昼でも 日暮でも	26	目次の標題は「川(その二)」	「国の礎」
火鉢のあくび	朝からあいてる窓の中／桜の花が散り こんで	27	目次の標題は「お火鉢のあくび」	「せうがく二年」三年四月
雪達磨	どこへ行つたら／雪達磨	28		
泣いてる蜻蛉	蜻蛉が、蜻蛉が泣いてゐる／暮れた野 路のうすやみで	29	目次の標題は「泣いてるとんぼ」	「金の船」三年九月号
花園(その一)	色あでやかに 目もあやに／咲きほ りたる花園	30		大正少年唱歌第十一集
花園(その二)	野辺に山辺に咲きみちし／色さまざま の花みなが	31		
月夜の雪達磨	への字のお口が大きいな／にらんだ目 玉も大きいな	33		国民
吹雪の風呂や	吹雪はげしい町中の／お湯屋のガラス 戸、湯気こめた	34		
お山の大禿	大きなお山の大禿だ／大きな大きな 大禿だ	35		幼年クラブ 二年十一月号
鉄瓶御輿	鉄瓶おみこしだ／ピンシヤン、シヤ ン、シヤン	36		金の船 三年二月
もみぢ山	赤いべべ着た赤い山／黄いろいべべ着 たきいな山	37		金の船 二年十月号
雨祭	雨の降る日は雨祭／家のまはりで雨太 鼓	38		スウキート 三年四月
椎の実の家出	椎の実は／椎の木の	39		
お猿のお顔は	お猿のお顔は 赤いのさ／生れた時か ら 赤いのさ	40	目次の標題は「お猿のお顔」。掲載紙誌の切抜貼付	中外 二年十一月十日
夜風の話しごゑ	きいたか、夜風の話しごゑ／野川の岸 の芒の穂	41		金の船 二年十二月号
風の子	「子供は風の子」／ほんとかえ	42		国民
鳥の買物	鳥に、鳥に問うて見よ／朝から晩まで 野で山で、	43		国民
踏切	さア、お通り、／汽車さん お通り、	44		子供の友 二年十一月

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
うれしい蛙(三びき蛙)	父さん蛙が ゲロゲロ／そこで ゲロゲロ 母さん蛙、	45		国民
とんかつか	とんとんかつか とんかつか／桶のたがはめ、とんかつか	46	掲載紙誌の切抜貼付	「中外」 二年八月十五日
口鉄砲	口鉄砲で ホーイホイ／雀が来ててもだまつてる	47	掲載紙誌の切抜貼付	「国民」 二年十一月一日
汽車路の蟬	汽車だ、列車だ、急行だ。／レールに沿った	48		国民
青田の鳥	青田つゞきの／広い田圃を	49	掲載紙誌の切抜貼付	国民 二年八月十八日
山の大豆	山の島の晴つゞき／大豆が太つて、ひからびて	50		国民
燕がまた来て	燕が又来て、嬉しいね。／すいすい出たりはいつたり	51	目次の標題は「夏が又来て」	
三匹羽虫	がらあき夜汽車が田圃を走り／田圃の羽虫を一匹乗せました	52		国民
かんぴやう	かんぴやう島の／日ぐれの百姓、	53		中外
お猿の皮むき	お猿の皮むき、／らつきやうの皮むき、	54		
首ふり鼻ふり	熊が首ふる／鉄の格子の	55		せうがく三年 (三年五月)
雪達磨の睨みつこ	だまつて座つて向き合つて／笑顔もしない雪達磨	56		幼年の友 (三年二月)
運動場の日暮雨	しみじみ雨が降つてる／運動場の日暮時	57		可愛い芸術
野火と山の枯萱	燃えひろがつて近くなる／野火見下してふるへてる	58		国民 子供の友
そろばん汽車	おもちやの汽車が走ります／闕のレールは真直ぐね	59		
野路の三つ角	野路の三つ角曲り角／朝は右から左から	60		可愛い芸術(第10輯) 三年二月
かんぺう	かんぺう ごろごろ路つぱた／路に立つてる馬の背の	61		せうがく二年 三年十月
峠の鳥	峠の茶屋にみた鳥は／鳩より少し小さくて	62		処女の友 三年五月
赤土島	日でりつゞきの赤土畑に／白いペンキで青地にかいた	63		家庭の科学
ねとぼけて／(月夜の鶏と鳥)	月の光の明るさに／星の鶏寝とぼけて	64	目次の標題は「ねとぼけて」	コドモノクニ 二年十二月号
隣の子	隣りへ越して来た／家にも子供がありますよ	65		国民 家庭の科学
峠の跡	自動車道が開けたら／峠の茶屋は引越した	66	目次の標題は「峠の茶屋のあと」	国民
赤土山の赤松林	赤土山の赤松が／赤肌ならべてすくすくと	67	目次の標題は「赤土山の赤松」	金の船 二年十一月号
ひより雨／ばけた狐	雨だ 天気雨だ ひより雨だ／はれてる空から、パラパラだ	68	目次の標題は「日和雨」	国民

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
葦の笛	葦の葉巻いて／葦の笛	69		資生堂月報 三年一月号 桐の花
峠の一本杉	峠の一本杉が見え出した／あれから先は下り坂	70		金の船 二年十二月号
親子の釣竿	大人の釣つてる釣竿は／太くて長い竿でした	71		可愛い芸術 桐の花
桐の木村	桐の木うゑた 桐うゑた／畠にうゑた野にうゑた	72		
朝鮮の子供	朝鮮で生れた朝鮮の子供が／朝鮮の服きて、朝鮮の靴はいて	73		家庭の科学
赤い実	はちきれさうな赤い実だ／ぷりぷりもあるい小さな実	74		少女クラブ
三日つゞきのお休み	今日は土曜だ 半どんだ／明後日(あさつて)旗日、明日日えう	75		小学少女 二年十一月号
水番 (みづばん) 人 (水んど)	揃つた 出揃つた稲の穂だ／風はそよそよ、稲の花	76	目次の標題は「水番人」	中外
鐘(かんかん)	けいこがはじまるよとカンカンカンカン／皆教室へ 一二、一二	77	目次の標題は「学校の鐘」	資生堂月報 三年二月号 写真通信 三年三月
出たぞこうもり	出たぞ こうもり／町外れ	78	目次の標題は「こうもり捕り(町はずれ)」	中外
牧場の秋花	雨が五日も降りまして／馬の出て来ぬ牧場(ぼくぢやう)に	79		国民
野中の駅	急行列車が通るまで／僕等の汽車はとまります	80		(写真通信) 四月
啼かぬ蟬	夜汽車の窓に／とびこんだ	81		「可愛い芸術」十五輯 童話研究 四年十一月号
鳥と屋根のごま	鳥が種をまきました／まく気はなくてまきました	82	目次の標題は「鳥とごま」	スウキート
駅長さん	急行列車が出た後を／ぢつと見て立つ駅長さん	84		コードモノクニ 三年二月
私のうゑた向日葵	私のうゑた日まはりは／塀より高く伸びました	85		国民
ギーコーカツコー	ギーコー ギーコー／ギーコー ギーコー	86	目次の標題は「霧の湖」	日本童謡
川舟三艘	石炭つんだ石炭舟の／帆は白くつて一つだよ	88		スウキート 二年九月末 汲泉七十五号
ひらいしん(雷避け)	雷(かみなり)落ちろ、雷(らい)落ちろ、／家を焼く雷、こわす雷	90	目次の標題は「避雷針」	せうがく三年(三年七月号)
キューピーの噴水	公園の噴水 キューピーさん／風は横風	91		(写真通信) 三年六月
雷と八つ手の手	お庭の隅の大きな手／八つ手がみんな手をひろげ	92		スウキート 二年九月末
お稲荷さま	野中に／こんもり杉の森	93	目次の標題は「稲荷さま」	コードモアサヒ 二年十二月号

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
猫の散歩	裏の細径 草の露／散歩について来た猫が	94	目次の標題は「小猫の散歩」。掲載紙誌の切抜貼付	国民 二年十一月十一日
野の風小風／吹くな山風	出たよ、稲の穂、野に一面に、／穂は、今日あした お花の盛り、	95	目次の標題は「野の風小風」	
西瓜畠	西瓜畠の番小屋に／昼間つつてる蚊帳の中	96		国民
稲の葉を上る露	エツチラオツチラ上つてく／稲の葉、長い葉上つてく	97	目次の標題は「稲葉を上る露」	国民
板橋鉄橋	板橋(いたばし)は、鉄橋(てつきやう)を見て思ふ／鉄橋は、板橋を見て思ふ	98		早大、講義録 新天地
山門(の夕暮)	夕日うすれる山門の／椽(のき)から出たり入つたり	99	目次の標題は「山門の夕暮」	「日本童謡」二号
寺のやね	雪が上(あが)つてはれた日の／大やね小やね瓦やね	100	目次の標題は「(雪が上つて)寺のやね」	子供の友
野中の西洋館	土盛り上げて野の中に／西洋館が建ちました。	101		金の船 三年一月号
鳶の子	とんとん、とんでる鳶(とんび)の子／河原で何をさがしてる	102	目次の標題は「河原に下りた鳶」	(写真通信) 九月
親馬子馬	小さい子供がお馬をつれてく／手綱一本、お馬は二匹。	103		愛児の友 二年十一月号
金太郎さん	まるまる肥えた金太郎さんは／熊とお角力、ハツケヨイヤ	104		
[昭和二年八月二十五日午前十一時、那須御用邸にて、／澄宮殿下に拝謁して]	まづ父にこのよろこびを伝へまく筆をし／とれどことばあらず	106	短歌6首。目次には標題の記載はない	
ほうくろ大将	一つ大きなほうくろう／お鼻のわきのほうくろう	108	目次の標題は「ほうくろ大将／拝謁して」	
五月	放ち飼ひする牛の子の／何よろこびて走り来し	110		大正少年唱歌第十一集
日本大学第二中学校々歌	旭光匂ふ大八州／咲かば誉の桜花	111	目次の標題は「日大 第二中学校々歌」	
広島県 世羅中学校々歌	朝、仰げば新山の／松の緑に啓示あり	112	目次の標題は「世羅中学校々歌」	
ピクニツク	母上さへ うれしげに／父上さへ たのしげに	114		大正少年唱歌第十一集
さいころキヤラメル	さいころさいころ こうろころ／すご六しようよ こうろころ	115		スウキート 三年一月一日
親子のうゑ木や	大きな缺で 大きな木／ちやつき ちやつきと	116	目次の標題は「親子の植木屋」	「コドモノクニ」
新年まことにおめでたう／兄弟松兄弟竹	山に並んで生えてゐた／兄弟松が町に出て	118	目次の標題は「新年まことにおめでたう」	アサヒグラフ 一月十八日号
ちやつきちやき	お庭のつゝぢ、ちやつきちやき／松、ひば、檜の木 ちやつきちやき	120	掲載紙誌の切抜貼付	国民 二年十二月二十五日
王子御殿御用 子守唄	ちゆんちゆん雀も 寝てゐます／雀のお家で 寝てゐます	122	目次の標題は「皇子御殿下用子守唄」	アサヒグラフ 三年二月二十二日

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
宝の花	此の世に、珠より黄金より／すぐれて 尊とき此の宝、	124	目次の標題は「宝の花 (お子守唄)」	
昼のお守唄	お庭の揺籃 ゆうらゆら／柳のゆりか ご ゆうらゆら	125		
木枯	山路を下る瘦馬の／嘶き寒き木枯に	126		大正少年十二
寒鴉	窓越に見る山の端の／まばら瘦せ松、 風や吹く	127		大正少年十二
かへりゆく雁	柳枯れたる川堤に／立つとてもなく佇 めば	128		大正少年十二
都の寒月	瓦の屋根に 石の路に／電信線に 鉄 の扉に	131		大正少年十二
常盤木	花を誇りし木といふ木／みな落葉し て、野も山も冬かれて	132	全体を×で消してあ る。「(P.142に改 作)」と注記	大正少年十二
奈良の春と夏	大仏殿の鐘の音の／一つ一つに散りて 来る	133	目次の標題は「奈良の 春夏」	
ポコポン カツチン	かつちんかつちん 追羽根小羽根、／ くるくる元気で上つて下(お)りて	134	目次の標題は「ポコポ ン、カツチン」。「昭 和五年十二月二十六日 改作」と注記	朝日グラフ
鈴蘭	小さく円く よき形／振りなば りん りん響かずや	136		大正少年十一
秋	露しとゞ散り 羽根ぬらし／寺の山門 鳩なけば	138	目次の標題は「秋(改 作)」。「(昭和四年 六月四日改作)」と注 記	
秋の草	葉末に露の きよらにきらめきて／朝日 に映ゆる野路の糸萩の	141		大正少年十二集
常盤木	風は音も寒く、今日も吹きて／乱れ散 るか、木の葉、野に山に。	142	目次の標題は「常盤木 (改作)」	大正少年唱歌第十二 集

◆ 創作ノート⑨(昭和3年)

山色新	山はみな映えまさるなり／あらたまる 心に見れば	1		
愛知県一宮中学校々歌	雲に聳ゆる御嶽に／剛(たけ)きわれ等 の矜(ほこり)あり	2	目次の標題は「一宮中 学校歌」	
栃木県石橋中学校々歌	不断の啓示、永却(とは)のこゑ／二荒 の山に 霊ありや	4	目次の標題は「石橋中 学校歌」	
北海道名寄中学校々歌	清く流るゝ天塩川／われとわが道拓き ては	6	目次の標題は「名寄中 学校歌」	
青森市橋本小学校々歌	青森湾の朝の波／洋々として広きか な。	8	目次の標題は「橋本小 学校歌」	
三原女師、附属小学 校々歌	筆影(ひつえい)、米田(よねだ)、桜山 ／山は、早緑 濃緑の	9	目次の標題は「三原附 小、校歌」	
茨城県水海道高女校歌	岸にほゝゑむ野の花を、／流にうつす 鬼怒川の	10	全体を×で消してある	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
(道路開き)道づくり	橋を渡った山よせの／畑(はたけ)の崖をくづしてる	12	目次の標題は「路づくり」	
御用邸のおまはりさん	きれいな橋のまん中で／おまはりさんが川見てる	14		幼年クラブ(三年五月号)
遠いおくに	遠いお国の友達へ／日本からのお土産は	15	(弘田氏を送る子供唄)	
茨城県立 水海道高等女学校々歌	筑波の峯の朝ぼらけ／雲どよもして高鳴るは	16	目次の標題は「水海道高女校歌」	
東京書籍株式会社慰安会 関西旅行の歌	指折り数へて待ちかねし／今日こそ我社の慰安会	18	目次の標題は「関西旅行歌」	
秋	露しとゞ散り 羽根ぬ[れて][らし]／寺の山門、鳩なけば	26		大正少年十一
市外三河島にある 日本原毛株式会社々歌	都のほとり 荒川の／波に声あり 心あり	28	目次の標題は「原毛会社々歌」	
黒猫子猫(みすゞ会の日の黒猫によせて)	黒猫子猫／ぴんとはねたしつぽ	30	目次の標題は「黒猫小貓」	
子雀	子雀 巣を出て お庭に下りて／あつちへ とんでは チューンチューン	31		
メーハン女史歓迎の歌	ニツコリ笑顔の富士山を／幾度も御覧になつたでせう	32		
天の川	天の川／お水が一ぱい きれいだるな	34	掲載紙誌の切抜貼付	朝日こども欄 (三、八、二四)
オツカナ ビツクリ	オツカナ ビツクリ 枝の先／何かゞ葉つばを皆たべた	35		中外
一年生	大きいカバンの、一年生だ／中の御本は一冊だ	36		
赤い自動車	稲の実のつた田の中の／国道筋だよ土けむり	37		家の光
ひらへら舞	ひらへら へつたり／ひらへら舞へ	38		中外 三年九月
お金包を拾って警察署に届けた犬、エムの歌	恐い役目のをぢさんが／探し出しては見つけては	40	目次の標題は「お金を拾って届けたエムの歌」	
[士官の][兵隊]兄さん	今夜はちつとも恐くはない／こんこん狐も下りて来い	45	目次の標題は「士官の兄さん」	幼年クラブ(四年一月号)
京都府船井郡聯合青年団々歌	霞堤(かすみだひら)の桜花／「温雅」の色ぞ豊かなる	46	目次の標題は「船井郡聯合青年団歌」	
早起富士山(家事)	富士山 富士山／早起さんね	48	目次の標題は「早起富士さん」	コードモノクニ 三年十二月号
いちけん坊 かぢかん坊	小指 細指 いちけん坊／これつばかりのすり傷に	49		
きまり	いつでも前には 前の車輪／いつでも後に 後の車輪	50	目次の標題は「二つの車輪」	
何の鈴チロリン	チロ チロ チロリン 何の鈴／昨日貰つて すぐつけた	51		処女の友 十月号
渋柿甘柿	渋柿くさつて／くさつておつこちろ	52	掲載紙誌の切抜貼付	朝日新聞 十月十九日

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
星の怪我(あをい星)	高窓小窓 あいた窓／夜中にお目目の さめた時	53	目次の標題は「星の怪 我」	せうがく(二年) 小 学館 三年十一月号
崖の白百合	取りたい取りたい白百合が／皆よく咲 いて	54		コドモノクニ
高知師範学校々歌	流 不断の鏡川／筆山(ひつざん) 影 を映す時	56		
桐の家	桐の葉 広い葉 大きい葉／桐の葉か げの	58		可愛い芸術 三年九 月号
風と雨と朝の光	コトコト あけてくれよ／コトコト あけてくれよ	59		蛍の光 第一号(桐の 花)
犬をつれた隠れん坊	太郎は隠れて木戸の内／美代子は立つ てる倉の壁	60	目次の標題は「犬をつ れて隠れん坊」	幼年クラブ キン ダーブック
朝鮮 大田高等女学 校々歌	日毎伸び[ては栄え][ゆき茂り]ゆく／ 宝文山の若松は	62	目次の標題は「大田高 女校歌」	
水戸市立高等女学校々 歌	闇にもしるき梅が香の／その気高さや 床しさや	64	目次の標題は「水戸市 立高女校歌」	
那須の朝晴	旭だ 晴天だ 日曜だ／早くさめては 飛び出ては	66	目次の標題は「新ナス の日本晴」	日本童謡 四年九月 号
こぼれこごめ	親鶏 ココココ／雛子 呼ぶこゑ	67	目次の標題は「こぼれ 米」	
鞆幼稚園々歌	小さなお船は仙酔へ／大きなお船は遠 方へ	68	目次の標題は「鞆幼稚 園歌」	
鬼のにらみつこ	赤いお屋根はお酒屋さん／青いお屋根 もお酒屋さん	69	目次の標題は「赤鬼と 青鬼」	幼児の友 四年十二 月号
黍の葉サーベル	風の斥候／一とびに	70		可愛い芸術 三年十 七輯
鉄瓶主人(てつびんあ るじ)／火鉢屋ホテル	宿屋は、新築 長火鉢／離れ座敷のチ ヤブ台に	72	目次の標題は「宿屋火 鉢や」	資生堂月報 四年十 月号
蝗のかくれん坊	田圃涼しい夕風に／蝗の子供の隠れん 坊	74		日本童謡 三年九月 号
野中の新道	野のまん中の新道は／櫟林を 突きぬ けて	75		日本童謡 三年九月 号
砂丘の蟻兄弟	砂丘のかげの蟻兄弟／小松林の家を出 て	76		
お山へ行こよ野原へ行 こよ	お山へゆこよ、／お山へゆこよ	78	目次の標題は「お山へ 来いよ野原へ来いよ」	家の光 昭和七年
風の足音	日暮、裏藪、何の音、／サワサワ、サ ワサワ、	79		日本童謡 三年十月 号
にげた二羽の雀	向ひ合つてる棟と棟／雀が雀と話して る	80	目次の標題は「雀の 話」	家の光
庭掃き	雨が上つて 三日目だ／お日和つゞい て、庭掃きだ。	81		新日本小学唱歌
山の郵便	山の温泉 汽車へ九里／ずみ分遠いな 淋しいな	82	目次の標題は「山(温 泉)の郵便」	
お寺のとんぼ	ひらひら とんぼ／小さなとんぼ	83		朝日新聞
お腹のへつた三日月さ ん	三日月様は お腹がへつて／ぺこんと へこんで	84		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
女猫	飼ひ手のない猫、女猫／やさしい声の猫だのに	85		あけぼの 二号
松並木のひねくれ松	松だ 並木だ／レール沿	86	目次の標題は「ひねくれ松」	可愛い芸術 三年十一月
枝でしなびたはだんきやう	ことし一夏／海岸へ	87		
いちぢく	まだ実の青い無花果の／青い葉つばの	88		
明るい水田(みづた)	野みちは暮れても／暮れない水田	89		「可愛い芸術」(二十二輯)
鞆町婦人会の歌	松は緑に砂白く／絵に似て名もよき島々の	90		
浅野セメントスレート部門司工場の歌	雲井に笑める紫の／峯は戸上か、何示す	92	目次の標題は「浅野セメントスレート部門司工場の歌」	
地藏の石臼	地藏様／台石の、石臼を	94		幼年クラブ
見張の大百合	町の出口の三つ角は／左も右も登り道	98		向上の少女 昭和四年八月号
大傘小傘	細雨長雨七日雨／お庭の隅の木の下に	99		
田草とりのお姉さん	田草とりのうたのこゑ／向の山にひゞきます	100	目次の標題は「田植をしてお姉さん」	コドモノクニ
お月様をさがす星の子	待ってても 待ってても／出て来ないお月さま	101	目次の標題は「お月様を探す星の子」	可愛い芸術
二軒の雨だれ	おうちのお屋根の雨垂は／おうちのお庭へ ぼつたんたん	102	目次の標題は「二軒の雨だれポツタンチヨロリン」	
菜たね畠のをんどり	畠は 日ざかり／花ざかり	103		小学館
二階建	新道沿の一軒家／引越して来て今日三日、	104		可愛い芸術 「あけぼの」
コケコケコ	ひよ子が大きくなって／親のやうになつて、	106	目次の標題は「私のひよ子」	
三つ星七つ星	今夜も三つ星光つてる／少しねぢれて並んでる	107		
白井嶺南大人、音楽記者二十五年の賀	人生は五十年といふそのなかばひたぶ／るに君がかなで来し琴	108	目次の標題は「嶺南大人におくる和歌」。短歌7首	
聖上那須御登山(昭和三年八月十五日)	大君に仕へまつりて若駒の二十三／頭那須登りゆく	110	目次の標題は「那須の御登山の陛下」。短歌7首	
少年団歌(第三) —そなへよ つねに—	麗ら、朗らの大空[も][に]／黒雲湧きて荒るゝ日の	112	目次の標題は「少年団歌」	
電気とランプ	月の世界に あるだろか／星の世界にあるだろか	115	目次の標題は「電気といふものランプといふもの」	
一そうポツン	空は晴れてる青空だ／親に離れて鳶の子	116		幼児の友 日本童謡四年三月号
ペタコンジャボジャボ	朝からペタコン、ペタコンだ／長雨上つて 三日目だ	118		コドモノクニ

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
汽車の親子	機関車は 汽車の親／力が強い 足速い	119		(小学三年)四年一月号
大坊主小坊主	田圃のたんぼぼ大坊主／白髪頭の丸坊主	120	目次の標題は「ばけ坊主」	小学二年 昭和四年六月号 昭和幼年唱歌第三集
アサノウチ	コケコツコ、／ヨガアケタ	121		
千葉／県立 佐原中学校々歌	競ひて群立ち 天を衝き、／銚杉若き意気示す	122	目次の標題は「佐原中学校々歌」	
豆いり	豆いり パチンコ、ツーンツーンパチン／はちけて 飛び出す コンコロコン	124		幼年クラブ 四年二月号
暁の夜みち	広い野原にほの白う／月の沈んだ暁みち	125		
障子の孔	誰だか障子にあけた孔／小さな指であけた孔	126		面白い理化
鳴子と雀	鳴子は、鳴らうか鳴るまいか／鳴りかけて見た	127		面白い理化
チンチロ鈴虫	チンチロ鈴虫 何処行つた 大きな爪 切入れてやり	128	目次の標題は「チンチロこほろぎ」	可愛い芸術
渡り鳥	渡り鳥一夕風だ／お山を	129		日本童謡 十一月号
革のお靴	靴は編上げ 新の靴(おはつだよ)／もうゴム靴ではないんだよ	130		幼児の友 三年十一月号
稲刈(豊年万作御代万歳)	今日も 日和だ 早起だ／鎌だ 砥石だ 弁当だ	132		
お菓子の箱	リボンがついて鈴ついて／きれいなきれいなお菓子箱	134		Sweet 十一月号
大花ござ	野原の花ござ、大花ござ／たんたら模様	135	目次の標題は「青畳」	
ほんとの一軒屋	何か童話にあるやうな／お山の奥の谷間に、	136		家の光 日本童謡 昭和七年八月号
汽車ごっこ	「皆、のつたか」／「のつてるよ」	138		幼年倶楽部 昭和四年六月号
石地藏	お地藏さまは石地藏／いつ来て見てもにつこりと	140	目次の標題は「お地藏様」	コドモノクニ
メロンを送られて	まろやかに げにまろやかに美しき／メロンいだける子の頬のまろき	141	目次には標題の記載はない。短歌1首	
ニコピンうちはを送るとて	海の風それも涼しく心地よくこれも／またよしニコピンの風	141	目次には標題の記載はない。短歌3首	
麴町区々歌	朝日に緑 弥まして／千代田の宮に栄えつゝ	142	目次の標題は「麴町区区歌」	
岡山県 笠岡商業学校々歌	四時の眺 絵にまさる／瀬戸内海ぞ波静か	144	目次の標題は「笠岡商業学校々歌」	
朝鮮／全羅北道 全州公立高女校歌	雲のかげ、また 月のかげ／空とぶ鳥のかげうつし	146	目次の標題は「全州高女校歌」	
台湾 台中高女校歌	咲くや苦楝(せんだん) 紫の／色も床しきその花は	148		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
前橋市 敷島小学校歌	水も豊けく、大利根の／うまず流るゝ 強さ見よ	150	目次の標題は「前橋市 敷島小学校歌」	
東京市 赤坂小学校歌	日ごと 夜ごと 緑ますか、／神社(み や)の常盤木。	152	目次の標題は「東京、 赤坂小学校々歌」	
米子小唄(来い来い節)	米子よいとこ大山東、西にや錦海(きん かい)／中の海	154	目次の標題は「米子小 唄」	
豊橋市立商業学校	神明宮の風清く／森巖森に流れたり	165	目次の標題は「豊橋 市立 商業、校歌」	

◆ 創作ノート⑩(昭和3年～4年)

煙突の競争	大きい煙突 小煙突／煙の出しっこ 飛ばしっこ	2	目次の標題は「煙突」	
遠い夜汽車	夜汽車 ゴーゴー お山の向／上りか 下りか 線路は遠い	3		
田圃のひでり	日でりつゞきの田圃の蛙／稲と一しよ に空みては	4		国民
鼻のトンネル	お父さまの一 鼻のトンネル レール なし／上り下りの二つ孔	5		コドモアサヒ
二列三列(桐並木)	ここでは皆 二列だよ／二本づゝだよ 桐並木。	6	目次の標題は「二列三 列」	昭和少年 第四集
お正月ですから	「父さま鼓を一寸貸して」／「お正月 ですからー」 ポン ポコ ポン	8	「キンダーブックの絵 にそへて」と注記	
雪合戦	赤旗立てて赤組だ／白旗立てて白組だ	9		
鹿児島第一師範学校附 属小学校々歌	旭かがやく武岡の／名にもこもるは剛 健の	10	目次の標題は「鹿児島 第一師範附小校歌」	
福山学生会雑誌の巻頭 に	ことほぎのよろこびのうたみちみちぬ ／村の村ごと 町の町ごと	12	目次には標題の記載は ない。短歌3首	
百五銀行々歌	日毎月毎 末広に／年を重ねて弥栄に	14	目次の標題は「第百五 銀行々歌」	
千葉県立 長狭中学 校々歌	太平洋上 旭のぼり／永却にたがへず このあかとき	16	目次の標題は「長狭中 学校々歌」	
茨城県／稲敷郡 龍ヶ崎 高女校歌	朝日夕日[に][の]富士筑波／遠くほゝ ゑみ近くゑみ	18	目次の標題は「龍ヶ崎 高女、校歌」	
栃木県立 大田原高女 校歌	那須野ヶ原の朝日かげ／恵の露のかが やきに	20	目次の標題は「大田原 高女、校歌」	
つみくさ	風は あるよな ないやうな／真昼の 川の 帆かけ舟	23		
長野県赤穂青年会々歌	美はしきは赤穂一われらがふるさと／ 駒ヶ嶺は 朝日夕日に	24	目次の標題は「赤穂青 年会々歌」	
高知県立安芸中学校々 歌	妙見山(やま)の朝風に／心も清き若人 が	26	目次の標題は「安芸中 学校々歌」	
山梨県立巨摩高女校歌	たえず旅ゆく釜無の／清き流は 何つ ぐる	28	目次の標題は「巨摩高 等女学校々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
雨のふる日の幼稚園	雨がさ 雨ぐつ 雨外套／雨のふる日は雨支度	30	目次の標題は「雨の降る日の幼稚園」。「キンダーブックの絵にそへて」と注記	
裏の木戸	乳屋の後からお米屋さん／お米やの後からお豆腐屋	31		資生堂月報 四年七月号
岡山県立高梁中学校々歌	日夜 不断の旅をゆく／高梁川の清流に	32		
静岡県立 周智郡／森町 周智農林学校々歌	旭かがやく富士の峯／夕雲映ゆる秋葉山	34	目次の標題は「静岡県立周智農林学校々歌」	
和楽の天地	高く 遠く きらめくや／低く 近く ささやくや	36		
京浜学園々歌	神山富士の不易の容姿(すがた)、／千古不滅の尊とき啓示(さとし)。	38		
山梨県北都留郡七保村、／山岳部の歌	朝に映えて 夕に煙り／七つの部落(むら)を護るとばかり	40	目次の標題は「山梨県、七保村山岳部の歌」	
雪のペンキ屋	雪のペンキや 屋根をぬる／門のやね	42		昭和少年 第七集
曳き舟	川上へ 曳き舟だ／石炭 一ぱい 積み込んだ	43	目次の標題は「引き舟」	コドモノクニ 四年十二月
蝗の馬乗り	蝗の馬乗り、ハイドウドウ／馬の背中の稲束で	44	目次の標題は「蝗の馬のり」	教育 日本童謡(第八号)
芒ととんぼ／夕やけとんぼ	けさ出たばかりの芒の穂、／河岸になゝめの芒の穂	45	目次の標題は「芒ととんぼ」	資生堂(五年十月号)
夜明の一つ星	引つ込め／夜明の一つ星、	46		
[題未詳]	東の山は 表門／西のお山は 裏御門	47	目次には「無題 東のお山は」と書かれている	
鯉のお花見	お池のまはりの花ざかり／さいてる、ゆれてる、	48	目次の標題は「鯉の花見」	
星の王子様お姫様	一番星見つけた 一番星は山の上／二番星見つけた 二番星は森の上	49	目次の標題は「一番星 二番星」	昭和少年 第七集
お池のほとり／白い桃 赤い桃	白い桃咲いた／赤い桃咲いた	50	目次の標題は「白い桃 赤い桃」	昭和少年 第九集
意地悪お窓	意地悪お窓 曇り窓／何も見せない ガラス窓	51		
お寺の大屋根	町のまん中 大きなお屋根／高くて立派な 大きなお屋根	52		小学館
夜の運動場	広いな 夜の運動場／あんまり広くて 淋しいな	53		
夜の町とお月さま	静かだな／夜の町	54	目次の標題は「夜の町とお月様」	
お池の手品師	お池は手品師 逆立手品師／お家の逆立	55		小学館
ひとりつ子	ちよろちよろ 小流れ 花あやめ／流を見てみる一人つ子	56		昭和少年 第七集
我等の前途	山に広野に霞をこめて／やがて迎へむ 吾等の春よ	57		大正少年唱歌第十二集

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
広島県／沼隈郡 瀬戸村 青年団歌	雲に聳ゆる熊ヶ峯／容姿 気高く 微笑みて	58	目次の標題は「瀬戸村青年団々歌」	
帰りゆく雁	何か 事の 有りげに／なきて	60		大正少年唱歌第十二集
スキー	真白に埋めて 夜の中の雪／峯にも谷にも降り積りぬ	61		大正少年唱歌第十二集
春近し	土橋の下の水増して／岸の小草も萌えそめぬ	62		大正少年唱歌第十二集
障碍物競争	みんなが身軽に、一とびに、／縄をばピョンピョン、ほら、ピョンピョン	63		フレーベル館
炉辺(へん)のまとも	日ねもす吹きし風止みて／雪に暮れたる山の家	64		
尺取り虫(緊縮のうた)	グリーンと、グリーンと、／グリーンと、グリーンと。	65		(JOAKノタメ)
茨城県立工業高校々歌	吉田ヶ丘の朝風に／奇しき 科学の扉を拓く	66	目次の標題は「茨城県立工業学校々歌」	
石川県 七尾高女校歌	袖ヶ江湾の彩霞／帆かげ のどけき春のあさ	68	目次の標題は「石川県立七尾高女、校歌」	
後庭の笑声(追羽子)	振袖重き追羽子を／そらして落して逃げてゆく	70		
ガラス窓	意地悪小窓 ガラス窓／近よるたんびに、寄る度に	71		
春は近し	今朝咲き初めし紅梅の／花の蕾を かくすかと	72	目次の標題は「春近づきぬ」	
彩霞	鶏の声 稚児の声／折々 牛の声もして	73		
動物園の春	しきりに散れる花片を／幾つもおのが背にのせて	74		
藤	砂の白きに 紫の／花のこぼれし美しさ美しさ	76		文部省 高小一年
春のゆく	野山の花の紅は／風に吹かれて、夕映の	77		
桐の花	母家と倉との中庭に／莖をしきて 妹と	78		
緋牡丹の花	咲きほこりたる緋牡丹を／風に吹かせじ散らさじと	79	目次の標題は「少女と牡丹」	
雛の宵	ぼんぼりに灯を入れるゝとて／電燈ことさら消すもよし	80		文部省 高小一年
風薫る(山家の初夏)	鳥の音しげき山あひの／青葉若葉に日の光り	81	目次の標題は「風薫る」	文部省 高小一年用
朝逍遥(夏暁)	靄はれてゆく蓮池に／風そよふけば円き葉[に][の]	82	目次の標題は「朝逍遥」	
五月雨晴(つゆはれ)	屋根に 雀の 幾日振(いくにちぶり)に／旭を待ちて 高らになけば	83		文部省 高小一年用
村の山	雪の降る日は 白い山／雨の降る日は霞む山	84		日本童謡 五年新年号 昭和少年第七集

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
海は広いな	広いな／広いな	85		家の光 昭和少年第七集
ビスケット(ワン、ワンワン)	ワン、ワン ワン／「それ一つ ビスケット」	86	目次の標題は「ビスケット」	幼年クラブ 四年十二月
静岡県立／掛川高女、校歌	桔梗ヶ丘の朝風に 御国の誇、我が誇、	88	目次の標題は「静岡県、掛川高女、校歌」。「(P.152ニ改作)」と注記	
新那那(須)雑詠	大君を迎へまつりて夏ながらほがら／になくや那須の鶯	90	目次の標題は「新那須雑詠」 短歌7首	
和歌山県立伊都中学校々歌	澄むや紀の川、不断の流／藍なす淵に啓示ぞ深き	92	目次の標題は「和歌山県、伊都中学、校歌」	
私立 中野中学校々歌	武蔵野台の旭かげ／匂ふ桜のほこらしさ。	94	目次の標題は「中野中学校々歌」	
夏の月	日ねもす汗に働きて／帰り来るや せど川に	96		新日本小学 第十集
藻の花	城の姫ぎみ、うすぎぬに／あかつきはやき沼沿に	98		文部省 高小
夕立そゝぐ	雷(らい)一しきり／風一わたり	99		文部省 高小二年用
夏木立	町はづれなる丘の上／屋根の瓦の紅き家(いへ)	100		
赤衣裳	金魚の赤帯赤い袖／金魚に誰がやりました	101		面白い理化
土とれ燕	土とれ土とれ、親燕／もつともつととれとれ、こわがらず	102		
蛙のプール	蛙がアがア／雨ざアざア	103	目次の標題は「蛙の競泳」	国民 昭和少年 第四集
光る露	お庭の青い草の葉で／きらきら光る露の玉	104	掲載紙誌の切抜貼付。目次の標題は「ツユノタマ」	(せうがく一年生) 昭和九年六月
とつてはいけない百合の花	お庭の芝生の百合の花／ただ一本さいた花	105		
ポチが吠えたよ	貰つたばかりの／ポチが吠えたよ	106		コドモノアサヒ 五年一月号
那須野の芒	「今日は」 「今日は」／誰におぢぎをする芒	107		
親鳥ないた	けさまた鳴いたよ、／コケコツコー、	108		
海の風、空の風	沖には風がふいてゐる／白帆の船が幾艘も	109	目次の標題は「(風が吹いてゐる)南の風、空の風」	昭和少年 第五集
「あたたんあたたん」	「あたたん」 「あたたん」／坊やのことば	110		資生堂 五年八月号
線香花火の手品	線香花火の手品師は／火で花を出し、芒出し	111		面白い理化
かひこ休みは今日まで	かひこ休みは、今日までぞ／明日は学校だ、うれしいな	112	目次の標題は「蚕休み」	国民 昭和少年 第七集

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
親燕	子供いく羽でねてみると／親鳥二羽は風の中	113	目次の標題は「燕の巣」	国民
海の底	海の底／波の下	114		面白い理化
ひかうきの唸	ひかうき ひかうき 唸ってる／どこ、どこ、あんなに唸ってる	115		子供の友 五年二月号
祭のお米(おまつり米(まい))	ガツタリ ゴツトリ 坂みちだ／お米の俵をつんでゐる	116	目次の標題は「米の一つぶ汗の一つぶ」	希望社
赤いガラス	赤いガラスでのぞいたら／お山は火事だ 山火事だ	118	目次の標題は「ガラスののぞき目」	面白い理化 五年二月
まくわ瓜	投げ込んだつて ポツクリコ／すぐ浮いて出て、ポツクリコ	119		国民 昭和少年 第四号
雨ふれ雨ふれ	私の雨傘、絵からかさ／きれいな柄長の小傘	120		幼年の国 五年二月号
電気燈のあいさつ	電気燈(でんき)が夜来て／何といふ	121		
森にある木	森にある木は何の木／たくさんあるのは	122		子供の友 八年十月号
煙突のはなし	煙突と／煙突と	123		小学館 三年生 昭和五年二月号
よこつちよ	風 よこつちよ／雨、よこつちよ	124		コロムビアレコード 日本童謡 五年七月
金魚買ひ	誰かゞ買ふまで待つてましよ／金魚屋の前まで	125		
日本のお星様	子供と子供が競争で／とばしたとばしたシャボン玉	126	目次の標題は「日本のお星様(金の星、銀の星)」	
引つ込め竹の子	踏まれて怪我するよ／地ん中へ	127		
睡蓮と蛙(池の子蛙)	蛙が遊んでる／男の子供、女の子	128	目次の標題は「けうだいい蛙」	昭和少年 第五集
早おき	コケコのをんどり／朝何時	129	目次の標題は「早起き」	国民 キンダーブック 昭和九年四月号
子兎踊	えいところ、うんところ、よいつところさ。／まんまるまーい満月を	130		大阪三越 四年十月 昭和幼年 五集 コドモキング 八年五月
早く大人になりたいな	大空を ゆつたりと／どこへでも行ける飛行船	131	目次の標題は「早くのりたい飛行機に」	幼年の科学 幼六
雛子の食べつくら	四方からとんできて／八方から突つつく	132		コドモノクニ
鶏舎の番雛子の番	鶏舎(とや)の戸口をのぞいたら／雛子は一羽もあなかつた	133		コドモアサヒ 五年七月号
涙の山	ろうそく、熱かろ 苦しかろ／頭の先につけられた	134		面白い理化
たばこずき	煙草のお好きな／父さまの煙草は	135	目次の標題は「たばこ」	
山寺のお燈明	夜はまつくら／黒いお山だ、	136		
ゴトゴトさんザワザワさん	「誰だ」、／「ゴトゴト」	137		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
新那須小唄	新那須は夏もホホケキョ 鶯ないて／セルの着物に 日暮は羽織	138		
朝の鐘(ゴーン) 晩の鐘(ゴーン)	ゴーン ゴーンで 夜があけた／朝の鐘	140	目次の標題は「朝の鐘 晩の鐘」	学校へ上ルマデ
水かれ水車	水は、かれがれ野の水車／廻らずなつて	141		国民
三日月	さわれば／きれろぞ	142		
桑の葉を摘まうよ	桑の葉をつまうよ／近い川瀬の音きながら、	143	目次の標題は「桑摘」	国民 新日本小学唱歌集
鈴蘭の鈴(チリリン)の音	誰が振る鈴、／ならず鈴	144		
桑の実	葉なし 枝なし／島の桑の幹に	145		
学校の屋根替	おやすみのまに／屋根替出来て	146		子供の友 五年十月
土橋の花と蛙	蛙、上見ろ／土橋の草に	147	目次の標題は「土橋の花と蛙」	幼年クラブ 五年五月号
鼻黒小僧、鼻白小僧	炭屋の小僧さんお鼻黒／大きな俵は墨俵ガツサリガツサガツサガツサリユ	148		少女倶楽部 四年十二月号
蟻の引越	えつさ、えつささ／引こしだ	149		
一びき蛍	谷の夜みちの一びき蛍／まひ子になつたか	150		
豚の大ぐひ	豚の大ぐひ大きなお腹、／ウキー ウキー	151		幼年の科学 八年七月号
静岡県掛川高女校歌	桔梗ヶ丘の空高く／輝やき昇る旭の御旗	152	目次の標題は「静岡県掛川高女校歌(改作)」。「(P. 88)原案」と注記	

◆ 創作ノート⑪(昭和4年～5年)

よい子の花、わるい子の花	よい子の花は／夜の間の露が	1	目次の標題は「よい子の花」	
母さまとお月様	母さま 私も見たいのよ／ゆふべ 私も お月様に	2		
御茶碗御箸	御飯です 御飯です／皆そろつて 御飯です	3	目次の標題は「御茶碗 御箸」	「学校へ上ルマデ」
もうもの子牛	「もう乳やめよか、のむまいか」／もうもの子牛の思ふこと	4	目次の標題は「もうものお牛」	コドモアサヒ
子蟹	宿の洗面所に／誰がおいたか 小茶碗一つ	5		
雨のパツチン沓	雨 雨 はよ止め／雨早く 止んでくれ	6	目次の標題は「雨のパツチン沓」	
御ひるはん時	お倉の横の柿の木の 蟬はなくなりました	8	目次の標題は「おひるはん時」	
とんぼの群	とんぼ とんぼ、とんぼ、／皆おんなじの	9		
富士山の志み	風よ、吹いてつて富士山の／お顔のしみを吹いておあげ	10	目次の標題は「富士山のしみ」	中外 昭和六年十一月十五日

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
今日から一年生	今日からほんとに学校だ／かばんをかけて沓はいて	11		日本童謡 昭和五年三月
めいぢのミルクキャラメル	ポチ ポチ、ワンワン／ 知ら[んだろ][ないね]	12	目次の標題は「めいぢ・ミルクキャラメル」	
鹿児島 女師／第二高女 校歌	朝風清き城(しろ)山の／楠の老木の深緑	18	目次の標題は「鹿児島女師／第二高女 校歌 No.54」	
鹿児島女師附小校歌	輝き昇る旭に匂ふ／桜の花のうるはしさ、	20	目次の標題は「同附小、校歌 No.55」。「(P. 34に改作)」と注記	
帝国製麻株式会社／鹿沼製品工場の工場歌	朝揚げば男体の／秀峰、永劫に語らねど	22	目次の標題は「帝国製麻、鹿沼工場々々歌 No.56」	
和歌山県立／紀北農業学校々歌	朝に渡る紀の清流 滔々、不断の楽しき旅路	24	目次の標題は「和歌山県紀北農林、校歌 No. 57」	
満洲／安東中学校々歌	晨に仰ぐや鎮江山／空をどよもし雄叫ぶや	26	目次の標題は「満洲安東中学校々歌 No.58」	
福井県／鯖江 女師／高女 校歌	朝に仰ぐ日野山(さん)の／高きを[永劫の][おのが]希望にて	28	目次の標題は「福井県鯖江 女師／高女 校歌 No.59」	
京都府聯合処女会々歌	野山をこむる八重霞／色香めでたき花衣	30	目次の標題は「京都府聯合処女会々歌 No. 60」	
広島県沼隈郡／赤坂小学校々歌	朝 霞の城山(ジヤウヤマ)に／姫松小松栄えつゝ	32	目次の標題は「広島県沼隈郡赤坂小学校々歌 No.61」	
鹿児島女師／附属小学校々歌	旭かがやく桜島／桜の花の気高さは	34	目次の標題は「改作」。「(P. 20の改作)」と注記	
三重県／私立励精中学校々歌	旭に匂ふ山桜／花に不易の啓示あり	36	目次の標題は「三重県励精中学校々歌 No. 62」	
上海、日本高女校歌	長江千里、豊けき水の／朝、夕の啓示ぞ深き―	38	目次の標題は「上海、日本高等女学校々歌 No.63」	
ブーメラン(濠州の飛道具)	ブーメランが とんでゆく、とんでゆく／大きな毛虫が とぶやうに	40	目次の標題は「ブーメラン」	
クツクー	日暮 遠山 黒い山、／何だかないてる谷の奥	42		面白い理化
兄弟船	あれ 小さなお舟が つゞいてる／あれ よく似た帆かけ舟	44		
春の野のかけつくら	フラフラフラと／とんでゆく。	45		
春の野のかけつくら	フラフラと、／フラフラと、	45	「(7.8.3改作)」と注記。前項「春の野のかけつくら」と同じページの欄外(上部)に記載	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
山形県立／酒田中学校／鳥海寮々歌	朝日夕日に雄々しく聳え／鳥海、永劫に何をかさとす	46	目次の標題は「山形県酒田中学、鳥海寮々歌 No.64」	
詩人たるべくー	君よ、我よ、世の大人よ一幼児と共にあるの／心を有たんかな	48	目次の標題は「短章」。「(キングの為に)」と注記	
ガラスの金魚鉢	水一ぱいのガラス鉢の中を、金魚が／泳ぐ。	48	目次の標題は「短章」	キング 昭和五年八月号
青森県／上北郡 七戸小学校々歌	朝日に映ゆる八甲田／八幡嶽を仰ぐるよ	50	目次の標題は「青森県七戸小学校々歌 No.65」	
広島県忠海中学校々歌	朝、気高き黒瀧(くろだき)の／峯に不易の叫びあり。	52	目次の標題は「広島県立忠海中学校々歌 No.66」	
山の風	夕立 ざアざアいまやんだ／お屋根の上の電線に	54		
赤とんぼ	二階のお窓にきてごらん 電信線に、一文字に／並んでとまった赤とんぼ	55		新日本小学唱歌 一年生用、九月発行
犬猿雉子	日本一の桃太郎さん／私もお伴を致しましよ	56		
かけっこ	かけっこ、かけっこ、一、二、三、／皆が、さつと、かけ出した。	58		
子兎踊	ピヨンピヨンピヨコリン／ピヨンピヨンピヨコリン	59	目次の標題は「子兎踊 (ピヨンピヨコリン)」	「キング」の写真に合せて(昭和五年九月号)
お芋堀	畑一面のあをい海／葉つばの葉波 ささら波	62		少女倶楽部 昭和五年十月号
愛媛県立今治中学校々歌	朝夕 仰ぎて 胸内に／高まる理想は石鎚の	64	目次の標題は「今治中学校々歌 No.67」	
神奈川県立(吉田島)農林学校々歌	朝日かがよふ足柄平野／草木に風のさゝやく声は	66	目次の標題は「神奈川県立農林学校々歌 No.68」	
岐阜県中津高女校歌	恵那山 空にそびゆるは／希望(のぞみ)の高峯(たかね)の永劫(とは)の象徴(しるし)	68	目次の標題は「中津高女校歌 No.69」	
東京府下、羽田第三小学校々歌	扇ヶ浦の朝風に／「進取」の幸をばしめしつゝ	70	目次の標題は「羽田小学校々歌 No.70」	
福岡県立、糸島中学校々歌	今津の浜に 今も尚残る／城塞みる時は、若き血のをどる	72	目次の標題は「糸島中学校々歌 No.71」	
ロバ ガ ニゲル	ロバ ガ ニゲル／ロバ ガ ニゲル	74		昭和幼年第二集 小学館
ニンジンタベルウサギサン	ウサチヤンウサチヤン 白ウサチヤン／サツキカラ 何ヲタベルノ	75		昭和幼年 第一集 少女クラブ
イヌ ト ネコ	真白イ小犬ガ ワン ワン／黒イ 小犬モ ワン ワン	76		教育(音楽協会)
オフネ	コイデ ミタイナ コギタイナ／コゲバ オフネハ ギツチラコ	77		(教育音楽)
いろはかるた	雨のふる日は なにしてあそぼ／友だち集めて かるたであそぼ	78		(教育音楽)

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
ケーブルカー	ケーブルカーが 山に登るよ／グングンお山に登ってゆくよ	79		(昭和幼年) 幼年の科学
オイモ	キナカ デ ホツタ オイモデス／大キイ オイモ デ ゴザイマス	80		
ヨロヒヲキタイ	ヨロヒヲキタイ キテミタイ／ムカシノ ツヨイ 大将ガ	81	目次の標題は「ヨロヒ」	(昭和幼年 第二集)
ワクノボリ	一ダン ニダン ワクノボリ／三ダン四ダン ワクノボリ	82	最初の一連を×で消してあり、「→(昭和幼年／第二集)」と注記	(昭和幼年 第二集) 中外
ワクノボリ	オテテ、シツカリ、ワクノボリ／アンヨ、シツカリ、ワクノボリ	82	「(6.4.14改作)」と注記。前項「ワクノボリ」と同じページの欄外(上部)に記載	
おみやとおてら	お宮に何がありますか／石のだんだん大鳥居	83	目次の標題は「お宮とお寺」	(昭和少年 第一集) 少女世界
牛と馬	ウノジノツクモノ 牛ト馬／牛ハ ノソノソ ノツソノソ	84		(昭和少年 第二集) 面白い理化 中外
ワタシノハコニハ	ワタシノハコニハ 山ト川／タカイトコロガ 山デスヨ	85	目次の標題は「ワタシノハコニハ」	面白い理科 昭和少年 第一集
アヒルノカズヲ数ヘマセウ	アヒルガ幾羽モ ウイテキル／コチラニキルノト 向フノト	86	目次の標題は「アヒルノカズ」	昭和幼年 第二集
夕立ヤンデ	夕立ヤンデ スズシイナ／青空ミエテスズシイナ	87		昭和少年 第二集
オウチニアカリガツキマシタ	オウチ ニ アカリガ ツキマシタ／ノミチ ハ マダマダ アカルイニ、	88		昭和少年 第二集
カキノタネトニギリメシ	サル[ガ][ノ] モツテル カキノタネ／カニガ ホシイ ト イヒマシタ	89		昭和少年 第一集
天津日本居留民国立天津小学校々歌	旭に映ゆる桜花／御国の矜とかざしつゝ	90	目次の標題は「天津小学校々歌 No.72」	
タンボノアメ、山ノアメ	タンボニ アメガ フツテキル／タンボニ ミノカサ カシテヤレ	91	目次の標題は「タンボノ雨・山ノ雨」	昭和少年 第三集
泣く白兔	私が悪うございます／わにざめ だまして とんで来た	92		教育音楽
岐阜県中津小学校々歌	朝日に夕日にそびえつゝ／御空にほゝゑむ恵那の峯	93	目次の標題は「中津小学校々歌 No.73」	
ユキドケ	スズガナル スズガナル／ユキノトケル日、スズガナル	94	目次の標題は「雪ドケ」	コドモアサヒ 七年三月号
地下鉄道	ドコマデ イツテモ、ハシツテモ、／電車ハ 電燈 ツケタママ	95	欄外上部に「燈」とある	昭和幼
カバチヤン	カバチヤンカバチヤン 出テオイデ／水ノ中カラ 出テオイデ	96		昭和幼年 第三集
キリン	キリン ノ クビハ ナガイナガイ／ナガイ クビヲ ナゼナゼノバス	97		コドモキング 八年六月号
マリガツキタイ	ワタシハマリガ ツキタイナ／大キイゴムマリ、白イ毬	98		昭和幼年 第二集
ピヨントハネタ虫	ドコカラオヘヤニトンデキタ虫ヲ、／ピヨントハネタ、ピヨントハネタ	99	目次の標題は「虫ガピヨントハネタ」	昭和幼年 第一集
スベリ台	スルスル スベル スベリ台／ハシゴ上リモ順番ニ	100		子供の友 昭和幼年 第三集

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
ラヂオ体操	どなたもお早うございます／ラヂオ体操いたませう	101	目次の標題は「ラヂオ体操」	昭和少年 第一集
ペリカンノジマン	大キナ嘴 自慢デゴザル／重サウニミエテモ 軽タト	102	目次の標題は「ペリカン」	昭和少年 第二集
ペンギン	ヨタヨタ、アンヨハ短カイナ／ペンギン、アンヨハ短カイナ	103		昭和幼年 第一集
ハチガサスヨ	ハチガサスヨ サスヨ サスヨ／オシリニケンヲ カクシテル	104	「昭和六年十月改作」と注記	
サルハヒツカク	サルハヒツカク、キヤツキヤツキヤツ／メダマ、クルクル	105		昭和幼年、一
園長先生	園長先生 ニーコニコ／唱歌も遊戯もおはなしも	106		昭和幼年、一
遠足	あゝ、嬉しいな嬉しいな／さァ 遠足に出かけませう	107	「昭和六年の方へ改作」と注記	
おごうに	早くおごうにたべたいな／おいしいおごうにたべたいな	108		
白熊さん	白い熊さん／白熊さん	109		
やねの上の雀	やねの上の雀／チュンチュンなけよ	110	目次の標題は「屋根の上の雀」	昭和少年、一
めえめえ親山羊子供山羊	めえめえ親山羊、子供山羊／ならんで立つて めれてゐる	111	掲載紙誌の切抜貼付	昭和少年、二 中外六年十一月一日
発動機船	コト コト コト コト／朝日ののぼる [朝日][日の出]の海へ	112		
灰神楽	すこしけむたい ゐろりばた／とろり火 櫓火 やけた栗	113		
島の鳩	小さい島に 木が一ぱい／森のまん中、屋根一つ	114		
日暮山霧	日暮 山霧 白い霧／谷一ぱいにわいてます	115		昭和少、二
アンテナ線がゆれてます	アンテナ線が ゆれてます／子供時間の独唱の	116		昭和少、三
ドロンコどろ路	ドロンコどろ路 雨上り／半分できた新道を	117		
馬の背のキューピー／馬方／(土手の馬方)	穂先の折れた枯芒／すれずれ出てる五日月	118	目次の標題は「馬方の土産」	国民 小学館
藪の垣根の烏瓜	裏の竹藪、藪垣の／枇杷のならない枇杷の木	119	目次の標題は「烏瓜」。掲載紙誌の切抜貼付	国民
似たもの	何かが何かに似てますか／お手々を開けば似てゐます	120		セウガク一年生 昭和八年十二月号 小学館
三日月さん (鎌)	山に一面芒の穂／野にも一面芒の穂	121		小学館
愛知県安城高女校歌	朝風清く笑む野の花に／高く床しく、きらめく星に	122	目次の標題は「愛知県安城高女校歌 No.74」	
物売り	今日ももう来た豆腐屋さん／豆腐屋さんのおきまりは	123		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
三重県立河芸高女校歌	真砂は清き 鼓ヶ浦に 日毎夜毎を 歌ふは誰そ、	124	目次の標題は「三重県 河芸高女校歌 No.75」	
夢のコスモス	広い 明るい庭でした／庭一面にコス モスが、	126	「大西雅夫君夫人と愛 児雅明君の追悼に 「子巢母巢」によせ て」	
ワンニヤアヒンモウ、 コケコケコ 大樽のお はなし	樽がころころ ころんでく／樽は大樽 空の樽	129	目次の標題は「ワンニ ヤアヒンモウ、コケコ ケコ」	少年クラブ 小学館
坊やのこぼ	坊やの言葉は ばア、ばア、／おばあ 様見ると ばア ばア、	132	目次の標題は「坊やの 言葉」	
山島の草とり	山の島で 一人で 草とり／とつても とつても つきない	133	目次の標題は「山島の 草取」	
茨城県立真壁農学校々 歌	日に夜にそゝぎ 旅をゆく／桜川水清 くして、	134	目次の標題は「茨城県 立真壁農学校々歌 No. 76」	
神奈川県奈珂中学校々 歌	広畑ヶ丘空はれて／相模大野の末遠く	135	目次の標題は「神奈川 県奈珂中学校々歌 No. 77」	
雪よ降れ降れ(1)	雪よ降れ降れ 降れ降れ雪よ／降つて 来い来い 空一ぱいに	136		新日本小学唱歌 第 四輯
雪よ降れ降れ(2)	雪よ降れ降れ、降れ降れ雪よ／チラチ ラ ヒラヒラ 空一ぱいに。	137		
私立中野中学校々歌	武蔵野台の旭かげ／匂ふ桜のほこらし さ	138	目次の標題は「中野中 学校」	
ポコポンカツチン	かつちんかつちん 追羽子小羽子／ク ルクル上つて クルクル下りて	140	掲載紙誌の切抜貼付	国民
お正月うれしいね	お正月 うれしいね／母さまも ニコ ニコと	142	掲載紙誌の切抜貼付	幼、少、五

◆ 創作ノート⑫(昭和6年)

お芋ころころ	お芋ころころ／大きい親芋	1		昭和幼年 第三集
ポッポの歌	ポッポのポッ、ポッ、／ぼっぼっぼの ぼっぼっぼ	2	目次の標題は「ポッポ のうた」	
つな引	赤帽かぶつて、赤組だ。／此方の先生 赤帽で	4		国語読本 卷二 一、ウンドウクワイ
お客あそび	お客あそびのお友達／外から来たのは お千代[さん][です]	5		国語読本 二 オキ ヤクアソビ
キクノハナ	お庭に いろいろ咲いた菊／みんなき れいでよい匂ひ	6	掲載紙誌の切抜貼付	国語読本 三 キク ノハナ 中外 六、 九、二七
犬ノヨクバリ	オサカナ クハヘタ ヨクバリ犬ガ／ トホリカカツタ ハシノ上カラ	7		国語読本 六 犬ノ ヨクバリ
月ノ出	岡にならんだ松の木の／間が明るくな つてきて	8		国語読本 八月
栗拾ひ	落栗拾ひに行かないか／昨夜(ゆふべ) の風で 栗山の	9		国語読本 卷二、 九、クリヒロヒ

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
鼠のちゑ	「このごろ 仲間を 次々に／猫が、 とつて 困るから	10		国語読本 十二
モチノマト	ムカシ ノ ヒト ノ ハナシデス／ ユミヲイルノガ大スキデ	11		国語読本 十四
イヌトネコ(改作)	白犬一匹 ワーン ワン／黒犬一匹 ワーン ワン	12	目次の標題は「イヌト ネコ(その一)」	
イヌトネコ	白い小犬が ほえてゐる／黒い小犬も ほえてゐる	13	目次の標題は「イヌト ネコ(その二)」	
動物園	いつ来て見ても 人だかり／あけつば なしの象の家	14	掲載紙誌の切抜貼付、 標題は「動物園風景／ いつ来て見ても」	新日本小学唱歌
(番外) 岸辺福雄先生 帰朝歓迎子供会の歌	霞の中に富士山が／今日 見え出し て、うれしいなうれしいな	17	目次の標題は「岸辺先 生歓迎のうた」	
健康／教育 眠りのう た	西のお山に お日様は／静かに かく れて夜が来て	18	目次の標題は「眠りの うた」	
野山に出でし／日と風 のうた	あまねく かゞやけ／日こそ かゞや け	20	目次の標題は「野山に 出でよ」	
那智俊宣訃	うぐひすも音をひめてなくか／天の小 琴つなくすべなくきれにし	21	目次には標題の記載は ない。短歌1首	
星の子供よ	今日は三日の三日月／三日月船には誰 が乗る	22	目次の標題は「三日月 舟星の子供よ」	
引舟[と][の]煙	一そう 二そう 三四そう／五そう六 そう 七八そう	23	目次の標題は「引舟の 煙」	少女クラブ
渋柿甘柿	渋い柿たべた／誰がたべた	24		国民
煙の環	パツ パツ、ポツ、ポツ、煙の環、／ 発動機船の煙突が	25		昭和少年 第四集
健康／教育 健康のう た	山の高きに登るにも／海を遥かに渡る にも	26		「こども衛生」
健康／教育 りんごの やうに	りんごのやうに／まるまるこえて	27	掲載紙誌の切抜貼付	中外 「こども衛 生」
岡山県立玉島高女校歌	朝に夕に仰ぎては／白華の山に 見は るかす	28	目次の標題は「玉島高 女校歌 No.78」	
東京高等師範学校桐花 寮の歌	野山の霞 後にして／都大路の花吹雪	30	目次の標題は「桐花寮 のうた No.79」	
Pen Pin Pan	Radio, Radio J-O-A-K. /Radio, Radio J-O-B-K.	32		
野原は広い	野原は広い、どこまで広い／あれあれ 広い。どこまでも。	33		昭和幼年 第二集
谷の煙	谷から あれあれ煙が上る／谷の畠へ けさ早く	34		
東京市立／第六実業学 校	日夜[こゑなく][休まず][息むなく][わ かたず]ひたすらに／ながれ来にける隅 田川	34	目次の標題は「市立第 六実業校歌 No.80」	
栗拾ひ	落ちてる落ちてる それふむな／きれ いな栗だ よい栗だ	36	目次の標題は「栗ひろ ひ」	家の光
工場小唄(木曾節適用)	今日もナ ナカノリサン／今日も元気 で、 ナンヂヤラホイ	38	目次の標題は「工場小 唄(木曾節)」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
工場小唄(その二)(上州小唄に合せて)	朝は早よから工場に通ひ／仕事だいに働いて	44	目次の標題は「工場小唄(上州小唄)」	
朝鮮の子供も	素足に藁靴ひっかけて歩く／女の人だよ	48		
工場小唄(伊那節に合せて)	ア、今日も急いで行かうよ 工場／私、待つてる待つてる、あの機械	50	目次の標題は「工場小唄(伊那節)」	
「落葉」の和歌	朝毎の霜にやかかれて焦されてうめきわなゝ／く桑の残り葉	54	目次の標題は「和歌十首」。短歌10首	
千葉県市原中学校々歌	世界に矜る富士の峯の／よき名負ひたる丘の上に	57	目次の標題は「市原市中学校歌 No.81」	
香川県立高松商業校歌	緑に映ゆる紫雲山／松に不易の色も濃く	58	目次の標題は「高松商業校歌 No.82」	
新潟市立高女校歌	日夜の旅路遙けくも／まことの道の一すぢに	60	目次の標題は「新潟高女校歌 (第八十三)」	
朝鮮 大邱高等女学校々歌	文の林に分け入るや／不断の歩みつゞけまし	62	目次の標題は「大邱高女校歌 (第八十四)」	
奈良県立高田高女校歌	朝日に輝き 夕日に映えて／[はれ][すみ]渡りたる大空高き	64	目次の標題は「奈良県高田高女校歌 (第八十五)」。「(P.148に改作)と注記」	
島根県松江高女校歌	開けそめにし神代のまゝに／旭 豊けき 我が意宇(オウ)の湖	66	目次の標題は「松江高女校歌 (第八十六)」	
浜松市立浜松高女校歌	作左の森にかゝやく朝日／赤石そめて静けき夕日	68	目次の標題は「浜松高女校歌(第八十七)」	
広島県立府中高女校歌	目路いと広く見[わたして][おろして]／亀ヶ嶽、また城山は	70	目次の標題は「府中高女校歌(第八十八)」	
荷車ひいて来たお馬	左へ右へ 一、二、／馬が あち向こつち向	72		読売少年新聞
兵隊さんの機関士	兵隊さんが機関士になつてる／上衣をぬいで	74		朝日コドモ 六年八月二十日
高いぞ高いぞハイドウドウ	高いぞ高いぞハイドウドウ／お馬にのるのは はじめてのつたんだ	76		家の光
汽車のよいこゑ	汽車のとまつた間でも／唸つて唸つて廻つてる	78		朝日
夜中の鈴虫	チロチロリン チロチロリン／たつた一びき いつまでも	79		朝日
金魚を助けて	金魚売の／意地悪爺さんにすてられた	80		朝日
雪が降る降る	雪が降る降る／積つた上に、雪が降る降る	81		
孔雀の尾	一本々々きれいな尾／並んでまあるく広がる尾	82		小学館 六年十二月号
可愛いゝらんちゆう	夜店で買って来た金魚の子／あかい可愛いゝらんちゆうを	83	目次の標題は「可愛いらんちゆう」	
ポチの初汽車	初めて汽車にのりました／ポチもお伴でございます	84		
父様のお見送り	父様汽車でのお帰りが／お母様御一緒に	85	目次の標題は「父様の御かへり」	読売少年新聞

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
夜中のポチ	夜中にポチが吠え出した／泥棒が来た んちやないんだよ	86		
お父様のお父様	僕のお父様は お父様／お父様のお父 様は おぢい様	87		昭和幼年 第四集
町と村の寺の鐘	町には町の寺がある／どのお家より大 きくて	88		朝日コドモ
終電車	がらあき電車が チンゴゴ／前で 忙しい運転手	89		
大分県竹田中学校々歌	暁早くそのかみの／臥牛城頭、輝きて	90	目次の標題は「竹田中 学校々歌(第八十九)」	
平壤師範学校々歌	朝臨むや 大同江の／清く豊けく 日 夜も息まぬ	92	目次の標題は「平壤師 範学校 (第九十)」	
曲る長土手	曲る長土手 レール土手／谷間に入る 汽車の土手	94	目次の標題は「曲る土 手」。掲載紙誌の切抜 貼付	中外
備後尾道	備後尾道ア、朝から、ポツポ、ポツポ ／長い町中、東から西から、	95	掲載紙誌の切抜貼付	中外
尾道の蝶々	今日は朝から西の風／波のあれてる瀬 戸越えて	96	目次の標題は「尾道の 蝶」	
ポツポ船	朝から晩まで ポツポポツポポツポ ポツポ／おんなじ所を ポツポポツポ ポツポポツポ	97		コドモキング 八年 四月
和歌山県新宮第一小学 校々歌	[旭][朝日]に舞へる丹鶴の翅振／闇に もしるき梅の薫	98	目次の標題は「No.91 和歌山県新宮第一小学 校々歌」	
森の囀り(森の歌ご ゑ)	高く低くうたひて／森にみつる鳥の音	100		
我が春(今日の春)	見わたす限り野山をこめて／霞ぞかゝ る 今日の春。	101	目次の標題は「我が 春」	
若人五月のうた	青葉若葉に薫る風／山路に野路に萌ゆ る草	102A	目次の標題は「若人五 月」	
誠之館福山中学校々歌 (第二歌)	日夜の旅路急ぐとも／敢て先をば争は ず	102C	目次の標題は「誠之館 福山中学校々歌」。 「昭和七年第十四頁に 改作」と注記	
画をかく兄さん	画をかく兄さん お上手ね／字をかく 姉さん お上手ね	104	全体を×で消してある	
蜂がさすよ	蜂がさすよ 蜂がさすよ／蜂はお尻に かくしてるよ	105		
遠足	あゝ嬉しいな嬉しいな／暑くも寒くも ない日です	106	「(P. 119改作)」と注 記	
競技	大空はれて、吹く風かをり、心もはづ みて／手足はをどる	108		
三笠艦	寄る波静けき海のほとり／白浜の磯に 立てる三笠、	109		
いざ事あらば	高らかにこそ ラツパの音／静けさ破 りひどかば	110		
母校	今 我に遠き我が故郷／今 如何にお はすわが師わが友	111		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
漁村の朝	朝靄は はれわたり／海 ほがら ほがら	112		
五月晴	五月の風吹けば／枝も葉も伸びて	113		
秋晴の野山	大空はすみわたり、／うらゝけき日かげ	114		
ロバサンロバサン	ロバサンロバサン、ウサギウマ／ダマツテダマツテ トコトツト	115		家の光 コドモキング 八年五月号
毬がつかたい	私は毬が つかたいよ／大きいゴム毬 白い毬	116	目次の標題は「まりがつかたい」	昭和幼年 二集
四季の鈴	チロチロチロリン、チロチロチロリン／誰が振る鈴、ならず鈴	117		
遠足	あゝ うれしいなうれしいな／お日様キラキラ よい[日和][天気]	118	目次の標題は「遠足(改作)」	少、五
早く絵や字をかきたいな	絵をかく兄さん お上手ね／字をかく姉さん お上手ね	120	目次の標題は「絵を書く兄さん・字をかく姉さん」	昭和幼年 第三集
雪達磨の造りっこ	サラリ サラサラ何の音／ひつきりなしに サラサラサラーリ	122	目次の標題は「雪だるまのつくりっこ」	少女倶楽部 昭和七年二月号
森に獣	森には、けだもの 棲んでゐる、／大きな森には何がある。	124	目次の標題は「森の獣」	
雪の中の雪達磨	雪[の][ン]中の雪達磨／ゆふべは寒くて困つたろ	125		
串にささった串団子	串にささった串団子／一(ひい)二(ふう)三(みい)四(よう)、五つ	126		朝日新聞 「コドモノ本」
椎の実が落ちた	椎の実がおちた、／小砂利にこつつんこ。	127		
煙突から煙	煙突から出る黒煙／昨日もムクムク出た煙	128	全体を斜線で消してある	
ミンミン蟬がなくてゐる	ミンミン蟬がなくてゐる／向の森で、なくてゐる	129		昭和幼年 第三集
太鼓はドンドン	太鼓は ドンドン よくなるね、／ドンドン、ドンドコ、ドコドコドン	130		昭和幼年 第四集
てんとう虫	ポツンと、障子に 音立てゝ／天とう虫が とんできた	131		幼六
そ一つとかくれる隠れん坊	そ一つと、かくれる隠れん坊／動いちやいけない隠れん坊	132		幼五
駱駝の背のたん瘤	駱駝の背中のたん瘤の／お山をこえる坂路は、	133	目次の標題は「駱駝の背中のたん瘤」	
林檎は赤い	赤い、赤い、林檎は赤い、／きらきら光つて、林檎は赤い	134		
ケーブルカーが山に上る	ケーブルカーが、グングン上る、／上る、上る、山に上る	135		幼年の科学
ふくれた風船	ふくれた風船、ゴム風船／皆のお顔がうつつてる	136		
南京玉は きれいだない赤い玉	キラキラギラギラ光る玉／小さい小さい赤い玉	137	目次の標題は「南京玉はきれいだナ」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
トンネルは暗い	トンネル、トンネル、暗い穴／汽車の大きな音ばかり	138		
朝日が出てる	朝日が出てる、／大きな日の出。	139		昭和少年 第三集
鈴が鳴る	チロロン、チロロン、鈴が鳴る／皆の手首につけた鈴	140	目次の標題は「鈴がなる」	
絵本は面白い	絵本を見ましょ、／皆で見ませう、	141		
田舎でお芋掘	ここが田舎でございます／広い畠で御座います	142		
愛知県立国府高女校歌	朝日夕日に明らけき／三河大野の宝殿の里	144	目次の標題は「No.92 愛知県立国府高女校歌」。「(改作、次頁ニアリ)」と注記	
(改作)	朝日輝き夕日照る／三河穂の原 古府の里。(司府の跡)	147	目次の標題は「右の改作」	
奈良県立高田高女校歌	朝日に輝き 夕日に映えて／すみ渡りたる大空高き	148	「(P.64の改作)」と注記	
選手出場の歌	待ちたる日なり、この日なり／待ちかねたる時は来ぬ。	150		

◆ 創作ノート⑬(昭和7年)

茨城県立境中学校々歌	雲 はれてゆく筑波峯の／空どよもすや暁の鐘	0	目次の標題は「茨城県立境中学校歌」2、3頁に二番と三番の改作	
リスハ木ノ上	リスハ木ノ上 枝ノ上／チヨロリ、チヨロチヨロ、速イコト	4		小学館
蟹の横匍ひ	蟹の横ばひ、脚八本／がさがさ、急いで、行きかけて、	5	目次の標題は「蟹の横匍ひ」	
門番失敬	門番 お早う！／毎朝 ニコニコ 早くから	6		
手の指五本	手の指五本／左も右も	7		ツバメノウチ 昭和八年新年号
伸びた竹の子	伸びたよ伸びたよ、竹の子竹の子、／昨日頭を出してた竹の子	8		
ガボガボシユウシユウ	ガボガボシユウシユウ威勢よく／お屋根の上で 泳いでる	9		「小学館」
五月だ端午だお節句だ	五月だ 端午だ お節句だ／男の節句だ、武者人形	10	目次の標題は「五月だ端午だ」	
楽しい春	山には桜、野に菜種／どちらを見ても花ざかり	11		
早起き	どこかで 汽笛がなつてゐる／雨戸あけると、お日の出だ	12		
まどみ	小鳥のお家の日暮です／手毬のやうな巢の中に	13		講談社 キング 四行詩
船出	進取の風に帆を張りて／誠実の舵[を]あやまらず[ましぐらに]	13		講談社 キング 四行詩

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
広島県立福山誠之館中学校々歌(第二校歌)	日夜不断の旅行きて／希望の海の近づけば	14	目次の標題は「94 広島県立福山誠之館中学校歌 第二校歌」	
同上(第一校歌)(広島県立)	黎明(あけぼの)の鐘の音高く／我が学び舎の礎成しゝ	16	目次の標題は「95 〃 第一校歌」	
仲直り	ほんとにほんとに嬉しいな／是から皆で元どほり	17		
高知市追手筋／土佐高等女学々歌	御空に高く陽の照[りて][るや]／野山を、海を、わたる風、	18	目次の標題は「96 土佐高女校歌」	
秋近し		20	標題のみ記載	
若き我等	仰ぎ見よや 富士の高峯／雲に聳え永劫の容姿一	22		
豊橋市立商業第二校歌	山の暁早き、朝日子／雲は輝き 燃えて映えて、	24	目次の標題は「97 豊橋市立商業第二校歌」	
鼎倶楽部の歌	仰げ[寿山][大武]の朝日かげ／天地に光輝 あまねきを一	26	目次の標題は「98 鼎倶楽部の歌」	
神戸、楠幼稚園卒業生、同園会の歌	薫も著き楠の園に楽しく生ひ立ちし／双葉 年ごと栄えては	28	目次の標題は「99 楠幼稚園、同園会の歌」	
満洲 撫順高女	祖国日本の気高き矜、／朝暎、輝やく永安台の	30	目次の標題は「100 撫順高女校歌」	
福山市 霞町小学校	仰げ、旭に輝やく御旗／日に進みゆく御国のしるし一	32	目次の標題は「101 霞小学校々歌」	
広島県立／呉高等女学校々歌	日夜の旅路つゞけては／二河の流の、海に入る。	34	目次の標題は「102 呉高女校歌」	
三重県立／神戸中学校歌	朝日かゞやき風清らけく／本多の杜の不断の啓示	36	目次の標題は「103 神戸中学校」	
北海道／帯広中学校歌	雲は、霽れゆく朝日影／紫紺には[ゆる][えて]、大雪の	38	目次の標題は「104 帯広中学校々歌」	
広島県／深安郡 自彊尋常／高等 小学校々歌	朝日に映ゆる蛇園山／希望も高く さとすらく	40	目次の標題は「105 自彊小学校々歌」	
遠足	風そよぎ空はれて、日はうらら、／身も軽し、いざや行かん、	42	目次の標題は「野遊び(遠足)」	中等音楽
富士山の峯	東海、日は出づ、大和島根、／雲表気高く、そゝりたち朝日に	43		
夏休	暑さも物かは、今こそ真夏／真夏を喜び迎へし我等。	44	目次の標題は「夏休み」	
(別案)	焼く如、暑きを喜ぶ我等、／真夏を喜び迎へし我等、	45	前頁「夏休み」の(別案)	
タンポポサイタ	タンポポサイタ、／ノミチニサイタ	46		
秋の野みち	チンチロロ、チンチロロ、チロロ、チロチロ、チンチロロ、／ドコマデ イツテモ、アルイテモ、	47	目次の標題は「秋の野路」	小学館
水戸市五軒町小学校々歌	流も永劫に一すちに／豊けくそゝぐ那珂川の	48	目次の標題は「106 五軒町小学校々歌」	
愛媛県立東宇和高女校歌	宇和の広野をめぐりはすれど／朝霧分けて、只一すちに	50	目次の標題は「107 愛媛県立東宇和高女校歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
新潟市豊照小学校	御国の姿 さながらに／豊旗雲に あかねさし	52	目次の標題は「108 新潟市立豊照小学校々歌」	
雪達磨と雪兎	兄さんが、友だちと、／作った大きな雪達磨	54		セウガク一年生、増刊(ナカヨシ童話集)
緑の芝生で踊りませう	ひらひらひらひらり／蝶々は花壇でとんでゐる	55		
おつかひ帰り	村の境の土橋まで／急いで帰つて、友達と	56		少年倶楽部の需にて、二篇
ジョンとおつかひ	自転車 ゼリリン、おつかひだ／隣の村の叔父さんへ	57	目次の標題は「ジョンとお使ひ」	少年倶楽部の需にて、二篇
今夜は、十五夜お月さま	今夜は 十五夜 お月さま／月の光はおざしきの	58	目次の標題は「今夜は十五夜お月様」	日本童謡
花ざかり	皆、出て遊べ 花ざかり／桜や菜種の花ざかり	60		国語読本巻三
早起き競争	工場の汽笛がなつてゐる／まだまだ外はうすぐらい	62		国語読本巻三
私の雛子	雛子、ピョピョ、親鳥の／胸のあたりに のぞいてる	63	目次の標題は「私のひよ子」	国語読本巻三
弓流し	汐に引かれて流れゆく／弓を敵には渡すまい	64		読本巻六
いろいろかはつたチヨコレイト	キューピー、ライオン、象、兎／円いの、角いの、いろいろに	66		
大畑小学校々歌	遥けき旅路／日に夜[に][を]つぎて	68	目次の標題は「(No. 109) 新潟市大畑小学校々歌」	
鮎の中道	鮎の中道 涼しいね／何かおいしい餌があるか	70		
満員列車	急行列車だ 満員だ／どの腰かけも腰かけも	71		コドモノクニ
女うし	大きい黒い牛だけど／おとなしい牛だよ	72	目次の標題は「をんな牛」	キンダーブツク
柳の提灯	柳の提灯、涼しいな／ついたりきえたり、灯はあをい	73		
雨がしとし	雨がしとし、／窓にしとし、庭にしとし、	74	目次の標題は「雨がしとしと」	
よくよく雨がつゞきま	よくよく雨がつゞきます／あけてもく	75		
す	れても雨ばかり			
ブラジル移住民の歌(その一)	仰げ 御空の輝きを／光、豊けく あまねきを。	76		
ブラジル移住民の歌(その二)	大天地に照りわたる／朝日仰ぎて 今日もまた	78		
水禽小舎	あひるの仲間は、あひる声／鶴は、[のんびり][せわしい] 鶴の声、	80	目次の標題は「水禽小屋」。「桂花集」として末尾に短歌一首あり	日本童謡
ついて来る犬	僕を誰かと間違へて／小さな犬がついて来る	82	「桂花集」として末尾に短歌一首あり	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
芝生の鶏	めつたに開かない露路門を／のつそりはいつた鶏さん	83	「桂花集」として末尾に短歌一首あり	
餅草つみ	大きな餅草 かごーばい／大よろこびで帰つたら	84	目次の標題は「餅草摘」。「桂花集」として末尾に短歌一首あり	小学館
秋の夏帽	窓から街路(まち)筋見下すと、／帽子に、手が生え、足が生え	85	「桂花集」として末尾に短歌一首あり	
地蔵様ねむい	どこまでこめた野の霞／雲雀も昼の御はん時、	86	目次の標題は「ねむい地蔵様」。「桂花集」として末尾に短歌一首あり	小学館 子供国 八年五月号
見えない風の子	お庭の白萩 花ごとの／露の白玉 銀の玉	87	「桂花集」として末尾に短歌一首あり	
かくれん坊した縫針	水とりかへに持上げた／花瓶の下に、こつそりと	88	目次の標題は「隠れん坊した縫針」。末尾に短歌一首あり	
蛭すいすい	蛭、すいすい川の風／川ばた細みち草のみち	89	末尾に短歌一首あり	セウガク二年生 昭和九年六月号
だしぬけの雨	お庭の敷石、みがき石／きれいな石にポツポツと	90	末尾に短歌一首あり	
燈台道	畑は芋畑 海の風／畑の中道、両側の	91	末尾に短歌一首あり	
あうむの息	青い金網、青い窓、／ あけつばなしのあうむのお家、	92	末尾に短歌一首あり	子供の友
花見しないか燕	お家の巢で寝た つばくらめ／雨戸の開くのを待ちかねて	93	末尾に短歌一首あり	小学館
耳づくホーホー	ホーホー、ホーホー／こちらの森から、ホーホー	94	目次の標題は「耳づくホーホー／(鼻と鼻)」	
左様なら子鼠	子鼠左様なら、引越すよ／エスも明日から、居ないから、	95	目次の標題は「子鼠左様なら」。末尾に短歌一首あり	子供の友 昭和七年十二月号 昭代女子国文
七五三(その一)	今日のはめでたい七五三、／上の妹、七つです。	96		少女倶楽部
日本男児の歌	[光明(ひかり)][光輝(かがやき)]と[力量(ちから)][威勢(いきほひ)]と、大天地に／満して昇るや、朝日かげ。	98		日本男児 創刊号
七五三(その二)	五つか三つの男の子(お坊ちやま)／三つか、七つの女の子、(お嬢さま)	100		
七五三(その三)	大きい妹は、はや七つはや七つ、／小さい妹も、はや三つはや三つ	102		
徳島県小松島高女校歌	小松島湾、朝日に映えて、／きらめく波の あかきは心、	104	目次の標題は「(110)徳島県小松島高女」	
満洲建国を祝ふ童謡／「満洲晴」	夜明だ 旭だ キラキラだ／満洲晴にはれてゆく	105	目次の標題は「満洲晴」	
雪の(学校の全校)遠足(雪ふり)	高い空から、つづくよつづくよ／ひらひらちらちら、後から後から	107	目次の標題は「雪の学校の全校遠足」	二年生のひらがな童話 昭和八年正月号
オシャウガツうれしいね	お正月／うれしいね	108	目次の標題は「お正月うれしいね」	子供園 昭和八年正月号
やよ小犬	垣根の外に 回り出で／道ゆく人を、はじめて見て、	109		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
うれしいばかりの親鶏子鶏	親鶏子鶏、コッココ、コケコケ、ピーヨピヨ／何故だか今日も うれしいばかり	110	目次の標題は「嬉しいばかりの親鳥子鳥」	「富士」 昭和八年新年号
大きいおふとん、小さいおふとん	大きい おふとん かけぶとん／長いおふとん しきぶとん	111		「幼年の科学」創刊号
かげとかげ	お日様 出たよ／雲から 出たよ。	112		「幼年の科学」創刊号
冬田の案山子の、後半	(二)早よ行つて御らん 俵のお山、／夏 秋 つゞけて 立つてみた	113	目次の標題は「冬田の案山子の第二番」	
高あし踊	カツ、カツ、／皆、せいたか、カツ、カツ、	114	目次の標題は「高脚踊」	
春の譜	春、春。／春は酣。	117		
瑞穂幼稚園々歌	野山に、海に、大空に／輝やく陽をあび	119	目次の標題は「(111) 瑞穂幼稚園々歌」	
広島県新市小学校々歌	木の葉くぐりて、集ひ来て／やすまづなほも流れ行く	121	目次の標題は「(112) 新市小学校々歌」	
京都府／宮津青年団々歌	海を貫ぬく長洲は／破邪の剣とかゞやきて	123	目次の標題は「(113) 宮津青年団歌」	
カナリヤのこゑ	かごの中広い／朝日が一ぱい	125		日本童謡
達磨撞	運動会の達磨撞に／我、人生を観る	128		九段精華スポーツ
もうちき三年生	知らぬ間に、一柳の芽が伸び 草が伸び／春のお支度してました。	130	目次の標題は「もうちき三年生」	セウガク二年生 三月号
和歌山県／女子師範学校／日方高女	曙の波 夜半の波／あかの浦回に、毛見岬に	131	目次の標題は「(114) 和歌山県女師校歌」	
朝鮮全羅北道／群山公立中学校々歌	湖南平野の暁の風、／若稲の露、輝く見ずや。	133	目次の標題は「(115) 郡山中学校々歌」	
朝日が出てる	朝日が出てる、大きな日の出／幾つも浮いてる小さな雲が	135		昭和少年 第三集

◆ 創作ノート⑭(昭和8年)

お手々ポンポン	お手々 ポンポン、盲鬼／後で ポンポン、それポンポン	0		「幼年の科学」
東京市／荏原区 小山尋常小学校々歌	朝風清らに、／夕風澄める	2	目次の標題は「No.116 小山小学校々歌」	
福寿草	ふくよかに／ふくら[んで][みて]	4		
大蛇たいぢ	おそろしおそろし 八岐の大蛇／頭が八つ、尾が八つ、	5	目次の標題は「大蛇退治」	
金の鶏	昔 神武天皇が／悪者征伐なさる時	6		
生きてる様な鯉のぼり	ゆふべの雨はよくはれて／青葉に、きらら、五月の日、	8		
鯉よ来い来い	鯉よ 来い来い、浮いて来い／パチパチ、パチパチ	9		
広島県／福山市 深津小学校々歌	朝日輝く大山に、／仰げば蔵王の峯高く	10	目次の標題は「117 深津小学校々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
ラッセル機関車	あけても くれても 大雪吹雪／雪に埋れた レール路 汽車路	12		昭和八年二月五日／朝日新聞コドモ欄
葉けいとう	葉けいとう、葉けいとう／仲よく 並んで、どこへいく	13		幼年の科学 花の巻
広島師範学校々友会歌	朝風清き臥虎の山／旭に映えて、濃緑の	14	目次の標題は「118 広島県師範、校友会々歌」	
とうもろこし	トウトウ トウトウ、／とうもろこし、	16		幼年の科学
学校ダンス	御空は広く、二羽の鳶の／追はれつ追ひつ 遊べり。	18		女学校一年生 第二学期用
運動場	風そよら吹く広庭に／日かけ豊にさして、うらら	19		女学校二年生 第二学期用
やよ犬小犬	垣根の外に 自ら出でて、／道ゆく人を初めて見て、	20		小松氏「女学校音楽教本」
子供は	子供は 生きてる／動いてる	21		桐の花 二十号
迎春譜	胸の野に みつる花の薫／いつ [く][こ]かひびき来る春の角笛を聞け。	22	目次の標題は「迎春譜」	
古戦場	吹く風は さわやかに／空はれて、のどかなれど、	23		
田舎の夕暮	淡藍(うすあゐ)に 夕げの煙の／たなびきて、野にあり、	24	全体を斜線で消してある	
岸边園長還暦祝ひの歌	お目出度う お目出度う／園長先生 お目出度う。	25	目次の標題は「岸边園長還暦祝」	
基隆高女校歌	朝風 清き 旭ヶ丘に／今日も笑ましく さしそふ日かけ、	26	目次の標題は「119 基隆高女校歌」	
高知県 女子師範／立高知第二高女 校歌	朝日に夕日に、希望気高く／映ゆるか筆山、	28	目次の標題は「120 高知女師・第二高女校歌」	
東京市立牛込実務女学校	玉の宮居に程近く／市ヶ谷台上、なつかしき	30	目次の標題は「121 東京牛込実務女学校々歌」	
旅七日	嬉しきは いもねぬ夜の汽車にして／をさな児めけど唱歌してゆく	32	目次の標題は「旅七日(和歌)」。短歌19首	
山梨県立都留高女校歌	高く気高く大空に／永却に聳ゆる富士の嶺の	36	目次の標題は「122 都留高女校歌」	
苺の迷ひ子	蝶々も蜂も／いつたり 来たり	38		
仲よし庭木	檜の木、桐の木、楓の木、／庭一ぱいにひろげても	39	目次の標題は「木と葉と仲よし」	
雨後の月	五日も六日も続いた雨が／日暮に晴れたら ぼつかりと	40		
森の泉	朝風そよふき木々は目ざめ／豊かに湧き出る森の泉、	41		
狐のお嫁さん	あらあら、パラパラ雨の音／日和はよいに、照つてるに	42	目次の標題は「狐のおよめさん」	幼年の科学(6)
水車くるくる	水車くるくる／朝から晩まで、休まずねむらず	44		幼年の科学(7)

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
水てつぼう	鉄砲 々々、水鉄砲／ちゆつちゆの、ちゆーちゆー、水鉄砲、	46	目次の標題は「水てつぼう」	幼年の科学(7)
へちまブーラリ、へうたんブラリ	ブーラリ、ブラブラ、へちま、へちま、へちま／ブーラリ、ブラブラ、へうたん、へうたん、へうたん	47		幼年の科学
へちまとへうたん	太郎はへちまをうゑました／「へちま」の立札、立てました、	48		
案山子さん	もしもし、／兵隊姿の案山子さん	52		幼年の科学
とんとんとんぼ	とん とん とんぼ 赤とんぼ／あかい かはいい 赤とんぼ	54		幼年の科学
かまきりちやうらう	かまきりちやうらう かまぎつちやう／鎌は大鎌 右左	56		
広島県／三原小学校	朝風清く 水清き／沼田川、永劫にささやくは、一	58	目次の標題は「123三原小学校々歌」	
広島市千田小学校々歌	朝日輝く大空に／鯉城 雄々しく聳えつゝ	60	目次の標題は「124千田小学校々歌」	
豊橋中学校	東海 旭は照る大和島根／参州の野(や)は、歡喜にみちて一	62	目次の標題は「125豊橋中学校々歌」	
東京市麻布区／東町小学校	日毎東に昇る陽の／光の中に、ひたすらに	64	目次の標題は「126東町小学校々歌」	
きつつき	真昼静かな山の奥／コツ、コツ、コココツ、コツコツ、	66		朝日
ウツドベカー	森の木、山の木、木の洞(うつろ)／うつろの中に、巢をくつて	68		幼年の科学 八年十一月号
切石船の女の子	引舟つゞくね東京湾、／ならんで引かれる舟何そう、	69	目次の標題は「切石船の女の子」	
黒かがし赤かがし	あちらの田圃の黒かゞし／黒いおべべの黒かゞし	70	目次の標題は「黒かゞし赤かゞし」	
ねの吉ぢいさん	塵取箱を左手に／右手に長柄の外簞	72		
わらびのジャンケンポン	わらびとわらびとジャンケンポン／三日の雨が 今朝やんで	74		コドモノクニ
あられコンコロコンコン	あられ コンコロ コンコン 板廂、／はねてははねては ポツスンスン	75		子供の友
稲刈つた後の案山子	稲刈つた後も、／夜でも立つてる	76		
風です雪です吹雪です	風です 雪です 吹雪です／はやまつしろに積んで来た	77	目次の標題は「風です、雪です」	
三月四月早く来い	春よ来い 早く来い／三月四月 早く来い	78		
梯子段	一段一段上る段／上へ上への梯子段	79		子供の友 昭和十二年五月号
秋の空がらんど	秋の空、どこまでも、／がらあきのがらんど	80		子供の友
踏切、ゞ切、大通り	一列 二列、三四列／自然に次々並んだな	81	目次の標題は「踏切ゞ切大通」	子供の友
子雀と若竹	やぶの かげの／納屋の 軒で	82		幼俱

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
ポプラのかげで	ポプラのかげの／風 そよそよ	84	目次の標題は「ポプラの葉かげ」	
学校かへり	学校じまひの鐘、かんかん／「先生左様なら、」「左様なら」	85		幼俱
朝顔の聴音機	どの窓もまだ開かないに／どこからか敵の飛行機が	86		
三日月船ね	広いね、青いね、空は海ね／空の海こぐ	87		幼俱
山の泥棒	顔黒、手黒、あんよ黒／体全たい まつくろの	88		
いつも出る星見える星	いつも出る星 見える星／村の外れの橋に来て	90		
早よ お起き	はよ お起き／夜があけました。いゝ天気	92	目次の標題は「はよお起き」	(昭、幼)コドモノテンチ
やんちや風	空つ風、やんちや風、／をとゝひ、きのふ、よい風で	93	目次の標題は「空つ風」	子供の友
芋をほりまじよ	お芋畠でお芋ほり／蔓でつながる、芋、芋、芋、	94		家の光
あ、いたつた	あ、いたつた、／私の長い影法師が	95	目次の標題は「あつ、いたつた」	
日本晴	この頃、毎日 日本晴／この田舎へも飛行機が	96		幼俱
サンタク爺さん来さうな晩	日暮頃から、さらさらさらり／静かに、雪になりました	97		子供の友
三毛さん	子ねこの三毛さん 母さん似／円いお顔で可愛いゝ眼	98		朝日新聞
目白おし	文鳥、にはの、目白おし／朝日のさしこむ鳥かごで	99		
富士山のジャンプ	静岡すぎて 夜があけた／東京行の汽車の窓	100		朝日
若い日に	急ぐ 日暮の野路でも／咲いてる花なら つんで行こ	101	目次の標題は「小唄(若い日に)」	
あんまり早く	窓あけられて／まぶしい朝の日の光	101		
いろいろな人が見てるから	いろいろな人が見てるから／返したくもない桃の実を	102		
炭焼親子	炭焼竈は土の竈／お山の奥の大土竈	103		「幼年の科学」
金が流れる／明るいつ夕焼／きんら雲、きんら波	金がとんでる、金、金、金、／空一ぱいにとんでる金	104	目次の標題は「金が流れる」	
雀の子と栗	里で育つた雀の子／お山珍らし、今日も来て、	105		
秋の雨はれた日	秋の雨／はれた日は	106		
鐘つきとんぼ	真昼静かな寺の庭／大きな楠(くす)の木のそばの	108		
つくしんぼ	五六インチのつくしんぼ／いつまで、ひよろりと、	109	目次の標題は「五六インチの土筆坊」	コドモノテンチ

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
魚釣三ちゃん	魚釣三ちゃん 釣が好き／釣竿三本 びく一つ	110		
おねだ[れ][り]	ねえ、お父様、おねがひね／ね、ね、 いいでしょ、そのおひげ、	112		
月は出てゐるんだよ	月は出てゐるんだよ、月は登つてるん だよ／きつと、もうすぐ、	114		日本童謡第二十一号
物置の鼠	まひる静かな裏庭の、／物置の、	116	目次の標題は「物置の ねずみ」	
村のたき火	風は西風、雪の風／学校までは村二 つ、	118		幼年の科学
現人神	御空に輝ける陽の如永劫に、／強く、 高く、尊とく、おはします、	119		
田家の夕暮	淡藍に、夕げの煙の／たなびきて 静 けく、(にはやかに)	120		女学唱歌
暁の海	海原を、こめし、夜の霧、はれわた り、／波路いとも遙か、	121		女学唱歌
冬は来ぬ	遠山の頂早くも真白に、／垣根におく 霜の、朝毎しげく	122		女学唱歌
春は酣	春、春、春／春は酣	123	「昨秋の「春の譜」改 作」と注記	金子教授編／昭代女 子国文、巻十の為
広島市教員協会々歌	輝き昇る朝日に笑みて／伸びゆく若松 姫小松、	126	目次の標題は「127 広島市教育協会々歌」	
広島市竹屋尋常小学 校々歌	ほがらに、きよらに、／朝日のさせ ば、	128	目次の標題は「128 広島市竹屋小学校々 歌」	
広島県立吉田高女校歌	緑も深き姫小松／清き操の郡山、	130	目次の標題は「129 広島県立吉田高女校歌」	
お餅焼き	餅やき網は 黒い網／のせたお餅は 白い餅、	132	目次の標題は「お餅や き」	幼年の科学 昭和九 年新年号
猫のひとみ	お倉の隅の 闇の中で／ギラリ、また ギラリ、	134		幼年の科学 昭和九 年新年号
物干の白いゆげ	物干竿は長い竿、はしからはしまでほ してある／ 大人のシヤツ、シヤツ	136	目次の標題は「物干 竿」	「幼年童謡」
氷の鏡	朝日のおそい縁側の／手水鉢、	138	目次の標題は「氷の丸 鏡」	
甘楽民謡(補)	甘楽よいとこ、朝日も早く／桑の葉の 海、きらきらと、	140	目次の標題は「甘楽民 謡」	
お風呂の三日月	おとなりの／屋根棟で	142		
お風呂場のガラス窓	寒い日暮のお風呂です。／湯槽のふち を 越すほども	144		
オヒナマツリノオキヤ クサマ	モモノハナ／エボンボリ	146		小学館
市立／一中 至大荘の 歌	暁(あかつき) 早く みちわたる／天 地の光輝 仰かずや。	148	目次の標題は「130 至大荘の歌」。 「(P. 158に改作)」と 注記	
群馬県 北甘楽郡 甘楽 郷土歌	緑色濃く 旭日に映ゆる／桑葉の海 に、風わたり	150	目次の標題は「131 甘楽郷土歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
歓喜	野に山に、小鳥なく日、／霞の奥に、 きそひ咲きて	152		文部省 高三
希望	見よや、野路の草に見よや、／枯れは てたりとみえながら、	154		文部省 高一
奉祝／童謡 継宮さま	日の出だ日の出だ 日の光／日本国 中、日の出時、	156	「昭和九年三月十七日 音楽学校より中継放 送」と注記	
至大荘のうた	(夏) あかつき早く みちわたる／天 地の光輝 仰かずや	158		

◆ 創作ノート⑮(昭和9年)

神戸市／楠幼稚園々歌	春はさくらの咲くお庭／秋はもみぢの 散るお庭	0	目次の標題は「No.132 神戸、楠幼稚園々歌」	
興国の民	起てよ若人、我等が友、／聞け、暁の 鐘の音を、	2		文部省唱歌 高小、 二
代々木の宮	朝日の如く、／正しく強く 一すぢ直 く開け進む	4	「(二十八頁ニ改作)」 と注記	文部省唱歌 高小、 二
舟に乗りて	舟にのりて、川を下る／ゆるき流、	6		文部省唱歌 高一
登山	真夏なれども 真冬の装(よそほひ)／ 暁寒き 小屋を出でて	8	目次の標題は「峡谷を よちて(登山の朝)」	文部省唱歌 高一
皇太子殿下御誕生奉祝 歌(一)	黄金の玉と昇る旭に／玉の宮居の こ とさらに	10		
同じく奉祝歌(その二)	昇る朝日に、天地の／明けわたる時、 尊とくも	12		
同じく奉祝歌(その三)	千代田の宮の松ケ枝[の][も][は]／此 の日 ことさら 色はえて	14		
同奉祝歌(その四)	大和島根は 光にみちて／明けゆく 朝、旭と共に	16		
仲よし煙突	煙突、々々、高いね高いね、／雲まで とゞくね	18		
お月さん寒からう	お月さん高い空、寒いでせう／さつき 着てみた やわらかさうな	19		
風よ、下りて来い	困つたなア！／あんなにうまく上つて た	20		時事新報 日曜附録 のゑにそへて昭和九 年一月二十七日夕刊
てん手まり	まつかな大きなお花の絵／きれいにか いたゴムの毬	22	目次の標題は「てんで まり」	
美代ちゃん	お歳は九つ、名は美代ちゃん／私の仲 よし、笑顔よし	23	目次には標題の記載は ない	
花まつり	花は まさかり、春四月／八日 めで たや 有りがたや、	24		「我が家」(昭和9 年)4月号
第一東京夜間中学校々 歌	御空に潔くきらめくは／希望、不滅の 星のかけ	26	目次の標題は「No.133 第一東京夜間中学校々 歌」	
明治神宮	朝日の如く、正しく、強く／直く、開 け進む	28	「(P.4の改作)」と注 記。目次には標題の記 載はない	文部省唱歌 高小第 二学年

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
きこりのはなし	昔の美濃のきこりの嘶／毎日 お山で薪とり	30		
金ノホシ、銀ノホシ／ 昼間のシヤボン玉、夜の星／シヤボン玉とオホシサマ	子供が／子供が	32	目次の標題は「昼間のシヤボン玉、夜の星」	コドモノテンチ
蟹の横ばひ	蟹の横ばひ 足八本、／左に四本 右四本、	33		コドモノテンチ (幼)
朝のおやくそく	父さま、お早うございます／今日も朝から日本晴	34	全体を×で消してある。「P. 38に改作」と注記	
ねませう	ねませうねませう、私もねませう、／小鳥は、小鳥のお家でねんね、	35	全体を×で消してある。「P. 42に改作」と注記	
村の少女子	野にはうるはし 花のむしろ／空には、雲雀の歌ごゑおもしろ	36		「家庭」
朝のおやくそく	父さま、お早うございます。／もうお日様も昇つてゝ	38	「(P. 34の改作)」と注記	キンダーブック (幼)
指兄弟 つめけうだい	右のお手手の指五本／左のお手手の指五本	40	目次の標題は「指爪兄弟」	キンダーブック 幼俱 昭和十年一月号
ねましよう	お庭のお花も寝てみましょ、／とつくに、お庭で、寝てみましょ	42	「(P. 35の改作)」と注記	
お靴とお下駄	大人のお靴、／子供のお靴	44		小学館 幼俱
名無し傘	雨がひるまへ止んだらば／日暮の暗い傘棚に	46		幼年クラブ
停車場	朝ははよから夜中まで／ひききりなしの汽車電車	47		京文社 三年
銅像	[日かげあまねき][朝日かがやく] 宮城前に／建武の昔の、関の声か、	48		京文社 四年
樺太／本斗小学校々歌	朝日かゞやく斗校陵／笑みて浮ぶや海馬島、	50	目次の標題は「No.134 樺太 本斗小学校々歌」	
東京市本郷区／元町小学校々歌	旭輝く日の本の／国のはじめの尊としや……	52	目次の標題は「No.135 元町小学校々歌」	
桶屋のたがはめ	グルリ廻して、トントントン、／桶屋のたがはめ、トン、グルリ。	54		家の光 幼俱
お日様のタオル	お日様、お早うございます。／まだねむさうなお顔付	56	目次の標題は「雲のタオル」	エホン唱歌
雲のおやつ	湯気 湯気 フーフワフワ／鉄瓶の口から フーフワ	57	目次の標題は「湯気」	小学館
ひよろろ草原	日暮 冬枯 広野原／原にまばらの枯つ草	58	目次の標題は「ひよろろ草つ原」	少女俱
ニツボン音頭	九千余万の日本人が／皆、自慢の皇室は(皇室は)	60		家庭 (12-7.8.)
鬼ごっこ(A)	ジャンケンポンよ／アイコデシヨ、	64	目次の標題は「鬼ごっこ(その一)」	幼俱
ブランコ(A)	ブーランコ、／ブーランコ、	66	目次の標題は「ブランコ(その一)」	家の光

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
雛まつり (A)	真赤な もうせん 緋もうせん／雛壇 きれいに、雛まつり、	68	目次の標題は「雛まつり(その一)」	桃源
栃木県／真岡中学校々歌	朝日 たださす 白布ヶ丘に／健児 我等は 今日もまた、	70	目次の標題は「No.135 真岡中学校々歌」	
東郷大将 (A)	日本海の荒波に／敵の艦隊、撃滅し	72		
元帥東郷	至誠一貫、これ信、これ義／質実剛 健、みな世の鑑、	74	目次の標題は「元帥東郷(その一)」。 「(P.80ニ改作)」と注記	
鬼ごっこ (B)	ジャンケンポンよ、アイコでシヨ、／ 鬼がきまつて ばらばらと	76	目次の標題は「鬼ごっこ(その二)」。「(昭和十三年一月五日、再度改作)」と注記	
ブランコ (B)	ブルーランコ、ブルーランコ／ 前へ、後 へ ブーランコ	77	目次の標題は「ブランコ(その二)」	幼
雛まつり (B)	まつかな もうせん、緋もうせん／金 の屏風にだいらさま	78	目次の標題は「雛まつり(その二)」	文部省 国語読本 巻四
元帥東郷 (B)	富士の神山 日に輝きて／高く雲間に 聳ゆる如く、	80		
嗚呼東郷元帥 (B)	日本海は 晴れたれど／狂へる波にと びかひて	82		
たき火	はいて 集めた 落葉のお山／もえる よ もえるよ 日暮方	84		少女倶楽部
鞆の海	国立の公園となる瀬戸うちの、海の／ うちなる海は、この海	85	目次の標題は「鞆の海(短歌)」。短歌5首	
鬼ごっこ (C)	じゃんけんぽんよ、／あいこでしよ	86	目次の標題は「鬼ごっこ(その三)」	文部省 国語読本 巻四
若草	里の小路のほとりにも／いつしか若草 萌えそめて	88		
月下の古戦場	澄みわたる夜の空に、／月ぞ明るき。	90		
東京市(芝区)／御田高等小学校々歌	朝風すみて、清らの庭に、／玉の皇居 を、伏し拝み	92	目次の標題は「No.136 御田高等小学校々歌」	
尾道市／久保 尋常／高等 小学校々歌	朝日に松の色はえて／希望は高し瑠璃 の峯。	94	目次の標題は「No.137 尾道市久保小学校々歌」。「(P.98に改作)」と注記	
千葉県(柏町)／東葛飾中学校々歌	小金ヶ原の朝露清く、／湛へて手賀の 沼[広][深]し	96	目次の標題は「No.138 東葛飾中学校々歌」。「(P.102に改作)」と注記	
久保小学校々歌	朝日に松の色はえて／希望は高し、瑠 璃の峯。	98	「No.137 改作」と注記	
広島県／沼隈郡 熊野尋常小学校々歌	清き流の山田川／学びの海[は遠く][の 暗くと][遙けく]も	100	目次の標題は「No.139 熊野小学校々歌」	
千葉県立東葛飾中学校	小金ヶ原の朝露清く／湛へて手賀の沼 の広き、	102	「P.96 No.138の改作」と注記	
憲兵隊本部建設(精華学校所見)	学校の前の広つばで、／朝から地響、 休みなし	104	目次の標題は「憲兵隊本部」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
冬来る	里の小川の板橋に／此の頃、朝毎、	106		文部省 高小唱歌 第一学年用
鯉のぼり	五月の空は 晴れわたり／風の薫れば、矢車の	108		文部省 高小一 唱歌
とつげよ我が娘	今日こそ吉日。／とつぎて行けよ、いとし我が娘、	110		
妻を迎へて	昼は日ねもす／夜は夜もすがら	112		大日本婦人会 「家庭」 十月号
東安小学校々歌	旭に映えて、聳え立つ／権現山の朝ぼらけ、	114	目次の標題は「140A 東安小学校々歌」	
霞三題	廂を叩く音高く／生命ある如、あらそひて	116		文部省唱歌 高小、二
山茶花三題	朝寒の 生垣に、／はやも来て、	118	目次の標題は「山茶花」	文部省唱歌 高小、三
冬の興	朝口を、真冬の庭の生垣に／ふとしもよれば、老梅(ろうばい)の	120		文部省唱歌 高三男
早春	遠山は、[雪や降れる][時雨なるか][時雨るゝや]／雲のとざしてかくれたり。	121		
田うゑ(その一)	すげ笠、あみ笠、赤だすき／皆で、朝から 田植唄、	122		
福山市福山南小学校々歌	御国の姿 さながらに、／昇る朝日に、ほゝゑみて、	124	目次の標題は「140B 福山市南小学校々歌」	
京城女子公立実業学校	風も清らの南山に／日毎、栄ゆく濃緑の	126	目次の標題は「141 京城女子公立実業学校」	
森に歌へば	心のまにまに、伸び茂れるに、／洩れ日、明るき森に歌へば、	128		
虫ぼし	部屋中、家中、縁側までも、軒下までも、／衝立ならべて、綱、かけわたして、	128		
鎌倉	竹の園生の御身にあれど／冷たく くらき 土牢の中に	130		
チクオンキ(レコード、クルクル)	ワタシモ イモウトモ、大スキナ／ドウエウノ レコード かけませう	131	目次の標題は「ちくおんき」	コドモアサヒ
田うゑ(その二)	朝から 田んぼ の にぎはしき／家毎 さう出で、田植だ 田植だ	132	目次の標題は「田植(その二)」	
校舎新築	新しきペンキの香 心地よく、今日もピアノに興多き秋。／槌の音、日毎よそほひ、美しの家	133	目次の標題は「校舎新築(短歌)。短歌16首	
専売局工場歌	陽光(ひかげ)あまねき工場に／今日も楽しく、いそしめば	134		
湯河原ぶし	(春)登り下りの笑顔に笑顔、／花が物いふ、桜山	136	目次の標題は「湯河原歌謡」	
ましろい球を(卵にお醤油)(あてももの)	ましろい玉を、／だゑん形の玉を	142	目次の標題は「ましろい球」	
クリスマス	サララ、サラサラ、降る降る粉雪、／雪も 喜んで、降るクリスマス。	144		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
新ニコピン草(五児近況)年賀状	夜更までおけいご事に「女中」学に、時に弟／妹の先生忙しく、長女ニコピン	146	目次の標題は「新ニコピン草」	
四月がくれば三年生	もうさきだした(よ)桃の花／すぐに桜も 花ざかり	148	目次の標題は「四月が来れば三年生」	小学館「せうがく二年生」 三月号
秋畔荘九景	白ゆきに化粧してあり秋川の川原／の石も君を迎へて	149	目次の標題は「秋畔荘九景(短歌)」。短歌8首	

◆ 創作ノート⑩(昭和10年)

たんぼぼ、ぽつぽつ花ざかり	野みち 細みち 草のみち／一すぢみちの 両わきに	2		コドモアサヒ
満洲国皇帝陛下奉迎歌	たんぼぼ、すみれ、れんげ草／桜も野山に 花ざかり	4	目次の標題は「満洲国皇帝奉迎歌」。「太平レコードの為」と注記	
お手玉(その一)	赤青紫、きいろにみどり、／みんな、きれいな 五色のお手玉。	8		コドモアサヒ
お手玉あそび(その二)	雨の降る日のお手玉あそび、／お人形ねかして、小さなおこゑ。	10		幼
満洲帝国皇帝陛下奉迎	昇る朝日に輝きて／この歡喜に勇みては	12	目次の標題は「満洲国皇帝陛下奉迎歌(その一)」	
その二	野山に あまねき 春の色／散ることもなく、とこととはに、	14	前頁の「その二」	
苺をどり	国の為／たとへ一葉も 粗末にするな	15	「国の為」「楽しの工場」「苺の名よみこみ」からなる。目次の標題は「苺をどり／歌謡」	
気をつけませう	気をつけませう、気をつけませう、／せんせい お早う、	25		キンダーブック
十国峠雑詠	初夏の箱根路七里登りゆく二台／のバスに帽子振り合ふ	26	短歌5首	
魚つり(赤い浮木)(とんかりあたま)	ピクリ、ピクリ、ピクリピクリ／風がゆるのか、ピクリピクリ	27	目次の標題は「魚つり」	家の光
親子の魚つり	魚をつるのはお父さん／ざるをかかへて、おとなしく	28		コドモアサヒ いつもにこにこ
海水浴で弟は	海水浴で弟は、／こはがるくせに 波乗を	30		家の光 十年八月号
海水浴	夏だ、真昼だ 満潮だ／赤だ 黄色だ 青白だ	32		主婦の友 十年八月号
日の丸	富士山の 頂上で／今日も 大きな日の丸が	33		
おいはひ日	今日は めでたい お祝ひ日／ 百万、千万、家毎に	34		キンダーブック 昭和十一年一月号
日本高等女学校／帝国女子専門学校／静修女学校／校歌	朝日に匂ふ桜花／日本少女の気高さを(と)	36	目次の標題は「No.142 帝国女子専門学校歌(一)」。「P. 76に改作」と注記	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
広島県／芦品郡 服部小学校々歌	天地の物みなの／形を、色を、正しくも	38	目次の標題は「No.143 服部小学校々歌」	
子供もはたらけ	はたらかう、はたらかう／子供ながらも 元気よくー、	40		家の光
ヘイタイサン	ラツパニアハセテ、ススメヨススメヨ、ヘイタイサン／ヘイタイサン	42	目次の標題は「ヘイタイ」。 「サイタサイタ サクラガサイタ」と注記	
日ノ丸ノハタ	アサヒ、アサカゼ、ヒノミハタ、／ヒノ丸ノハタ、イサマシヤ	43	「(改作)」と注記	
ココマデオイデ	ココマデオイデ、／ホラホラ アブナイ、	44		
ハト	ハトハ オ宮ノヤネガスキ、／ヤネニナランデ	45		
ヒバリ	ピークル、チークル／ピークル、チークル	46	目次の標題は「ヒバリ (ピークル、チークル)」	
ヒカウキ	上る上る、／ひかうき上る。	48		
ポチトオツカヒ	ポチポチ、行カウヨ、オ使ニ、／ヲヂサンノウウチハ隣村	49	目次の標題は「ポチト (オツカヒ)」	
電話ごっこ	「若し若し、あなたは雪子さん」／「はい、さうですよ雪子です。	50	目次の標題は「電話ゴッコ」	幼
シヤボン玉	赤、青、紫、様々の／きれいな色に	51	目次の標題は「シヤボン玉(プープー、クルリクルリ)」	
朝の月	うつすら白い朝の月／円い頭の二十日月	52		ナカヨシ(十一年六月)
舌切雀	舌切雀のお宿はどこだ／雀のお宿はやぶの中	53		
ホタルコイ	ホ、ホ、ホタル コイ／カハイイ提灯、豆提灯	54		いつもにここにこ
箱庭あそび	土をもりあげ 山にして、／山には、五本、木をうゑて、	56	目次の標題は「箱庭アソビ」	
一カラ十マデ／仲よし	さいた さいた／あさがほ さいた	57	目次の標題は「一カラ十マデ」	
兎と亀とのかけくらべ	兎と亀とのかけくらべ／兎が勝つにきまつてる	58	目次の標題は「兎ト亀トノカケクラベ」	
桃太郎軍の三勇士	するどいこゑの犬太郎の／大きな吠声、一こゑに、	59	目次の標題は「桃太郎軍ノ三勇士」	
一バン星	出テキタ、出テキタ、一バン星／今日モ、早イナ、杉ノ木ノ	60		
月ノ出	アカルクアカルクナリマシタ／ムカフノ大キナ森ノ上	61	目次の標題は「オ月サマ」	
アシタノオ天気	マツテタマツテタ遠足日／イヨイヨ明日ニナリマシタ	62	目次の標題は「アシタハ天気」	いつもにここにこ
お馬の御馳走	お馬の御馳走、大きな桶ん中。／鼻の先つつこんで	63		幼年倶楽部 十三年

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
お人形の御病気	病気で ねてゐる かはいゝお人形さんの／母さんは 花子さん	64	目次の標題は「お人形の病気」	
カゲエ	ヲヂサン上手ナ カゲエノ犬ガ／オロヲアケテハ ワンワンワン	65		
ユキノ日	音モナク雪ガフル、雪ガフツテツム／オ庭ノ椿ノ葉ガ、ミンナ、	66	目次の標題は「雪の日」	
貨物列車	貨物列車ガトホリマス／ミンナ同ジ黒イハコ	67		
和歌山市立高女校歌	日ねもす夜すがら 只ましぐらに／行手[も][や]正しく、紀の大川の	68	目次の標題は「No.143 和歌山市立高女校歌」。「改作、P. 98にあり」と注記	
静岡幼稚園々歌	賤機山から、よく見える／野山も町も、海までも	70	目次の標題は「No.144 静岡市立幼稚園々歌」。「(P. 94に別稿)」と注記	
福山盈進商業学校々歌	眼 四[界][海]に放つべく／偉容儼たり熊ヶ峰	72	目次の標題は「No.145 福山盈進商業学校々歌」	
北海道瀧川高女校歌	峯の月、野路の花、／うつし来て、	74	目次の標題は「No.146 北海道瀧川高女校歌」	
日本女学校／帝国女子専門／静修女学校／校歌	ほがらにも 豊けくも、昇る旭の／勢見せて栄えゆく、	76	目次の標題は「No.147 帝国女子専門他二校々歌々歌」	
横浜市保土谷区／帷子小学校々歌	朝日朝風清らの園生に／互みに励ましそしむや	78	目次の標題は「No.148 横浜市保土谷区帷子小学校々歌」	
新潟市浜浦小学校々歌	野に谷に／ひたすらの	80	目次の標題は「No.149 新潟市浜浦小学校々歌」	
ニコピンだるまの讃	それ、『ニコピン』は、「ニコニコピンピン」にして、「平和／円満、進取活動」なり。略して、『ニコピン』と	82		
鉛の兵隊さん	鉛の兵隊さん ラツタツタ／赤、青、きれいな軍服が	84		
九年後のお出まし	面壁九年の少林寺／今こそ出づる よろこびに	89		
高女四年の障碍物競争	一瞬の静寂！／息づまるスタート！！	90	目次の標題は「障碍物競争」	
盈進商業学校、前校長銅像除幕式 創立三十五年祭	ヨロコビカサナルコノヒヨリ／ヒカリ、ビナンノテンチニミチテ	91	目次には標題の記載はない	
降る降る春の雨	降る降る／春の雨が降る	92		コドモアサヒ 昭和十一年三月号
静岡市市立幼稚園々歌 (別案)	賤(しづ)機山から見下せは／静岡広くて賑かだ	94	目次の標題は「No.144 静岡市市立幼稚園々歌」。「(原案、P. 70にあり)」と注記	
中央音楽一三階即興	暮れてゆく隣やしきの広庭に今日／も出て来る人あらざりき	96	短歌4首	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
名古屋市立第三幼稚園	日本晴の大空に／きらきらひかる、金の鯨	97	目次の標題は「No.150 名古屋市立第三幼稚園々歌」	
和歌山市立高女	日ねもす 夜すがら 一すぢに／行手をかへず 紀の大川の	98	目次の標題は「No.143 和歌山市立高女」。「44の改作」と注記	
笠岡高女	海路陸路のたよりよく／眺は広き岡の上	104		
御領尋／高 小学校々歌	稚若、姫松、深みどり、／栄行く御代のしるしとて、	106	目次の標題は「御領小学校」	
東京市立／蔵前工業学校々歌	日夜 希望の海[原へ][目ざし]／不断の歩、つづけ[たる][来し]	108	目次の標題は「東京市立蔵前工業学校」	

◆ 創作ノート⑩(昭和11年)

岡山県立／笠岡高女校歌	海路 陸路のたよりよく／眺は広き岡の上	2	目次の標題は「岡山県立笠岡高女校歌」	
広島県／深安郡 御領小学校	稚松 姫松、深みどり／栄ゆく御代のしるしとて、	4	目次の標題は「広島県御領小学校歌」	
花咲爺さん花屋さん	花咲爺さん／日本国中、やけあとの	6	目次の標題は「花咲爺さん花屋さん」	コドモアサヒ
東京市／世田谷区 田原町／第三荏原尋常小学校	朝夕仰ぐ 神山富士の／正しき姿、清らの心。	8	目次の標題は「東京市第三荏原小学校歌」	
(時事七首)(二・二六事件)	将軍も馬を下りて順逆を一兵に／説き吹雪に立たす	10	短歌7首	
愛林童謡／木のおかげ	葉と葉と並んで涼しいな／何して遊ば、木の下で。	12		
波のり	真夏、大波、男波／沖から沖から、よせて来て	14		コドモアサヒ
ひばり会々歌	歌ふよ、歌ふよ、雲雀が／[空一ぱいに][大空ひろく]こゑひゞかせて、	16		
愛知県立／刈谷中学校々歌	朝日かゞよふ 碧海が丘に／仰ぐ無電の鉄塔よ、	18	目次の標題は「愛知県刈谷中学校歌」	
東京／市立 蔵前工業学校々歌(改作)	咲くや、不断の幸の花！／打ふるハンマー、轟く庭に。	20	目次の標題は「東京市立蔵前工業学校々歌」	
番外	たまさかのいたつきもよし琴／きゝて、琴のうたよむほどの	22	短歌3首	
福岡県早良高女校歌	昇る旭に 笑まふ如／今日も希望に聳えつゝ	24		
かうもり来い(ひらへらダンス)	かうもり来い／ひらへら、ひらへら、	26	目次の標題は「かうもり来い」	コドモアサヒ
福山西小学校々歌	朝日に匂ふ 山さくら／御国のほこり、わがほこり	28		
運動会	手足きたひ、技をねりて／待ちに待ちし 今日ぞ。	30	「(大阪市住吉区姫松、昭和園)」と注記	
旅愁	御空に浮ぶ白雲さへも／(つくづく見れば)	31	「(水野氏唱歌集の為に)」と注記	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
明治製糖会社々歌	都に鄙に、南に北に、／互みにいそしむ、	32		
大分県 女師／第二高女 校歌	御国のさかえさながらに 昇る朝日も豊の海に	34	目次の標題は「160大分県 女師／第二高女 校々歌」	
番外	まだそこにおはしけるかやよきうた ／の数ます日々よろこびの中に	36	目次には標題の記載はない。短歌8首	
わたり鳥	とんで行く行く何の鳥／おほぜい先になり、後になり、	38	目次の標題は「わたりどり」	コードモアサヒ 十月号
春が来た	野にも来て、山に来て、／里に来て、	39		小学国語読本 卷三 対応
なはとび	皆がすきな／縄とびしませう、	40		小学国語読本 卷三 対応
うさぎ	兎、兎、白兎、／お目々は、どうして、	41		
とび	とびがなく、春の空、／風も吹かない空高く。	42		小学国語読本 卷三 対応
うちの子ねこ	子ねこ、をかしや／子犬を見ても	43		小学国語読本 卷三 対応 Kinder Book
大きいじまんの大蛙	「母さん、母さん／大きな牛が、お水をのみに、	44		
さゝ舟を追ふ蝶々	笹の葉を、／まいて造つた笹の舟、	46	目次の標題は「ささ舟」	
とんぼ	とんぼ、とんぼ／油断をするな、	47		小学国語読本 卷三 対応
一寸法師	一寸法師は、小さな体、／小指位の小さな体、	48	「(十四年三月末も改作)」と注記	
エンサカホイ	雨のやむのを待ちかねて、／荷をつみ上げた荷車が、	50		
玉手箱(その一)	さア開きませう、玉手箱／龍宮土産ぢや ありませぬ、	51		放送局依頼
玉手箱(その二)	軽いと思へば 軽い箱、／重いと思へば 重い箱、	52		
ハゲイトウ	ハゲイトウ、キレイダネエ／アカヤ、キイロヤ、	54	目次の標題は「はげいとう」	
赤とんぼ	ユフヒ[ヲアビテ][ニソマツテ]／ーレツニ、	55		幼年知識 十月号
ニコピンかるた	い つも、ニコニコ、いつもピンピン ／いつも、ニコニコピンピン、よい子供	56		
凧合戦	風は西風 つよい風／みるみる身軽に上る凧。	68		コードモアサヒ 十一月号
たぬきの腹つゞみ	さあさ、皆で鼓のけいこ／月の明るいお山の上で、	71		
風の子	僕等は風の子、男の子、／吹け吹け西風、北の風	72		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
ひなまつり	今日は 楽しい、雛まつり、／三月三日よ、お節句よ、	73		
福島県喜多方高女	朝日夕日に聳えて立てる／磐梯、飯豊(イデ)の峯仰ぎては	74	目次の標題は「No.161 喜多方高女校歌」	
トケイノウタ	チクタク、チクタク、／トケイノアシ オト(トケイハウゴク／ススム)	78		
ツクシ	ツクシ、ツクシ、スギナノコ／ミンナ ガ オナジ マルボウズ、	79		
送別の歌	学びの窓に、さす日かげ／早くも[見ゆる][見する][きざす] 春のいろ、	80		
早春	思ひもかけぬ雲雀のこゑ／草にも木にも	81		尋三
雪合戦	夜の中に 降りつみて、／見わたすかぎり 銀世界。	82		尋四
国旗掲揚の歌	大空高く、輝き昇り／天地照らす朝日の御はた	84		尋四以上
清水市／岡小学校々歌	朝日さしそふ神山富士の／雪に久遠の輝見[よ][ず]や	88	目次の標題は「No.162 清水市岡小学校々歌」	
前橋市立高等家政女学校々歌	旭にほゝゑみ、大空高き／赤城の山のさとすらく、	90	目次の標題は「No.163 前橋市立高等家政女学校」	
蛙の船頭さん	笹のお船に、ピヨンと乗った／蛙の船頭さん、どこへ行く	92		尋一
鈴ふるお馬	シヤンコロ、シヤンコロ、シヤンコ、シヤンコシヤンコ、／お馬の頸のきれいな紐に、	93		
えんそく	うれしいうれしい、日本晴だ／今日は、僕等の遠足日、	94		(尋一)
楽隊あそび	太郎さんもお出でなさい／花子さんもお出でなさい	96		
見よ見よ月を	見よ見よ、月を、／円い円い、まんまるい	97		
鼠の嫁入	ワタシノ ムスメハ ヨイムスメ／[オ日サマ][クモサン][カゼサン][カベサン] アナタハ セカイ	98		
お正月	門松、いつばい[きれい]に たちました／どこの家にも 立ちました	100		
花さかぢいさん	ココホレ、ワンワン／ココホレ、ワンワン	101		
夕やけ鳥	夕焼小焼、／とんでかへる鳥	104		
支度競争	ヂリ、ヂリ 何の音／学校のはじまるベルの音	106		子供の友
クスダマワリ	シツカリシツカリ、／ソラサズ、ナゲロヨ、	108		Kinder Book
障碍競争	とべ、とべ、高く。／諸手をふつて、大地をけつて	109		
お誕生日おめでたう	オメデタウ！／ユア、バース、ディ！！	110	目次の標題は「ユア、バースデイ」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
大工さん	もしもし、大工さん、大工さん／どなたのおうちがたちますか	112		
ロングスリツパ	スルスルすりつぱ、忙しや／ほんに、すこうし、すこしだけ	114		
オ出マシ	ヒロイナヒロイナ大東京／ソノマンナカノ宮城ニ	115	目次の標題は「お出まし」	キンダブック 昭和十二年新年号
新年のごあいさつ	御門と、御門と、ごあいさつ／新年おめでたう ございます	116	目次の標題は「新年のごあいさつ／おめでたう」	
わらひごゑ	あちらでも／こちらでも	117	目次の標題は「はいおめでたう」	
まだまだお正月	まだまだ、お正月うれしいな、／つきましよ、羽子を、追羽子を。	118	目次の標題は「まだお正月」	
にはか雨(夕立)	私が、学校へ行く時には／空は曇つてもみなかつた	119	目次の標題は「にはか雨」	
砂利みち	お医者で順番まつてると、／お窓の外を、ジャリジャリと	120		子供の友
帰りの小雨	学校かえりの小糠雨／少うし ぬれてるお洋服	121	目次の標題は「小雨」	
おまる	赤いインキの赤いまる／きれいに咲いた花のやう	122	掲載紙誌の切抜貼付	東日小学生新聞
寒さ	急にお寒くなりました／遠くのお山は知らぬ間に	123		東日小学生
汽車の音(さへきゝますと)	あれあれ聞える汽車の音／汽車の音さへ聞きますと	124	目次の標題は「汽車の音」	
筆箱の中の鉛筆	私の筆箱、蓋とると、／きちんと順番おきまりに、	125		
画ですけれども	まあ かはいゝ／よくよく見ると、ピイピイと	126		(子供の友)
あやまち	[ねえや][いもうと]のこわした植木鉢／はだかで投げ出された花の株	127		(子供の友)
私のポツクリ	私のポツクリ、曇つき／金のししゅうの鼻緒つき	128		
(トケイ)	時計は いつでも／カツチン、カツチン	129	本文に標題の記載はないが、目次の標題は「トケイ」	
早出当番	まだたれも来ぬ学校の／廊下を急ぐ鞆の音、	130	目次の標題は「お当番」	東日小学生新聞
おはかまゐり	おぢい様のお墓は田舎村／杉の木林の岡の上、	131	目次の標題は「お墓まゐり」	
茶わんの絵	私の去年の茶碗の絵／白地に赤の自動車ポンプ	132	目次の標題は「お茶碗」	大阪朝日
風の日	お庭の木の葉が／たくさん散つて	133		
四年生になつて	修身の御本を／開いてみたら	134		
お家のお庭	お家のお庭は ひろい庭／お池があります 円い池	135		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
露のすべり台 朝の庭	雨は夜の間にあやんで、／お庭の何(ど)の木どの葉にも	136	目次の標題は「露のすべり台」	
花火パチパチ	花火パチパチ／花火のほひ	137		いつもにここに
とんぼをにがそ	おへやにはいつて、ガラス戸で／とんぼがひとり、ばたばたして	138	目次の標題は「とんぼをにがさう」	
手のたこまめ	公園に器械体操があつたので／正子ちゃん だつこして させますと、	139		大阪朝日
まめまき	ばんのごはんがすんでから、／大きなおこゑの父さま[の][と]、	140		
せつぶん	今日はせつぶん お豆まき／早くばらばら、豆だまで	141		コードモノクニ 昭和十二年二月号
愛知県成章中学校々歌	朝、渥美の風清く、／樟の嫩葉も映ゆるか、旭。	142		
雨の降る日に	雨の降る日に、／二階で見ると、	144		
朝から雨ふり	今日は、朝から 雨ふりで／庭の木が、みな ぬれてゐる、	146	目次の標題は「朝から雨降り」	キンダブック
梅の花よく咲いた	梅の花よく咲いた／二階の広い日本間の	147		キンダブック
広島県／沼南実業学校々歌	朝日、希望の白帆にあびて／出で行く 梶湾(シワン)の船に見よ	148	目次の標題は「No.165 広島県沼南実業学校々歌」	
栃木県立／大田原中学校々歌	旭光、あまねき 那須の大野／一路[浜よく][旅ゆく][無言の]那珂の流、	150	目次の標題は「栃木県大田原中学校々歌」	
伊勢の竹笛	小さな短かい竹の笛、／お伊勢まゐりのおみやです、	152		
はいはい人形	はいはいしてゐる ふみ子ちゃん／とし二つの色白さん	153		
妹と私との誕生日(栗キントン)の日	二月八日は 妹の／お誕生日です、きまりです、	154	目次の標題は「栗きんとん」	
さびてる鉄	すこうし、さびた私のはさみ、／切りばかしの時、ゑのぐがついて、	155		
青い教室	皆の右の手青い色／図画のお時間に、つきました。	156	目次の標題は「青い(色)教室」	
とけいのうた	少しも休まず、ねもせずに／面白さうに、元気よく	157		
金の鯨	大空高くはねあげた／尾の先までも きんきら	158		
今日の春	見渡す限り、野山をこめて、／霞ぞかゝれる、今日の春。	160		

◆ 創作ノート⑱(昭和12年A)

山の芋畑	山の芋畑 豊年畠／日毎ころころ子芋がふえて	1		
お月さまお湯上り	お月さま、(お風呂から 今お出ましになりました)／円いほつぺがまつかです、	2	目次の標題は「お月様のお湯上り」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
山はだまつてる	山は だまつてる／だまりこくつてる	4		
雀追ひ(ホーイホーイ 豊年だ)	ホーイ、ホーイ、豊年だ／ホーイ、 ホーイ、雀追ひ	6	目次の標題は「雀追 ひ」	
昔の鶯、今の鶯	鶯は／梅の木で、	8		
牛とし三人	赤ちやん 二つの牛のとし／はいはい 上手、をんぶ好、	10		
山と海と町と里と／日 の出、月の出	山の子供は、かういつた／「朝日は、 山から出るんだよ、	12	目次の標題は「山と海 と町と里と」	キング
夜ざくら	をとゝひ、きのふ、今日[三日][ま で]／よくも つゞいて、花ぐもり	14		コドモアサヒ 四月 号
茨城県立／水戸商業学 校々歌	雲表高き筑波嶺は／剛くも毅き象徴に て、	16	目次の標題は「No.168 茨城県立水戸商業校 歌」	
撫順東公園小学校	朝風清き蒼ヶ丘に、／かゞやく、仰 げ、	18	目次の標題は「No.169 撫順東公園小学校々 歌」	
ひかうきごっこ	三だい三だい、また三だい／日本晴の 大空を	20		「保育」 第一号
大雪だるま	兄さんと僕とで、裏庭で／円(まる)め て、固めて、	21		
[気になる][黒の]尾	ワンワン、／黒いから、黒といふ名、	22	目次の標題は「気にな る尾」	東日小学生新聞
雪ふり	雪ふり、雪ふり、／どこまで、いつて も、白いね、白いね	23		
弟の墓	小さな弟の／小さなお墓、	24		
椿の葉鏡	ほこりで白くなつたから、／お水をか けて洗つたら	25		
私のお裁縫箱	私のお裁縫箱、／よいお裁縫箱、	26		
重いつよい弟	重いこと、重いこと、／私の弟、名は 健生、	27	目次の標題は「重くて 強い弟」	
ふしぎな霧	ゆふべは、／ふしぎな白い霧、	28		
刈込の音	パチパチ、パチンパチン／木に登つて る植木やが、	29	目次の標題は「植木の 刈込」	
[たる][子供]みこし	わつしよいわつしよい、わつしよい、 しよい／おみこしおみこし、子供のお みこし、	30	目次の標題は「子供の みこし、樽みこし」	
輝く朝日	輝く朝日に、雲はれて、／[碧空万 里][虚空一環]、風もなく	32	「(亜欧連絡大飛行声 援歌)」「(応募せ ず)」と注記	
お船のおせつく	毎朝わたる、俎板橋の下に、／けさ 二艘とまつた	34		
秋の野で(とるのはよ さうか)	芒の穂が伸びた。／私より高く、空ま で伸びた。	35	目次の標題は「秋の野 で」	
つぼみの桜	咲くな、さくらよ、／つぼみの桜。	36		
大さうじ	どこのお家も 大さうじ／パタパタ、 はたきで、 はたいてる	37		東日小学生新聞 幼

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
おばけ大会	おばけ大会 大おばけ、／入口、すぐの犬入道。	38		幼倶
早出当番	誰よりも一番早い、早出当番、／気もちよひ	40		
にはか雨(夕立)	ざアざア、いやな俄雨、／ごろごろ恐いごろごろさん	42		幼年クラブ 十三年九月号
涼しい雨	涼しい雨ふり、お久し振ね、／お庭のすみの花石榴	43		家の光
朝顔[朝][早]起き	朝顔早起 ねむくない／夜の間に 夜露をよく吸つて、	44	目次の標題は「朝顔早起」	小学生新聞
折紙のあたま	折紙は、／どちらへ向けても、まつ四角	45		「おとつれ」
長唄 雪だるま	昼間の風も 入日と共に、／すっかり止んで、日が暮れて、	46		
小猿の酒買(つゞき)	危ないぞ危ないぞ、えつさつさ／株つが、出てるぞ、えつさつさ	49	目次の標題は「小猿の酒買(つゞき)原作、大正十五年」	
てるてる坊主(一)	てるてる坊主、ありがたう。／うれしや、けさの此の天気	50	目次の標題は「てるてる坊主(その一)」	コードモアサヒ 六月号
てるてる坊主(二)	明日こそ、待つて待つてみた／楽しい楽しい遠足日、	51	目次の標題は「てるてる坊主(その二)」	東日小学生
神辺小唄	お城山から、神辺見れば／ならぶ煙突(ホンマニナ)	52		
ささなみ音頭	山は富士山、湖水は琵琶湖／日本一の湖畔の生れ、	60		
日本特殊鋼株式会社々歌	日毎、栄ゆく皇国の、／すがた さながら昇る日に、	64		
「日特」愛国会[の唄][々歌]	国際親善、はた平和／ほゝゑみ、よろこび、さいはひの	66	目次の標題は「No.171 同 愛国会々歌」	
長唄／雪合戦	降る降る雪が一。／積る積る、雪が一。	72	「(P.46「雪だるま」姉妹篇)」と注記	
銀世界／大雪	ゆふべ庭木に、さらさらさら一／風もないのに、さらさらさら一。	74	目次の標題は「長唄「銀世界」」	
近畿和歌行	旅十日、ゐて行く少女百人の名ゆゑ／カードをえらびて書きね	76	目次の標題は「和歌、近畿和歌行」。短歌190首	
上海居留民国立／日本商業学校々歌	旭光匂う桜花／はえある校章とかざさずや	90	目次の標題は「No.172 上海、日本商業学校々歌」	
満洲／吉林高等女学校々歌	朝日に匂ふ山桜／聖き容姿(すがた)	114	目次の標題は「満林吉林高女校歌」	
東京市大岡山 尋常 小学校々歌	御国の象徴(しるし)、我が矜り、／旭の御旗、しめすらく一	116	目次の標題は「東京市大岡山小学校歌」	
奉天、敷島 尋常 小学校々歌	朝日輝やく、敷島の／大和心か、桜花。	118	目次の標題は「満洲奉天、敷島小学校々歌」	
台湾 嘉義高女校歌	御空の王者と、そゝりたつ／新高山も白雲に	120	目次の標題は「No.176 台湾、嘉義高女校歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
新那須詠草(その一)	真夏と[は][も]知らでや鳴ける鶯に今日／も楽し[き那須の高原][く涼し新那須]	122	目次の標題は「和歌、新那須詠草(その一)」。短歌10首	
児童オペラ／浦島太郎	序辞／鶴は千年／亀は万年、	124		
霜やけお手々	私のお手々 霜やけお手々／しもやけ、私、大きらひなのに、	147		
お猿のお家	お猿さんのお家は、お猿さんばかり／お山のおつぺんのお猿さん	148		子供の友 いつもにここに
えゝまたあした	「何だか、もう、おそいのね」／「さうよ、もう、おそいわね」	150		子供の友 いつもにここに
花瓶の写生	私の写生は、花瓶です。／一輪ざしをかきませう	151		
電線ゆらゆら	電線ゆらゆら、／大ゆれ、大ゆれ、	152		
雪ですね	「雪ですね」「雪ですよ」／「つむかしら」「つむで[せう][すよ]」	153		
おゑんまさまあり	おゑんま様は昔から／嘘をつく子の舌を抜く	154	目次の標題は「おゑんまさま」	
お彼岸の入(お墓まあり)	お彼岸の入で、朝の中、／皆で、自動車で、墓まあり、	156	目次の標題は「お彼岸の入の墓まあり」	
湯たんぼちゃん[ちよぼちゃん]	お腹の中に、お湯一ぱい／ねるに、くるくる、くるまって、	158	目次の標題は「湯たんぼさん」	キング
をしどりさん子雀さん	泉水のほとりのをしどりさん／金網の中に 箱一ぱい	159		コードモアサヒ (十二年十一月号)
十六ミリ	今夜も十六ミリ、うつませう、／弟の可愛いゝ歩き振	160		
おそなへのおもち	ポツタンポツタンつきたての／お供餅の大きいの	161		
ジャングルジムの鬼ごっこ	ジャングルジムの鬼ごっこ／わくを上つて、にげて行け	162		
霜焼菓	霜焼につける霜焼菓／ていねいにつけてねましたら、	164		
ねえや	小さい時から長くいたねえやが／おいとまとなまりました。	165		子供の友
初雪	初雪がふりました。／大層つみました。	166		
あすから学校	明日からは、学校うれしいな。はやく先生にあひたいな	167	目次の標題は「明日は学校」	小学生新聞
教室のさくら草	私達の教室の／可愛いゝ鉢の桜草。	168	目次の標題は「教室の桜草」	
赤ちゃんのお風呂	赤ちゃん、大そうお風呂好き、／私も、前からお風呂好き	169		キング
前歯のかけた山本さん	私のすきなお友達、／前歯のかけた山本さん	170		
卵わり	きれいな卵ばつかりね、／おんなじ大ききのばつかりね、	171	目次の標題は「卵割り」	「おとづれ」 第四号 十二年十月号
文鳥ちつちつちつ	文鳥、ちつ、ちつ、／私によく馴れて、ちつ、ちつ、	172	目次の標題は「文鳥、ちつ、ちつ」	キング

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
羊の手袋	大きなデパート 松屋にないの、／伊勢丹、三越、白木にもないの、	173		
お父様御病気	私は、今日は、さわぎません／昨夜からお父様、御病気ですもの、	174		
夏服	今日から、皆が、夏服で／急に夏らしく、なりました。	175		
新しい筆	買って貰ったばつかりの／親筆子筆、	176		

◆ 創作ノート⑱(昭和12年B)

今度のまり	今度のまりは、よくはづむ。ポンポンポンポン ポーンポン。／大きすぎなくて、丁度よく、	1	目次の標題は「今度の毯」	いつもにここにこ
旦那のおみこし	おみこし見たいに、わつしよいわつしよい／太つたお父様を、わつしよいわつしよい	2	目次の標題は「旦那の御輿」	
お二階の梅	お二階のお客間、きれいなおへや。／明るいお床の間に	4		
洋服おはつの小使さん	洋服きたね、小使さん、／やつぱり僕たちと同じに金ボタンだね、五つだね。	6	目次の標題は「洋服を着た小使さん」	
新那須詠草(その二)	日の暮ををしみて鳴きし日ぐらしの夜／明よるこびなくや新那須	7	短歌37首	
アカシアのかれつば	学校の帰りに／停留場の近くまで	14	目次の標題は「アカシアの枯れつ葉」	
お家の雀	朝見たら／お庭の椿で、チュンチュンチュン	15		
私も明後日から	私も明後日から、かけて来ます。／みんな笑つても平気です。	16	目次の標題は「私もあさつてから」	
男の子のお祝ひ日	招魂祭でお休み日、端午の節句の二三日、／朝早く、汽車で父さまと	18		
お庭のかしは	お庭のかしはの大きな葉／地面に、一めん、ちつてゐる。	20		
鉛筆三本	えんぴつ三本、／みどりに、ぼたんに、うす茶いろ、	22		
あらふしぎ	あらふしぎ／先生にエハガキ出した日に	23		
今度の絵手本	今度の絵手本、よい絵手本、／すきな絵、きれいな絵ばつかり。	24		幼
私はおばあさん	私は明日から おばあさん／目がねを、かけて来ますから、	26		幼
お二階できく音	お二階で、夕方きこえる音は／ペポペポ、ポツポツ、又ペツポー、	28		
冬は不思議	冬は 不思議な事ばかり／泉水の水は、すきとほつてきて、	30	掲載紙誌の切抜貼付	
新那須詠草(その三)	口笛に流行唄を合せ来し熊笹小径／の御用聞二人	32	短歌31首	

作品名	うたい出し（冒頭）	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
夏はくおくつ	夏はくおくつ、白いくつ／半日はいて歩いたら、	37		
十六ミリとママー人形	をぢさんは、十六ミリを／此の間お買ひになりました。	38	目次の標題は「ママー人形」	
まつかな夕日	まつかなまつかなきれいな夕日、／電線に並んだ西向とんぼ	39		
ゆふべの大雨	ゆふべ[は][の]大雨、大あらし／お庭の隅のいちゞくは	40		
おそろひのお湯のみ	今日から、学校はおべんたう、／おはし、おゆのみ、おふきんも	41		
今日から十月	今日から十月 黒い服、／朝は、市電も省線も、	42		
公園のスケッチ	公園のスケッチ、／お上手ねえ、どなたでせう。	43		
はじめての蛍	ねえやが、田舎で、とつて来てくれた／ほんとの蛍でございます。	44		
こぼれさうな燕の子	燕の子供が、大きくなつて、／小さな巢から、のり出して、	46		いつもにここにこ
姉さんのかへる日	いつもは聞えぬ汽車の音／姉さんが	47	掲載紙誌の切抜貼付	スバル
初蟬	ことしはじめて、蟬の声、／どこでないてる蟬の声、	48		
昼間の蛍	かごの中、／蛍がのつそりのつそりこ、	49		
豆の皮むき	豆の皮むき、パクツ、パクツ、／鞘（さや）の外から、ふくらみを	50		
お日様のしづく	海は、きらきら金の海、／海から上つたお日様は	51		
コツプのサイダー	コツプについだら／シユツ、シユツ、はねる	52	目次の標題は「コツプについだサイダー」	いつもにここにこ
先生のお家で先生は	先生のお家で先生は／おきものめしていらつした	53		「おとづれ」
私のお顔とお口	私のお顔は すぐ、画にかける、／お鼻は角ばつて大きいお鼻	54		
夕立だしぬけ	大夕立だ、だしぬけだ、／ばちばち、ばちばち、大きな音で	55	目次の標題は「夕立大粒」	
子猫と雀	二階の出窓の格子の中に／子猫一ぴき、坐つてる	56		
うちの燕	うちのつばめは海山こえて、／古巢忘れず、今年も[もどり][かへり]	58		
運動会	朝から今日は日本晴で、／待ちかねてみた運動会、	60		
田植	田ん圃、ひろびろ、田植時、／田植せわしや、忙しや	62		
金ノ斧	オ池ニ オトシタ マサカリハ／コレカト トハレテ 正直ニ	64		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
浦島さん[浦島][太郎]さん	浦島さん、[浦島][太郎]さん／御恩返しに、私が、	66	目次の標題は「浦島さん浦島さん」。「(十四年三月、改作)」と注記	
新那須詠草(その四)	川の瀬と音をきそひては山蟬／のなきしきるなりたえ間あらせず	68	短歌13首	
こほろぎ	獨り静かに、お復習(さらへ)してる／お窓の下に、今夜も来ては	71		
軍旗	尊とい軍旗、尊とい軍旗、／兵士は、みんな銃剣つけて	72		
ラヂオ	JO[A][B][C]K、さアさアきかう／子供の時間でございます	73	目次の標題は「ラヂオ(子供の時間)」	
潜水艦	海の底をもぐつては／敵艦狙つて発射する	74		
豊年(稲刈)	今日も朝から上天気／田ん圃一面、金の波	75		
富士の山	何の山よりも高い山／どちらの方から、見上げて	78		二年
神風	大きな船で、大海埋め／小さな日本を一のみと、	80		三年
千早城	兵は何んなに、わづかでも／かまへは、小さく、せまくとも	82	「(十四年改作)」と注記	
新那須詠草(その五)	谷わたり、くりかへしなく鶯はその節いま／だ気にみたぬとや	84	短歌38首	
若葉	野山の花は ちりはてゝ／若葉 あまねく萌え出でぬ	91		五年
曾我兄弟	をさなく父を失ひて／夢にも父をしたひつゝ	92		尋四
夜があけた	夜があけた、夜があけた／日の光、日の光、	94		尋五
楽しい小川	さらさら、さらさら、さらさら、小川は流る／わき目もふらずに、休まず流る	96	目次の標題は「小川は流る」	
金魚	ゆらゆらりと、つれなつて／すんで、つめたい 水の中	98		
牛若丸	明るさ月にさそはれて／牛若丸が只ひとり	99	「十四年改作」と注記	
かけっこ	そら、／一せいに かけ出した	101		
土生雑詠	島山にこたま朗らに朝早う今日／も出船の東し西す	104	短歌9首	
兎舟狸舟	兎の船は兎舟、／狸の舟は狸舟、	106		
岩戸開き	岩屋におかくれ遊ばしたので／世界が急に、くらやみなので	108		
広島県土生町 尋常／高等 小学校々歌	朝夕映えて、天狗の山も／絵にさへまざるほまれも高き	112	目次の標題は「No.177 土生小学校々歌」	
琵琶歌「肉弾飛行自爆大尉」	東垂の空に輝く日、／蔽ひ勝なる妖雲を、払はんとして、	114	目次の標題は「肉弾飛行自爆大尉」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
広島県因ノ島／土生高等女学校々歌	清らに澄める碧空に／矜も古き青影山の	120	目次の標題は「No.178 土生高女校歌」	
自爆大尉	東亜の妖雲払はんと／奮ひ起ちたる皇軍は	122		
土生小唄	春は浜にもかげろふもえて／渚伝ひの遍路の衆と、ソレ	124		
図書祭	遠くの遠くの国のこと、／昔の昔の古いこと、	134		
家の光、いろは歌留多	一番のりの日[章旗][の御旗]／いつもニコニコ旭日をあびて、	136	目次の標題は「家の光 支那／事変 いろはかるた」	
あひる軍	集れ集れ、あひる軍／勢ぞろひして進軍だ	153		コードモアサヒ 十三年二月号
日本子供のうた	どこからみても、いつみても／気高く、清く、美しく、	154	目次には標題の記載はない。「(P.158に改作)」と注記	
日本の子供	波は、きらきら金の波／海の向かふに昇る日の	158	目次の標題は「日本子供の歌」	コードモテキスト 十三年正月号
かちどき	勝ちぬ勝ちぬ、御軍勝ちぬ／海に、陸に、はた空に	160		
京都府女子師範／立桃山高女 校歌	桃山の みさゞぎ仰ぐ／学び舎の、ほまれ[は][を]永久の	162	「(十三年、P.45に改作す)」と注記。目次の標題は「No.179 京都府立女子師範／桃山高女校歌」	
海	どこまで つづく[海原][大海]ぞ、／世界のはての はてまでも	164		尋四
いなばの白兔	兎よ、おまへ、ないてるね／おやおや、どうし[て][た] 丸はだか	166	「(十四年三月、改作)」と注記	尋二
かちかち山	日和は よくても、はれてても／何だか、疲れたやうすだね	168	「(十四年三月、改作)」と注記	尋二

◆ 創作ノート⑩(昭和13年)

鬼ごっこ	ジャンケンポンよ、アイコでしよ、／鬼が きまるか、きまらぬに、	1		
羽衣(A)	波も静かな三保の浜／松原つゞき、見上げれば	3	「(BはP.9)」と注記	
大江山(A)	昔、都の京都へと／大江山から出て来ては	5	目次の標題は「大江山」	
—(B)—	女や子供を とつてくふ／鬼[の][は]名前[は][も]、おそろしや	7	目次の標題は「大江山」	
羽衣(B) (三保の漁士)	富士を見上げる三保の浜、／松の小枝に、めづらしい	9	「(A、P.3にあり)」と注記	
青葉	山の木、野の木、木といふ木には／円い葉、長い葉、みな青々と、	11		
遠足	いつもに まして よく晴れて／今日のは、楽しい遠足日	12	「(十四年改作ス)」と注記	(小学国語読本 巻五、七による)

作品名	うたい出し（冒頭）	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
少彦名のみこと	出雲の海の波の上、／浮んだ舟は、豆のさや、	15	「(十四年改作)」と注記	
汽車汽車速い	汽車、汽車、速い、汽車速い、／満員列車も、煙を長く後にして	17	目次の標題は「汽車々々速い」	
田植	二三日続いた[雨降][よい雨]で／池にも川にも、水一ぱい	19		
お玉じやくし	お玉じやくしは、[池][水]の中、／ぞろぞろつづいた行列で	21		
水の旅	山の木の葉で休んでた／雨の小さなしづく	23	「(十四年P.20改作ス)」と注記	小学国語読本 巻五、十五
夏休み	早く来い来い夏休み／毎朝早くおきて行こ	25	「(十四年、P.26 改作)」と注記	
軍用犬金剛那智	満洲事変の最初の夜、／日本軍にしたがつた、	27	「昭和十四年、P.25に改作」と注記	
麦まき	畑一面の黒い土、／深くほりかへし、麦をまく(麦をまく)。	29	「(改作、十四年、P.29)」と注記	
二つの玉	火照の命は、お兄さま／釣竿、釣針、大切に	30		
村祭	今日こそ村のおまつりで／空は、朝から 日本晴	35		
雪の夜	入日と共に、風落ちて、／しづかにしづかに、日はくれぬ	37		
梅の花	人知れず、咲きてあり、／吹く風寒き庭の隅、	39		
東郷元帥	東京の、半ばをば／焼きつくしたる大震災、	39		
大東京	天地てら[すと][して]、ひんがしに／日の出づる国、大日本。	41		
三種神器	東に国あり大日本／世界にはこる三種の神器、	43	目次の標題は「三種の神器」	
水兵さんの慰問袋	小さな軍艦、駆逐艦、／水兵さんのおへやにも	44		
京都府女子師範／桃山高等女学校 校歌	日夜の歩み、ひたすらの／希望に勇みて、息むなき	45	目次の標題は「京都女師／桃山高女校歌」	
無言の勇士／一、軍用犬	世界にはこる大日本の／陸軍部隊に加はつて	47	目次の標題は「無言の勇士 軍用犬／軍馬／軍用鳩」	愛国唱歌
無言の勇士／二、軍馬	吹雪も、闇も 物とせず／山路も、沼地も、ましくらに	48	目次の標題は「無言の勇士 軍用犬／軍馬／軍用鳩」	愛国唱歌
無言の勇士／三、軍用鳩	小さな翼に力の限り／砲煙うづまく大空高く	49	目次の標題は「無言の勇士 軍用犬／軍馬／軍用鳩」	愛国唱歌
号外	出た、出た、号外。／「号外」、「号外。」	50		愛国唱歌
もし春風になれたなら	もし春風になれたなら／御国の為に戦場で	51		「愛国唱歌」第一集

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
風船玉	風船だま はづむよ／ ポーン、ポンと、はづむよ	52		
夢の汽車	春のまひるの夢の中／コツトンコツトンコツトンコツトン	53		
朝鮮雑詠	成歓は日清役に覚えし名、勇／ましかりし松崎大尉	54	短歌32首	
満洲漫詠(その一)	汽車来れば土手に草はむ子供牛／親をはなれて独りにげて行く	60	短歌44首	
その二	泥水に泳ぐ子らあり、大人らは物かげ／に逃げゆく真昼日に	68	目次の標題は「 〃 (その二) 」。短歌15首	
広島県／沼隈郡 金江尋常／高等 小学校々歌	緑いろこき山松も、／容姿も、崇く懐しき	71	目次の標題は「金江小学校々歌」	
東京市／小石川区 竹早小学校	[朝日まづさす][昇る日の国]日の本の／[さかゆく][はえある][かがやく]都に、向上の	73	目次の標題は「竹早小学校々歌」	
満洲、興安東省／博克図日本尋常／高等 小学校々歌	満洲(ます)の天地(あめつち)明らけく、／日[朝]毎 さし出づる日の如く	75	目次の標題は「博克図小学校々歌」	
京城公立中学校々歌	慶熙ガ丘の朝風に／仰げ、旭日(きよくじつ)、あまねき光	77	目次の標題は「京城中学校々歌」	
新那須詠草(一)	鶯は今日も来啼くや梅ならぬ白百合／めづや夏の新那須	79	短歌5首	
ばくげき中止	大満洲の広い空／どこにも浮いてる雲もなく	80		
[露][ソ]満国境にて(その一)	曙はやき大黒河／洋々たりや松花江	83	目次の標題は「ソ満国境にて」	
満洲国吉林市朝日尋常小学校々歌	朝毎、東にのぼる日の／輝やかしさよ、正しさよ、	85	目次の標題は「吉林朝日小学校々歌」	
満洲国満洲里小学校々歌	矜も高く 度ましく／ 翳すは御国の象徴(シルシ)の桜花(サクラ)	89	目次の標題は「満洲里小学校々歌」	
奉天高等小学校々歌	満洲(まんしふ)大野(おほの)、昇る日に／北陵の松、こみどりはえて、	91		
琵琶歌「鉄兜の桃」	(序) 大凡人のすむ所、春(し)来[りな][ら]ば花は咲く。／花し咲きなば、人[は][の]愛づ。されども、明日の命をば	93	目次の標題は「鉄兜の桃」	
満洲撫順新屯小学校々歌	濃緑はえて、若松の／平地に岡に、また山に	101	目次の標題は「撫順新屯小学校々歌」	
広島県／芦品郡 府中東尋常／高等 小学校々歌	日毎笑みては昇りては、／希望を、力を、よろこびを	103	目次の標題は「府中東小学校々歌」	
馬の出征	明日こそ、お前も出征だ。／今朝から、一日、お家では	105		
銀紙集め	ぎんざら銀紙集めませう。／煙草の銀紙、すてないで、	107		
満洲奥の汽車の中	北満州の奥の奥／汽車は一日一回 [よ][ね]。	109	目次の標題は「北満洲の国民行進歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
新設／青島飛行場	出来[てる][たよ]出来[てる][たよ]、 飛行場／土もり、地ならし、立派にす んだ、	111	目次の標題は「青島飛 行場」	
飛行場の草むしり奉仕	匪賊だ、馬賊だ、敗残兵だ、／皆が、 勢、盛りかへした[ぞ][よ]	112	目次の標題は「飛行場 の草むしり」	
満洲国／熱河省 承德 尋常／高等 小学校々 歌	輝き昇りて 天地照らす／朝日ぞ、祖 国日本の象徴、	113	目次の標題は「承德小 学校々歌」	
哈爾濱桃山 尋常／高等 小学校	日毎あまねく天地に／みちわたる日の 光とも	115	目次の標題は「哈爾濱 桃山小学校」	
竹のうた／(私立 竹原 幼稚園のうた)	風に サラサラ竹の葉が／うたをうた ふよ、よろこんで。	117	目次の標題は「竹のう た」	
私立竹原幼稚園／全出 席の祝賀歌／(お祝ひ 行列の行進曲)	皆[元気で][丈夫で]、皆ニコニコで／ 休みなしたよ、誰一人	118	目次の標題は「竹原幼 稚園全出席祝賀行列」	
友の戦跡(新戦場弔歌)	風が吹く一只、しゅうしゅうと吹く。 ／心ありや、なしや。	121	目次の標題は「新戦場 弔歌」	
愛国花瓶	きれいなお花を 二三輪／投入してあ る此の花瓶。	123		
蜂も非常時応召	村の[鎮守][お宮]の裏山の／大楠木の 洞にもみない	124	目次の標題は「蜂も非 常時」	
汽車は生きてる	汽車は生きてる、生きて走つてる／息 をはきはき、ドンドン走つてる。	125		「おとづれ」第二巻 第四号(十四年四月一 日)
汽車の煙の白い蛇	長い大きい白蛇が、／おぼけが、緑の 松原を	126		
飛行機と地面	飛行機、々々々、高い空／プロペラ唸 らせ、空ばかり	127		「おとづれ」第二巻 第三号(十三年十一月 一日)
固めよ銃後／をみなご なれど(銃後のうた— 女子のうた)	かよわしと、いはるれど、／われら は、をみなごなりけれど、	128	目次の標題は「をみな ごなれど」	
汽車にも勲章	汽車にも勲章やませう／よし、戦争 はしなくても	129		「愛国唱歌」第三集
固めよ銃後／皆は子供 (銃後子供のうた)	(男兒)僕等は子供、小さい子供／大人 でないから、男だけれど	131	目次の標題は「皆は子 供」	
固めよ銃後／友は戦場 (銃後男子のうた)	昇る日の国、日の本の／使命新に、銃 とりて、	133	目次の標題は「友は戦 場」	
二重橋	二重にかかった立派な橋と、／昔のま んまの大きな御門。	135		
新那須漫詠	裾野五里白く目につく[丸][長]屋根は 去歳／も親しみ見なれたる家	136	目次の標題は「新那須 詠草(二)」。短歌7首	
軍用列車の通る度	軍用列車の通る度、／日の丸ふつて、 とび出して	138		「愛国唱歌」第四集
出征途上	小さな村のまん中に／大きな国旗をお したてて、	139		戦友文庫
長期抗戦建設	畑や田圃の作物が／雨でも風でも日で りでも	140	「(十四年)民謡に改 作」と注記。目次の標 題は「長期抗戦」	「子供の天下」

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
笛の名人	恐ろしき／海賊どもが 乗りうつり	141		
船が出る	船が出る出る、船が出る、／朝日を浴びて、意気高く、	143		
どこでも目につく日章旗	朝鮮どこでも目につくは／立木まばらの丘のかげ、	144	目次の標題は「異郷の日章旗」	
川辺の螢	里の小川の夕暮を／岸の小草に光るあり	145		
青空	風にゆらめく畑のもの／野原に茂れる草みなが、	146		
扇的的	波やゝ高き屋島潟、／平家方より、緋袴の	147	「(昭和十四年八月、改めて新作P.73)」と注記	
菊	寒さに堪へ、／霜にもおごり、	150		尋四
戦死したパパのお写真(伴田伍長を悼みて)	たった一人の坊やの写真／ポケットにして、戦死した	151		
耳の謎	東に一人／西にも一人	153		「おとづれ」 いつもここにこ
大きな大牛	大きな大きな大牛が／お水をのみに来たときゝ	154	「昭和十四年P.24に改作」と注記	
高知県／高岡郡 宇佐町小学校々歌	四方にあまねく明るき日かげ、／御光あびては、新らしく	155	目次の標題は「No.193 高知県宇佐小学校々歌」	
神奈川県湯河原 尋／高 小学校	よろづの国を、天地を／てらす日に映え、香も清く	157	目次の標題は「No.194 湯河原小学校々歌」	
むかで競争	むかでだむかでだ、大きなむかでだ／大へんな むかでだ、	159		
番号合せの二人三脚	東より、東人、幾人／西より、西人、幾人	160	目次の標題は「二人三脚」	
カハイイ勇士	オセナニ ハイノウ、トツゲキダ／オカタニ テツボウ、トツカンダ	161		コドモアサヒ
買物競争	今日はせはしい買物日／年一回の出買ひの日	162		
日本コドモマーチ	東洋一の大国の／支那と戦ひ、大勝利、	163	目次の標題は「日本コドモマーチ(その一)」。「(改作 P.167)」と注記	
ジョアンダークを送る	少女(をとめ)なれども ジョアンダーク	166		
日本子供マーチ	明治昭和の大いくさ／いつも、必らず大勝利、	167	目次の標題は「日本コドモマーチ(その二)」	
新京桜木尋常小学校々歌	日毎 栄ゆく皇国(くわうこく)の／新らしき代の御民われ	169	目次の標題は「No.196 新京桜木小学校々歌」	
岡山県第一岡山高女校歌	朝日に夕日に、濃緑はゆる／龍の口山、操山、	171	目次の標題は「No.196 岡山第一高女校歌」	
岐阜県立／大垣中学校々歌	美濃平原の朝ぼらけ／旭光、さんと輝[きて][くや]	173	目次の標題は「No.197 大垣中学校々歌」。「(昭和十四年P.34に改作)」と注記	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
小さな鬼ごっこ	さらさら海から風が吹く、／小波、浜 辺へ、はひ上る、	175		
神田のおうち	ながいお休み、只ひとり／田舎の一番 仲よしの	176		

◆ 創作ノート㉑(昭和14年)

満洲国／牡丹江 円明 尋／高 小学校々歌	光あまねく、天(てん)に地(ち)に／望 を笑まひを力みたす陽の	1	目次の標題は「円明小 学校々歌」	
満洲国／三江省 佳木斯 日本 尋／高 小学校々 歌	朝日に匂ふ桜花／御国のしるし、わが ほこり、	2	目次の標題は「佳木斯 小学校々歌」	
鶯さんと雪江ちやん／ なきつくら	お祖母さんのおへやで鶯さん／お母さ んのおへやで雪江ちやん	4	目次の標題は「鶯さん と雪江ちやん」	
金魚のお家	大きな広い金魚のお家、／金魚の親子 のガラスのおうち	6		
そら豆	私の好きなそら豆さん／皆、青くて、 やらかくて、	8		
少彦名命	着物は、虫の皮衣、／のつてる舟は豆 の莢、	9		
東京市／青山南町 御茶 の水家庭寮々歌	天地に、あまねくも／光を、望を、満 たす陽を	10	目次の標題は「御茶水 家庭寮々歌」	
噫、彌富航空兵中尉	大天地にあまねくも、光を力を／歓喜 を、満ち溢らせて、天照らす。	12	目次の標題は「噫彌富 中尉」	
千早城	兵はどんなにわづかでも／構は、どん なにせまくても	18		
牛若丸(五条橋)	刀が千本ほしいのに／一本足らぬ弁慶 が	19	目次の標題は「牛若 丸」	
水の旅	山の木の葉の一しづく／落ちて、つど ひて 行く中に	20	「昭和十三年、P. 23改 作」と注記	
麦まき	どちら向いても黒土畠／今に、きれい な青麦畠、	21	「昭和十三年、P. 29の 改作」と注記	
遠足	今日は朝から、日本晴、／待ちかねて みた遠足日、	22	「昭和十三年、P. 12の 改作」と注記	
じまんの大蛙	お腹が大そう大きくて／何より自慢の 大蛙、	24	「昭和十三年、P. 154 の改作」と注記	
軍用犬那智金剛	満洲事変の最初の夜／日本軍のまつ先 を	25	「昭和十三年、P. 27改 作」と注記	
夏休み	早く来い来い夏休み／ラヂオ体操、草 むしり	26		
いなばの白兔	「兎よ、お前は、泣いてるね、／オヤ オヤ、どうした丸裸」	27		
かちかち山	(狸)「兎君、兎君、／かちかち いふ のは何の音」	28		
一寸法師	一寸法師は、小さな体、／お椀の船 で、お箸の櫂で、	30		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
浦島さん浦島さん	浦島さん浦島さん／御恩返しに、竜宮へ、	32	目次の標題は「浦島さん」	
大垣中学校々歌	美濃平原の朝ぼらけ／旭光あびて、大伊吹、	34	「(前年末から改作)」と注記	
深川区／千石町 川南尋／常 小学校々歌	朝日に匂ふ山桜／大和心か、わが校章(しるし)	36	目次の標題は「川南小学校々歌」	
室積 (むろづみ) 学園の歌	御空にゆるく波うちて／朝日に映ゆる峯つゞき	38	目次の標題は「室積学園々歌」	
照宮様の三人四却(その一)	聖戦三年、日本が／上下心を合せては、(一にして)	40	目次の標題は「三人四脚(照宮様御競争)」	
照宮様組(その二)	三人並んで脚六本の／中の四本を二本づゝ	41		アサヒグラフ 六月七日号
奉天千代田尋常／高等 小学校々歌	朝日に匂ひ気高きは／大和心か桜花	42	目次の標題は「奉天、千代田小学校々歌」。「(昭和十五年P. 71に改作)」と注記	
満洲国間島省／延吉(エンキチ)尋常／高等 小学校々歌	朝日に高き城子山／つよき光に天地の	44	目次の標題は「満洲、延吉小学校々歌」	
和歌山県白浜陸軍療養所の歌	浜木綿(はまゆふ)薫る白浜に／朝、明るき陽を浴びて	46	目次の標題は「和歌山県白浜療養所々歌」。掲載紙誌の切抜貼付	
福井県吉田郡／東藤島村、大和田尋常小学校歌	朝に仰ぐ 白山の／高きは永久の理想(りさう)にて	48	目次の標題は「福井県大和田小学校々歌」	
いくさに負けた国のこと	大きな大きな親豚が／弾丸にあたつて死んだ[とは][こと]	50	目次の標題は「いくさにまけて」	
新民謡 長期建設	野では、田のもの、畠(はたけ)のものが、ヨ／程よい雨に、程よい風に、	52	「(十三年、69の改作)」と注記	
ウンドウクワイ	ヂメンニ リヨウテヲ、 カルクツ [キ][ケ]／オトナノ トホリノ スタートダ、	54		コドモアサヒ 十四年十月号
銃後の女性	かよわけれども、をみな子なれど／父を、夫を、はらからを	56		愛国唱歌 第四集
靖国神社	都の真中、[宮城近き][九段の岡に]／[九段の岡の][神々しきは] 靖国神社	58		朝鮮総督府「初等唱歌」第四学年用
東亜のコドモ行進曲／アジアの子供(原作)	日かげ あまね[く][き]、[天地][大陸]は／広く、はるけし、となりして。	60	目次の標題は「アジアの子供(一)」。「(36に改作)」と注記	
国技相撲	劔なし、銃なし、兜なし／それでも兵士が、戦場へ	62		朝鮮総督府 初等唱歌 第四学年
アジアの子供うた	アジアは広い、海広い／広い海から、日がのぼる	64	目次の標題は「アジアの子供うた(二)」。「(34の改作)」と注記	大日本レコード 興亜童謡
紫雲院百日忌	百日忌それはうつつか、日毎夜毎、こゑ／も笑まひも目に耳にあるを	66	目次の標題は「和歌一紫雲院百日忌」。短歌7首	
温泉宿の大玄関	温泉宿の大玄関／ハイヤで、パスで、ブラブラで	68		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
新那須漫詠(一)	よるこぶは那須の五峯か、子供らか／ 幾日振なる[この朝晴(あしたはれ) を][今日のあさばれ]	70	目次の標題は「新那須 詠草(1)」。短歌11首	
岩戸開き	岩屋の外の賑はひが／如何にも面白さ うなので、	72	目次の標題は「岩手開 き」	
扇的	平家方なる船の上／棹の先なる的は 何、	73		
空の勇士	天空無礙に、颯爽と／翔けて、一億同 胞の	74		
秋	一羽(ひとり)空飛び行く鳥は何、／は るけく 行[けるに][きても]尚見ゆる	76		
雲／天なる魔術師	空の広きに、面白く、／形[も][を]た へず、異(こと)にして、	77	目次の標題は「雲」	
童謡／今こそ二千六百 年	金のとんびが、お弓から／いきほひ するどく、とんで行き	78		
唱歌／輝やく二千六百 年	天地と共に きはみなく／栄ゆく御国 の礎を	80		
合唱／皇紀二千六百年	燦たり、／日の如、東海に	82	「(改作、P.148)」と 注記	
[をば様のおうち][お 久しぶりね]	お久しぶりね、／をばちやまのお家	84	目次の標題は「をば様 のおうち」	「青い窓」
お父様往診のお伴	お父様往診の自動車は／今日からおは つの流線型	86		
民一億の奉讃歌	あだ波も／醜草も	88		
新那須漫詠(二)	声あげてぢやれつく、犬を逃げ来し は、／宿の浴衣に伊達巻の人	90	目次の標題は「新那須 詠草(2)」。短歌14首	
噫手島少佐	聖戦二年 皇軍の／海陸空の協力に	92	掲載紙誌の切抜貼付	
大塚講話会(子供の 歌)	子鳩も ホロホロ来てうたへ／兎も ピョンピョン来てをどれ	98	目次の標題は「大塚講 話会—子供会—の歌」	
満洲から来た妹	会ひたかつた会ひたかつた妹が、／遠 い満洲から来たのです。	100		
お弁当袋	きれいな お弁当袋です、／赤い大 きなお花の模様、	102		
嵐の翌朝／つつかい棒	お庭の梅の木、もみぢの木／高い松の 木 強いのに	102	目次の標題は「嵐の翌 朝」	
はだしの水まき	はだしの水まき 涼しいな／バケツに 冷たい水一ぱい	104		
雨つゞき	空に向つてどなりたい／今日で雨ふり 幾日目(いくにちめ)、	106		「青い窓」
わらびひげ	女猫です、子猫です。／それでもたま は、口ひげを	107	目次の標題は「猫のわ らびひげ」	(のべちてんま)
はい、[おめでた う][あけまして]	「はい、おめでたうございます」／大 きなお口をあけたまゝ	108	目次の標題は「はい、 おめでたう」。掲載紙 誌の切抜貼付	「小学生新聞」 十 五年一月
羽子板かざり	母様、姉さまお二人に、／今年は、私 も手伝つて、	110		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
雨もり	ざアざア、雨もり、大さわぎ／廊下だ、納戸だ、お二階だ	112		
ラジオ体操のはじまる前	静かなこと、／ラジオ体操 はじまるすぐ前、	114	目次の標題は「ラジオ体操始まる前」	
門松とれて	門松とれて 淋しいな／お正月さんが、かへる時	115		
毎日あるといゝ誕生日	毎日 あると[いいんだけど][うれしいな]／誰かの めでたい誕生日	116		
ほんとのたどん	たどん箱のたどん／みんなが黒い	117		二十三年 シヤボン玉 新年号
とんぼのとむらひ	お庭の五葉の松の下／熊笹のきれいな葉の上に、	118	目次の標題は「とんぼのおとむらひ」	
植木屋の畠	うゑ木やさんの 畠(はたけ)は広い／はたけに一ぱい、きれいに並んで、	119	目次の標題は「植木屋の畠」	
朝がほしぼつて	朝顔の／しぼんだお花を、しぼりませう	120	目次の標題は「朝顔しぼつて」	(のべちてんま)
縄とびのおもち	一だん、二だん、三だん、四だん／五だん 六だん、皆と、どんどんとんで	120		
雲をみる子／夕やけ雲	夕日まともに まぶしくても、／遠くの見える物干台、	122	目次の標題は「雲を見る子供」	(青い窓)
庭木も霜焼	ことしの初雪まだきえぬ／積つたまんまで、日もてらず	124		
霜やけ	私のあんよは、しもやけあんよ／毎年きまつて、可愛さうなあんよ	125	掲載紙誌の切抜貼付	
赤ちやん	お隣の赤ちやん、大へん可愛いゝ女の子さん／ いつでも、一人でも、ニツコニコ	126		
朝のお母様	毎朝、私が学校へ、出かけるまでのお母様／おいしいおいしいおべんたう	127		
かなりやさん	カナリヤさん お早うさん／きれいな、かごに 朝日がさして、	128	目次の標題は「カナリヤさん」。掲載紙誌の切抜貼付	
港のとんび	とんび、ヒョーロロ、ゆつくりね、／出船、入船、見下して、	129		のべちてんま
小さな小さなおひな様	小さな小さなおひな様／皆、そろつて行儀よく	130		
鳩の波	鳩は、パツパツパツパツ、おやねから／下りては、下りては、肩に来て	132		(のべちてんま)
鎌倉	去年も行った鎌倉へ、今年も夏中、[行くので][参ります]。／八幡様がありますね	133		
ポーとサイレン	ポーとサイレン、長いこゑ／一つなりに、なつてます	134		
おひな様へのおそなへ	おひな様へのお供への／あられ、菱もち、お白酒	135	目次の標題は「おひな様へのお供へ」	
霜やけ指	霜やけ指は、可愛さう／少しふくれて、はれてきて、	136	掲載紙誌の切抜貼付	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
紀元二千六百年奉祝／ 国民歌	天地とともに きはみなく、／昇る旭 日(きよくじつ)、さながらの	138		
新那須小唄 三十八景	来たぞ、黒磯 ゆつくり、下りよ バ ス／も迎へに[下りてるぞ][来てある ぞ]、	140	目次の標題は「新那須 小唄」	
(P.82)47の改作[合唱 ／皇紀二千六百年]	燦たり、日の如、東海に／輝く御国、 大日本、	148	目次には標題の記載は ない	
大きな車輪	大きな大きな、大車輪／小旗のまはり を一まはり	150	「九段精華運動会、以 下三篇」と注記	
小車輪(職員レース)	なんて、かはいゝ小車輪／仲よし小よ しの汽車ごっこ	151	目次の標題は「小車 輪」	
敷島行進曲	シ、キ、シ、マの／やまとおとめら、	152	目次の標題は「シキン マ行進曲」	
パレーボール	円く、軽くふくらんだるボール一つに ／ネット隔てゝ、九人と九人が	153		
舞踊／詩 八つ手の舞 扇	A. 中央の祠の賽銭箱の蔭に入る／B. C. 上手、下手より中央斜前に踊り	154	目次の標題は「舞踊 詩、八つ手の一枝」	
子供[同志][仲間]のお 約束	いらつしやい、遊びませう、／お国は 別でも、違つても、	164	目次の標題は「子供仲 間のお約束」。「昭和 十六年十二月二十七日 改作あり」と注記	
をりますね	あなたの国にも、をりますね、／雀 [は][が]あますね、なきますね。	165		
すてきなお国(A)／ (支那をほめて歌ふ歌)	お国は、すてきな国ですね、／海かと 見ま[が][よ]ふ、大河が、	166	掲載紙誌の切抜貼付	
おとなり同志／アジア の仲よし	お国とお国[は][と]、陸つゞき、／お 船で半日、海つゞき	167	目次の標題は「おとな り同志」	
すてきなお国(B)／ (日本をほめて歌ふ歌)	お国もすてきな国ですね／四方 [に][は][が]、広々、すんだ海、	168		
白衣の兵隊さん	白衣の[白衣の][おちさん]兵隊さん／ お体、すつかり、いゝです[か][ね]	169		
すてきなお国(C)／日 満支…オールアジアの 子供うた	[みんなりつばな][どちらも、すてき な]国ばかり / 朝日が、きらきら昇る のを	171		
東京駅	東京駅は日本一／大東京のお玄関	172		
すきな猫	ぬくぬくだいてねた小猫／朝おきたら ば、あなかつた	173		
春をのせて	ひらりひらり、風もないのに、／身が るに 気がるに、	174		

◆ 創作ノート㉔(昭和14年～15年)

門松日の丸千万本	初日をあびて、門松の／葉ごとが、す るどい剣のやう	1	掲載紙誌の切抜貼付	養護教育 昭和15年1 月号
門松ことしは	門松、ことしは とくべつに／初日を あびて、[あは][光]つてる。	2		
大きな正月	いつでも、めでたい お正月／中で も、今年は、一番の	3	掲載紙誌の切抜貼付	「小学生新聞」 十 五年一月九日

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
(二)	真夏 真昼の峠みち／したゝりたまる 岩清水	42	目次の標題は「水に感謝の歌(その二)」	
〃 (その三)	流れる汗[もしらないで][に気もつか ず]／勤勞奉仕を終へてから	43	目次の標題は「水に感謝の歌(その三)」	少女クラブ 十五年 八月号
山梨県北都留郡上野原 尋常／高等 小学校々 歌	清き流の桂川／日夜休まず	45	目次の標題は「215 山梨県上野原小学校々 歌(儀式用)」	
福山市川口尋常／高等 小学校々歌	大天地を照らして昇る／朝日の如く 栄え行く	47	目次の標題は「216 福山市川口小学校々 歌」	
和歌山市中之島尋常／ 高等 小学校	流も清き紀の川に／日夜不断の歩あり	49	目次の標題は「217 和歌山市中之島小学校 歌」	
一年生	帽子も かばんも新らしい／一年生 だ、ニコニコだ	51	「(昭和五年同題の改 作)」と注記	
山梨県上野原尋常／高 等 小学校々歌	四方の山々見下して／雲表抽出る芙蓉 峯	55	目次の標題は「218 山梨県上野原小学校々 歌(野外用)」	
名古屋市中区東田町／ 雲龍幼稚園々歌	天にも地にも一ぱいの／明るい明るい 日の光、	57	目次の標題は「219 名古屋市雲龍幼稚園々 歌」	
朝鮮全州／北公立中学 校々歌	麒麟の峯に日は昇り／気高き理想の 輝きに	59	目次の標題は「220 朝鮮全州北中学校々 歌」	
松山市北予中学校々歌	旭光燦たる碧空に／仰げ、近くは金亀 城、	61	目次の標題は「221 松山市北予中学校々 歌」	
東京市神田区／神田小 学校々歌	日毎栄ゆく皇国の／都の真中、いはれ ある	63	目次の標題は「222 東京神田小学校々歌」	
横浜市中区山下町／市 立女子高等専修学校	千代の濃緑いろはゆる／松の操に浜楸 (ひさぎ)	65	目次の標題は「223 横浜市立女子高等専 修」	
檜の実幼稚園々歌	小さい檜の実、檜の木が／生えては、 根を張り、枝を張り、	67	目次の標題は「224 東京檜の実幼稚園々 歌」	
満洲三江省／牡丹江高 等女学校々歌	永劫に、豊けく、たゆみなく／注ぎに 注ぐ 牡丹江、	69	目次の標題は「225 満洲牡丹江高女校歌」	
奉天千代田尋高校々歌	天地てらし さしのぼる／朝日のすが た 大日本	71	目次の標題は「(改作) 奉天千代田小学校々 歌」	
静岡県清水市江尻桜木 町／女子商業学校々歌	朝日夕日に気高く清く／近く聳ゆる富 士の峯	73	目次の標題は「226 清水市女子商業学校 歌」	
護れ大空	護れ大空、断じて護れ。／皇国(みく に)の青空、東も西も	75		朝鮮総督府(初等唱歌 第五学年用)
瀬戸内海	煙のこして [いでて][遠く]行く／汽 船追[ひてか][ふごと] 飛ぶ鷗	77		朝鮮総督府
樞原まうで	大御代のかしこさ、子等と吾妹子と／ 真昼日にする樞原まうで	79	目次の標題は「樞原ま うで」。短歌8首	
鞆の浦にて	故さとのこの海この島今年また子等／ とみてあり、妻とみてあり	80	短歌8首	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
あひるじやぶじやぶ	すーるり、すーるり、子供のあひる。 ／並んで泳いで、くわつくわつくわつ	81		尋三
ぬれ坊主	雨にじやぶじやぶ、ぬれてゐる／お地蔵様の石あたま	82		「子供の青空」へ
天狗松	八尋村での高い山／(向かうの山の)葛原山のとつべんに	83		
青竹兄弟	大きな竹藪、藪垣の／外へのぞひて、お揃ひで	85	目次の標題は「兄弟青竹」	
おぼろお月様	東のお山を出はなれた／おぼろお月様お、ねむさう	86		
星の眼々	地面は下で／空は上、	87		白眉社
星の子とゴム風船	星の子供よ、早く出よ／涼しい風だよ、天の川、	88	目次の標題は「星の子と風船玉」	
かくれん坊	もういゝかい、もういゝかい／まあだゞよ。まあだゞよつたら、まあだゞよ。	89		いつもにここにこ
はつぱがちつた	はつぱがちつた。／どつちからちつた。	90		二十三年年鑑 二十三年改作して「ぎんのすず」
よく鳴る太鼓	ことしや豊年、祭は近い、／買物帰りのお土産に、	91		「銀の鈴」五・六年 二十二年十月号
雪空	雪になりさうな日暮れ方、／お宮の小庭の空つ風	92		
夕立やんだよやんだよと	夕立やんだよ、やんだよと／蟬[が][の]大声[あげてゐる][鎮守森]	93		「こども朝日」
雀よ来い	雀よ 来い／下りて 来い	94		ナカヨシクラブ 二十三年
南天のおよめ[さん][入]	南天、今日は およめ入、／ふーわり、きれいな綿帽子、	95		
いつも牛飼	何日も、牛飼 めづらしないよ／毎朝早起、手綱持つて	96		いつもにここにこ
田舎のダンス	風の吹く日の田舎のダンス／藪では、ゆーらり、ゆーらりと	97		ナカヨシクラブ 二十三年
いやーな雨	一日おきか 二日おき／よくも 降る降る、	99		
燕のほゝづき	燕が気どつて、チピイ、チピイ／どこかの海のほゝづきね	100		ぎんのすず 二十三年 いつもにここにこ
村長さんの夏羽織	村長さん[は][の]夏羽織／かたびら蟬の羽根のやう	101		
姉さんおよめに	姉さん お嫁にどこいつた／東京へいつて暮らしてる	102		
空には星が	空では星が きらきらと／水にうつつて、きらきらと	103		
土瓶ぢいさん	土瓶ぢいさん よいさげん／いつも大鉢の火の上で	104		シヤボン玉 二十三年三月号
風の吹く日は	風の吹く日は／[木の葉][はつぱ][動く][ゆれる]	105A		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
鯉[の][は]風好き	何より鯉は風好き、踊好き／風さへ来ればよろこんで	106A	目次の標題は「鯉は風好き」	
「お」の字のつく名	お乳のんでる「お子さん」の／ほんとの名まえは、「およしちゃん」	105B		
波の箒	波のほうきが、さーらり、さらさらと／ひつきりなしに浜掃除。	106B		
芒と里芋	芒、細い手、やさしい手／おいでおいでと、招いてる	106C		
お月様のお子さん	お月様／円い笑顔のお月様	107A		
意地悪木枯	意地悪木枯し、夜の風／お背戸のまきのてつぺんに	107B	目次の標題は「意地悪木枯し」	いつもにここにこ
卑怯だぞ地震	男だらう、こら地震／大きな音を たてるのは、	109	目次の標題は「卑怯な地震」	二十三年 童謡年鑑
大きなシヤボン玉	大きな大きなシヤボン玉／くるくるまはつてふくれるね	110	目次の標題は「大きなシヤボン玉自爆」	
お菓缶二つ	学校中の長廊下／午すぐ前の長廊下	111		
入日ををがむ妹	早く 明日が来ればよい／早く 明日にな[れば][ると]よい	113	目次の標題は「入日を拝む妹」	
芽尽し鳥	二三日つづいた雨上り、／五月の鳥は、芽尽し鳥	114		
田舎の鳥でお芋ほり	田舎の鳥の、芋鳥／学校の鳥のお芋ほり	115	目次の標題は「田舎でお芋掘り」	
雨ふりダンス	雨の小人の雨降ダンス／町中、屋根中、ダンスの競争	117	目次の標題は「雨ぶりダンス」	
今日がさめた、はたらくぞ	今日がさめた、エンジン動くぞ／工場の汽笛が、ポー ポー	118	目次の標題は「今日がさめた」	銀の鈴 三年 二十四年六月号
[天の][するする]長糸	天から するする、／長糸 するする、	119	目次の標題は「空の長糸」	
湯どのの湯の文字	妹の湯の文字は、「サクラ」／僕のは太い「日本一」	120		シヤボン玉 二十三年 復活号
蜘蛛の電話	桜の木から 梅の木へ／梅の木からは、桃の木へ	121	目次の標題は「蜘蛛の電信」	二十三年 ぎんのすゞ
元日元朝(いよいよ新年)	時計がなつた、何時がなつた／元日、元朝、今、 六時、	122	目次の標題は「元日元朝」	
雀鈴なり	鈴なりに なつてみた／赤い柿 みなとつて	123	「(二十二年、改作／七月四日)」と注記	
那須五山	五つならんだ那須五山／五人家族のまん中は	124	掲載紙誌の切抜貼付	15. 11. 24. (小学生新聞)
蜘蛛の網・雲の網	下界で、蜘蛛が網をはる／枝から枝へ、細い網	125		
観音道路	夕[風][方]寒い 狭い道／観音道を、急ぐ人	126	目次の標題は「観音堂道路」	
雀のお宿	藪をやかれて宿なしの／雀親子が泣いてみた	127	目次の標題は「柳宿(雀のお宿)」	
鼻つまみ蟬	いつでも、風をひいたこえ、／きのふも、今日も、ミーンミン	128		二十三年 ぎんのすゞ

作品名	うたい出し（冒頭）	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
お山のあの子	[お山のあの子は][山の子供が]、笛を上手に吹いてゐた／自分で作った笛だといった	129	目次の標題は「山の子供」	二十三年 童謡年鑑
仔馬の目、仔馬の尾	仔馬の目、かはいゝ目／かはい、小さい目の中に	130		「ナカヨシクラブ」 二十三年
とんびと宿題	ヒヨロ、ロ、ピーヨロ、ピーン、ヨロー／くーり、くーり、輪をかいて、	131		
霜やけた指	肥えたのではない、ふくれた指、／赤ちやん みたいで	133		
雪のかへりみち	雪ふり、雪ふり、かへりませう／かさは、かうもり、軽いかさ	134	目次の標題は「雪のかへり道」	
お月様円い(円いボンボン)	お月様円い、お山も円い、／円いお山に、円い音がしてる、	135	目次の標題は「お月様円い」	二十三年、改作 「ぎんのすず」
バスと電車	バスはバス路、電車は、レール／並んで走る、どちらも速い	136		
お友達のほくろ	おかほの写生、／お友達の似顔	137		二十三年 童謡年鑑 ／二十四年六月号 銀の鈴 三年
日曜の洗濯	今日は日曜、めづらしや／朝から、うれしや よい天気	138		
鉛筆の役目	鉛筆 絵をかく 文字をかく／頭で、絵をかく、文字をかく、	139		
ぐみの実	ぐみのあかい実、[はちきれさう][あかい粒]／つやつや、きれいな 丸いほほ	139		
汽車の意地悪	速く走つて、汽車の意地悪、／きいろいお花は、菜種でせう	140		
蛙どちらがすきですか	蛙、どちらが好きですか。／びよんぴよんとぶのと、泳ぐのと、	141	目次の標題は「蛙、どちらがすきですか」	
ポストあんど	ポストあんど、くひしん坊／いつでも、ポカんと、開けてるお口は、	142		
さげかばん	私は小学生、ランドセル、／姉さん、女学生、さげかばん。	143		
さくらの絵	桜の咲[くのは][いた]四月です／一年前の四月には、	144		
マッチ一本	真黒頭にバツと火が、出る。／マッチ一本、シュツ、シュツ、	145		「子供の青空」へ
お花見べんたう	お花見べんたう、うれしいな／いつものんとは、違ひます。	146		
ニコニコ坊や・ばアばア坊や	弟一郎、年二つ／まるまるこえた男の児	147	目次の標題は「弟一郎年二つ」	
おねんね	お母さんに だつこして／ゆきえちやん、おねんね、	148		
海のパラシュート	海にフーワリ パラシュート／波にフーワリ、フーワリと。	149		
大雷雨と「鳥と避雷針」	ごろごろ、ざアざア、大雷雨／雀ちりちりにげてつて	150	目次の標題は「大雷雨と鳥」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
お姉さまのお琴(お琴好き)	お姉様、ずみ分 お琴好き／朝ひき、午後ひき、夜もひき	151	目次の標題は「お琴好き」	
ごろごろびかびか	ごろごろ、がらがら、がたがたがた、／大さうな音だ。	152		
庭の青葉	もう幾日も雨[なしで][ふらず]／おのどがかはいて をるでせう	153		
自転車で急ぐ少女	電車の十字路赤信号／皆止つてるの一番前で	154	目次の標題は「自転車で急ぐ女の子」	
どこかのひきこし	どこかの引こし、トラツクは／荷物のお山でございます	155		
とんがりお耳	ろばのお耳は、とんがりお耳／とんがりお耳の とんがった先に	157		二十三年 童謡年鑑 ／ナカヨシクラブ 二十三年
絵の具皿	ゑをかく ゑかきの ゑの具皿／みんなおんなじ形して、	157		
遠足帰り	三日月様が出てました／遠足帰りの西の空、	158		
その部隊長桃太郎	犬猿雉子の三びきの／小さな小さな部隊です	159	目次の標題は「部隊長桃太郎」	
青田圃	村中ひろい青田圃／朝日朝風、青畳、	160		銀の鈴 二十四年六月(三年)
空中ケーブル	電信線の雨しづく、／空中ケーブル忙しい	161		
鹿の頭の鹿の角	鹿の頭の鹿の角、／枝振すつかりお揃ひで	162		
目かくし鬼	鬼さん どちら、手の鳴る方[へ][よ]／目かくし鬼の腰曲り、	163		
朝鮮大邱／徳山(とくさん)公立尋常小学校々歌	清き流の琴湖江／日夜たゆまず、一すちに	165	目次の標題は「No.227 朝鮮大邱徳山小学校々歌」	
増成動力工業株式会社々歌	旭光燦たり、大東亜、／盟主日本、新らしき	167	目次の標題は「No.228 増成動力工業株式会社々歌」	
東京市浅草区／小島尋常小学校々歌	日毎 栄ゆく日本の本の／すがた、さながら昇る日に	169	目次の標題は「No.229 東京小島小学校々歌」	
満洲国間島省龍井街／間島尋常高等小学校々歌	高き勲の追思の碑、／間島富士の名のなつかしさ、	171	目次の標題は「No.230 満洲間島小学校々歌」	
朝鮮 鎮南浦公立高等女学校々歌	明暮[[はるけき][ゆたけき] 希望に勇[み][む]][希望の大洋(おおなだ)[さして][めざす]]／大綱江[[は][も]注ぎに注[ぎ][ぐ]][の[不断の][倦むなき]旅も]	173	目次の標題は「No.231 朝鮮鎮南浦公立高女校歌」	
ひなまつり	まうせん まつかな ひなだんの／一番上で、行儀よく	175		文部省 国民学校 初二唱歌用

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
◆ 創作ノート㉓(昭和15年～17年)				
朝鮮全羅南道光州府／ 光州師範学校々歌	旭輝やく無等山／巖、気高くそびえずや	1	目次の標題は「No.232 朝鮮光州師範学校々歌」。「P. 15改作」と注記	
凧三つ	すごいぞすごいぞ、凧凧／空一ぱいの凧の中、	3		
雪降の日の雪だるま	また降出した、降出した／大雪だるまもうれしさう	4	目次の標題は「雪ふりの日の雪だるま」。掲載紙誌の切抜貼付	
広島市第二高等小学校々歌(南観音町)	流、不断の太田川、／幾筋、道は分るれど	5	目次の標題は「No.233 広島市第二高等小学校々歌」。「P. 35に改作」と注記	
台湾(高雄州屏東市旭町)／屏東(ヘイトウ)師範学校々歌	かがやき昇る 旭日(きよくじつ)に／大武(だいぶ)の峯のいや高く	9	目次の標題は「No.234 台湾屏東師範学校々歌」	
福山市樹徳 尋常／高等 小学校々歌	朝日かがやく葦陽城／御民われらに教へずや。	11	目次の標題は「No.235 福山市樹徳尋常高等(国民)学校々歌」	
新潟市宮浦高等小学校々歌	四時、御空に、聳[ゆるに][ゆれど][えて][は][も]／正しき姿、か[は][ゆる]なく	13	目次の標題は「No.236 新潟市宮浦高等小学校」。「(P. 33に改作)」と注記	
朝鮮光州師範校歌	旭輝く無等山／巖、気高く聳えずや	15	目次の標題は「光州師範校歌(改作)」。「P. 1の改作」と注記	
広島市外井の口村／広島商業実践女学校々歌(第一)	朝日さしそふ鈴が峯／理想も高くさと[さすや][すなり]、	17	目次の標題は「236 広島商業実践女学校々歌(第一)」。「P. 29に改作」と注記	
大阪府立鳳中学校々歌	大空高き金剛の／永劫(トハ)に不動の姿かな	19	目次の標題は「237 大阪府立鳳中学校々歌」	レコード吹込(奥田良三氏)
大阪府立／市岡夜間中学校歌(添削)	(補)恵あまねき大御代に／遺賢なかれと魁けて、	21	目次の標題は「238 大阪府立市岡夜間中学校々歌」	
満洲国／錦州富士国民学校々歌	朝日輝やく紫金の山を／高き希望に仰ぐなり	23	目次の標題は「239 満洲錦州富士国民学校々歌」	
秋田県山本郡能代市／能代湊城(のしろていじやう)第二国民学校々歌	日夜、不断の歩をつゞけ／希望遙けき大洋へ	25	目次の標題は「240 秋田県能代市湊城第二国民学校々歌」	
二日月	二日月、ほそい月、糸のやう／さはると、	27		
雀が雀が	雀が、雀が ちゆうちゆうちゆう／びよんびよんなきなきとんでゐる	28		
広島商業実践女学校々歌(第一校歌)	朝日にはえて、鈴が峯、／永劫に気高く聳えずや	29	目次の標題は「広島商業実践女学校々歌(改作)」。「[P. 17の改作]」と注記	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
広島商業実践女学校第二校歌(野外行進曲)	とはに緑の色かへぬ／松の操の気高さよ	31	目次の標題は「241 同上、第二校歌」。「P. 44に改作」と注記	
新潟市／宮浦国民学校(高等)々歌	仰げ霊峯、弥彦の[すがた][たかね]／永劫不動(に)何をいふ	33	目次の標題は「新潟市宮浦校々歌(改作)」。「(P. 13の改作)、(P. 59に改作)」と注記	
広島市第二国民学校々歌	清流大田の不断の(旅路)／よるひる進みて、休まず、うまず。	35	目次の標題は「広島市第二国民学校(改作)」。「(P. 5の改作)」と注記	
ヒカウキバンザイ	アレアレ、キタキタ、ヒカウキガ/三ダイ、三ダイ、マタ 三ダイ	37		
ヘイタイサン	ヘイタイサン ヘイタイサン/ラッパニアハセテ、一、二、一、二	38		
親波子波	沖カラ、沖カラ、カケテキテ、/スナハマ、キレイニ、サウジスル	39		
ブランコ、シツカリ	ブランコ、シツカリ、コギマセウ。/シツカリ、オテテで、つなもつて。	40		
砂山のトンネル	サラサラ、スナヲ、モリアゲテ、/タカイ オ山ガ デキマシタ	41	目次の標題は「砂山トンネル」	
金魚と金魚	ユラユラ、ユラリ、/仲よく並らんで、	42		広島師範『学窓』P. 65の「地面の朝顔」と共に
朝顔と蜂	朝顔さいた、よく咲いた、/きのふの夕方、[まいて][のびて]みた	43	目次の標題は「朝顔さいた」	
広島県佐伯郡井口村／広島商業実践女学校第二校歌	こがね、しろがね、色はしき／菊の薫の尊とさよ	44	目次の標題は「広島商業実践第二校歌(改作)」。「(P. 31の改作)」と注記	
お月様	お月様、お月様、ねえお月様、/はつきりお見えになるでせう	45		
お月さま見ると	きれいな、きれいなお月さま/だまつて、みてると しらぬまに	47		「銀の鈴」二十三年十月号
もう出てピカピカ	もう出て ピカピカ、よろこんで／一番星が まつてゐる	48		童謡鑑賞アルバム
金星銀星	空一ぱいに金砂を/また銀砂を、ばらまいて、	49		
星の国	夜の夜空、星ばかり/大星小星、一めんに	50		銀の鈴
星の光りつこ	よくはれてゐる夜の空、/星が一めん光りつこ	51		
星星ピカピカ	父さま母さま、おばあ様、/子供の時でも 昔でも	52		
サイダ瓶の風鈴	ガラスの風鈴、チリリンリン/胴切にしたサイダ瓶	53	目次の標題は「サイダー瓶の風鈴さん」	
齊々哈爾宮前／在満国民学校々歌	流豊かに嫩江(ノンコウ)は/うまずたゆまず 注ぐなり、	55	目次の標題は「241 満洲齊々哈爾宮前在満国民学校々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
若竹幼稚園々歌	のびるのびる、日をあびて、／風に吹かれて、若い竹、	57	目次の標題は「242 若竹幼稚園々歌」	
新潟／宮浦国民学校々歌	仰げ、霊峯、弥彦の高嶺／旭光浴びては、しめすなり。	59	「(P. 33の改作)」と注記	
島根県／浜田高女校歌	昇る日の国、日の本の／清き光と、天地に	61	目次の標題は「243 島根県浜田高女校歌」	
人形のうば車	小さな小さなうば車／お人形さんのでございます。	63		
[地面の][ほつといた]朝顔	つつかい棒を一本も／立てゝもやらず、ほつといた	65	目次の標題は「地面の朝顔」(広島師範の学窓)「P. 42「金魚」と共に」と注記	
お久しぶりづくし	長いお休みも、今日かぎり／明日から、いよいよ 学校です	66		
ひるまの電燈	ぱつと明るい電気燈／それは、いつでも夜のこと。	67		
時計の入院	かつちん、こつちん、朝から晩まで／はたらきつゞけた お居間の柱の	68		
色やさん	色紙ぬらして、しぼつては／つくるおもちやのソーダ水	69	目次の標題は「いろやさん」	
それ、いよいよだ／大東亜戦	それいよいよだ、それやるぞ／今度は強いぞ、 大きいぞ、	70	目次の標題は「大東亜戦争(それ、いよいよだ)」	報知新聞 十二月十五日
日本刀	右から来るなら 右の手で、／左からなら、左手で、	71	目次の標題は「 〃 (日本刀)」。掲載紙誌の切抜貼付	少国民新聞 十二月二十六日
兵隊さんの正月	かつちん、こつちん、うれしいね／内地の正月、そつくりね。	73		
名古屋市／第一幼稚園々歌	お日様、きらきら高い空、／小鳥も、花も、よろこんで	74	目次の標題は「244 名古屋市第一幼稚園々歌」	
アジャのお友達	皆来たまへ、いらつしやい／アジャの子供のとなり組	75		
日本の正月	女の子が集まつて、／かつちん、かつちん、ついてゐる	77		
群馬県新田郡太田町／沢野国民学校(初／高)々々歌	仰げよ 上毛三山の／世に秀でたる人たれと、	79	目次の標題は「245 群馬県沢野国民学校々々歌」	
大阪府泉北郡大津町／府立大津高等女学校	御空に聳ゆる金剛の／姿、気高く、しめすなり。	81	目次の標題は「246 大阪府立大津高女校歌」	
朝鮮／平壤 私立 正義高女	朝日に笑まふ 南山岨(けん)／光、あまねく、よろこびと	83	目次の標題は「247 朝鮮平壤正義高女校歌」	
さくらの心	さくら、さくら、花ざかり／さくらの花の 真つさかり。	85		家の光
岸辺福雄翁古稀の祝ひうた	お伽嚩の兔の御くに因幡生れ／のおぢいさま	87	目次の標題は「岸辺先生古稀お祝ひ唄」	
シンガポールかんらく	大昔から、よくばりで／いぢわるつゞきのイギリスが	90	目次の標題は「シンガポール陥落(その一)」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
シンガポールかんらく (その二)	紀元二千六百二年／あゝ、紀元節の朝 はやく、	91	目次の標題は「 〃 (その二)」。掲載紙誌 の切抜貼付	十七年二月十七日 少国民新聞
(その三)	東洋一の大要塞／シンガポールも、かんらく、かんらく、	93	目次の標題は「 〃 (その三)」	
生れ出た昭南島	太平洋の西南／お手々つないで、並んでる	95		
昭南島誕生	誕生、誕生、昭南島／昭和の大御代、日本が	97		
奉天 長沼高女校歌	大天地を照らす日の／光に映えて貞淑の	99	目次の標題は「248 奉天長沼高女校歌」。 「 [P. 103に改作] 」 と注記	
長崎県立／口加高等女 学校々歌	日出づる御国、肥のみ崎、／あやめが 丘[に][の]風[すみて][きよく]	101	目次の標題は「249 長崎口加高女校歌」	
奉天 長沼高女校歌	古都瀋陽に、新らしき／文化、集ひて 匂ふ如、	103	「 [P. 99の改作] 」と 注記	
東京府北多摩郡吉祥寺 ／武蔵野第四国民学 校々歌	朝日をあびて、朝風うけて、／日毎、 明るき心につどひ	105	目次の標題は「250 武蔵野第四国民校々 歌」	
特殊の爆弾・探照燈	畑は広いな、大きいな／見渡す限りの、 西瓜畑	107	目次の標題は「特殊爆 弾」	
豆飛行隊	日本晴の大空[に][は] /空一ぱい [に][の]赤とんぼ	109		
湘南学園々歌	波路遙けき相模潟／たえず、しめす は、遠き行手。	111	目次の標題は「251 湘南学園々歌」	
吾子自爆(その一)	妻よ子よ、泣くこと勿れ吾子の自爆、 泣く／こと勿れ勝ち抜く日まで	113	短歌30首	
山の温泉、[流れつば なし][出つばなし][山 の水]	山の温泉 出つばなし／大地の底か ら、湧出して	119	目次の標題は「山の温 泉出つばなし」	
秋の風	萩の小枝が、ゆらゆらゆらゆら／かは いゝ花が、ゆらゆらゆらゆら	121		
傘の音楽会	からかさ、雨傘、蛇の目傘、／ぱらぱ ら雨の日、姉さまと	123		
夕刊くばり	ギリギリ、ビリビリ／ギリギリ、ビリ ビリ	124		
トンネルつゞき	トンネル、トンネル、又トンネル／少 し長い、短い、	125		
登ってみたい庭の松	登って見たいな、庭の大松／広い芝生 のまん中に	126		
針と糸	仲よし小よしの針と糸／針ばかりでは つまらない	127		
冬服冬帽	お部屋に はいれば 黒々と／皆、今 日から、冬の服。	129	目次の標題は「冬帽冬 服」	
星だらけ	空は一面 星だらけ、／皆、キラキラ 光つてる。	130		コドモ朝日
お作法	私は初等科五年生、／この頃、お作法 習ひます。	131		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
バス故障	あら、又今日も、バス故障、／とつとことつとこ、かけ足で	132		
りんごの皮むき	林檎の皮むき習つたばかり／ずみ分上手になりました	133	目次の標題は「林檎の皮むき」	
お彼岸団子	お彼岸のお団子は、／姉さまが、母さまに、	134		
をがみませう／母様のおいのり	拝みませう、お神棚／おあかり上げて、ていねいに	135	目次の標題は「をがみませう」	
坊やの病気	坊やが病気でねてゐます。／一日おきに、ごしんさつ	136		
顔のポツポツ	手鏡のぞいて よく見たら／私の顔にありました。	137	目次の標題は「お顔のポツポツ」	
軍用道路	何か大きな荷を積上げた／軍用トラック 何十台	137	目次の標題は「軍用トラック」。「(十八年に改作)」と注記	
豆たどん	まつかまつか、たどんが、まつか、／真黒だつた たどんが、まつか。	139		
ピアノの上のばらの花	ピアノの上のばらの花／私のすきな赤いばら	140		
原つば原つば	原つば 原つば すばらしい原つば／原つばの中では 何十組も	141	目次の標題は「原つば」	年鑑
陸戦隊の行進	陸戦隊だ、行進だ。／つよい日本海軍だ。	143		
晩ごはんの後	夕刊よみよみ、お苺おのみ、／お苺のみのみ、夕刊およみ、	145	文末に「(一慰問文に添へて)」と注記	少国民の為の大東亜戦争詩(桑田氏へ)
お机のさうじ	日曜なのに、今日は雨ふり／つまらないわと、いふのをきいて	147		

◆ 創作ノート②④(昭和17年～18年)

どこかのお姉さま	どこかの きれいな お姉様、／仲よささうな お姉妹	1		
ねんど細工の象	象さん象さん、どこいつた／ねんどさいくで、こしらえて	2		「ギンノスズ」へ
内遊び	今日は雨降、内遊び／遊び時間も教室で	4	目次の標題は「内遊のきまり」	銀の鈴
初夏(桜の青葉)	桜の枝は、どの枝も／この頃、毎日、葉のかずが	5	目次の標題は「(桜の青葉)初夏」	
煙さん	煙さん、／今吹いてるのは、北風ね	6		
お屋根の瓦	おやねの瓦の行儀よし／きちんと並んでる、	7	目次の標題は「屋根瓦の数」	銀の鈴
折鶴だらけ	妹 この頃、折鶴上手／なんでもみんな、四角にきつて、	8		ギンノスズ
お角力さんのボートのり	公園のお池の貸ボート／いろんな人が、次々に、	9		
二階の縁側	お母様、／おふとんが、	10		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
キの行列	田圃のまん中まつすぐに／どこまで つゞく電信柱	11	目次の標題は「キの字 行列」	銀の鈴
あめんぼ	あめんぼ あめんぼ、どうしてね／ど うして、水の上、歩けるの、	12		
夕の空に残るもの	夕日が沈んで 日がくれて／田圃も、 おうちも見えないに、	13		
奉天、長沼高女校歌 (第三稿)	古都瀋陽に集ひ[ぞ][も]来ては(集ひて は)／文化、新に、かゞやくや	14a	目次の標題は「252 奉天長沼高女校歌」。 (「前冊P.103の改 作)、(P.82に改作)」 と注記	
東京高等歯科医学校	旭光[燦たる][まづさす][明るき]湯島 が丘[の][に]／歴史[も][は][に] [は えある][古き]伝統の	14b	目次の標題は「253 東京高等歯科医学校々 歌」	
こぼれ水	夏のお休み、もう飽きて、／雨ふりこ んだ、おゑん側	16		童謡世界
お池の水の輪	キラリ、光つて、ポテリおちて、／あ とからあとから、まあい輪	18		ギンノスズ
汽船のポー	長く尾を引く、汽船のポー、／遠く か、近くか、港の方。	19		銀の鈴
鼠の鬼ごっこ	天井裏で、まつびるま／大きな音た てゝ、にくらしや	20		
弟と写生	写生は、今日は うゑ木鉢、／一年生 の弟には	21		
なでしこ村／海水浴の をはりの日	海水浴のをはりの日／少し、はなれた 松原へ	22	目次の標題は「なでし こ村(海水浴の終りの 日)」	
久しぶりの東京	夏中、海へいつてゐて／お久しぶりの 東京は	24		
はつゆき	ゆきゆき、初雪、／地面ですぐきえる	25	目次の標題は「初雪」	
インチキ八つ手	八つ手、八つ手、／八つ手の葉つば	26		
野ぶだう	するする のび出て、やさしい蔓は、 ／野に生えるから、名が野ぶだう。	27		年鑑
私が竹の子	のび[た][る]、のび[た][る]よ、竹の 子のび[た][る]。／私を とつくに、 追ひこして、	28		
なでしこ山、びわ山	いとこのおうちの名なし山／海を見下 す円い山、	29		
浴衣のとんぼ	とんぼ、すいすい、涼しい風に、／上 手に、うかんで、スーイスイ	30		童謡世界
カタリと貯金	カタリ、貯金が一銭ふえた／カタリカ タリで、ふえたよ、二銭、	31		
夢の珠	キラ、キラ、夜あけの露の玉／金のた ま、銀のたま、るりの玉、	32	目次の標題は「夢の 球」	童謡世界
となりの火事	オ、ヤ、おとなりの勝手元、／急に、	33		
花火	ドン、ドン、つゞいてドン、／花火、 ドン、ドン、又、ドンドン	34		
徴発馬	町中の／所々の広つ場に	35		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
カナリヤ病気	雨ふりで／うすら寒い日、カナリヤの	36		
小さな小さなブランコ	小さなブランコ、フラリンフラリン 高い空で／宙ぶらりんのブランコ、 ブラリンコ、ブラリンコ	37		童謡世界
色屋さんごっこ	色屋さんごっこ、ござの上／お庭に繁 つた桐の木の	38		
ひげととげ[小さいく せに]	子供だのに、／子猫が、ピンピン、幾 本も	39	目次の標題は「(小 さいくせに)ひげと とげ」	
ギャンプごっこ	山からかへつた兄さんの／天幕を借り て、裏庭で	40		
笑はせ灰	枯木に花を咲かせたは、／花咲爺さん の花咲かせ灰、	42		
浜辺の競争	浜辺で砂地で競争だ／小さい仲間はボ チャボチャと	44		
雨傘行列	赤や、黄いろや、紫や、／だんだら模 様、はで模様	45		
海のおたより	兄様、今年は臨海団／出かけて行つた 三日目から、	46		
縁側のすべり台	雨の降る日のお縁側／何より楽しいす べり台、	48		
玉ねぎ料理	父さまおすきの玉ねぎの／料理を、今 日こそ、をしへてね、	50		
朝顔の蔓の杖	どつちへ伸びて いゝものか、／分ら なくつて、困つてた。	52		
高津幼稚園々歌	高い高い雲の上に、／すがたも正し く、そびえ立つ	53	目次の標題は「254 高津幼稚園々歌」	
三木(ミツギ)国民学 校々歌	朝日かがやく貴船の[森][宮]に／誓、 新に、祈りては	54	目次の標題は「255 三木国民学校々歌」	
頼山陽の母、梅颯夫人 追慕	百とせも後の世にして、いやましにか ぐはし／きかな園の白うめ	56	目次の標題は「梅颯夫 人追悼和歌」短歌3首	
新年／童謡 かゝしの 見張	すげ笠 すつかり 破れても／弓弦(ゆ づる)は すこうし ゆるんでも	57	目次の標題は「案山子 の見張」。掲載紙誌の 切抜貼付	少国民新聞 十八年 一月六日
村の正月	朝から 今日 田に畑に／一人も見 えない お百姓	58	掲載紙誌の切抜貼付	(少国民新聞 十八年 元旦号)
日の丸の旗と日本語	満洲奥地、蒙古の奥地、／北支や、中 支や、南支は、おろか	61		
めでたい日本	二千六百三年の／元日、めでたい大日 本、	62		
めでたいめでたい初歩 哨	何千キロもの波こえて／南太平洋上 に、	63		
哈爾濱／満鉄青年学 校々歌	旭日はゆる蒼空の下／御稜威にあけゆ く大陸に	64	目次の標題は「256 ハルビン、満鉄青年学 校々歌」	
京城府敦岩町、旭丘公 立中学校	旭光燦たる旭ヶ丘に／大空高く、放て よ、眼	66	目次の標題は「257 京城旭丘公立中学校々 歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
へんな猫ちゃん	猫ちゃん、時々、外あるき／外に出たがる、くせがある、	68		銀の鈴
人間だらけ、うじやうじやだらけ	お正月には、とくべつに／銀座通は、人間だらけ。	69		
小鳥は大好きなだけで	小鳥は、本当に、可愛いゝの。／可愛いゝ口ばし、	70		
こわいことし海	去年の真夏、一と月中／毎日かゝさず、よろこんで	71	目次の標題は「こわい海」	
満洲／吉林省懷徳県／范家屯在満国民学校々歌	天地に、光(も)あまねくも／日は昇る、いとさやかに ほがらかに。	72	目次の標題は「258 満洲范家屯、国民学校々歌」。「[P.112 二改作]」と注記	
興亜通信工学院々歌	朝日夕日にそゝり立ち／富士の霊峯、をしふらく	74	目次の標題は「259 興亜通信工学院々歌」。「(P.138に清書)」と注記	
英霊通過	駅の拡声器がいひました／只今、つきます、急行が、	76		
夏の休みもをはりです	夏の休みもをはりです／明日と、あさつて、二日だけ	79		
おねんね	私はおねんね、まつしろの／シーツの上に、上むいて、	81		
奉天、長沼高女校歌(第四稿)	古都瀋(しん)陽に新しき／文化、集ひて、かゞやけば、	82	「P.14の改作」と注記	
電車がとまつて	電車がとまつて、戸があいて、／一番先に、下りるのは	84		
バスが止つた	「お次、ストップ願ひます」 車掌のやさしい高いこゑ、	85		
チューリップ島	チューリップ島に咲いた花／チューリップばかりでございます。	86		
チューリップの花片	チューリップ、チューリップ／きれいな花びら、	87		
除夜のかね、中々(まだまだ)	待つてた、待つてた 除夜のかね。／一つ	88	目次の標題は「除夜のかね、中々」	
私の勤勞奉仕	お家で、勤勞奉仕です。／私をはじめて、足袋はだし、	90		
勝手口のコゑ	母さん、夕方、買出しに／私を残して、御出かけで	92		
縄またぎ	運動会の縄またぎ／十本あるから、十ぺんまたぐ	93		
坊やお芋	ぷくぷく、まるまる、ころころと、／生れたばかりの坊やです。	94		
黒い猫どろ棒	どこからはいつたか、知らぬ間に／音もたてずに、来てをつて	95	目次の標題は「黒猫どろ棒」	銀の鈴
柚子湯	柚子湯の晩は、柚子の匂ひ／湯どのは、廊下から柚子の匂ひ	96		
帰りみち	お母さま、まーだ、御入院／今日も私、お見まひに。	97		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
熊ン蜂の巣	蜂が、大きな巣をかけた／高いおやねの棟の下	98		
雨の手品師	雨は ポツンポツン、おちて来て／砕ける、きれいな 水の玉。	99		作歌者協会 (二二. 八. 二二)
風鈴と短冊	チリ、リン、チリ、リン、風鈴が／だあれも見てみぬ日くれ方	100		
帰りの電車	居のこり当番、／大へんよくできて、	101		
大人も羽根つき	カッチン、コッチン、はねの音／正月、まだまだ来ないのに、	104		
小つぶの大仕事	小さな小さな雨のつぶ／雨の小粒が集って、	105	目次の標題は「小さな雨粒」	
田んぼの中みち	稲が、黄いろく熟しはじめて／田圃あぜみち、昼の風、	106		
冬の手品	椿の葉つば、八手の葉つば、／緑の葉つばが、夜の中に、	108		
早いお客さま	青桐 涼しい裏庭で／花ごさしいて、おまゝごと。	110	目次の標題は「早いお客様」	
東京はいゝね	兄妹ばかりで、お休み中、／遠くへ行つてゝ、久しぶり	111		
満洲／范家屯国民学校々歌	さやかに、ほがらに、かがやかに、／天地、てらして日は昇る。	112	目次の標題は「范家屯校歌(改作)」。「[P. 72の改作]」、「[P. 134に再改作]」と注記	
をかしの鳩[のうち][さん]	おうちの庭に、平気で下りて、／お首ひよこひよこ、何だか、拾つては、	114	目次の標題は「をかしの鳩さん」	作歌者協会
山羊さん親子	山羊さん、親子、／どちらが親山羊、どちらが子山羊。	115		作歌者協会
先生の肩たゝき／たんたんたん	たんたん、たんたん、たんたんたん、／お弁当すんだ お教室	116	目次の標題は「先生の肩たゝき」	
短かく古くなる鉛筆	新しくつて長かつた／鉛筆、次々、へつて行く	118		
画の宿題	夏の休の画の宿題は／自分の好きな果物、写生、	119		
お父さまのヨツト	風に、一ぱい、三角帆／おんなじやうに、びんと張つて、	120		
新聞や	朝起、早起、庭さうじ／御門の内をはいてると、	121		
朝の公園	朝のお散歩、父さまと、／早起して来た、公園は、	122		
六かしいシヤボン玉作り	赤、青、紫、金銀の／きれいなきれいな模様入り、	123		
芝焼き	もく、もく、煙、／きいろの煙、	124	目次の標題は「芝やき」	作歌者協会
草ひばり	いゝこゑ、ね、高いこゑね。／家中、ひゞく草ひばり	125		作歌者協会
冷蔵庫	冷蔵庫、々々々、／日に ほされてる冷蔵庫、	126		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
へうたんとおちいさま	大きいへうたん、ぶーらりん／小さいへうたん、ぶらぶらりん	127	目次の標題は「へうたんとおちいさん」	
お召列車	レールの柵の外側に、／柵から、はなれて一列に、	128		十九年 年鑑 日本詩年鑑
とんぼの薄羽根	とんぼのうすばね、すゞしいね／四枚が四枚、おんなじね、	130	目次の標題は「とんぼの薄羽」	
玉虫	金に紫、ぼたん色、／背中のきれいな玉虫さん	131		
今日から長やすみ	今日から、いよいよ長休み、／やつぱり早く目がさめて、	132		
伊勢えびさん	大きくて 立派な いせえびさん／びんぴん伸ばした長いひげ	133		
満洲連京線／范家屯在満国民学校長	さやかに、ほがらに、かがやかに、／天地 てらして、日は昇る	134	目次の標題は「范家屯、校歌(改作)」。「(P. 112の改作)」と注記	
長い夏休み	今日から 長い夏休み／ゆつくり、ゆつくり朝ごはん	136	目次の標題は「長い夏やすみ」	
水まき	水まき さらさら 涼しいな／一日照つた日くれ方	137		
興亜通信工学院々歌	朝日夕日にそゝり立ち／富士の霊峯、をしふらく	138	目次の標題は「興亜通信工学院々歌(改作)」。「(P. 74より)」と注記	
銚子市／高神(たかがみ)国民学校々歌	大天地を あまねく照らし／とはに、かはらず、[歓喜][希望を]みたし	140	目次の標題は「No.260 銚子市高神国民学校々歌」	
(前頁より)改作	大海原に昇る陽の／とはに、かはらぬ輝きよ。	142		
(前頁の改作)	大海原に昇る陽の／とはに、かはらぬ輝きよ。	144		

◆ 創作ノート㊤(昭和18年～19年)

神辺国民学校々歌	常盤の松に、色はゆる／桜紅葉に、しめすなり、	1	目次の標題は「No.261 広島県神辺国民学校々歌」
大津野国民学校々歌	郷頭山の風きよく／輝く朝日に、皇民われ、	2	目次の標題は「262 広島県大津野国民学校々歌」。「P. 14に改作」と注記
和歌山市／文教高等女学校々歌	大空高くわたり来る／田鶴に豊けき和歌浦。	4	目次の標題は「263 和歌山県立文教高女校歌」
広島市南観音町／旭兵器工業株式会社々歌	天地てらして 輝く旭／光輝(ひかり)よ、[希望(のぞみ)][生命(いのち)]よ、誇(たか)の社章(しるし)。	6	目次の標題は「264 広島市旭兵器興業株式会社々歌」
旭兵器工業／中心練成隊々歌	大みこ[ころを][とのり]、畏(おそ)みて／御国の使命、新(あら)しく、果(は)さんと	8	目次の標題は「265 広島市旭兵器興業株式会社練成隊歌」

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
広島県神辺町／桑田織物 物資会社々歌	日は照る 神国 大日本、／明るく、 浄き しるしにて、	10	目次の標題は「266 広島県神辺町桑田織物 工場歌」	
空の兵隊さん	光る光る 銀のはね／アレアレ三台、 又三台	12		初、三、四年
大津野国民学校々歌	郷頭山の空高く／輝く朝日は、をしふ なり	14	目次の標題は「大津 野、校歌(第二稿)」。 「[P.2の改作]」と 注記	
幼年ニコニコピンピン	オ日サマ、キラキラ(ヨイテンキ)／カ ゼハ、ソヨソヨ、(ヨイキモチ)	16	目次の標題は「幼年ニ コピン」	ウタトヲドリノホン (巻一)
ブルルンブルルン	朝は毎朝、はやくから／ブルルンブル ルン	17		
松山市／私立、新田中 学校々歌	永劫 不動の高縄山は／かたるか、忠 烈	18	目次の標題は「267 松山、新田中学校歌」	
海の古戦場	風は吹かぬに、うねりは高く／しきり に砕くる波がしら、	20		
軍用道路(改作)	大きな貨物を (積上げた)／軍用貨物 自動車、後から後から、続いては	26	「(十七年、P.34の改 作)」と注記	
海軍記念日	空は青々 はれてるに／波のうねりの 高かつた	28	掲載紙誌の切抜貼付	少国民新聞 十八年 五月二十六日
うねりの歌	大空高く、雲もなく／風さへなきに波 さわぎ	30	「(次頁へ、改作 P.32)」と注記	放送局 国民合唱
うねりの歌	御空は晴れて 風なきに／波のさわぎ で、荒るゝ海。	32	目次の標題は「全上」	
田辺尚雄先生／華甲祝 歌／大東亜和楽	清らに、ほがらに、昇る日に／御空 も、大地も、海原も	34	目次の標題は「268 田辺尚雄先生華甲祝 歌」	田辺先生還暦記念 「東亜音楽論叢」掲 載
トンビ	ピーン ヒヨロロー ヒヨロロー／ニ ツポンバレノ アヲソラデ	36		
地下鉄電車	ゴーゴー、シャーシャー 地下鉄電 車、／走つても走つても、トンネルば かり	37		
ウサチヤン	ウサチヤン、ウサチヤン、ヲカシイ ナ。／オメメハ、ドチラモ、ナゼアカ イ。	38		
戦捷記念のゴム毬	新しいまり、ゴムのまり／久しぶりで す、はづむまり	39	目次の標題は「戦捷記 念のゴムまり」	
龍宮踊(その一)	龍宮中のおさかなが／ひらめ[や][と] 鯛を、まん中に、	40	目次の標題は「龍宮を どり(一)」	
[その二]	タンララ、ヒンララ、龍宮踊／鯛も、 ひらめも、上手なをどり	40	目次の標題は「〃 (二)」	
島根県立／江津工業学 校々歌	旭光燦たる星高山と／われらの学舎 理想は崇し	42	目次の標題は「269 島根県江津工業学校々 歌」	
朝鮮忠清北道／忠州公 立中学校々歌	南山麓の旭光に／仰ぐは、ほこりの日 章旗、	44	目次の標題は「270 朝鮮、忠州中学校々 歌」	
福山市／手城国民学 校々歌	天当山の風清く、／朝日輝く日の御 旗、	46	目次の標題は「271 福山手城国民学校々 歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
悼吾子自爆	燃ゆる機に焰となりて自爆せし吾子／ を思ひて真夏たへをり	48	短歌20首	
松の木応召	応召してゆく太い松、／「応召」の二 字、太い文字。	52		
石つころの相談	不思議に目につく、足もとの小石、／ でこぼこ小道は、石つころ小道	53	目次の標題は「石つこ ろ」	
砂利のみち	毎朝急ぐ、砂利のみち／駅まで一キロ ほどのみち	54		
じゅんめんのりまき	じゅんめんのりまき 久しぶり／海苔 の句で ございます。	56		
お縁日	おうちのすぐそば三丁目／おえんま様 のおえん日	58	目次の標題は「おゑん 日」	
インチキ富士山	大きなお池をほつた土／もり上げもり 上げ出来た山	60		
日本製靴株式会社々歌	朝日照り映え、玲瓏の／[神山][霊峯] 富士と、いや高さ	62	目次の標題は「272 日本製靴会社々歌(添 作)」	
北海道／樫保炭礦之歌	山は三富士、そゞりぞ立てる／海はオ ホツク、遙けき波路	64	目次の標題は「273 樫保炭鉱之歌(〃)」	
満洲国錦州省阜新市／ 阜新海州在満国民学 校々歌	あまねくも、天地を／てらし昇る朝 日、	68	目次の標題は「274 満洲阜新海州在満国民 学校々歌」。「P. 90に 改作」と注記	
尾道市／市立高女校歌 (尾道市栗原町)	朝日夕日に、明るくも／海路陸路のた よりよく	70	目次の標題は「275 尾道市立高女校歌」	
山形県北村山郡／宮沢 村／国民学校校々歌	晴れて明るき大空に／月山仰ぎで徳を 磨き	72	目次の標題は「276 山形県宮沢村国民校 歌」	
東京府立／神代高女校 歌	朝[日][な]夕[日][な]に聳えたち／正 しき姿も動かざる	74	目次の標題は「277 東京府神代高女校歌」	
県立／和歌山中学校々 歌	日夜不断の希望の歩、／邁進つゞく る紀の清流に	76	目次の標題は「278 和歌山中学校々歌」。 「P. 84に改作」と注記	
殊勲甲	ほまれなり、殊勲甲とはかたじけな吾 子／にたまひし上なきほまれ	78	短歌9首	
神戸市／私立、六甲中 学校歌	旭光燦然 雲に映え／朝風きよ [し][き]、伯母野[台][山]。	80	目次の標題は「279 神戸六甲中学校々歌」	
京城府／京城師範学 校々歌	日毎 わが進む 教の道に／光とあふ ぐ 大みことのり。	82	目次の標題は「280 京城師範学校々歌」	
和歌山中学校々歌	日夜不断の希望(のぞみ)の歩、／邁進 つゞくる紀の清流に	84	「P. 76の改作」と注記	
北の護り	[旭をあびては][東に向いては] 宮城を ／[東に][毎朝]拝んで思ひます	86		放送協会(麴町区内幸 町)音楽部(三枝健剛)
日本太郎の歌	日本、島国、海の国／太平洋に、広々 と	88	目次の標題は「日本太 郎のうた」	
満洲／阜新海州在満国 民学校々歌	あまねくも、天地を 照し昇る朝日。 ／皇御国の久遠の姿、	90	「[P. 68の改作]」と 注記	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
清水市／岡国民校々歌	朝日さしそふ神山富士の／雪は、久遠に、気高く、はえて、	92	目次の標題は「162 清水市 岡国民校々歌 (第十七冊／昭和十一年の改作)」と注記	
広島県上下町、県立上下農学校	雛鵬丘(ひなどりをか)に風すみて／旭かがやく翁山(おきなやま)。	94	目次の標題は「No.281 広島県立上下農学校々歌」。「(P.110に清書改作)」と注記	
東京都北多摩郡大和村／大和国民学校々歌	朝日夕日に、霞に、雲に 清く正しく、聳えて笑まふ	96	目次の標題は「282 東京都大和国民学校々歌」。「P.106 改作」と注記	
東京厚生女子専門学校々歌	御民われ、生けるしるしのちかひもて、／八紘為宇のみことのり	98	目次の標題は「283 東京厚生女子専門学校々歌」。「P.102 清書」と注記	
起てり大日本	東に国あり 大日本／日本の国、神の国、	100		
東京女子厚生専門学校々歌	御民われ／生ける験(しるし)の誓もて、	102	「P.98ヨリ」と注記	
今こそ	今こそ われらの起つ時ぞ／南に、北に、聞えずや	104		
大和国民学校々歌	武蔵大野に、天地に、／光(を)みたして、昇る陽あびて、	106	「(P.96改作)」と注記。(高等科モアリ)	
福岡第一師範校歌	天つ日を／あびては 目ざめ、栄えゆく	108	目次の標題は「284 福岡第一師範校歌」。「P.114に改作」と注記	
広島県立／上下農学校々歌	雛鵬丘に風すみて、／朝日かがやく翁山。	110	「P.94ヨリ」と注記	
福山市立高女校歌	日毎新たに陽をあびて／昔忘れず、(身も霊も)	112	目次の標題は「285 福山市立高女校歌」	
福岡第一師範校歌(改作)	天津日を、あびては、目ざめ栄えゆく／世界をひきゑ、新しく	114	「P.108ヨリ」と注記	
広島県立／神辺農学校々歌	日夜休まず注ぎゆく／高やの流にちかふなり。	116	目次の標題は「286 神辺農学校々歌」	
日紡東航社歌	朝風清き碧空に／へんぼん高し、日章旗	118	目次の標題は「287 日紡東航社歌」。大日本紡績東京航空機工場	
日紡東航女子寄宿舎／洗心寮々歌	豊けき流、一すぢに／まことの歩、[ひたすらに][ましぐらに]	120	目次の標題は「288 同 洗心寮々歌」	
日紡東航／自彊寮々歌	谷間を野原をましくらに／日夜不断の旅ゆ[きて][くや][くに]	122	目次の標題は「289 同 自彊寮々歌」	
丘、靖国神社臨時大祭として、第六十四回目に合祀せらる	いと静かにいと厳かに靖国の神まつり／せさず戦争(いくさ)の[真中][さなか]に	124	目次の標題は「和歌一 靖国神社臨時大祭(一)」。短歌21首	
天皇陛下／皇后陛下 御親拝	御車を迎へまつると、神鳩[も][は]よろこび／よろこび低く舞ひ舞ふ	128	目次の標題は「Ⅱ(二)」。短歌29首	
群馬県／高崎市 佐藤高等技芸女学校	木の葉、岩根をくぐりつゝ／はざまを縫ひて、楽しくも	134	目次の標題は「290 高崎市佐藤高等技芸女学校々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
東京都立／第五商業、 国立工業学校々歌	朝日に映えて、らんまんと／万朶の 桜、春うらら、	136	目次の標題は「291 東京都立第五商業国立 工業校歌」	
福山市盈進工業学校々 歌	眼四海に放ちては／偉容儼たり、熊ヶ 峯	138	目次の標題は「292 福山盈進工業学校々 歌」。「(No.145 盈進 商業、校歌改作)」と 注記	
英米撃滅の歌(その一)	討ち滅さないでおくものか、／お日様 [出ない][照らぬ]日はないと、	140	目次の標題は「英米撃 滅の歌 一」	京城放送協会
米英撃滅の歌(その二)	討たておくべきや、イギリスを／さま で昔にあらぬ時、	142	目次の標題は「英米撃 滅の歌 二」	
◆ 創作ノート㉔(昭和20年～24年)				
新潟市立上所島中学 校々歌	百川集へて、水豊満に／躍進続くる久 遠の流。	0	目次の標題は「No.293 新潟市立上所島中学 校々歌」。「P. 8に改 作」と注記	
広島県呉市仁方町国民 学校々歌	旭に匂ふさくら花／かざす校章(しる し)ほこらしく	2	目次の標題は「No.294 呉市仁方町国民学校々 歌」	
東京都渋谷区／代々木 国民学校々歌	代々木の杜の朝日かげ／風は清らに、 気は澄みて	4	目次の標題は「No.295 東京都代々木国民学 校々歌」	
高橋家の初孫、勝子と 命名	大東亜みちびき進む御軍の勝／つゞく 日の高き産声	6	目次の標題は「高橋家 の初孫」。短歌8首	
市／立 新潟中学校々 歌	百川集へて、水洋洋と／躍進つゞくる 久遠の流、	8A	目次の標題は「全上 改作」。「(P. 1の改 作)」と注記	
満洲富士綿株式会社々 歌	高く 貴く 天地の／分れし時ゆ、神 さびて	8C	目次の標題は「No.296 満洲富士綿社歌」	
昭和二十年二月二十四 日夜七時、神田末広町 にて、博士阪本恒雄国 手、米鬼B29の爆風に あひて、無傷なり	助け来し人の命の千よろづが、おのが ／一つの命すくひし	10	目次の標題は「阪本博 士の命拾」。短歌8首	
神辺町青年団々歌	明けゆく天地にあまねく新らしく／輝 く光、もゆる熱	14	目次の標題は「No.297 広島県神辺町青年団々 歌」。印刷物の貼付	
紅葉は花ではないんだ よ(孫ヒデ子の所謂よ り)	紅葉は、花ではないんだよ／きれいで きれいで、まつかでも、	16	目次の標題は「紅葉は 花ではないんだよ」	
お母様(その一)	おそばにみると、どうしてか、／いつ でもおうち[が][は] 温かい	18		
(その二)	朝早くから、イソイソと、／夜おそく まで、イソイソと、	18		新日本保育 二十一 年四月号
(その三)	母さま、いつでも／一人でせつせと	19		
神辺町女子青年団々歌	真澄の空に、大日輪の／久遠の光、み たしては	20	目次の標題は「No.298 広島県神辺町女子青年 団々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
広島県深安郡／御野村 女子青年団々歌	日毎 緑の色 映えて／松の操ぞ と きはなる	22	目次の標題は「No.299 広島県御野村女子青年 団歌」	
広島県芦品郡／大正村 国民学校々歌	[うまず][日夜]たゆまず 誠の歩、／ 競ふも楽しき流にて、	24	目次の標題は「No.300 広島県大正村国民学 校々歌」。「P.44改 作」と注記	
芦品郡駅家村／万上青 年会々歌	朝日夕日に不動の姿、／峻嶺、蛇園、 仰ぎては	26	目次の標題は「No.301 広島県万上青年会々 歌」	
至誠塾理事長／出原靖 太氏弔歌	風の流に冷えゆく涙／ぬぐふにすべな きこの秋、この日、	28	目次の標題は「No.302 至誠塾主、出原靖太師 弔歌」	昭和二十一年十月八 日執行 葬儀式場にて 斉唱
鈴木賢吾氏によせて／ 今の日本・今の府中	今の日本ほど、よき生き方をしたい と、誰も／が念願してをる時は、恐ら く、古来	30	目次の標題は「今の日 本・今の府中」	
三原市々歌(当選歌の 補作)	朝日に映ゆる桜山／瀬戸内海のまほ片 ほ	32	目次の標題は「三原 市々歌(補作)」	
瀬戸内海の新春	ほのほのと、夜霧のはれて、／うらゝ かに、あけはなれゆく	34		
今の日本・今の福山	今の日本ほど、よき生き方をしたい と、誰もが念願してをる時は、恐らく 古来、無／かつたかと案ぜられる。そ れほど今の日本は、どの方面も、不安 と焦慮と、闊躍にさへ	36	昭和21年12月22日開催 の「音楽を家庭で楽し む集ひ」(鈴木賢吾一 家)のプログラムへの 献辞。印刷物の切抜貼 付	
ほほえみ会によす	ほほえみ会一神辺中心の音楽愛好若人 たちのほほえみ会一が、この度、まづ 音楽を通／じて、心からなるほほえみ を、大方へ、お分ちし、御伝へしよ うといふ。	37	昭和22年1月18日開催 の「第一回郷土音楽 会」(神辺国民学校講 堂にて開催)のプログ ラムへの献辞。印刷物 の貼付	
黎明(あけぼの)の曲	ほのかに明るく大天地(おゝあめつち) の／いづかたよりか、	38	目次の標題は「No.303 黎明の曲」。印刷物の 貼付	二十二年四月二十七 日、東京・東宝小劇 場にて初演
広島県深安郡／大津野 小学校々歌(改作)	郷頭山の空高く／輝く朝日は教ふな り、	40	目次の標題は「大津野 小学校々歌(改作)」	
ペンピンパン	富士山の絵に、「フジサン」と／ペン で、はつきり、かいた文字、	42		
広島県／大正小学校々 歌(改作)	日夜たゆまず 誠の歩、／競ふも楽し き流にて。	44	目次の標題は「大正小 学校々歌(改作)」。 「P.24ヨリ」と注記	
大分県立／臼杵中学 校々歌	虚空に巍然、鎮南の／高峯、永劫、さ とすらく	46	目次の標題は「No.304 大分県臼杵中学校々 歌」。「P.66に改作」 と注記	
雀鈴なり	鈴なりに、／よく熟してた赤い柿	48	目次の標題は「雀雀な り」。「(昭和十五年 —P.123の改作)」と注 記	
柿	あのえだ、そのえだ／かき、かき、す ずなり。	50		
盆踊りうた／八尋小町	備後 八尋は よいところ／春よし、 夏よし、いつもよし、	51	目次の標題は「盆踊唄 —八尋小町」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
(改作)大分県立／臼杵中学校々歌	御空に聳え鎮南の／高峰さすとやとこしへに、	66	目次の標題は「臼杵中学校々歌(改作)」。「(P.46ヨリ)」と注記。印刷物の貼付	
岡山県小田郡／大江村青年団体育大会／第一支部応援歌	黄金花咲くきびの空／一きは高く、気は澄みて	68	目次の標題は「岡山県大江村青年団第一支部応援歌」	
神辺農学校々歌一改作	日夜休まず 注ぎ行く／高屋の流れ [に][と] [ちか][きそ]ふなり。	72	目次の標題は「広島県神辺農学校々歌(改作)」。「(昭和十九年原作)」と注記	
広島県佐伯郡／津田農学校々歌	明暮仰ぐ勝成の／峯にたぐへて高きは理想	74	目次の標題は「No.305 広島県津田農学校々歌」	
広島県御調郡因ノ島／中庄中学校々歌	とはに不動の青影(山)に／崇き理想をたぐえつつ	76	目次の標題は「No.306 広島県中庄中学校々歌」	
広島県神石郡／牧村立牧中学校々歌	朝日夕日に聳え立ち／松の濃緑弥栄え	78	目次の標題は「No.307 広島県牧中学校々歌」	
市立新潟中学校々歌	百川集えて、水洋々と／躍進つづくる 久遠の流、	80	目次の標題は「新潟市立高等学校々歌(改作)」。「(P.8Aの改作)」と注記	
広島県芦品郡新市町／至誠学園、至誠音頭／四誓音頭	いつもぴんぴん、はね出すほどに／手足に、心に、力わき	82	目次の標題は「No.308 至誠学園四誓音頭」	
東京都北多摩郡／東村山町立／化成小学校々歌	武蔵大野の朝ぼらけ／霊峰富士を仰ぎては	88	目次の標題は「No.309 東京都東村山町立化成小学校々歌」	
広島県芦品郡／至誠学園々歌	よろづの花に さきがけ咲きて／色香もめでたき 白梅紅梅、	90	目次の標題は「No.310 広島県至誠学園々歌」	
至誠小唄(春のうた)	春が来た来た、至誠の[園][学舎]に、 ／胸にも開くは 何の花、	92	目次の標題は「至誠小唄(トトテン節)」	
あひるの子	ならんで うかんだ あひるの子／一羽が くーるり、じゃぶじゃぶと、	97	「昭和十五年の26「あひるじゃぶじゃぶ」改作」と注記	「銀の鈴」へ
はつぱがちつた	はつぱがちつた、／どつちからちつた	98	「(15年の改作)」と注記	「銀の鈴」へ
円い音	お月さま円い お山も円い／円いお山で、 円い音	99	「(十五年の改作)」と注記	
みなと	おふね おふね／大きいおふね	100		プレイメート六月号
広島県芦品郡／府中西校々歌	朝日あまねき片山に／わが学舎ぞ輝やける	102A	目次の標題は「311 府中西小学校々歌」	
谷	右も山山山山、山つゞき／左も山山山山、 山つゞき	102C		
うねくね谷	お山が右から左から／はさんだ谷間の 白いみち	104		
久留島武彦先生／童話生活五十年讃歌	むかしむかしのおはなしを／はなしはなして、 五十年	105	目次の標題は「久留島武彦先生童話五十年讃歌」	童話集「海に光る壺」に掲出
空(その一)A	高いな 広いな 大きいな／なんにも [さわる][じやまする]ものゝない	108	目次の標題は「空」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
空(その二) B	すみきつた大空/[青][秋]空、一ぱい うならせて	109		
東京/女子厚生専門学校々歌(改作)	あかつきを/つげて聖なる鐘の音に	110	目次の標題は「東京女子厚生専門学校(改作)」	
広島県御調郡向島西村/有道小学校々歌	とはにそびえてゆるぎなき/白方山の 気高きを	112	目次の標題は「No.312 有道小学校」	
鐘供養のうた	鐘が鳴る/今ぞ新たに、	114	目次の標題は「No.313 鐘供養のうた」	
広島県御調郡/(因島)大浜中学校々歌	四時の眺を世にほこる/瀬戸内海のま ただ中	118	目次の標題は「No.314 広島県大浜中学校々 歌」	
広島県世羅郡東大田村/大田中学校々歌	山幸 野幸 みちみちて/日ごと 栄 ゆる わが郷土、	120	目次の標題は「No.315 広島県大田中学校々 歌」	
広島市/大河小学校々歌	眺絵に似る瀬戸内海の/遠く七つの大 海に	122	目次の標題は「No.316 広島市大河小学校々 歌」	
広島県/世羅郡 東大田小学校	とはに聳ゆる新山に/高き理想をたぐ えつゝ	124	目次の標題は「No.317 世羅郡東大田小学校々 歌」	
高屋小唄	日にち、毎日、表に路次に/金のわく 音、機の音	126		
有磨小学校々歌	夜ひるやすまず、注ぎても/たゆま ず、うまざる有地川	128	目次の標題は「No.318 芦品郡有磨小学校々 歌」	
至誠学園中学三年生、四国旅行に、岡山より宇野線にのる。	さげかばん リュック、 トランク とりとりに、荷も/楽しげの修学旅行	130	目次の標題は「至誠学園修学旅行詠草」。短歌14首	
広島県豊田郡/本郷高等学校々歌	朝日かがやく高山の/不動不易の巨巖 (おゝいわ)に	132A	目次の標題は「No.319 豊田郡本郷高等学校々 歌」	
広島県芦品郡新市町/中央中学校々歌	谷川、野川 集えては/夜ひる、休ま ず注ぎては	132C	目次の標題は「No.320 芦品郡新市町中央中 学校々歌」	

◆ 創作ノート②⑦(昭和24年～33年)

広島復興音頭 右改作	朝日まだ出ぬ 大広島にや/はやも高 鳴る 槌の音	3	目次の標題は「広島復興音頭補作」。掲載紙誌の切抜貼付	「文化ひろしま」(昭和24年7月10日号)
高屋小唄	日にち毎日、リズムも軽く/ソレ、ソ レ、ヨイトナ、	9	目次の標題は「高屋小唄」	
広島県/双三郡 三次町/三次小学校々歌	比熊の山の高きにも/低きよりこそ登 るべく	15	目次の標題は「広島県三次小学校々歌」。「次々に改作」と注記	
改作/三次小学校々歌	尾関の花と、年ごとに/きそふ心の美 しさ	17		
広島県/芦品郡 網引小学校々歌	とわにかはらず、蛇園山(ざん)/強く 正しく聳えつゝ	19	目次の標題は「広島県網引小学校々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
広島県／沼隈郡 松永町々歌	路次にちまたに、工場に／唸るモーター、のこの音。	23	目次の標題は「広島県松永町々歌」	
竹尋音頭	竹田上下、八尋と組んで／昔ながらに平和な郷土よ	29	目次の標題は「広島県竹尋音頭」。掲載紙誌の切抜貼付	
広島県西福寺／神辺町 いろは保育所の歌	いろはのいの字は、いい子のいの字／ ことばもぎようぎも みないいい子	37	目次の標題は「広島県神辺いろは保育所々歌」。「〔次頁に改作〕」と注記	
右、改作	いろはのいのじは、いい子のいのじ／ ことばのぎようぎも みないいい子	39		
三次小学校々歌	尾関の花と、年毎に／きそう心の美しくさ	41	「P. 17の改作、(次頁に又改作)」と注記	
三次小学校々歌	尾関の花と、年毎に／きそうか、心の美しさ	43	「改作第三回」と注記	
竹尋小学校々歌	朝日に映えて聳え立つ／権現山の朝ぼらけ	47	目次の標題は「広島県竹尋校々歌一改作」。「(往年の東安校々歌改作)」と注記	
東京都文京区／東京学芸大学竹早分校／附属中学校々歌	大空高[く][き]富士の嶺の／朝日に、夕日に 照りはえて	51	目次の標題は「東京竹早附属中学校」。「次頁に改作」と注記	
右改作	大空高[く][き] 富士の嶺を／朝日に、夕日に 仰ぎては	53	前項「東京学芸大学竹早分校／附属中学校々歌」の改作	
〔右清書〕	大空高き 富士の嶺を／朝日に 夕日に 仰ぎては	55	前項の清書	
広島県／高田郡／吉田高等学校々歌	躍進[やすまぬ][うむなき]可愛川も／希望に勇む 可愛川も	57	目次の標題は「広島県吉田高等学校々歌」	
大阪市東淀川区相川町／大阪学園高等学校々歌	日に夜に、不断に、大海へ／希望の旅路(を)、[ましくら][一すぢ]に	63	目次の標題は「大阪学園高等学校々歌」。「P. 101へ改作」と注記	
桑原会復活第一回演奏会によす	文化国家ニツポン再建の曙光、ほのかながら、／たしかに輝きそめて迎えたこの年二月、今日五日、	65	目次の標題は「桑原会へ」。「東京、目白徳川義親侯邸内」	
呉市／片山小学校々歌	よるひる休まずたゆみなく／先をゆづりて、低きにつきて、	69		
ジュニア中国制定／新こども唄	朝だ、夜明だ、日が昇る／日本中に、キラキラと	75	目次の標題は「ジュニア中国「日本の子供」」。掲載	(中国新聞社からの依頼を受けて)
福山市川口小学校々歌 改作	大天地を照らして昇る／朝日の如くさわやかに	87		
広島県／音戸高等学校々歌	とわに絵の如うるわしき／[この海この陸(おか)][郷土の弥栄]ほこ[らしく][りては]	89	目次の標題は「音戸高等学校々歌」	
安芸郡／矢野町 矢野中学校々歌	朝日夕日に、聳え立ち／目路いと広き野間城は	95	目次の標題は「矢野中学校々歌」	
広島県／深安郡 御野小学校々歌	稚松 姫松 色映えて／栄行く郷土(さと)のしるしぞと	99	目次の標題は「御野小学校々歌(修正)」。「P. 183に改作」と注記	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
大阪学園高等学校々歌	夜昼倦まず大海へ／自由の歩もましくらに	101	目次の標題は「大阪学園高等学校々歌(修正)」。「P. 63ヨリ改作」	
岡山県小田郡／大江村／明星寺のうねり松に名づけていこいの松といふ。	明郷の峯に昇るや朝彦のまづ照らし／見るこれの寺松	103	目次の標題は「大江村明星寺の松」。短歌25首、「いこいの松」についての随筆2編	
明石市明石局区内／市立播陽幼稚園	ゆく舟 くる舟 広い海／小さいお舟 [も][の] 元気よく	115	目次の標題は「明石播陽幼稚園々歌」	
放送用短文／初夏の備南より		119	標題のみ記載	ラジオ絵葉書BK(五月十三日／六月五日放送)
放送用短文／備南の夏		119	標題のみ記載	季節の声(六月二十四日午前七時十五分より十三分間)
広島県／芦品郡 府中町／府中高等学校々歌	谷間のせゝらぎ、野の小川／協せに協せて、流れ来て	121	目次の標題は「府中高等学校々歌」。「(次に改作)」と注記	
右、改作	谷間のせゝらぎ、野の小川／合せに合せて旅ゆくに	123		
福山市立／東中学校々歌	朝日夕日にうるわしく／とわに正しく聳[ゆるを][えたち]	125	目次の標題は「福山東中学校々歌」	
右改作(福山東中学校々歌)	朝日夕日にうるわしく／とわに正しく聳ゆるを	127		
御調郡／市村 東部中学校々歌	力を心を協せに協せ／谷川 野川、集いに集い	131	目次の標題は「御調郡市村東部中学校々歌」	
広島県／御調郡 市(イチ)高等学校々歌	朝日夕日に、風雪に／とわに、不動に、明朗に	135		
象さん	象さん 太いね じまんだね／四本のあ[んよ][し]が、柱のようね	139		弘田龍太郎氏編「小学唱歌新作」(東京書籍)
縄とび(A)	なわとび、なわとび ピョーン、ピョーン／大波小波、とびこえとびこえ	141		弘田龍太郎氏編「小学唱歌新作」(東京書籍)
縄とび(B)	一だん、二だん、三だん 四だん／並んだみんなが、次々とんで	142		弘田龍太郎氏編「小学唱歌新作」(東京書籍)
お友だち(一年一学期)	がっこうの お友だち／おゝぜいでうれしいな	143	目次の標題は「お友だち」	弘田龍太郎氏編「小学唱歌新作」(東京書籍)
お手つだい(二年二学期)	稲刈、々々、日本晴／村は総出の忙しさ	144	目次の標題は「お手つだい」	弘田龍太郎氏編「小学唱歌新作」(東京書籍)
一寸法師	一寸法師のおわんのおふね／おはしのかいで川のぼり	145		
象さん	象さん おはなが手のようね／おはなのさきで 拾つては	146	「P. 140の改作」と注記	
広島県三川局区内／世羅郡三東中学校々歌	せせらぎ小川を谷間に野[辺][原]に／集えてきよき芦田の流。	147	目次の標題は「三東中学校々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
車の後押し	エンサカ、ウンサカ、エンサカ、ウンサカ、／車の後押し、こんな坂、なんだ坂	151	「(別作P. 167)」と注記	
もみずり機	まわるベルトだ、モートルだ／馬力のかゝつた、もみずりき	152	目次の標題は「もみずり機」	
一ねんせい(A)	うれしいうれしい一年生／毎日、[うれしや学校][学校、おきまり]で	153	目次の標題は「一ねんせい」	
一ねんせい(B)	一年生、一年生／仲よし小よしのお友だち	154	「P. 169改作」と注記	
つよい子よい子	体も丈夫[で][な]、元気な子／誰とも[皆と]仲よし、すなおな子	155		
夏やすみ	夏がきて、今にくる夏やすみ／毎日楽しい[お休みつゞき][夏休み][長休み]	156	「P. 171に改作」と注記	
球入れ	赤組、手に手に、赤い球／とりまく赤い竿	157		
おもちつき	もう[すぐ][ぢき]来ます お正月／うちでも[みんなで][楽しい]おもちつき	158		
ひなまつり	みごとな りつばな だいらさま／きれいに かざつて ひなまつり	159	「P. 170に改作」と注記	
もうすぐ二年生	もうすぐ[ぼくたち][わたしら][みんなが]二年生／おもしろかつた一年生	160		
海	ひろく、とおく、つゞく、つゞく。／海[が][と]、海[に][と]、つゞく、つゞく	161	「二年用」と注記	
ゆうびん屋さん	今日ももう来た おやつ時[急ぎ足][ニコニコと]／手紙をくばつて、はがきをくばつて	162		
サンタクローズ	チロロン、カララン、遠い音／雪ぞりすべらせ 大急ぎ	163	「P. 168短かくして」と注記	
まりつき	手まり、てんまり、てんとんてんとん。／身軽に、気軽に、はづむまり	164		
雪だるま	雪だ、雪だ、大雪だ／夜の間につんできた大雪だ。	165		
車の後押し	皆来い、とんで来い、こいこい、すぐこい／どこかの をぢさん 荷車 ひつばつて	167	「別作 P. 151、改作— P. 179」と注記	
サンタクローズ	チロロン、カララン、遠い音／雪ぞりすべらせ、[年(に)一度][大急ぎ]	168	「P. 163の改作」と注記	
一年生	うれしいうれしい一年生／友だち大ぜい仲よし小よし	169	「P. 153の改作」と注記	
ひなまつり	ひなだん きれいな たいりさま／いろいろ かざつたお人形	170	「P. 159の改作」と注記	
夏やすみ	今に来る来る夏休み／ことしも行きます、水泳[ぎ][に]	171	「P. 156の改作」と注記	
春の遠足(A)	青々波うつ麦ばたけ／菜花畠も そこここに	172		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
春の遠足(B)	今日こそ、[今日こそ][まつた] 遠足 々々／肩には、すゐとう、おべん とう	173		
お誕生会	△△さん、[今日は][△△さん]おめで とう／△年前の今日[こそは][ですね]	176	「三年」と注記	
ボート	こげこげ、ボート、／両手を しつかり はなすな オール	177		
ぞうのじまん	[ぞうさんぞうさん、じまんだね][ぞう のじまんだ、大じまん]／目[が][は]ポ ツチリと小さく[て][ても]	178		
車の後押し	皆来い 皆来い、すぐ来い来い／どこ かのおじさん荷車ひつばつて	179	「P. 167の改作」と注 記	
広島県／芦品郡 栗生小 学校々歌	明暮親しみ仰ぎ見る／南宮山はとこし えに	181	目次の標題は「栗生小 学校々歌」	
広島県／御野小学校々 歌(改作)	若松姫松色まして／郷土(さと)の栄ゆ るしるしぞと	183	目次の標題は「御野小 学校々歌(改作)」	
島根県立／江津工業高 等学校々歌(修正)	旭光燦たる星高山と／我等の学舎、理 想は崇し。	185	目次の標題は「江津工 業高等学校歌(改作)」	
高知県香美郡(山北局 区内)／組合立大忍(オ ホサト)中学校々歌	朝日に 夕日に 雨風に／不動の姿と こしえに	187	目次の標題は「大忍中 学校々歌」	
広島県御調郡因ノ島/ 田熊小学校々歌	来る日も、来る日も つどひ来て／朝 は とくより、日暮まで	193	目次の標題は「No.342 田熊小学校々歌」	
[右、清書]／田熊小 学校々歌	来る日も 来る日も 集い来て／朝は とくより 日暮まで	195		
楽の音	楽の音は小鳥に、虫に、風に、また絃 なき／胸の小琴にぞきく	197	目次の標題は「和歌、 楽の音」。短歌3首	
藤野綿業株式会社々歌	高く 貴く 天地の／わかれし時ゆ、 神さびて	199	「(満洲綿業の改作 昭和二十年原作)」と 注記	
石川五右衛門	旅の役者で賑やかな／村の祭の芝居小 屋	201		
砂川土手のそば畠	砂川土手路草の路、／草をむしつて、 砂ほつて	203		
影とスタコラ	駅まで[一キロ][真西へ]田圃みち／毎 朝 後に、日が昇り	205		
南備後は機織どころ	南備後は機織どころ／福塩線の どの 駅の	207	目次の標題は「備後南 部は」。掲載紙誌の切 抜貼付	中国朝報 昭和28年1 月1日
広島県／沼隈郡 柳津 (やないづ)小学校々歌	雨[の日][にも] 風[の日][にも]、[か わる][動きなく][そびえたち]／[すが た][とわに] 雄々しく、気高くも	209	目次の標題は「No.343 柳津小学校々歌」。 「P. 219に改作」と注 記	
尾道西高等学校々歌	海路に、陸路に、玉の浦／年毎 栄ゆ く よろこびて	211		
広島県／御調郡 田熊中 学校々歌	朝日夕日に、緑こく／永劫の姿の、気 高く、美しく	213	目次の標題は「田熊中 学校々歌」	
広島県／沼隈郡 水呑中 学校々歌	朝日に映えて、晴々と／目路いと広 く、眼を放ち、	215	目次の標題は「No.346 水呑中学校々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
改作 広島県柳津小学校々歌	雨にも、風にも、そびえたち、／明暮、かわらずしめさずや	219	「(二〇九頁ヨリ)」と注記	
広島県芦品郡／戸手小学校々歌	谷川野川を協せては／おのれのみちをば一すちに	221	目次の標題は「戸手小学校々歌」。「(次頁へ改作)」と注記	
右改作	谷間や野中のいささ小川／協せて、元気に、夜も昼も	223		
岡山県後月郡／青野小学校々歌	朝日てりそう 穴尾山／雨にも風にもふぶきにも	227	目次の標題は「青野小学校々歌」	
福山市御門町／ドレスメーカー女学院／晴華学園々歌	谷川、野川を一すじに／努めてあわせて芦田川	231	目次の標題は「福山ドレスメーカー女学院々歌」	
神石郡／来見中学校々歌	とわに動かずゆるぎなく／高丸山の聳えたち	233	目次の標題は「No.350 来見中学校々歌」	
岡山県児島局区内(味野(アジノ)町)／児島海員養成所々歌	大槌堅場もほゝえみて／つらなり つらなる島々と、	235	目次の標題は「岡山県、児島海員養成所々歌」	
三原市／第三中学校々歌	谷川野川を集え来て／沼田の大川たゆみなく	237	目次の標題は「三原三中校歌」	
福山市警察の歌	日毎栄ゆく文化都市／香も高き福山 [に][の]	239	目次の標題は「福山市警のうた」	
吉田晴風君／追悼演奏会へ電送	晴れやかに、／天つ御苑(みその)の楽の音を	241	目次の標題は「故吉田晴風君追悼」	
至誠学園／鐘の銘	風に風音 瀬に瀬音／鐘に鐘の音 面白や	242	目次の標題は「至誠の鐘」	
日の丸のはた	朝日朝風 日本晴／日の丸のはた美しや	243		
広島県深安郡／市村青年団々歌	朝日(あさひ)あびては雄叫ぶや／永却不動の蔵王山	245	目次の標題は「No.354 市村青年団歌」。「P. 251改作」と注記	
京都市歌	山は紫 水きよら／人も巷もうるわしく	247		
同	日毎新に かゞやかに／日の出づる国日本に	249	前項の「京都市歌」の別作品か	
市村青年団歌	朝日 あびては雄叫ぶや／永劫不動の蔵王山	251	「(P. 245の清書改作)」と注記	
雲雀の学校の校長さん	雲雀の学校の校長さん／お年を召してもお元気で	253		
広島県／呉阿賀高等学校々歌	朝日に映えて聳えたつ／永劫不動の灰ヶ峯	255	目次の標題は「No.355 呉阿賀高校々歌」	
文化窯のうた	文化の世の中、有がたや／炊事しながら、聞えるは	257		
追放解除を祝ううた／雲と富士山	雲にかくれた富士山が／時々 晴れ間に見えるたび	259	目次の標題は「追放解除(富士山と雲)」	
広島県沼隈郡／瀬戸村小唄	瀬戸はよいとこ、絵のような所、／山の緑に、色[そ][は]えて	260		
瀬戸村村歌	朝日に 夕日に聳え[ては][たち]／[尾根][峯]また[尾根][峯]の連なりて、	265	目次の標題は「No.356 瀬戸村々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
福山市霞銀座小唄	日毎ひろがる大福山の／まんまん中の 新大通り	267	目次の標題は「福山、 霞銀座音頭」	
福山東高校第一校歌 (儀式用、荘重調)	うるわしの／備南の大地、野に山に	273	目次の標題は「No.357 福山東高校第一校歌」	
右、第二校歌(野外 用、明朗調)	朝日に映えて気高くも／理想をしめす か、蔵王山	275	目次の標題は「No.358 右、第二校歌」	
右、第一校歌(清書)	うるわしの／備南の大地、野に山に	277		
広島県芦品郡／常金丸 中学校々歌	朝日に映えてとこしえに／不動の姿、 気高くも	279	目次の標題は「No.359 常金丸中学校々歌」	
世羅郡／西大田小学 校々歌	日毎 ほこりのしるしぞと／野幸 山 幸、[いやます][さかゆる]郷土に	281	目次の標題は「No.360 西大田小学校々歌」。 「P. 287、P. 289改作」 と注記	
萩	糸萩 小萩 みだれ咲くを／ちらさず ゆすらず	283	目次の標題は「山の 萩」	
山の萩	山路小径 通れぬほどに／したれて咲 いて、きれいなつゆに	284	目次には標題の記載は ない	
かげろう	どこまで こめてるあやがすみ／雲雀 の、ひるのごはん時	285		
右、改作	近くの山もかすんで、／蝶が、頭で [眠つ][休ん]でる	286	前項「かげろう」の改 作	
西大田小学校一第一案	野幸 山幸きわみなく／栄ゆるさと に、かざしては	287	目次の標題は「西大田 校歌改作1」。「原作 P. 281」と注記	
右、第二案	野幸 山幸 [つくる][きわみ]なく／ 栄ゆる 郷土(さと)に、かざしては	289	目次の標題は「西大田 校歌改作2」	
電話	ヂリヂリヂリン、ヂリヂリヂリン／そ れぞれ、電話、々々、すぐ出ましょ	291		
ひばり	今日も一にち、高い空で／金の鈴を、 誰が振るのか、	292		
むかしばなし	こわい顔の大男、弁慶が、弁慶が、／ 小さな小さな牛若に、牛若に、まけた	293		
カナリヤ	小さな体で、大きなこえを／はりあ げ、はりあげ、カナリヤなくよ、	295		
ラツセル車	大雪、大雪、／シグナル柱を短かく見 せ見せ	296	目次の標題は「ラツセ ル機関車」	
青い鳥	どこかにどこかに、いる[でしよか][の でしよう]／青い色した青い鳥	297		
人形の国のお客さま	こどもが、みんなが おきやくさま／ おきゆうじやくは おにんきやう	299	目次の標題は「人形の お国のお客様」	キンダーブック 二 十七年三月号
わたしの花壇 (旧作)	きれいにさいたよ、私の花が、／紫、 赤、白 桃いろ きいろ	300	目次の標題は「わたし の花壇」	
(新作)	毎日、おいしいお水を[やつ][かけ]て ／[大事に][私が]そだてた[私の][いろ んな[花が][花だん]]	300	前項「わたしの花壇」 の新作	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
広島県神辺高等学校々歌	清流高屋、只ひとすぢに／自由の歩は正義をしめし	301	目次の標題は「No.361 神辺高校々歌」	
アンデルセンのお話	大雪[うづめた][つもつた][大寒] 夜[ふけ][なか]の[町で][軒端]、／売れない マツチを残らずたいて	303	目次の標題は「アンデルセンのお話(外曲に合せて)」	
広島県佐伯郡(能美島)／大柿高等学校／生徒逍遥歌	緑に映ゆる能美島／瀬戸内海に、[かげやどす][うるわしく]	305	目次の標題は「大柿高校、生徒逍遥歌補作」。「生徒原作、補正／(P. 321ニ改作)」と注記	
広島県神石郡／油木高等学校々歌	天照らす日の光を熱を／あまねく注ぎみたす如、	307	目次の標題は「No.362 油木高等学校々歌」	
広島県神石郡／油木中学校々歌	権現山の朝夕に／雨風嵐も物かわと	309	目次の標題は「No.363 油木中学校々歌」	
盲人によせる言葉	私には盲人の仲よしが幾人もある。皆、盲人たる事／を少しも悲しんでいない。私の祖父もそうであつたが	311	寄稿文の原稿	「点字毎日」新年号
教科書の中のうれしい幼児童話	童話の中でも、本当に六／かしくて、本当に扱いにく	312	掲載紙誌切り抜き貼付。目次の標題は「教科書中の幼児童話」	
神奈川県足柄下郡／湯河原小学校々歌	年ごと、春ごと、正しくも／よろづの花に、さきがけて	313	目次の標題は「No.364 湯河原小学校々歌」	
日章旗	初春の旭を浴びて、へんぼんと翻る日の丸／の旗、あゝ、日章旗。	315	掲載紙誌切り抜き貼付	中国朝報 新年初刷
一姫二姫三太郎	「一姫二姫三太郎」というのは／「一姫二太郎」という言葉から	316	掲載紙誌切り抜き貼付	中国新聞一月三日
おやすみ番組		317	NHKラジオの番組表の切抜き貼付	
高知県香美(カミ)郡赤岡町／赤岡中学校々歌	真澄の空に、そびえたつ／秋葉の高嶺を、明暮仰ぎ	319	目次の標題は「No.365 高知県赤岡中学校々歌」	
広島県佐伯郡／大柿高校生徒逍遥歌	早緑はゆる能美島／瀬戸内海に影やどし、	321	目次の標題は「大柿高校生徒逍遥歌」	
陶山定人君に寄す	芸術は自然の子なりという、自然に生るゝ／もの、詩歌しかり、音楽しかり、絵画彫刻最も	323	目次の標題は「陶山定人君によす」	
みどり幼稚園々歌	明るい明るい日をあびて／どの木も、この木も、すくすくと	325	目次の標題は「No.366 東京、みどり幼稚園々歌」	
広島県神石郡／福永小学校々歌	昼間も、夜の間も、たゆみなく／まことの歩、一すぢに、	327	目次の標題は「No.367 広島県福永小学校々歌」	
広島県世羅郡／大見学園(大見中学校／大見小学校／徳市小学校)	谷川 野川を集えては／希望の海へたゆみなく	329	目次の標題は「No.368 広島県大見学園々歌」	
和歌山県伊都郡／隅田小学校々歌	谷のせゝらぎ、野の小川／集えて清き宮川の	331	目次の標題は「No.369 和歌山県隅田小学校々歌」	
祖父の日記	祖父の日記を孫が読む。祖父の／日記何十冊全部が明確な楷書体の	333	掲載紙誌切り抜き貼付	中国新聞 一日一想への寄稿(昭和27年7月5日)

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
中村孝也博士入院を慰めて	風の音も 小鳥のこえもかけ下の青葉 かくれ／の家に、まちてあらん	335	目次の標題は「中村博士入院慰問」。短歌3首	
御調郡／羽和泉小学校々歌	嵐 吹雪も たえしのぎ／芽ぐみ、伸びいで、しげりては	337	目次の標題は「370 広島県羽和泉小学校々歌」	
岡山県後月郡／芳井町婦人会々歌	流も清き小田川の／瀬音床しき、何の唄、	339	目次の標題は「371 岡山県芳井町婦人会々歌」	
広島県深安郡春日村／培遠中学校々歌	朝日夕日に笑みたちて／濃緑さかゆる蔵王山	343	目次の標題は「372 培遠中学校々歌」	
雨にぬれぬ法	「わたしがまだ十五歳のとき、絶／対に雨にぬれない法」という書物	345	掲載紙誌の切抜貼付	中国新聞「一日一 想」(昭和27年9月24日)
池坊学園短期大学校歌	朝日に夕日に真澄の空に／黙し聳えて大比叡も、	347	目次の標題は「373 京都池坊大学校歌」	
天神の紅葉狩の帰途。笠岡／の国手の車にのせられし折	吾妹子と紅葉狩して自用车に只二人／なる家路も楽し	349	目次の標題は「天神の紅葉狩」。短歌4首	
広島県沼隈郡山南村熊野村組合立／至誠中学校々歌	真澄の空に聳えては／気高き姿、かわるなく	351	目次の標題は「374 至誠中学校々歌」	
呉市／阿賀小学校々歌	朝日夕日に 聳えたち／姿も正しく、動きなく	353	目次の標題は「375 呉市阿賀小学校々歌」	
広島県沼隈郡／浦崎小学校々歌	大空高くそびえたち／とわの姿のかわるなき	355	目次の標題は「376 浦崎小学校」。 「P. 367改作」と注記	
山野小唄	備後山野は 山幸野幸／川にや川幸満ちみちて	357	目次の標題は「377 山野小唄」	
ニコピン志るこの讃	それ「ニコピン」はニコニコピンピンにして「平和円／満、進取活動」なり。略してニコピンとこそ。人、凡そ、	362	印刷物の貼付	福山とらや本舗謹製 「ニコピン志るこ」
広島県深安郡／市村婦人会々歌	野辺に、山辺に、草も木も／嵐に、霜に、雪にたえ、	363	目次の標題は「No.378 市村婦人会々歌」	
広島県沼隈郡山南村／沼南高等学校々歌	朝日に、夕日に 聳え起ち／しめすは、自立か剛健か	365	目次の標題は「No.379 沼南高校々歌」	
浦崎小学校々歌	大空高く 陽をあびて／とわに聳ゆる龍王を	367	「P. 355の改作」と注記	
広島県カモ郡／竹原中学校々歌	朝日にはえて朝日山／さとすか、とわに、はれやかに	369	目次の標題は「No.380 竹原中学校々歌」	
児童詩というもの		371	標題のみ。目次には標題の記載はない	「広島文学協会／編集部 梶山季之」
広島ゴム・とんど祭の踊りうた	備後福山 ゴム靴自慢／ツバメ印が大じまん	372	目次の標題は「広島ゴムKK ソーラン節」	
本紙の創刊にあたり	わが至誠女子高校本科第／二期生の卒業を機に、わが	375	掲載紙誌の切抜貼付。目次には標題の記載はない	至誠新聞No.1
気持のよい学校	初めての当校訪問者の誰／もが、いつでも、	376	掲載紙誌の切抜貼付。目次には標題の記載はない	至誠新聞No. II

作品名	うたい出し（冒頭）	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
女でもなかなかやるのう	先日の運動会を見て、某／高校の男子生徒が、話し合	376	掲載紙誌の切抜貼付。目次には標題の記載はない	至誠新聞No.III
随筆 赤い屋根	新市町の相方部落の／中ではあるがここ大平	378	掲載紙誌の切抜貼付。目次には標題の記載はない	新市町広報第29号 昭和28年2月15日
童話にも詩と科学とを	詩と科学とい／うより、詩的内	379	掲載紙誌の切抜貼付	朝日新聞社「朝日児童文化」第1巻第4号 (昭和28年7月1日)
広島県／芦品郡／駅家中学校々歌	朝夕 気高さ きそいつゝ／蛇園につゞく 山なみも	381	目次の標題は「381 駅家中学校歌」	
東京都文京区西片町／文京第一幼稚園々歌	クルクル、クルクル風車、／いつも、クルクル、うれしそう、	383	目次の標題は「382 東京文教第一幼稚園」	
広島県沼隈郡／本郷(小学／中学) 学園校歌	谷間のせゝらぎ 野の小川／集え協せて、ましぐらに	385	目次の標題は「383 広島県沼隈本郷学園校歌」	
広島大学三原分校／幼稚園々歌	仲よし小よし、ならべたえがお／ふじの[房][花]	387	目次の標題は「384 三原、大学附属幼稚園々歌」。「次頁に改作」と注記	
右、別作	胸のマークの桜も、えがお／えがおにえがおで、よい、よい、よい子、	389		
入院中の妻へ	ひとりねの病院にして此の雨を如何に／きくらんあわれわが妻	391	短歌6首	
備南平野のことしのみのり	稲の穂波ゆたけく、備南平野、ことしも豊年／真夏の真つびるま、防毒マスク、ゴム手袋、	393	掲載紙誌の切抜貼付。目次の標題は「ことしのみのり」	
百号に寄せて	本紙が、創刊三周年、／第百号を重ねたという。	394	掲載紙誌の切抜貼付。目次の標題は「文化百号によせて」	備南文化新聞(第102号)27. 11. 1
備南の校歌	由来、校歌は、その学校独自のもの、その環境の表現と、その校訓と／もいふべき教育内容の提示とは、他の何校のとも、別でなくてはならぬ。	395	掲載紙誌の切抜貼付	備南文化新聞(第109号)昭和28年1月21日
備南の校歌(二)	神辺と福山は、私の第／二の郷里、ではない、私	397	掲載紙誌の切抜貼付	備南文化新聞
鐘の音	どこからか かねが 今日もひゞく／誰がつくかねか、音[の][も]さえて、	400	目次の標題は「鐘の音(曲に合せて)」	小学唱歌
世羅郡甲山小学校々歌	朝日夕日に そびえたち／新山城山[とこしえに][笑みかわし]	401	目次の標題は「385 世羅郡甲山小学校」	
弘田龍太郎先生／追悼讃歌(子供うた)	日本国中、どこでも／子供ばかりか、大人まで	403	目次の標題は「386 弘田先生のうた」	
赤い屋根(第二)	本紙に、又『赤い屋根』を／かく偶然が、私の「物好	406	掲載紙誌の切抜貼付	新市町広報第39号 昭和28年11月15日
広島県／神辺中学校々歌	春夏と、秋冬と／季節はかわれど 久遠の姿に	407	目次の標題は「387 神辺中学校々歌」	
年賀状	五十何年昔、高等小／学三年の時、年賀状の	409	掲載紙誌の切抜貼付	中国朝報 昭和29年1月1日
船石保太翁のうた	又春をむかへて遂に九十年／よる年波に身をまかせつゝ	410	目次の標題は「和歌」。短歌2首	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
矢沢天馬君のうた	湯に入れて我をやすませ足の爪／短かく切ると世話やく滋	410	目次の標題は「和歌」。短歌3首	
世羅郡／甲山小学校々歌	朝日に夕日にそびえ[ては][たち]／高く 大きく[うれしげに][ほこらしく]	411	目次の標題は「388 甲山小学校々歌」。「P. 415＝清書改作」と注記	
神石郡／西城高校々歌	朝日 夕日に 笑まい立つ／峻峰大富、不動の[おしえ][さとし]。	413	目次の標題は「389 西城高校々歌」。「P. 417＝改作」と注記	
甲山小学校々歌	朝日 夕日に 照り映えて／高く 聳える新山の	415	「P. 411ヨリ」と注記	
西城高校々歌	朝日 夕日に そゝりたつ／大富山の、さとすらく	417	「P. 413の改作」と注記	
目の役目、耳の役目	目の役目は、孔は二つで、役目は一つ、見る役目／耳の役目も、孔は二つで、役目は一つ、聞く役目	419	「P. 541に別作」と注記	
手の指／五本指	親指 太くて強いから／背は低くても父さん指	421	目次の標題は「五本指」	
岡山県児島市味野／児島高校々歌	朝日 夕日に そそりたつ／峻峯龍王、しめすらく	423	目次の標題は「390 岡山県児島高等学校々歌」	
交響楽「建築完成」	その昔富士山の頂上から／下界を見下して、小泉八雲	425	掲載紙誌の切抜貼付	
二度目の初対面 清水画伯追悼	至誠高等女学校第一学年／二〇〇名募集に、四六二名	426	掲載紙誌の切抜貼付	
世羅郡小国町／小国小唄	備後小国はすみよい町よ／来よい、行きよい、くらしよい(ヤレ、ホレホレ)	427	目次の標題は「391 世羅郡小国小唄」	
至誠女学校卒業式々辞		433	標題のみ、目次には標題の記載はない	
清水良雄画伯追悼「壺前にて」		433	標題のみ、目次には標題の記載はない	
広島県遺児靖国神社来拝感想文／「靖国の子」を編みて		433	標題のみ、目次には標題の記載はない	
近藤君新婚の挨拶状のうたにかへすとて	西京の宿にきく瀬の音のよさ蜜月の／旅のいねがての夜半	434	目次の標題は「新婚の人にかへして(和歌)」。短歌3首	
宮城道雄／音楽生活五十年祭に打電	今から約四十年昔、日本の音楽箏曲／が、日本に於てさえ、とかく、かげが薄くなるかの頃、	435	目次の標題は「宮城道雄君の[音楽生活][五十年]祝歌」。短歌1首あり	
片ことにも立派な詩	童謡は、幼児の世界を／楽しく美しく、また	436	掲載紙誌の切抜貼付	朝日(昭和二九、六、四日)
静岡県／伊東市 野間幼稚園々歌	いつもきれいな花が咲き／いつも温泉わいている	437	目次の標題は「392 野間幼稚園々歌」。「P. 441に清書」と注記	
神石郡／豊松中学校々歌	朝日に聳え、夕日に笑まう／米見の嶺の ゆるぎなき	439	目次の標題は「393 神石郡豊松中学校々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
野間自由幼稚園々歌	いつもきれいな花がさき／温泉いつもわいていて	441	「P. 437より」と注記	
プロスペリテイ	昭和二十九年四月、新入／生百四十七名を迎えて、本	443	掲載紙誌の切抜貼付	至誠新聞 第5号 昭和29年7月15日
福山西小学校々歌	朝日 夕日に、山田山／眼を四方にはなちては、	445	目次の標題は「394 福山西小学校々歌」。「(P. 459へ改作)」と注記	
広島大学／福山分校附属中学／高校 校歌	陽光、明るく、風清く／四時、朗らのこの郷土に	447	目次の標題は「395 福山広大附属中学校々歌」	
広島県賀茂郡西条町／賀茂高校々歌	真澄の空に 濃緑映えて／希望の高峯と、白鳥山ぞ、	449	目次の標題は「396 賀茂高校々歌」。「P. 455ニ改作」と注	
福山附属中／高	陽光明るく 風清く／四時ほがらのこの郷土に	451	「清書と別案」と注記	
広島市牛田町／牛田小学校々歌	朝日 夕日に 緑映え／雨にも風にもかわるなき	453	目次の標題は「397 広島市牛田小学校」	
賀茂高校々歌	真澄の空に濃緑映えて／希望の高嶺と白鳥山ぞ	455	「P. 449の改作」「次頁にまた改作」「改作P. 475」と注記	
賀茂高校々歌(第三回案)	真澄の空に 濃緑映えて／希望の高峯[よ][と]、白鳥山よ	457	「改作P. 475」と注記	
福山西小学校校歌	朝夕 四方を見わたして／広く世の為つくさんと	459	目次の標題は「福山西小学校」。「P. 445の改作」と注記	
芦品郡新市町／自進会々歌	朝日 夕日に 聳えたつ／亀寿の山と、理想は高く	461	目次の標題は「398 新市自進会々歌」	
三原市立／糸崎小学校々歌	朝日に、夕日に てりはゆる／瀬戸内海の島々も	463	目次の標題は「399 三原市糸崎小学校々歌」。「改作P. 477」と注記	
望の湯の讃		465	標題のみ、目次には標題の記載はない	
噫平川大三君		465	標題のみ、目次には標題の記載はない	
野間自由幼稚園のお子さんへ		465	標題のみ、目次には標題の記載はない	
私の読書一昔と今と。		465	標題のみ、目次には標題の記載はない	
音楽光の会		465	標題のみ、目次には標題の記載はない	
児童と読書		465	標題のみ、目次には標題の記載はない	
看護婦さん	・・・さんは 白い服／白い靴下、白い靴	466		
今と昔と	六十何年もの昔、今の／誠之館高校の前身「福山	469	掲載紙誌の切抜貼付。目次には標題の記載はない。「私達の読書」	葦陽読書新聞 昭和29年11月29日
広島県深安郡／中條中学校々歌	大地に深くも根ざしつつ／日毎明るき陽をあびて	471	目次の標題は「No.400 中條中学校々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
うたの誕生	歌うた、すなわち、曲のある歌詞、 ／歌詞のある曲、いずれも、おのずから	474	目次には標題の記載はない。掲載紙誌の切抜貼付	講談社 教科書局
広島県／賀茂高校々歌	真澄の空に濃緑はえて／希望の高峯 よ、白鳥山よ	475	目次の標題は「賀茂高校々歌(改作)」。 「P. 455の改作」と注記	
広島県／糸崎小学校々歌	朝日に 夕日に 絵にまさる／瀬戸内 海よ、長井の浦よ。	477	目次の標題は「糸崎小学校々歌(改作)」。 「P. 463の改作」 「P. 463の原作に決定」と注記	
因島市／三庄小学校々歌	朝日に 夕日に うるわしく／えまいて、 高き 浅間山(せんげんさん)も	479	目次の標題は「401 因島市三庄小学校々歌」	
岡の松	お寺の後は松林、／藪のつゞいた岡の 上	481	備南文化新聞の切抜も貼付、新聞では「丘の松」と表記	備南文化新聞 昭和30年1月1日
苺とり	苺島は 苺ばかり／苺ばかりで花ざかり	483		
巨人福山	東京駅さえ、こんなにすっきり／した 広場をもたないほどの、広	485	掲載紙誌の切抜貼付。 「言いたい放題」	(中国新聞新年号)
児童と読書 自らよむもの一よんで聞かすもの	児童に善い本一児童自らが読／むのに 善い本、従つて、児童に読	486	掲載紙誌の切抜貼付。 目次の標題は「児童と読書」	学校図書館速報版 昭和29年12月5日
至誠の九年	昭和三十年、四月、本校／正に十年目を迎える。	487	掲載紙誌の切抜貼付	至誠新聞 昭和30年1月29日
噫 平川大三君	ことし秋／まだ残暑中	488	掲載紙誌の切抜貼付。 目次の標題は「平川大三君」	至誠新聞 昭和30年1月29日
新しい新市町礼讃	新市町と、常金丸、／網引、戸手の三村とが	490	掲載紙誌の切抜貼付。 目次の標題は「新しい新市町」	新市町広報 昭和30年2月20日
広島市外東海田町／広島電機高校々歌	朝夕仰ぐ 日の浦山の／自らなる気高さよ	491	目次の標題は「No.402 広島電機高校々歌」	
広島市外／府中南小学校々歌	明るい日かげ、清い風／[大][青]空[は れて][わたる]白い雲	493	目次の標題は「No.403 広島市外府南小学校」。 「P. 531改作」と注記	
広島市外／東海田／小ざくら保育所のうた	咲いたよ、咲いた／お宮の森にも、よく咲いた	495	目次の標題は「404 東海田、小桜保育所」	
尾道市美ノ郷町／三成小学校々歌	小さな流も次々に／力を合せて、一すじに	497	目次の標題は「No.405 尾道市三成小学校」	
私の十代／母の泣顔	中学一年の時、同じ下宿の／上級生に、英国た	499	目次の標題は「私の十代」。掲載紙誌の切抜貼付	朝日新聞 四月二十七日
尾道市／日比崎小学校々歌	[大地][地面]の底から わき出ては／ 空から降つては、一すじに	501	目次の標題は「No.406 尾道市日比崎小学」。 「P. 509に改作」と注記	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
広島市尾長町／松本商業高校／中学校々々歌	[秀峯][秀麗][霊峯]二葉 久遠の姿／永劫 黙し、何しめす、	503	目次の標題は「No.407 広島、松本商業高校歌」。「次に改作」と注記	
改作、松本商業高校々々歌	あけゆく空に 響きぞわたる／平和の鐘は 何さとす	505		
東京都深川公園／文教幼稚園々々歌	どの葉も この葉も きらきらり／どの窓、この窓、日の光	507	目次の標題は「No.408 東京、文教幼稚園歌」	
尾道市／日比崎小学校々々歌	大地にわく水 草のつゆ／雨水集えて流れゆく	509	目次の標題は「日比崎小学校々々歌」。「P.501の改作」と注記	
尾道市美ノ郷町／美木中学校々々歌	朝日に 夕日に [並びたち][相そびえ]／大平、竜王、しめすらく	511	標題の部分×で消してある。(目次の標題「409 尾道、美木中学校」も、取消線がひいてある)	
いずみ讃歌	泉、泉、／大地の深きより	513	目次の標題は「泉讃歌」	昭和三十二年二月二十五日午後四時四十五分放送 「ラジオ中国」
跡見時代の後をみて	二昔も三昔も昔のこと、最初一年間は国語を、約十一年	515	掲載紙誌の切抜貼付。目次の標題は「跡見時代回顧」	跡見学園「汲泉」第三号 昭和三十年八月一日
松永市歌	国の内外の人みなに／やすらい、いこいをささげんと	517		
栄養ニコピン志るこの讃	それ「ニコピン」はニコニコピンピンにして「平和円満／進取活動」なり。略してニコピンとこそ。人、凡そ、ニコピ	519	目次の標題は「ニコピンしるこ」。印刷物の貼付。P.362の新装版	株式会社虎屋本舗謹製「ニコピン志るこ」
子供の願い	子供は、子供とあらしめよ。子供の世界には、大人は／手を出し、口を出してはならない。子供の世界には、大	520	掲載紙誌の切抜貼付	広島県公報
岡山県／井原市 高屋町／どんぐり童話会のうた	どんぐり とんぐり／あちらも どんぐり	521	目次の標題は「412 どんぐり童話会の歌」	
大分県／立石小学校々々歌	小さき流 幾筋も／集えに集えて 何さとす。	523	目次の標題は「413 大分県立石小学校々々歌」	
宮城道雄氏を語る (上・下)	新日本音楽の創始者で、邦楽界の／巨匠宮城道雄氏の演奏会は、誠之	525	掲載紙誌の切抜貼付	新聞
神石郡／神石町婦人会々々歌	朝日夕日に笑ましくも／聳えに聳ゆる峯続、	527	目次の標題は「414 神石町婦人会々々歌」	
因島市／土生中学校々々歌	朝日 夕日に かゞやきて／青景山も見はるかす	529	目次の標題は「415 因島市土生中学校々々歌」	
海田市／府中南小学校々々歌	明るいひかげ、清い風／青空わたる 白い雲	531	目次の標題は「府中南小学校々々歌」。「(P.493より)」と注記	
浮田辰平氏著「少年の日に」の出版記念会	老らくの恋ならなくに気もそゞろ／少年の日に心浮いた浮いた	533	目次の標題は「浮田辰平君の祝」。短歌2首	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
大島祥丘画伯のために ／祥丘芸術の確立		533	標題のみ、目次の標題は「大島祥丘画伯」	
交通ひんばん	電車もバスもの交通網が／年々拵げられ、回数も次	534	掲載紙誌の切抜貼付	至誠新聞 第8号
松永正氏長男／弘三 (ヒロミ)君博子嬢と婚儀	梅[の][が]香[も][を][の]博く弘[めて][まり]竹尋に／いや末広[の][に]松永の[家][幸]	535	目次の標題は「松永君祝言」。短歌1首	
旭を浴びて	わが至誠女子高校の、広／い校地の東端に、新しく礼	536	掲載紙誌の切抜貼付。目次の標題は「旭をあびて」	至誠高校新聞
呉市／ルンビニ幼稚園	おはなは、おはなは よく咲いて／いつでも、どこでも、楽しそう	537	目次の標題は「416ルンビニ幼稚園々歌」	
新年随想／七十の手習	「六十の手習が、本当／で七十の手習は、う	538	掲載紙誌の切抜貼付。目次の標題は「七十の手習」	中国朝報 三十一年新年号
赤ちやん	小さなベッドに ねんねして／赤ちやん、お目目を あけていた	539	目次の標題は「あかちやん」。「(孫の眞にせがまれて)」と注記	
役目	お目目 二つで 役目は一つ／見る役目	541	「[P.419の改作]」と注記	
福寿の[曲][(賦)][歌]	絃(いと)の音(ね)に／心のしらべかけてひく	543	目次の標題は「417福寿のうた」	
安那中学校々歌	朝日 朝風 はれやかに／八畳岩山、権現山ぞ	545	目次の標題は「418安那中学校歌」	
世羅郡甲山町／甲山高 等技芸学校	旭に映えて 真澄の空に／姿、久遠の新山を	547	目次の標題は「419甲山高等技芸学校々歌」	
広島市旭町／広島県 広島工業高校々歌	光を熱を 天地に／旭の、あまねくみたす如、	549	目次の標題は「420広島工業高等学校々歌」。「別案P.681」と注記	
尾道市外／向島、津部 田小学校々歌	青空高く 睦じく／いつも向き合い並び合い	551	目次の標題は「421向島津部田小学校々歌」	
でこぼこ並んで	稲束 つぎつぎはずされて／田圃に残つて並んで	553	目次の標題は「でこぼこならんで」	
姫百合小百合	初夏の花多き中に、私の／最愛の花、それは鈴蘭。ま	555	掲載紙誌の切抜貼付	至誠高校新聞
あゝあゝ宮城道雄先生	昭和三十一年六月二十五／日午前二時五十三分頃、前	556	掲載紙誌の切抜貼付。目次の標題は「あゝ宮城先生」	
ニコピンもなか	ニコピンもなかは ニコピンだるま／お顔も円く お腹(なか)も円く	557	印刷物の貼付(虎屋本舗)	
新神辺町讃歌	手に手をつなぐ 山々の／どの木もこの木も どの川の	559	目次の標題は「422新神辺町讃歌」	
うたのおばさん	うたのおばさん、有りがとう、／毎あさ 九時前、待ちかねて、	561		松田トシ作曲 二百曲記念発表会
福山／南婦人会々歌	御空にたかなる／何の樂ぞ、	563	目次の標題は「423福山婦人会(南)」	
原島好文君へ	はがき毎よきうたもて来、来る毎にうれし／なつかし好文だより	564	目次の標題は「原島好文」。短歌5首	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
ニコピンだるま	遠い昔の大昔／そのまた昔の昔から	565		
お師匠さんにも認められ／た宮城道雄君を偉大なら／しめたもの	跡見女学校の小石川柳町時代何かの式後／若き日の宮城君が、尺八の吉田晴風君と演	567	掲載紙誌の切抜貼付。目次の標題は「宮城」	
ニコピニズム	なに、ニコピニズム？／えつ、ニコピニズム？	569	掲載紙誌の切抜貼付	至誠高校新聞 第11号
広島県双三郡／三良坂(ミラサカ)小学校々歌	明けても暮れても 一すじに／注ぎに注ぐ元気よさ、	571	目次の標題は「424 三良坂小学校々歌」	
童謡のゆくべき道	童謡はこどものものであり、こ／どもの世界から生れる。作るとい	573	掲載紙誌の切抜貼付	
心のアンテナ	あまり古い昔ではない頃／の小学校国語読本第一巻に	574	目次には標題の記載はない。掲載紙誌の切抜貼付	至誠高校新聞
神石郡／豊松小学校々歌	双子に米見に 杉の木、檜の木／雨には打たれ、	575	目次の標題は「425 豊松小学校々歌」	
広島県／世羅郡 甲山町川尻小学校々歌	朝日に 夕日に 輝やいて／朝倉、大平、大空に	577	目次の標題は「426 甲山町川尻小学校」	
広島県／世羅郡 甲山町上原小学校々歌	朝日に ほゝえむ 桜の花か／鎮守の森の小鳥の群か、	579	目次の標題は「427 甲山町上原小学校」	
(甲) 広島県郷土めぐりのうた	広島県は 広い県／広くて、よい県、立派な県、	581	目次の標題は「428 広子ちやん郷土めぐりの歌」	NHK (JOFK)
(乙) 全上、広子のうた	広島県に生れた広子／わたくし、うれしや、有りがたや	583		
同じうた(丙)	名所に名所[の][が]続いてる／広い広島[全県下][県全部]	585		
同じうた(丁)	広島県は[りつばな県][よい所]／海にも陸にも どこ[に][ま]でも	587		
広島県／山県郡 千代田町立／八重小学校々歌	朝日 夕日に 肩をばならべ／[とはに][高く][四方に]聳[ゆる][えた][える][山][峯]また[山][峯]を	589	目次の標題は「429 山県郡千代田町／八重小学校々歌」。 「P. 593改作」と注記	
岡山県後月郡／芳井町／明治中学校々歌	朝日に 夕日に 照りはゆる／峯また峯の深緑、	591	目次の標題は「430 井原市／明治中学校々歌」	
山県郡千代田町／八重小学校々歌	見わたすかぎりの田[に][も]畑 [に][も]／[田畑][田んぼ]に [田畑][田んぼ]が [つらなつて][つづいてて][つづいては]	593	「P. 489ノ改作」 「P. 595改作」と注記	
山県郡千代田町／八重小学校々歌(改作)	見わたすかぎり田も畑も／ゆたかなみのり 年毎に、	595		
一事が万事	最近、某市某会社での一／事実談である。	598	掲載紙誌の切抜貼付	至誠高校新聞 第12号
涙をこえての大結集		603	標題のみ記載	宮城道雄一周忌追慕演奏会誌
みだしていないか児童のことば		603	標題のみ記載	児童心理 三十二年八月号
小学／一年生 新年号のために	梅のつぼみがふくらんで／きたきた正月 うれしいな	605	目次の標題は「小学一年の正月(童謡)」	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
竹田のとんど節	とんどとんどと、竹田のとんど／大黒 さまさえ、えびす顔	607		
井原市／西江原町、大 山恒氏夫人、急逝／弔 電	イロモカモ／トワニト キクハ メデ ニシヲ	615	目次には標題の記載は ない	
高知旅行中ノ／至誠教 員団へ	ルスタクモ／ニコピンナレヤ 菊日 和、	616	目次には標題の記載は ない	
三重県婦人会のうた	朝日夕日に色はえて／三重の野山に咲 きみつる	617	「三輪玉尾の原作よ り」と注記	
世羅郡／甲山町 伊尾小 学校々歌	朝日に夕日に[すつきり][どつしり]と ／高くそびえて 向かい合い	619	目次の標題は「No.431 世羅郡甲山町、伊尾小 学校々歌」	
広島市宇品町／広陵高 等学校々歌	ましぐらに／昼も夜も たえずうまず	621	目次の標題は「No.432 広島市広陵高校々歌」	
広島市／工業高校々歌	大天地に光を熱を／みたす朝日の逞ま しき	623	目次の標題は「広島工 業高校々歌(改作)」。 「(P.682ニ清書)」と 注記	
佐藤一夫氏よりのうた の返歌3首	親雀子雀むれて遊びに来(き)うたに／ 踊にたのし大やぶ	625	目次の標題は「至誠の 現状(和歌)」。短歌3 首	
福山子供会のうた	広い[ね][よ] 高い[ね][よ] 大空は ／ 広くて、高くて 大きい[ね][よ]	626	目次の標題は「No.433 福山子供会のうた」	
宮城道雄直伝の双璧		629	標題のみ記載	中国新聞 三三年四 月
福山市／千田町／千田 小唄	春は 加賀良も蔵王の山も／[桃][花] のしとねに、(ホラホラ、ホラネ)	631	目次の標題は「No.434 福山市千田小唄」	
広島県芦品郡／新市音 頭	備後新市 織物どころ／備後がすりは 日本一	644	目次の標題は「No.435 新市音頭」。「昭和三 十五年改作」と注記	
三楽音頭	明るい日かげ[で][に]、清らの水 [で][に]／澄んだ大気[で][に]、手足 も[ねれば][ねつて][きたえ]	661	目次の標題は「No.436 三楽音頭(御領稲荷 歌)」	
備後緋小唄	またも出[ました][たぞよ]、ほら新 [柄][織]が、／この出来栄のすばらし き	663	目次の標題は「No.437 備後緋小唄」。金丸、 貝原織物KK	
至誠／スポーツ声援歌 (甲)	城山(じょうやま)下し、すさぶ日に、 ／至誠魂、ちかいたる	675	目次の標題は「No.438 至誠スポーツ声援歌」	
至誠／スポーツ応援歌 (乙ノ一)	富士の白雪ァ、ノーエ、朝日でとけ る、／とけて、流れて、ノーエ、	677		
同 (乙ノ二)	チャンスが[来ました][来た来た]、／ きつとかつチャンス、	679		
広島市旭町／工業高 校々歌	大天地に、光を、熱を／みたす朝日の 逞ましき	681	「P.549より」と注 記。目次には標題の記 載はない	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
◆ 創作ノート㊸(昭和33年～36年)				
広島県／世羅郡 世羅西町小国小学校々歌	来る日も来る日も かわりなく／朝日夕日に はれやかに	2	目次の標題は「No.439 広島県／世羅郡 世羅西町、小国小学校々歌」	
日本の乙女にかわりて	美智子さまの／およろこびの	4	掲載紙誌の切抜貼付。目次の標題は「ことほぎのうた」	
広島県／双三郡 三良坂／灰塚小学校々歌	よく晴れた日と おんなじに、／雨風の日も、雪の日も	6	目次の標題は「No.440 広島県／双三郡 灰塚小学校々歌」	
皇太子様／ことほぎのうた	大空に、大地に、あまねく新らしく／光 明るく、みちみちて	8	目次の標題は「改作、ことほぎのうた」	
(改作)福山市／蔵王小学校々歌	朝日 夕日に 聳え立ち／姿 おおしき蔵王山	14	目次の標題は「改作 蔵王小学校々歌」	
竹原市高崎町／大乘小学校々歌	仲よし小よしの大島小島／遠く、近く、並んでる	16	目次の標題は「No.441 竹原市大乘小学校々歌」	
印牧季雄先生／舞踊生活／四十年を祝う歌	わたくしたちは 僕たちは／みんな歌好き 踊り好き	18	目次の標題は「No.442 印牧先生舞踊生活／四十年 の祝い歌」	
松永市／大成館中学校々歌	きけや 清らの緑が丘に／松吹く風のささやくを	20	目次の標題は「No.443 松永市大成館中学校々歌」	
呉市／呉商業高校々歌	大空に 聳え立ち／四方を見わたし、見はるかし	22	目次の標題は「No.444 呉商高校々歌」	
広島市立三篠小学校々歌	朝日に 夕日に 緑もはえて／明るい大きな三瀧山、	24	目次の標題は「No.445 広島市三篠小学校々歌」。「P. 43改作」と注記	
神辺踊	揃ろた、揃ろたよ、踊り子がそろうた／ 神辺踊の踊り子がそろうた	26		
広島市三篠小学校々歌	朝夕 見上げる 三瀧山／桜も 紅葉も 美しく	43	目次の標題は「三篠小学校々歌(改作)」。「P. 24改作」と注記	
広島県／芦品郡 常金丸小学校々歌	木の葉のしずく 草のつゆ／谷間の流 仲よし小よし、	45	目次の標題は「No.446 広島市常金丸小学校々歌」	
至誠学園創立二十五年／祝歌	この小春日を／備南の空に、備南の大地に	47	目次の標題は「No.447 広島県至誠学園創立廿五年祝歌」	
豊栄高等学校々歌	うらら ほがらの大空に／そびえてさとすか 灰が峯	49	目次の標題は「448 呉、豊栄高校々歌」。「[P. 53ニ改作]」と注記	
沼隈郡／熊野小学校々歌	いつも、高くて、大きくて／風にも雨にもどつしりと	51	目次の標題は「449 広島県、熊野小学校々歌」	
豊栄高校々歌	光あまねき大空に／聳えてさとすか灰が峯	53	目次の標題は「豊栄高校々歌(改作)」。「P. 49の改作」と注記	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
三次市／十日市小学校々歌	朝日に、夕日に、ほゝえむように／姿やさしく、大空高く	55	目次の標題は「450 三次市十日市小学校々歌」	
近時／近況 八尋十二首	あのころのあのことそのこと、そのころ／のそのことあのこと皆なつかしき	57	「八尋一磨」の署名。短歌12首	宮城会報連載「宮城先生のあのころそのころ」につけて
広島県／三原工業高校々歌	桜紅葉に、濃緑に／自然の推移正しきに	61	目次の標題は「451 三原工業高校々歌」	
園長先生おめでとう	どなたも こなたも [どうしたの][ニツコニコ]／何がそんなにうれしいの	63	「内山憲尚先生 児童教化四十年幼児教育三十五年 記念会祝歌」。目次の標題は「内山／憲尚 園長先生おめでとう」	
[題未詳]	生れいでゝすぐ名づけしや「衛生」と人の／命を衛れよとてや	67	岡田道一氏長男衛生氏学位論文通過の祝。目次には標題の記載はない。短歌4首	
広島県／甲奴郡 総領中学校々歌	春は 若葉の萌えいでて／秋は 紅葉の色はえて	69	目次の標題は「452 甲奴郡総領中学校々歌」。「(三、次頁へ改作)」と注記	
甲奴郡／甲奴中学校々歌	朝日 朝風 ほがらけく／姿不動に、永劫に	73	目次の標題は「453 甲奴郡甲奴中学校々歌」	
新市音頭	やさしかわいの平和の鳩と／色香めでたい白菊黄菊	75	目次の標題は「454 新市音頭」。「前年の改作、追加」と注記	
新市町／上戸手 自重堂音頭	太平洋の一孤島／日本備後の小さな町の	87	目次の標題は「455 自重堂音頭」	
府中市／高木町 掛江織布K K.	谷川野川を集えた大川、／芦田のほとりK. S. K.	93	目次の標題は「456 掛江織布K K. 社歌」	
(御野)小学校と(安那)中学校／赤い屋根 青い屋根	小学校と中学校／どちらも長い二階建	99	目次の標題は「小学校と中学校」。貼付してある印刷物では「青屋根 赤屋根(御野小学校と安那中学校)」	
町うらの[みち][バス道路]	町の道路は一ぱいに／ほりかえされてゝ通れない。	101	目次の標題は「町のうらのみち」	
山守山の松三本	山守といふ名の村の山／うねうね高い峯続き	103	目次の標題は「山守山の松の木三本」	
砂川土手	砂川土手は 長い土手／土手の片側、広い路、	105		
こえがおちた	こえがおちた／ゲギゲギ、ゲギゲギ、ゲゲギギギ	109		
上衣のボタン	上衣のボタンのきまりは五つ／上衣のホールも[きまりは五つ][五つがきまり][五つのきまり]	113		
山羊と麦刈	山羊が ついてく／今日はや 三日目の	115	目次の標題は「山羊さんの麦刈」	
旧作／四つ地藏の追加	野路二つに分れる所／石の地藏[が][さま]、両手を合せ	118	目次の標題は「四つ地藏(増補)」。「P. 137へ改作」と注記	

作品名	うたい出し (冒頭)	頁数	備考	発表紙誌等のメモ
旧作／「村の道ぶしん」補作	西へ、北へ、／東、南、	121	「「村」を「郷土(さと)」にかえて」と注記。目次の標題は「村の道ぶしん」	
岡山県／井原市 高屋第二小学校々歌	広い 広い 大空に／城山続きの山山が	123	目次の標題は「457 井原市高屋第二小学校々歌」	
広島県／神辺町 竹尋保育所のうた	いつでも高く 大きくて／雨にも風にも つよい山	125	目次の標題は「458 竹尋保育所のうた」	
広島県御調町／御調音頭	桜咲かせて 紅葉を染めて／青葉若葉に つまじに、雪に	127	目次の標題は「459 御調音頭」	キングレコード(N-403)
井原市高屋町／第一小学校々歌	明るい日をあび[すくすくと][元気よく][あざやかに]／[伸びをきそうか][伸びて栄える][緑いや増す][若][姫][大]松小松	135	目次の標題は「460 井原市第一小学校々歌」	
〔改作〕四つ地藏	野路二つに 分れるところ／石の地藏さま 両手を合せ	137	目次の標題は「四つ地藏(改作)」	
広島県御調郡／御調町民歌	四時(しいじ) 眺(ナガメ)は絵にまさり／瀬音、風音、鳥のこえ、	139	目次の標題は「461 御調町民歌」	キングレコード(N-403)
東京都／田園調布 姫百合幼稚園々歌	田園調布の／丘の上	143	目次の標題は「462 姫百合幼稚園々歌」	
双葉保育園々歌	いつも[晴々][広々]、気持ちよく／海の風ふく、久木の里。	145	目次の標題は「463 双葉保育園々歌」	
新潟県／荒沢小学校々歌	かゞやく空にそびえ立ち／守門ヶ嶽は	147	「原作、諸橋轍次 補作」、「P. 151改作」と注記	
富士山(その一)	いつ見ても／どこから見ても	149		
荒沢小学校々歌	[かゞやく][大]空にそびえたち／守門ヶ嶽は、	151	「P. 147の改作」「諸橋博士原作」と注記	
富士山(その二)	高い 高い、雲よりも／すつかり高く 大きくて	153		
富士山(その三)	高い 高い、雲より高い／のぼつて見たいな、	154	目次には標題の記載はない	
浩ノ宮さま 二度目のお節句	ひろい ひろい 御所の庭／とつても大きな鯉幟	155	目次の標題は「464 浩宮さま、二度目のおせつく」	
東京／阿部幼稚園々歌	高くて大きい富士山の／すそのに一ぱい[に下りてきて][の日をあびて]	159	目次の標題は「465 阿部幼稚園々歌」	
八尋の二宮神社宮司／松永碩太郎氏／八十八の賀に、祝電	八八モ一〇〇モコエマセ／イヤヒロニ	161	短歌1首	
広島県新市町／常金中学校々歌	朝日に映えて 明るくも／不動の姿かわるなく	163	「校名変更改作」と注記	
妹尾正毅(まさき)君／大田明子嬢 結婚祝電	ヨマフ(華燭ノ盛典ヲ祝シ／御多幸ヲ祈ル)	165		
富士山(その四)	高い空／雲の上	167		
富士山(その五)	高く(て) 大きく 美しく／すばらしい山、富士の山、	169		

誠之舎々歌

朝(あした)、夕(ゆうべ)、風清き／武蔵大野に 根ざしも深く、

171